

研 究 集 録

第 22 集

昭和 54 年度

大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校

大阪教育大学教育学部附属高等学校天王寺校舎

は し が き

本校は公教育機関としての教育目的の達成をはかるとともに、実験実習校としての使命をもち、さらに、伝統的に中・高一貫教育を教育目標として、種々の教育課題に対し先行的試行活動をおこなっている。このような本校の目的達成のため、日常の真剣な生徒指導とあわせて、常に各教科教育を中心とする教育活動全般についての科学的実践的研究をおこなっており、それらの成果がこの研究集録としてまとめられたのである。

ここに集録された論文のひとつひとつは、多忙な日常の生徒指導をふまえた実践経過をありのままに観察し、そのための資料を収集し、さらに問題点を分析して新しい教育科学を樹立せんとする意欲に燃えてまとめ上げられたものである。大方の御批判と御指導を仰ぎ、明日への教育のためのエネルギーとなりうるならば幸いである。

昭和55年3月1日

大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校長

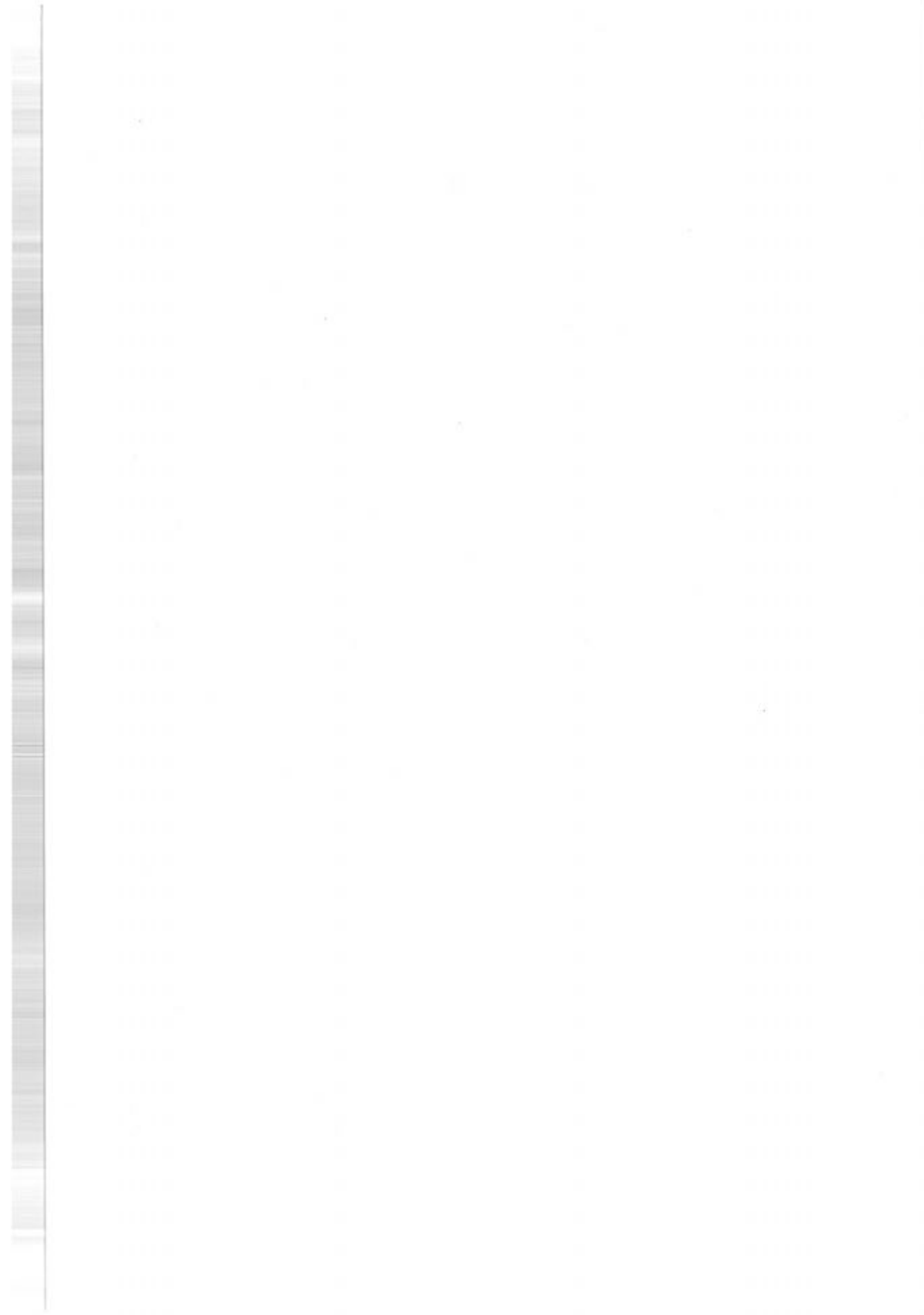
大阪教育大学教育学部附属高等学校天王寺校舎主任

上 林 久 雄



目 次

表現力の育成……………	河野文男…	1
——読書指導との関連及び素材の生かし方を中心として——		
中・高社会科教育の連関性を求めて……………	大阪教育大学附属中・高 社会科研究室(天王寺) ……	55
——中・高生徒の憲法(政治)についての知識・意識の調査報告——		
高等学校における「関数」の指導について……………	本間俊宏…	77
——必修の数学としての内容を考える——		
アメリカ合衆国における初等幾何への入門教材……………	平林宏朗…	95
(カリフォルニア州, サクラメント高校の補助教材より)		
陸上競技の学習過程の工夫……………	風間建夫…	109
——課題解決的学習過程への手がかりとして——		
視力低下の調査と検討について……………	楠本久美子…	129
80年代の高等学校英語教育を考える……………	千種基弘…	133
中学3年生による「8mm映画製作」(第一報)……………	長町充家…	145



表現力の育成

読書指導との関連及び素材の生かし方を中心として

河野文男

はじめに

「作文嫌い」の歴史は古くそして根強い。ほとんどの者がそう意識した経験を持つと言っても過言ではあるまい。それは「読書嫌い」・「読書の偏り」と並行して進行して来たとも考えられる。これらの問題は、単に、「このことについて書きなさい」・「この本を読みなさい」だけでは決して良い方向には向くまい。「自由に書きなさい」・「感じたことを書きなさい」という、「自由作文」・「感想文」には確かに相応の意義と効果があり、初期の作文指導における基本でもあろう。そして生徒の発達段階に応じて諸種の指導がなされて来ている。しかし、依然として「作文嫌い」も「読書嫌い」・「読書の偏り」もその度を増している。つまり、「読まない」・「書かない」ことから、「読めない」・「書けない」傾向は強くなっている。

今回は、以上のような課題を抱えながら、「表現力の育成」という面から、読書指導との関連の中で取り組んだことをまとめることにする。

「三国志」を扱った読書指導との関連については、別項を設けてまとめる積りであったが、「実践報告」としてその幾例かを掲げることにした。

§ 1. 表現指導における基本的な考え方

作文の要は「啓発的意義」もしくは「問題意識の高揚」にあると考えている。表現力・語彙力なども、各自が啓発されたこと、問題として意識したことを、より正確に、より豊かな内容をもって書こうとする取り組みにおいて育成される。書く内容に意義を感じない時には「意欲」も感じられず、同時に表現上の工夫も見られない場合が多い。個々の知的発育段階、関心事、問題意識などを考慮し、新たな啓発的素材を与えた上で書かすことが実際の教育的立場であろうと考える。勿論、ある書物、一つの素材がすべての生徒に啓発的意味をもつとは限らない。だからこそよりよい素材を選ぶことが必要なのであるが、実際にはクラス単位、学年単位で集団を指導するのであるから、より多くの生徒が興味を持つもの、面白く読める書物等を素材として書かすことになる。

「読んで書く」という読書指導との結びつきの中で取り組むことは、普通一般の作文概念とは趣を異にするかもしれない。しかし、生徒の持っている「作文意識」は変えてゆく必要があろう。論述文とか記述式と言った時流に乗った用語は別として、「しっかりした文章を書こう」「しっかりした表現力を身につけよう」、あるいは、「しっかりした素材を生かして豊かな内容の文章を書こう」「確かな論拠を持って文章を完成しよう」といった取り組みは効果的である。具体的には

1. 要約文〔長文のまとめ・物語のあらすじ等〕

2. 感想文〔読書感想文・体験（出来事・演劇・芸術鑑賞等）による感想文等〕
3. 評論文〔芸術論・人物評等〕
4. レポート〔研究ノート、調査報告等〕
5. 創作文〔詩文・脚本等〕

などを「作文」としてとらえている。従来の「作文」概念、作文指導の意義、目標を変える訳ではないが、作文嫌いの意識、あるいは、書いても意義を感じない生徒への対応としては確かに効果がある。「作文指導」と言わず、敢えて「表現指導」と言っているのはそのためである。

§ 2. 読書指導との結びつき

表現指導の形態は種々考えられるが、具体的な年間計画に基づくものとし何より読書指導との結びつきを挙げたい。教科書教材も含めて、計画的な読書指導と歩を並べた表現指導を展開したい。実際には、「書く」ために「読む」ことになるが、「読む」こと、つまり「読解」を深めながらの「作文」は、実は「理解」と「表現」の実際面での結びつきであり、機能的かつ効果的であると考えられる。「読む」こと・「調べる」ことから「レポート」・「論文」と進んでゆく過程の基礎を築く上でも大切な「学習過程」となろう。

読書との結びつきを端的に見るならば、「作文」の素材を探る、と言うこともできよう。その素材を有効に生かすことが、即ち「表現上の工夫」であり、かつ、表現内容を豊かにすることでもある。「表現力」を育成する過程においては「構成の確かさ」・「用語の的確さ」、あるいは「語彙力」などに加えて、確かな「素材」によって、「豊かな内容」を表現することを意識させたい。その「素材」は確かに「書物」にあり、又、自ら「見聞」することにある。年間計画の中に、「本文（教科書）を読み、印象深い部分を引用して論述する」ことを設けたり、「『子規の交友』（プリント）」を素材として加え、文章を完成する」学習を重ねたのもそのためであり、「『徒然草の交際論』（原文抜粋）」も同様の理由による。これらの作文において、素材の生かし方と、文章表現の基礎（構成一段落＝序論・本論・結論、もしくは、起・承・転・結）を学習した上で、「三国志」（吉川英治、全10巻）に取り組むこととした。

『三国志』をこの3年間連続して授業に取り入れた理由は、概して、

1. 長編を最後まで辛抱強く読むこと。
2. 極めて語彙（漢語、語句、熟語も含めて）が多いこと。
3. 簡潔な文章（名調子の文、漢文調などを含めて）が多いこと。
4. 人間関係・人物像を含めて、人生の諸相・生死の実相に触れ得ること。
5. 小説（虚構）の中に一国の興亡、中国の歴史の一端に触れ得ること。
6. ほとんどの生徒が「筋読み」でき、読み物としても面白いこと。
7. 人物像（玄德、関羽、張飛、孔明等）が鮮明で、人物評に適していること。

などである。勿論、一年間ほとんど読書らしきものをしない者や、極端に偏った読書（特定の作家のみ、SFのみ、など）をしている者に読ませるねらいもある。しかし、最終的な学習のねらいとしては、「読んで書く」ことにある。「作文」の素材を見つけ、表現力を育てることにある。具体的には、

1. あらすじをまとめる。（要約力を養う）

2. 物語背景・歴史的背景を探る（調べ読み、読書の広がり、素材の確かめ）
3. 主な登場人物の言行をまとめる（人物評）——作文への展開
4. 名文、名場面を見つける。（簡潔な文章・印象深い文章）
5. 見どころ・面白さ・現代的意義を探る（感想文・作文への展開）
6. 発表（話し方への展開）

を授業として取り組んだ。指導過程および観点については、実例をもとにして後に簡述する。

§ 3. 表現指導の位置付け

表現指導（作文指導）は単純な図式化によって説明できるものではないが、表現と理解を二柱とする学習過程を支える指導上の位置を明確にするため、次のような図式を試みている。（昭和52年度発表）



§ 4. 表現指導の年間計画

教科書教材、発展（読書）教材を基にした表現指導の年間計画を、本年度は次の通りとした。（S.54年度、高2、23期生）

(一学期)

- 「自己について」（矢内原伊作）〈教科書・明治書院〉
作文 「本文を読み、共鳴、感銘、もしくは反発を感じる部分をとりあげて文章を完成せよ」（1500字程度）
- 「ものをそれ自体として見るのがなぜ必要か」（田中美知太郎）〈教科書〉
作文 「本文を読み、印象深い部分を引用して論述せよ。但し、序論、本論、結論、もしくは起、承、転、結、を明確にすること。（1500字程度）」
- 作文 「つき合い——友人、人間関係」と題して自由に書け。（1500字程度）…〔I〕
- 作文 「〔I〕の作文を基にしなが、『子規の交友』を素材として加え、文章を完成せよ。（1500字程度）……………〔II〕
（注）「子規の交友」についてはプリント。解説1時間。
- 「三国志」（吉川英治著）全10巻を読み、次の計画に取り組むこと。
 - (1) 一巻を4～5人で受け持つ。
 - (2) 各巻毎に次の項目をまとめよ。（レポート）

(夏休み)

(夏休み)

- (ア) あらすじ
 - (イ) 物語の背景・歴史的背景
 - (ウ) 主な登場人物
 - (エ) 名文・名場面
 - (オ) 見どころ・おもしろさ・現代的意義
- (3) 各グループ毎に発表(一巻1時間)
- (4) 作文 「三国志における人物像」
・各人、全巻の中から最も印象深い人物を一人とりあげ、論評せよ。
(1500字程度)

(二学期)

- 作文題「つき合い——友人・人間関係」(1500字程度)……………〔Ⅲ〕
- ・条件
- (ア)『子規の交友』・『徒然草の交際論』・『「三国志」の中の言葉』を素材として用いること。
(注)「徒然草の交際論」についてはプリント。
 - (イ)表現上の工夫・引用した素材・問題点などを欄外に明記すること。
 - (ウ)段落——序論、本論、結論、もしくは起承転結を明確にすること。
 - (エ)丁寧に書くこと。

(三学期)

- 作文 { ①「現代社会の問題点」
 ②「古い時代と新しい時代」 } 各1500字程度、どちらか一題選んで書け。

§ 5. 実践報告 (1)

(ア) 学習指導案 (授業例) —— 授業者 河野文男

1. 日 時 昭和54年11月14日(水) 第2時限(10時40分～11時30分)
2. 学 級 大阪教育大学附属高等学校第2学年A組(男子28名、女子17名)
3. 場 所 同校小講堂(南館3階)
4. 主 題 表現指導(作文)
5. 目 標 読書や見聞による素材を明確に活用しながら文章を完成し、同時に自己啓発につとめさせる。
6. 指導計画

区 分	学 習 内 容	時間配当
第1次	作文「つき合い—友人・人間関係」(自由・1500字程度)	1
第2次	第1次の作文に、「子規の交友」を素材に加えて文章を完成せよ。	1
第3次	「徒然草」の交際論・「三国志」における人情の機微をつく名言	1
第4次	第1～3次の素材を生かして文章を完成せよ。(1500字程度)	1

7. 本時の指導

- (1) 題材 ○作文「つきあい——友人・人間関係」(第4次で完成したもの)
○「正岡子規の交友」(プリント)
○「徒然草の交際論」(プリント)
○「『三国志』の中の名言」

(2) 目標 関連する素材を生かした作文の推敲を通して、更に表現力を高める。

(3) 指導過程

- ① 本時までの学習過程を復習する。
- ② どのような素材を用いたかを確認し、その素材を用いた理由、感想などを発表させる。
- ③ 素材にそって生徒の作文を読ませ、表現上の工夫などに気付かせる。
- ④ 読書などから得られることの大切さなどに触れ、まとめとする。

〔指導講師 大阪教育大学教授 中西一引先生〕
〔 大阪市立北稜中学校長 田中義真先生〕

(イ) 作文の素材 1 〈子規の交友〉(プリント配布、解説1時間)

作文 [つきあい—友人・人間関係]

◎ 「子規の交友」を素材に加えて文章を完成せよ。(1500字程度)

● 学生子規は、自分を高め、苦しみに出会ったときに助け合えるような良友とは、すぐ友だちになった。一方、時間を浪費し、自分をだめにしていくような悪友はさけていった。子規は、自分を評して、「私は、偏屈で頑固だ。すきな人はむやみに好きになり、きらいな人はむやみにきらいになる」と言っている。彼は、友だちを選ぶのにも、まず人物を見、次に学識を考えた。

子規は、友人を次の三等に分けて考えた。等一等は、正直で学識のある人で、多く得ることは難しい。第二等は、それほど学問はなくても正直で、ことに淡泊な人である。子規の友は、この中に多く属していると言っている。第三等は、利己心が強く、同感の情が薄い者である。子規は、やむを得ない場合でなかったら、これらの人と交わらなかった。一体に、子規は、進んで交わることはしない方で、三、四年顔をつき合っている男でも交際しない者があり、機会があれば、一度の会話がもとで十年も交際している者より親しくなることもあると言っている。とにかく、子規は、良友を見つけたら熱心に交際した。その友の一部を「交際」という文章のあとに、次のように書いている。当時の子規が、ひとりひとりの友人をよくとわえていることがよくわかる。

愛友	細井岩氏	良友	武市庫氏	好友	太田躬氏	敬友	竹村鐵氏	益友	三並良氏
旧友	安長知氏	嚴友	菊池謙氏	畏友	夏目金氏	文友	柳原正氏	親友	大谷藤氏
酒友	佐々田氏	温友	神谷豊氏	剛友	秋山真氏	賢友	山川信氏	郷友	勝田計氏
亡友	清水遠氏	高友	米山保氏	真友	新海行氏	少友	藤野潔氏		

子規は、人を評論することが好きだった。世の人はこのことをきらうが、きらうこと自身、ずるい、不正直だ、卑怯だと考えた。人をほめるよりも、むしろ人をそしることが好きだ。人にほめられるよりは、むしろ人にそしられることが好きだ。ほめられる時は、自

棄自失の心を翻し、奮発することがあるが、それは一度くらいでたくさんだ。それより、自負高慢の心ができてよくない。悪口は、真に的中すれば、むろんよいことで、人に注意を与え、恥をかかせ、心を改めることになる。もし、無限の悪口であっても、人を自省させ、後来を戒め、その評を的中させようと考えることが、大きな利益になる。このように子規は、友だちと集まったときの話にも、同郷人や同学生の性質、学問などの批評をよくした。

批評の一例として、「点数表」というのがある。これは一種の遊びで、学校の寄宿舎にいる同級生二十人が、評価項目別に百点満点で採点したものを集計して平均点を出したものである。子規も人を評したが、自分も次のように評されている。

子規の人物評価（同級生20人 100点満点で採点 点数はその平均値）

容色	第5位	78.1点	修飾	第13位	68.1点	色欲	第14位	79.5点
食欲	第4位	86.4点	胆力	第9位	70.8点	忍耐	第13位	74.6点
勉強	第11位	72.5点	才気	第1位	84.9点			

才気が第一位、食欲は第四位……お互いに人をよく見ているものだ。こうした遊びを、子規たちは次々と考え出した。

こうした遊びは、子規の批評精神の表れである。その後、人物評にとどまらず、俳句・短歌・散文の評価に発展し、それによって自らも成長していった。同時に、多くの門下をはぐくむエネルギーになったのである。

◎ 漱石との交友

二人の出会い

●子規と漱石は同い年で、慶応三年（明治維新の前年）の生まれである。松山と東京と生まれを異にする二人であったが、明治十七年九月、ともに大学予備門に入学し、そこでお互いを知ることになった。といっても、すぐに出会ったわけではない。明治二十二年の一月、他ならぬ寄席の話が縁で、二人の交際が始まったのである。（子規は少年時代から寄席好きで有名。たまたま寄席の話が出たとき、寄席の話がわかる江戸っ子漱石に出会い、二人は知り合うのである）

●子規が漱石に対して、畏敬の念を持ったのは、第一高等中学校の英語会が最初である。英語会は、二人が出会った一ヶ月後の二月に行われ、本科一年では奇しくもこの二人が演説をした。その時、原稿を見ながら話した子規は、原稿なしで堂々と話した漱石を改めて見直したのである。

●子規は、「筆まかせ」の“交際”のところで、漱石を「畏友」と称している。「畏」というのは「畏敬する」「おそれ敬う」意で、いかに漱石を尊敬していたかを察することができよう。一方、漱石は、「自分がいつも弟分だった。子規の言うままにひきまわされていた」と、後年いっている。このように、二人のお互いを尊敬し合う気持ちが友情を深め、個性を伸ばすことになったと言えよう。

●松山に帰った子規は、（注：日清戦争の従軍記者として大陸に赴いた子規は、休戦、講和のため帰国。しかし、病のため、神戸、須磨で療養したあと松山に帰る）、一夜を叔父の家で過ごし、翌日には、漱石の下宿にやってきた。そして、「此処がいいよ」といって漱石の承諾も聞かず、一人で勝手に決め、その日からころがりこんでしまった。家主から、

「正岡さんは肺病だから、伝染するといけないからおよしなさい」と言われた漱石だったが、別段気にかける風もなく、そのままにした。そのあげく、漱石は二階に追いやられ、広い階下二間を子規が陣取ったのである。

こうして、子規と漱石という後の文豪の共同生活が始まった。この共同生活は、二人の友情を深めただけではなかった。柳原極堂の話によると、「隣の部屋で、子規と漱石が話をしていて、お互いに東京に出て、大いに日本の文学を興そう」と抱負を語り合っていたようで、そんな文学革新の志を抱き、互いに相手の考え方から自分に欠けた栄養を吸収していったのである。

●子規は、かなり食い意地が張っている。昼になると蒲焼を取り寄せて、おいしそうにぴちぴち音をさせて食べる。また他の御馳走も取り寄せ、勝手に食べる。金の払いなど全然気にしない。東京へ帰る頃になって、「君、払ってくれ給え」といって、請求書を渡すのである。その上、まだ、「金を貸せ」と言い、漱石から、十円あまりの金を持って行った。帰りに奈良へ寄って、「恩借の金子は当地において正に遣い果たし候」などと、漱石に手紙を出している。こんな子規を、驚いたり腹をたてたりすることなく、むしろ、頼りきっている友を、喜んで見守っていたようである。収入が乏しい友の気持ちをいたわり、子規の部屋を出る時には、ポケットから十円札をつかみ出し、そっと火鉢の下へ敷きこんだりする漱石であった。

●明治三十二年の秋、子規は、漱石に一枚の絵をかいて送った。一輪ざしにさされた薄紫色の「あづま菊」の絵である。絵の上部には「寄漱石」と書き、次の文と短歌をしたためた。

これは菱みかけたところと思ひたまへ。畫がまづいのは病人だからと思ひたまへ。
嘘だと思はば、肱をついてかいて見たまへ。

あづま菊いけて置きけり火の国に住みける君の帰りくるがね

絵はわずか三色でかかれ、花が一つとつぼみが二つ、葉が九まいのいかにも淋しさを感じさせるものであった。病の子規が、「あづま」（東京をさす）へ帰ってほしいと自分の帰来をひとしお待っている気持ちを知って、漱石の心は痛んだ。そして寝たきりの子規が、この絵をかき上げるためには、肱をついた姿勢で、五時間も六時間も、一心にかいたのであろうと、その切々たる友の心情を思い、胸が詰まった。子規のかかってない弱りように驚くと同時に、病の進行している身体を、いっそう案ずるのであった。

子規のボール狂時代

●子規がベースボールに最も熱中したのは、明治二十年から二十一年にかけてであった。（子規21歳～22歳） 次のようなルールの頃である。

投手は下手投げ。ストライクは高・中・下と分け、打者は審判に好みのコースを申告する。好みのコースをはずれた球を九つ選べば、ナインボールで出塁できる。野手は素手なので、高く上がったスカイボールはワンバウンドで捕球すればアウト

●ベースボールに最初に訳語を付けたのは正岡子規だと言われている。彼が、ベースボールを「弄球」と翻訳した。「弄」とは「もてあそぶ」意味。ベースボールが「野球」と訳語され、使われたのは、明治二十八年の第一高等学校（子規の入った大学予備門がのちに

改称)の「野球部史」子規がベースボールに「弄球」と初めて訳語を付けたのが明治十九年であるから、十年近くも後のことになる。

しかし、「野球」という文字は、明治二十三年三月、子規が自らの雅号(ペンネーム)にすでに用いている。「野の球」すなわち「ノ・ボール」と読ませるもので、子規の幼名「升」にちなんでつけた。「能球」「野幕流」とも書いた。「野球」がベースボールと無関係に使われたのではなく、ベースボールを意識しての雅号であったと思われる。「野球」を「ヤキュウ」と読ませているが、「野球」という文字の配列を最初に組み合わせて使用したのは正岡子規であったことはまちがいない。

子規の俳句・短歌の中には、ベースボールを詠んだ、次のようなものがある。

春風やまりを投げたき草の原
 久方ひさかたのアメリカ人のはじめにしベースボールは見れど飽かぬかも
 若人わかひとのすなる遊びはさはにあれどベースボールに如く者ものはあらじ
 九つの人九つのあらそひにベースボールの今日も暮れけり
 うちあぐるボールは高く雲に入りて又落ち来る人の手の中に
 今やかかの三つのベースに人満ちてそぞろに胸のうちさわぐかな

実際にプレイした者でなければわからない感動があり、子規のボール狂のほどがしのぼれる。

ベースボールの仲間たち

●四国松山に初めてベースボールを紹介したのは正岡子規であると言われている。その教えた相手が、のちの子規門下の俳人河東碧梧桐である。碧梧桐は、終生、自分こそ松山の野球の元祖だと誇りを持っていた。

●碧梧桐と並んで、子規の後継者といわれた高浜虚子もまた、ベースボールの場で初めて子規と出会う。転がって来たボールを拾って渡したその人は、「失敬」と言って受け取った。高浜清少年(虚子)が渡したその人こそが子規だったのである。

子規と碧梧桐とは六つ違い、碧梧桐は虚子より一つ年上である。

●このように、正岡子規と碧梧桐・虚子を結ぶ機縁となったものはベースボールであった。そして同郷人としてのチームワークは、日本の俳句革新のための原動力となったのである。

(備考)

① 〈子規の訳語〉

原 語	子規の訳語	現在の訳語	原 語	子規の訳語	現在の訳語
ピッチャー	投 者	投 手	バッター	打 者	打 者
キャッチャー	獲 者	捕 手	ランナー	走 者	走 者
ファースト	第一基人	一 塁 手	フォアボール	四 球	四 球
セカンド	第二基人	二 塁 手	デッドボール	死 球	死 球
サード	第三基人	三 塁 手	フライボール	飛 球	飛 球
ショート	短 遮	遊 撃 手	ダイレクトボール	直 球	直 球
レフト	場 左	左 翼 手	ホームベース	本 基	本 塁
センター	場 中	中 堅 手	フルベース	満 基	満 塁
ライト	場 右	右 翼 手			

② 〈子規の周辺〉

- ・森鷗外……明治二十九年、子規庵の句会に参加
- ・伊藤左千夫……子規より三歳年上。かつて論敵であった子規に、三十七歳の時より仕える。
- ・長塚節……「歌よみに与ふる書」を読んで感銘、上京して子規庵を訪れる。時に節、二十歳。
- ・他に 岡麓・香取秀真など。洋画家で中村不折。

（以上『伝記 正岡子規』松山市教育委員会編
監修者 和田茂樹
長谷川孝士
による。）

(ウ) 作文の素材 2 〈徒然草の交際論〉(プリント配布)

作文 [つき合い—友人・人間関係]

◎ 次の文を素材の一つとして用い、文章を完成せよ。(1500字程度)

- ① 『同じ心ならん人と、しめやかに物語りして、をかしきことも、世のはかなきことも、うらなく言い慰まんこそうれしかるべきに、さる人あるまじければ、つゆたがはざらんと向かひるたらんは、ひとりある心地やせん。互に言はんほどのことをば、げにと聞くかひあるものから、いささかたがふところあらん人こそ、「われはさやは思ふ」など、争ひにくみ、「さるからさぞ」ともうち語らば、つれづれ慰まめと思へど、げには少しかこつたも、われとひとしからざらん人は、大方のよしなしごと言はんほどこそあらめ。まめやかかの心の友には、はるかに隔たるところありぬべきぞわびしきや』

〈要旨〉気の合う人との静かな物語りはうれしいものだが、そんな人はいないからつまらない。友として話をするには、少しは意見が違う方がおもしろいとも思うが、それも、とりとめのないことを言っている間のことで、やはり真実の友には及ばないものだ。(第12段)

- ② 『さしたる事なくて人のがり行くは、よからぬことなり、用ありて行きたりとも、その事果てなば、とく帰るべし。久しく居たる、いとむつかし。人と向かひたれば、詞多く、身もくたびれ、心も閑かならず。よろづのこときはりて時をうつす。互ひのために益なし。いとはしげに言はんも、わろし。心づきなきことあらん折は、なかなか、そのよしをも言ひてん。同じ心に向かはまほしく思はん人の、つれづれにて、「いましばし、けふは心閑かに」など言はんは、この限りにあらざるべし。院籍が青き眼、誰もあるべきことなり。そのこととなきに人の来りて、のどかに物語りして帰るぬる。いとよし。また文も、「久しく聞こえさせねば」などばかり、いひおこせたる、いとうれし』

〈要旨〉特別の用事もないのに人を訪問するのはよくないし、用があって行ったとしても、終わったらすぐ帰るのがよい。人と対座すると、心・身ともに疲れるし、さしさわりが起って、互いにむだである。気が進まない時には、はっきり断るのがよい。ただし、相手が気の合っている人で、もっと話していたいという場

合は、別である。なんでもないのに、ふと、人がやって来て、物語りをして行ったり、思い出したように手紙をくれたりするの、うれしいものだ。(170段)

- ③ 「友とするにわろき者、七つあり、一つには、高くやんごとなき人。二つには、若き人。三つには病なく身強き人。四つには、酒を好む人。五つには、たけく勇める兵。六つには、虚言する人。七つには欲ふかき人。
よき友、三つあり、一つには物くるる人。二つには医師。三つには知恵ある友。」

§ 6. 実践報告

(ア) 作文用紙・様式

ファックス用原稿用紙、4ミリ。58×84 (本文1500字程度)

<p>④③ 縦書き、隔行・ただし、紙面枠オーバーの場合のはつめてもよい。</p>	<p>②① HB鉛筆使用 起承転結、又は序論・本論・結論を明らかにする。 丁寧に書く</p>	<p>④③ 縦書き、隔行・ただし、紙面枠オーバーの場合のはつめてもよい。</p>	<p>②① ①本文で用いたものを簡潔に書き抜く ②表現上の問題点・工夫があれば簡潔に書く</p>	<p>① 素材抜粋 引用した 書物・言葉</p>
	<p>④③ 縦書き、隔行・ただし、紙面枠オーバーの場合のはつめてもよい。</p>	<p>②① HB鉛筆使用 起承転結、又は序論・本論・結論を明らかにする。 丁寧に書く</p>	<p>④③ 縦書き、隔行・ただし、紙面枠オーバーの場合のはつめてもよい。</p>	<p>②① ①本文で用いたものを簡潔に書き抜く ②表現上の問題点・工夫があれば簡潔に書く</p>

(イ) 表現指導例

- (1) 授業中に取り扱った作文例及び指導助言例 (注. 本文中の下線は指導上入れたもの)
題 〈つき合い—友人・人間関係〉 高2 M (女子)

本 文	素材抜粋、引用した書物、言葉	指導・助言事項
<p>友を得るといふことは、人生における貴重な宝を得ることである——とは古人も教えている通りである。そしてその本当の友を得る時期として最もふさわしいのが高校時代である。小・中学校の時の様な徒党的集団は解体し、一人あるいはごく少数の心から共感し合える友、内面的に、人格的に結び合った友を求めるようになるのである。ところがその求め方は理想主義的で、時には夢想的でさえある。どこか空虚を感じさせる時、自分の内に「孤独」が存在していることに気づく。徒然草の一節にも、「同じ心ならん人としめやかに物語りしてをかききことも世のはかなきこともうらなく言ひ慰まんこそうれしかるべきに、さる人あるまじければ…」とあるが、孤独とは、ここにみる「諸註、人間どうしの完全な理解、共感とは不可能なのだ」というあきらめの感情に生まれるのである。けれども、そこで、決して孤独の淵にはまり込んでしまっ てはいけない。それらの孤独に耐える勇気と、打ち勝ち、乗り越える勇気を持ってそこに深みのある友情が始まるのである。ここで、子規の交際について考えてみよう。子規は、三、四年顔をつき合っている男でも交際しない者があり、機会があれば一度の会話がもとで十年も交際しているよりも親しくなることもあると言っている。とにかく良友を見つけたら熱心に交際した。彼は親友を求める時に孤独を恐れずに進んだのである。いい加減な気持ちで肝胆あい照らすところが少しもない友達をつくる位なら、いっそ孤独を選ぼうといった姿勢がうかがえる。その選球眼なるものが、漱石を始め碧梧桐、虚子といった生涯の親友を選ぶことになったのである。また、子規と碧梧桐、虚子を結ぶ機縁となったのはベースボールであった。そして同郷人としてのチームワークは日本の俳句革</p>	<p>導入部 シャープに始めたい 古人の教え 「…であるがくどくくり返されているがどうすればいいだろう」 体験から出たわたくし論「孤独」から始まる 徒然草の引用 (わかりにくい長文になってしまった) 孤独にどう対処するか 「子規の交際」 話題転換をはかるが前文の主旨をうけつぐよう心がけた。 状況にそくしたことで、肝胆あい照らす 具体例は効果的だと思っ てとりあげた</p>	<p>格言などでの書き出しはシャープであってよい (起) 3度目か2度目の「である」を言い換える。(例)高校時代 ※基調—「である」調を通すことはよい。 「…」とあるが、→とある。で切る方がよからう。 ※①「ここにみる」は省いてはどうか。 ②諸註→所註 ※「けれどもそこで決して→「しかし」一語でよい。 ※①段落を設ける。改行。「ここで…考えてみよう」は不要。 ②段落、改行は話題転換の意 (承) 誤字訂正 淵→淵 ※「選球眼」—ベースボールとの関連からみてうまい表現である 誤字訂正 始めて→初めて</p>

<p>新の為の原動力となったのである。一方、漱石とは、他ならぬ寄席の話が縁で、二人の交際が始まった。それがやがて、若くして子規の生命の火が燃えつきる寸前までに及ぶ友情が培われることとなったので* あるが、ここに「出会い」ということを考えずにいられない。ベースボール、寄席、人と人、みんな「出会い」に他ならないのである。「出会いを大切に生きてゆきたい」というのは、私の遠かなる願いである。自分の中に積み上げられてきたさまざまな出会い、それら一つ一つが自らの心を豊かにし、人間を大きくするものであると思うから。そして、多くの出会いをめぐんでいく中でいつか必ず「これぞ！」と気づいてすくいとることができるのだと思う。こうして生きているうち、良き友を得ることができたら、それから先は、生涯の友として交際していきたいものである。いつも、相手に求め、自ら惜しみなく与うという精神でもって交流を深めなければいけない。私達が多くの場合陥ってしまう「慰撫と同情の言葉をかけ合うだけの友情」ではなく、挑むという「前向きの姿勢」を堅固したいものである。そのために私達は精神的貴族であらねばならない。かわるがわる相手をひっぱたいて向上しようとする。他のものをもってあがなうことのできない価値をそこに認めなければいけない。「切磋琢磨」——これは先程からの俳句革新期の彼らのチームワーク、あるいは、漱石と子規との友情にも見ることができる。友情の基盤をなすもの——それは尊敬と愛と信頼といえるのではないか。これを信じてゆきたいと思う。</p>	<p>次の主題にどのようにつなぐか困った</p> <p>(語呂が悪い長文だ)</p> <p>※「あった」にするかどうか。 出会いについて(転の部分に移る)</p> <p>私の遠かなる願い 三国志でいえば人徳を積むという長久の計</p> <p>友達ができたら、しっかりつかんで、続けさせる</p> <p>状況の進展、時間経過がある。</p> <p>精神的貴族 新語を作った</p> <p>むずかしいのを使ってやれと 切磋琢磨(分断された文が並んでしまった)</p> <p>「結」の部分は、自分の信念に通ずることで雄々しくしめくりたいと思って。</p>	<p>①「若くして」は自明、省略。 ②「寸前」は省いてよい。 ①「あった」と切る方がよい。 ②段落設定・改行「私は、ここに…」と書き出してはどうか。 [転]</p> <p>※遠——旧字体(遙) ※①「遠かなる」は実際には「切実な、現実の」意では？ ②しかし「遠かなる願い」はよい表現。ただし、「三国志」に関してしていることを明確にする。例えば△部分に(三国志でいえば、人徳を積む、という長久の計とも言えよう)を入れる。</p> <p>※新語、造語の試みは非常によい。</p> <p>誤字訂正 ※琢磨→琢磨 ※「先程から」→先述の</p> <p>※「結」の段落・改行——「切磋……」より結論とする。 [結]</p> <p>「雄々しくしめくり」「信念」でしめくり「非常によい。」</p>
<p>主旨・問題点・反省点</p> <p>私の文はいつも主題が散在してしまっていて文全体がボケたものになってしまうのであるが、これも決してそうでないとは言えない。それと、文と文のつなぎ下手であることを自覚しており、できるだけ無理なく、そして、脈絡をつけてつづろうとしたつもりだが、まだまだごちない個所があるようだ。けれども、自分の考えて</p>	<p>※①起・承・転・結それぞれ改行、段落分けをしっかりしよう。基本を守ろう。 ②誤字は恥ずかしいことです。漢字をしっかりと。 ③「シャープ」を書き</p>	

いることから、信じるどころまでこの中に表現できたと思うので、その点では満足している。今後、「表現法」を習得する必要があるのだと感じる。

出し「雄々しいめくくり」の心掛けを大切に。
④びしっと切って改行できないのは「やさしい」人柄のせいかな。思い切って段落分けしよう。

(2) 授業中に取り扱った作文例

(注) 「自分の持っていた素材」・「子規の交友」・「徒然草の交際論」・「三国志」の四つの素材を用いた作文。(授業中・本人に朗読させ、全員の参考とさせた。)

題《つき合い—友人・人間関係》 高2 Y	本人の注. 素材抜粋
<p>人間は元来孤独な存在である。たとえ肉親がいようと、恋人がいようと、また地球上に何十億という人間が存在しようとも、生まれる時も死ぬ時もたった一人なのだ。この理は絶対に動かせない。しかし、人は一生孤独だというわけではない。そこには、人生を豊かにしてくれる存在——友人がいるのである。</p>	<p>「社会の根底をなすものは(恋愛も含めた)友情です」 ・人間関係の基本 亀井勝一郎著「愛の無常観について」より</p>
<p>「<u>社会の根底をなすものは(恋愛も含めた)友情です。</u>」と、また友情を「<u>人間関係の基本</u>」と亀井勝一郎はいつている。私はこの言葉を素直に受け入れることができる。友情が無ければ社会は崩壊してしまうだろう。実際にいとも不思議な邂逅によって自分の回りには様々な友人がいる。偶然に同じ学校にいたり、趣味が同じだったりしてつき合い始めた友人だ。ここで考えなければならないことは、友情を深めるためには友を選ばなければならないということである。その選び方、人の評価の基準が問題になる。自分の感情的な好き嫌いを基準にしていたのでは話にならない。このことで、<u>正岡子規はまず人物を見、次に学識を考えたという。</u>彼なりのしっかりとした基準である。私は今だにそのような基準は持ちあわせていない。ただ情性でつき合っているだけである。その子規が特に親しく交際したのが夏目漱石である。二人の交際は私から見れば羨ましいかぎりである。正にこの交際こそ、“<u>水魚の交わり</u>”と言うべきものだと思う。<u>劉備が軍師孔明との親密な間柄を指して言ったこの言葉は、互いの不断の向上を促すような交友を考えさせる。</u>子規は魚であり、漱石は水である。子規は漱石によって心身共に支えられて、その才能を世に示すことができたのだらうと考えるのである。</p>	<p>・理(ことわり)筋道道理 ・邂逅 偶然に出会うこと。めぐりあい。</p> <p>・子規の交友 子規と漱石 作文素材</p> <p>・水魚の交わり 三国志諸葛亮伝よりきた故事成語。もともと君臣の間柄の親密なことを言ったもの。なお夫婦のむつまじいことをも言った。今日では、親しい間柄のことにたとえている。</p>
<p><u>吉田兼好は徒然草の中で自分と同じ気持ちであるような人=真実の友はいないであろうと嘆いているが、真実の友とはそんなものだろうか。全く正反対なタイプ人間が無二の親友である場合も少なくない。</u>また、子規と漱石の交際を考えると、兼好は運悪</p>	<p>・吉田兼好 「徒然草」第十二段 おなじ心ならむ人と</p>

<p>く友人に恵まれていなかったのではないだろうかと思えてくる。しかし、真実の友を持たない嘆きは、決して兼好一人のものではない。かくいう私自身が常にこの嘆きを発している。非常に親しい友人は数人いるが、やはり理想にはほど遠い。私の理想の友情とは、互いに相手の本質を理解し、お互いの向上を目指す、時に峻厳またある時は寛大なものである。そして、子規と漱石との交友は私の考えている理想に近いといえるだろう。</p> <p>友人についてあれこれと考えてきたが、最後に忘れてはならないことがあると思う。それは、人とつき合うときにはどんな時でも相手に対して誠実でなければならないということである。人間は孤独で寂しがり屋であり、その人間同志が温もりを求めているのだ、何で不誠実でありえるのだろうか。「<u>そうだ、誠実であることノあらゆることに、あらゆるときに、いつも誠実であることノ</u>」という名言が私のモットーになっている。私はこれからも友人と誠実に人格をぶつけ合い、火花を散らすことによって向上を目指して行きたいと思っている。</p>	<p>・峻厳 (しゅんげん) 非常に厳しいこと</p> <p>「そうだ、誠実であることノあらゆることに、あらゆるときに、いつも誠実であることノ」 マルタン・デュ・ガールの言葉</p>
<p>・四つの素材をこれだけ短い文章に入れなければならなかったので、一つの流れを作ることに苦労した。子規と漱石の交友は「水魚の交わり」というのにぴったりで、そのあたりは割合うまく書けたと思う。</p> <p>・主題としては、“孤独な人間にとっての友情の重要性、友情のあり方”なんかを書きたかった。</p>	

§ 7. 実践報告 (3) 素材集

文章表現に生かされた素材には次のようなものがある。素材とは、ここでは表現上の工夫と同時に、表現内容を豊かにする事柄、言葉などの意に限定してまとめた。すべて「つき合い—友人・人間関係」と題した作文に用いられたものである。(高2)

〔1〕「子規の交友」・「徒然草の交際論」(プリント) 以外のもの

- ① 「ふたりの友情には、ひとりの忍耐が必要だ」(タルミ族の諺)
- ② 「友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする」(シラー)
- ③ 「私たちは私たちの愛する人たちからのみ学ぶ」(ゲーテ)
- ④ 「社会の根底をなすものは(変愛も含めた)友情です」(亀井勝一郎)
- ⑤ 「そうだ、誠実であることノあらゆることに、あらゆるときに、いつも誠実であること」。(マルタン・デュ・ガール)
- ⑥ 「切磋琢磨」
- ⑦ 「A man is known by his company he keeps.
- ⑧ 「A friend in need is a friend indeed.
- ⑨ 「人間はなあ、旅人なんや。ある時は理性の世界を、ある時は感情の世界を行ったり来たりしている旅人なんや。そう何時も理性的にばかりになっていられへんのだ」(福井達雨)

⑩ 「君よ。君の小説は予期通り僕に最後の打撃を与えた。ことに杉子さんの最後の手紙は立派に自分の額に傷を与えてくれた。これは僕にとつてよかつた。僕はもう処女ではない。獅子だ。傷ついた孤独な獅子だ。そして吠える。君よ、仕事の上で決闘しよう。君の残酷な荒治療は僕の決心をかためてくれた。今後も僕は一人で耐える。そして、その淋しさから何かを生む。見よ。僕も男だ。参り切りにはならない。君からもらったベートーフェンのマスクは石にたたきつけた。いつか山の上で君たちと握手する時があるかも知れない。しかし、それまでは君よ。二人は別々の道を歩こう。君よ、僕のごことは心配しないでくれ。傷ついても僕は僕だ。いつかは更に力強く起き上るだろう。これが神から与えられた杯ならば、ともかく自分はそれをのみほさなければならぬ」(小者小路実篤・友情)

- ⑪ 「類は友を呼ぶ」(諺)
- ⑫ 「トイレ友達」(いつも一諸の友情)
- ⑬ 「人間関係は裏切り行為をもって終焉を迎える」(雑誌、PHP、79、6月)
- ⑭ 「人生から友情をとり去ることは、世界から太陽をとりさることだ」(キケロ)
- ⑮ 「友の情をたずぬれば、義のある所火をもふむ」(与謝野鉄幹・人を恋ふる歌)
- ⑯ 「鉄拳制裁」(第一高等学校)
- ⑰ 「同じ釜の飯を食う仲間」
- ⑱ 「女性は友情を必要としない」(ニーチェ)
- ⑲ 「(男をば言はじ)女どもも契り深くして語らふ人の、末まで仲よき人難し」(枕草子)
- ⑳ 「人と物争うべからず。人に心ゆるすべからず」(豊臣秀吉)
- ㉑ 「その人を知らざればその友を視よ」(荀子)
- ㉒ 「人々が友情と呼んだものは一種の交際、利害に関する相互の斟酌、斡旋の交換、つまりは、自愛心が常に儲け仕事を企んでいる取引にすぎない」(ラ・ロジュフコー)
- ㉓ 「人は一人の親友を見いだせなかったことを数人の友人をもって慰めている」(エマーソン?)
- ㉔ 「友人らしく見える人々は大い友人ではなく、そう見えない人が大い友人である」(デモクリトス)
- ㉕ 「宴会の席は陰をつくらぬしらじらとした明るさで照らしだされ、人々はそつなく屈託なく、そして絶え間なく動きまわり、しゃべり回り、無数の言葉が発射され続ける。そしてこのにぎやかな空間は、心理的空間として真空的に静まりかえり、物音一つない」(陽気な現代)
- ㉖ 「不害の教え」(仏教)
- ㉗ 「航空士官学校では、みな浅ましいほど本能をむき出しにした。僕自身、食事当番のとき、自分の食べものを多めに盛った記憶がある。みんなそうしていたのだから、しかたがない。六校ではそんなことはなかった。腹はへっても、精神的には余裕を持った連中ばかりだった。友の喜びは自分の喜びであり、友の悲しみは自分の悲しみでもあることを教えられた」(伊賀引三良、青春風土記)
- ㉘ 「友達は第二の自己である」(アリストテレス)
- ㉙ 「誰かを愛するということはその人を信じようとする意志にほかならない」(遠藤

周作)

- ③⑩ 「朱に交われば赤くなる」
- ③⑪ 「タッチング・フレンド、タッチング・エピソード——強い印象というよりも、そこはかたなく心に触れる味な友人、心に触れる挿話」(石原慎太郎)
- ③⑫ 「去る者は日々にうとし」
- ③⑬ 「親しき仲にも礼儀あり」
- ③⑭ 「人の人たるゆえんは、人と人との結合にある」(アリストテレス)
- ③⑮ 「人間は社会的動物である」(アリストテレス)

(以上1クラス分)

- ③⑯ 「あなたたちが人からしてもらいたいと思う通りに、人にしてあげなさい」(ルカ)
- ③⑰ 「太陽のあらん限り、わが腹心の友に忠実なることをわれおごそかに宣言す」(モンゴメリ・赤毛のアン)
- ③⑱ 「管鮑の交わり」(曾先之・十八史略)
- ③⑲ 「齒に衣させぬ物言い」
- ④⑩ 「メロスは、友にいきさきの事情を語った。セリヌンティウスは無言でうなずき、メロスをひしと抱きしめた。友と友の間は、それでよかった。(略)それだから走るのだ。信じられているから走るのだ。まにあう、まにあわぬは問題ではないのだ」(太宰治・走れメロス)
- ④⑪ 「あらゆる状態で、第三者が間にはいってくるほど重要なことはありません。一人の新しい人物が、偶然にあるいは選ばれて、はいつて来たため、その関係がすっかり変化したり、その境遇が全く逆になったりした友人や兄弟や愛人や夫婦を見たことがあります」(ゲーテ・親和力第一部第一章)
- ④⑫ 「信輔は才能の多少を問わずに友達を作ることは出来なかった。たといどう言う君子にもせよ。素行以外に取り柄のない青年は彼には用のない行人だった」(芥川龍之介・大導寺信輔の半生)
- ④⑬ 「現代は $S_{\text{終}}^{\text{終}}(\text{人生})d\text{時間} \cdot \sqrt{\text{百分} \cdot \text{世間} \cdot \text{愛情} \cdot \text{友情} \cdot \text{利害} \cdot \text{欲望}}$ の時代である」(数ⅡB積分参照)
- ④⑭ 「二身一体」

-
- ④⑮ 「まず第一に言っておかう。僕から世間並の友誼など決して望むな
僕は君の栄達など決して望まぬ、君のちひさな幸福など決して祈らぬ
君は見るだらう
僕が逆境の友を多く持ち順境の友をどしどし失ふのを
なぜだらう
逆風の時に持ってた魂を順風と共に棄てる人間が多いからだ
僕に特惠国はない 僕に固定の国は無い
友とは同じ一本の覚悟を持った道づれの事だ
世間さまを押し渡る相棒だと僕を思ふな
百の友があっても一人は一人だ
その上で危険な路を愉快に歩かう

それでいいのだと君は思ってくれるだろうか」(高村光太郎・友よ)

- ④⑥ 「偽りの友より公然たる敵の方がいい」(俚諺)
- ④⑦ 「友人とは一方通行によって連なり、友達とは両方の友情によるものとする」
- ④⑧ 「十年とか二十年とかそう長いものではない。友情はそうなんだ」(眉村卓)
- ④⑨ 「甲論乙駁」
- ⑤⑩ 「友情は成長の遅い植物である。それが友情という名に値する以前に、それは幾多の困難の打撃をうけて堪えなければならぬ」(ワシントン)
- ⑤⑪ 「人は友情を常に修繕しておかねばなりません」(サミュエル・ジョンソン)
- ⑤⑫ 「困った時こそ真の友」
- ⑤⑬ 「友を選ばば書を読みて六分の快気四分の熱」
- ⑤⑭ 「清顕の冷たい毒に対してうまく身を処してゆくという実験の成功」(三島由起夫・豊饒の海)
- ⑤⑮ 「私にはきらいな人は一人もいません」(淀川長治)
- ⑤⑯ 「愛とは、互いに見つめ合うのではなく、同じ方向を向いている」(サン・テグジュペリ・人間の土地)
- ⑤⑰ 「まさかの時の友こそ真の友」
- ⑤⑱ 「もつべきものは友である」
- ⑤⑲ 「ブルータス、お前もか」(シェクスピア・ジュリアス・シーザー)
- ⑥① 「人類は皆兄弟」
- ⑥② 「自分は自分なりに努力すればいいのだ。人と比較することはやめるのだ。もともと人間は比較できるものではない」(加藤諦三・青春論)
- ⑥③ 「We are not alone」
- ⑥④ 「人ははじめ誰も愛さない。それから万遍なく全部の人を愛する様になる。次にはそのうちのもう幾人だけしか愛さない。それからたった一人の人だけを愛するようになり、ついで、一人ぼっちになってしまう」(カミュ)
- ⑥⑤ 「『友人関係＝親愛感を持ち合う人どうしの中に形成され、共同所属感情に結ばれた、非公式な人間関係。自己の存在を安定させ拡大していこうとする内的要求にもとづく』また幼い頃のそれは、『友情』としては未熟なものであるが、『集団の一員としての人間形成に影響する』ものである。それからまた『友情』は、『利己心とは根本的に対立する精神愛』の一種であり、それは『対象をそれ自身のために価値ありとするもの』で、『根本能力として個人や種の生命保存という至上の目的に結びついて形成規定された根深い努力的傾向』の一つである。そして、我々の年齢における友人は、『一種の同好集団』で、『興味や性格にてらしあわせて慎重に選択されたため永遠性があり』、本当の意味での友人である。結局、『潜在的には個人や全体の利益のために、性格・興味の一致などによってつくられる人間関係で、互いの人格を認め、その価値を高めるもの』が友情であり、その重要性は個人によって異なる」(平凡社百科辞典「友人」、「愛」の項目。「」内が引用)
- ⑥⑥ 「交際の完成の極致というべきものがこの友情である」(モンテーニュ)
- ⑥⑦ 「普通、快楽や、利得や、公私の必要に迫られて作り出され育て上げられた交際は、友情の中に友情以外の原因と、目的と、成果をまぜているから、それだけ美しくも気

- 高くもないし、また、それだけ友情もないからである」(モンテーニュ)
- ⑥7 「いかに親しい間柄でも、遂に魂の理解ということは許されない」(ヘルマン・ヘッセ)
- ⑥8 「要するに、われわれが普通、友人と呼び、友情と呼んでいるものは、何かの機会もしくは利益のために結ばれた知友関係か親交にすぎないものであって、われわれの心もただその点でつながっているにすぎない。ところが私の言う友情においては、二人の心は渾然と溶け合っていて、縫目もわからないほどである」(モンテーニュ)
- ⑥9 「私はどこにいても彼の半身であることになれ切っていたから、今は自分が半分しかないような気がする」(モンテーニュ)
- ⑦0 「まず醜より始めよ」
-
- ⑦1 「交わる人選ぶべし、古の諺に、朱に交われれば赤し。墨に近づけば黒しと言えるがごとし」(貝原益軒)
- ⑦2 「友。言葉を受けとる側次第で、言葉を発する者次第で、どの様にも意味をとれる言葉である。一人切りになって三度呟いて言葉の意味を考えよ。その深さに恐れを抱くであろう。言葉を安売りし、踊っていた自分に気が付け。その事実で愕然となるであろう。自分を省みよ。嗚呼。何と自分は……」
- ⑦3 「友情は愛されることより愛することにある」(アリストテレス)
- ⑦4 「大勢の友を持つものは、一人の友をも持たない」(グライム)
- ⑦5 「友情は瞬間が咲かせる花であり、そして時間が実らせる果実である」(コッツェブー)
- ⑦6 「一人一人手を握りあってプロジェクトを言う。
 どの手もさらさらと乾いたつめたい手だ。
 堅いザイルやピッケルや荒い岩角ばかりを掴んできた後で
 血もかよっていれば電気のように心もかよう。
 実直で大きくて頼もしい人間の手がここにある。
 放した瞬間に深い暖みのほのぼのと生まれる
 ……………。(尾崎喜八・山頂)
- ⑦7 「いまだかつて一度も敵をつくったことのないような人間は、決して友人を持つことはない」(テニソン)
- ⑦8 「人のふり見てわがふり直せ」
- ⑦9 「己の欲する所を人に施せ」
- ⑧0 「人は自分以外にまねる模範人物がない場合には、めったに進歩しないものだ」(ゴールドスミス)
- ⑧1 「水は方円の器に随う」
- ⑧2 「友人とは自己に最も役立つ一冊の本である」
- ⑧3 「若い人達よ、真実であれ、だがそれは、くだらなく正確であれという意味ではない」(ロダン)
- ⑧4 「君子は淡く以って親しみ、小人は甘くして以って断つ」(荘子)
- ⑧5 「益者三友、損者三友あり」

⑧ 「友情は魂の結婚なり」(ヴォルテール)

〔Ⅲ〕「三国志」より素材として引用された言葉 (注. 場面説明のものは省いた)

- ① 「われら兄弟三名は、各々がみな至らないところのある人間だ。その欠点や不足を補い合っこそ初めて真の手足であり、一体の兄弟といえるのではないか」
- ② 「水魚の交わり」
- ③ 「真に、彼や天下の奇才。おそらくこの地上に再びかくの如き人を見ることはあるまい」(仲達)
- ④ 「もし劉禅がよく帝たるの天質をそなえているものならば、御身が補佐してくればまことによろこばしい。しかし、彼不才にして、帝王の器でない時は、丞相、君みずから蜀の帝となって万民を治めよ」(玄德)
- ⑤ 「わしと関羽とは、むかし桃園に義を結んで、生死をともにせんと誓ってある。いわば関羽の死はわしの死を意味する」(玄德)
- ⑥ 「劉皇叔とこの方とは、桃園に義を結んで天下の清掃を志し、以来、百戦の中にも百難のあいだにも、疑うとか反くなどということは、夢寐にも知らぬ仲である」(関羽)
- ⑦ 「三顧の礼」
- ⑧ 「秋風五丈原——孔明が生きてあらん程には、いつか自分も召し還されることがあろうと楽しんでいたが、あの人が亡くなられては、自分が余命を保っている意味もない」(李嚴)
- ⑨ 「自分がここにいることを知りさえすれば、関羽は夜を日についてもここへ来る」(玄德)
- ⑩ 「義盟の契り」
- ⑪ 「同年同月同日に生まるるを願わず、願わくば同年同月同日に死なん」
- ⑫ 「人と人との応接は、要するに鏡のようなものである。驕慢は驕慢を映し、謙遜は謙遜を映す。人の無礼に怒るのは、自分の反映へ怒っているようなものといえよう」
- ⑬ 「何事もその基は人です。人を得る国はさかんになり、人を失う国は亡びましよう。ですからあなたは、高德才明な人をかたわらに持つことが第一です」
- ⑭ 「兄弟は手足の如く、妻子は衣服の如し。衣服はほころぶもこれを縫えばまたまとうに足る。けれども、手足はもしこれを断って五体から離したらいつの時か再び満足に一体となることができよう…」
- ⑮ 「刎頸の交わり」
- ⑯ 「時の経過に従って起こるその皮肉な結果を、俳優自身も知らずに演じているのが人生の舞台である」

§ 8. 実践報告 (4)

〔1〕作文例

学習指導案に基づき、同一題、同一人の三連作を挙げてみると次の通りである。

作文題 〈つき合い—友人・人間関係〉

〔I〕(第一次作文)

- ・〈つき合い—友人・人間関係〉と題して自由に書け。(1500字程度)

〔Ⅱ〕（第二次作文）

- ・〈〔Ⅰ〕の作文を基にしながら、『子規の交友』を素材として加え、文章を完成せよ。（1500字程度）

（注）プリント「子規の交友」参照のこと。

〔Ⅲ〕（第三次作文）

- ・〈第一次、二次作文の素材、及び、『徒然草の交際論』・『三国志』の素材を生かして文章を完成せよ。（1500字程度）

〈指導過程と観点〉

授業で取り扱ったのは第3次の作文である。数人について本人が朗読、互いの参考とさせた。ただし、生徒相互の批正は極力避けることにしている。全体に訴える意図のあるものは別として、生徒個人にとって全員に知られたくない気持ちや部分があり、その点は十分考慮すべきであると考えているからである。生徒次第、つまり何ら苦しめない生徒もいるが、中には公開されることによって身構え、次の作文において心の自由を失うこともある。特に今回は、確かな素材を生かし、豊かな内容をもって表現し、その中で自分の考えを深め、まとめようとする取り組みであるから、漢字、語句、部分的な表現上の工夫など、個人的諸導にとどめることにした。「作文は人格である」と考えている。

<p>題〈つき合い—友人・人間関係〉 高2 K……………〔Ⅰ〕（第一次作文）</p>	
<p>友人関係のもろさ、こわれやすさというものは、誰もが感じていることだろうと思う。他の人間関係においても、確かにもろさはあ るが、友人関係において、特にそれを思い知らされることが多い。 漱石の「こころ」という作品がある。自我の奥深くに巣くっているエゴイズムがぎりぎりの所まで押しつめられたような、漱石文学の絶頂をなす作品といわれている。【先生】という人物は、Kという友人と同じ家に下宿していた。Kとは幼い頃からのつき合いで、両親にそむいて自分の決めた道を歩こうとするKを、「先生」は様々な面から援助してやり、二人で旅行をしたりして、仲良くやっていたのだが、やがて、二人共、下宿の娘を愛するようになる。普段は毅然として何物にも動かされないKが「苦しい」と、「先生」に胸のうちを告白する。「先生」は、そ知らぬ顔で冷たい返事をし、Kの知らないうちにその娘と結婚の約束をするのである。Kは、自殺してしまう。無論、「先生」も苦しみ、悩んだあげく、Kをだますようなことをしたのであるが、また、Kの自殺も、失恋だけでは片づけられないのだが、結果を見ると、幼い頃から培われてきたはずの二人の友人関係が、一人の女性によってもろくもくずれさった、ということができよう。しかも「死」をもってである。やはり、ここで、エゴイズムという言葉が出てくるだろう。「先生」は、Kの告白を聞きながら、常に自分のことを考えていた。他流試合のように、Kに</p>	<p>本人の注・素材抜粋</p> <p>（引用）夏目漱石 「こころ」</p> <p>先生だけ「先生」とかぎかつこをつけた。</p> <p>引用部分の説明が長すぎるか。</p>

<p>勝つことだけを考えていたのである。Kとの友情より、女性への愛の方が、「先生」には大切だったのだろう。人の心には必ずエゴイズムはある。また、友情というのは、恋愛感情のように燃えあがるということもないし、親子関係のように理屈抜きで許し合える、というものでもない。師弟関係のようにどちらかが必ず下手に出ることもない。極めて不安定なものである。このような点が、友人関係のもろさを生むのではないだろうか。</p> <p>では、友情を永く保つことは不可能であろうか。「先生」は、いったいどうすべきだったのか。Kに対して自分の気持ちを素直に告白した方が良かったのだろうか。私は、相手への誠意、という言葉でこれに答えたい。自分の心の中で友情がうちまかれそうになったとき、また平生からも、誠意をもって人とあたるのが、人間関係を保つ一つの方法だと思うからである。</p>	
<p>(反省点・問題点)</p>	<p>エゴイズムについての考察ができていない。</p>

高2 K……………〔Ⅱ〕(第二次作文)

<p>友人関係のもろさ、こわれやすさというものは、誰もが感じることだろうと思う。他の人間関係においても、確かにもろさはあるが、友人関係において、特にそれを思い知らされることが多い。友情は、恋愛感情のように燃えあがることもないし、友人どうしは、親子のように理屈抜きで許し合えるものでもなく、師弟関係にみられるような秩序もない。極めて不安定なものである。夏目漱石の名作、「こころ」の場合、先生との友情は、恋愛関係のもつれ、ひいては人間のエゴイズムによってもろくもくずれ去ってしまう。</p> <p>このように、起伏が少なく、ともすれば他の感情にかき消されてしまう友情ではあるが、それが育ち、極まったときには、どんな人間関係にもないような素晴らしい人間関係が生まれる。</p> <p>・正岡子規が死ぬまぎわに漱石の手紙を受けとって流した涙、太宰治がメロスとセリヌンティウスを通して描いた信頼、これらは、まさに友情関係の美しさをあらわしているといえる。素晴らしい友情を育てるためにはどうすればよいのか。まず、友を選ぶことは大切であろう。しかし、その後のお互いの努力も、それに劣らず大事だと思う。「ふたりの友情には、ひとりの忍耐が必要だ」とは、タルミ族の諺である。ここでいう「忍耐」とは、言いたいことも言わず、ただ表面をつくろうことでは決してない。自分を抑えて、まず相手を思いやることだと思う。人間の心は、元来利己的にできているも</p>	<p>・夏目漱石 「こころ」</p> <p>・正岡子規と夏目漱石の友情</p> <p>・太宰治「走れメロス」</p> <p>・タルミ族の諺</p>
--	---

<p>のだから、意識しなくても自分のことは考える。ところが、他人のことは、意識しないと考えられないのである。また、相手の否を見つけ、それを告げたなら、そこで放っておくのではなく、いっしょに考える、あるいは直るのを待つ、それが「忍耐」であるとも思う。正岡子規は自分の仲間や、尊敬する人まで、批評し、分類したという。その結果、十九人の本当の友人ができた。子規の人物評が決してうわべだけの、うすっぺらな悪口ではなく、素直な、誠意のあるものであったことが想像できる。</p> <p>人間関係をつくるものは、誠意であると思う。他人への批判も、誠意をもってすれば、必ずわかってもらえるものだと思う。友人関係は確かにもろい。しかし、誠意をもって相手を思いやる努力をお互いが永く続けることができたならば、こわれない。こわれてもまたやり直せる素晴らしい友人関係ができあがると信じる。</p>	<p>・子規の交友</p>
<p>〈反省点・問題点〉</p>	<p>友を選ぶことについてあまり触れられていない。</p>

高2 K……………〔Ⅲ〕（第三次作文）

<p>「三国志」を読むと、広大、悠久な自然の中の人間の小ささを痛感する。そして、弱い人間たちはそのはかない人生を、実に多くの人と交わりながら生きている。友人関係もその交わりの一つであるが、普段、そのもろさ、こわれやすさを感じることが多い。友情は、恋愛感情のように燃えあがることもないし、友人どうしは、親子のように理屈抜きで許し合えるものではなく、師弟関係にみられるような秩序もない。極めて不安定なものである。夏目漱石の名作、「こころ」の場合、「先生」と「K」との友情は、恋愛関係のもつれ、ひいては人間のエゴイズムによって、もろくもくずれ去ってしまう。しかし、起伏が少なく、ともすれば他の感情にかき消されてしまう友情ではあるが、それが育ち、極まったときには、他のどんな人間関係にもないような素晴らしい関係が生まれる。正岡子規が病床で漱石の手紙を受け取って流した涙、太宰治がメロスとセリヌンティウスを通して描いた信頼などは、まさに友人関係の美しさをあらわしているといえる。</p> <p>このような友情を育てるにはどうすればいいのか。吉田兼好は「徒然草」のなかで、「友とするにわろき者」「良き友」を列挙し、友を選ぶ基準を述べている。また、子規は、人物・学識をみて良友悪友を判じたという。このように、よい友を選ぶことは、大切であろう。しかし、私はむしろ、大事なのはその後のお互いの努力では</p>	<p>吉川英治 「三国志」</p> <p>夏目漱石 「こころ」</p> <p>子規と漱石の交友 太宰治 「走れメロス」 吉田兼好 「徒然草」(百十七段) 子規の交友</p>
---	--

ないかと思うのである。タルミ族の諺に、「ふたりの友情にはひとりの忍耐が必要だ」というものがある。この「忍耐」とは、言いたいことも言わず、表面のつきあいをつくろうことでは決してない。自分より、まず相手を思いやること、また、相手の否を見つけ、それを告げたなら、そのまま放り出さずに、いっしょに直す努力をし、直るまで待つこと、それが「忍耐」であると思う。子規は評論を好み、仲間達や、尊敬する人までも批評し、分類したという。結果、十九人の本当の友人をもつことができた。彼の人物評が決してうわべだけの薄っぺらな悪口でなく、素直な誠意あるものだったことが想像できる。誠意をもって人に接することを忘れてはならない。「玄德」は言う。「われら兄弟三名は、各々がみな至らないところのある人間だ。その欠点や不足を補い合ってこそ初めて真の手足であり一体の兄弟といえるのではないか」そのとおりだと思う。相手の欠点を補い合い、共に進歩する、この気持ちをお互いが胆に銘じておくことである。

タルミ族の諺

子規の交友

「三国志」

「徒然草」十二段には、「真の友」を求めて苦悩する兼好の姿が感じられる。「真の友」を得ることは、本当にむずかしい。けれどもそれは、人間誰もが望むことであり、決して不可能ではない。これまで述べてきたように、誠意をもって相手を思いやる努力を、お互いが永く続けることができたならば、こわれぬ。こわれてもまたやり直せる素晴らしい人間関係、真の友人関係ができあがると信ずる。

「徒然草」(十二段)

強調したいのは、結論部分の「誠意をもって」以下。導入部「……自然の中の人間の小ささ……」という一文は、本文には直接関係しないとも思えたが、心情的にどうしても入れたかったので少し無理をして入れた。もう少しうまい関連のさせ方はなかっただろうか。第三段落冒頭の「徒然草」十二段は、その内容を全く述べていないため、それを知らない人にとってはこの一文は何のことかわからないものになってしまった。

〈反省点・問題点〉

題〈つき合い—友人・人間関係〉 高2 M……………〔I〕(第一次作文)

自己と友人との関連において、自己は、何らかの目的意識があって、友人を、その目的を達成するための手段として、獲得し、そして利用するということがあるのではないだろうか。

本来、友人というものは、自己が親近感を持つことにより、生まれるはずである。しかし、現実には単なる仲間意識を親近感の代わりに用いることによって、友人を得ている場合が少なくないのであ

本人の注. 素材抜粋

親近感
仲間意識

<p>る。現在、友人というものは、あたかも、自己のまわりに、最初から——自分がその環境内に存在すると同時に、存在しているようであり、自然に自己と接触し、一見正当な人間関係を持つように見えるのである。これが仲間意識の実体にほかならない。そして、親近感によって得た友人に関しては、自己は友情というものを持つことができるが、単なる仲間意識によって生まれた友人に関しては、自己は友情を見い出さなければならず、形だけの人間関係になってしまうのだ。言い換えれば、仲間意識しか持たずにいることは、友人と自己の間の人間関係を不当化してしまうのである。仲間意識しか持たないということをやめて、親近感を自己が持つことによって、友人が生まれるということは、すなわち、自分自身が積極的に友人を理解しようと努めて働きかけるという態度が必要であるということを示しているのである。それでは、いったい自己にとって、友人とは何なのだろうか。本来は、友人とは、自己が生んだ信頼のたまものであり、いわば自己にとって友人は二人三脚的相棒のはずなのである。だが、現在とは言えば、自己本意な考え方が先立つせいか、自己にとって友人とはもはや無縁に近い強制的共存体あるいは競争相手だとして見る意識が高まり、本来の重要性もわからぬうちに軽視してしまうきらいがある。友人は、いまや自己と接触はあるものの、結合の段階までいきつかなくなってしまっているのだ。そして、自己が、その接触の段階にとどまって友人とつき合うということこそが、友人を利用していることになるのである。したがって、友人に対して、最初、自然発生的に生まれるという表現を用いたけれど、ここに至っては、そのことは否定され、自己は友人を意識的に獲得するのであると言わねばならない。</p>	<p>接触</p> <p>不当化</p> <p>二人三脚的相棒 強制的共存体 きらい 結合 きらい 結合</p> <p>自然発生的</p> <p>意識的</p>
<p>このように、友人と自己との間で、単なる仲間意識——友人が自己と接触し一見正当な人間関係に見える状態、を保護し始めている現在、自己が、友人を、意識的に獲得し、利用し始めていることは明らかである。その反面、友人というものの自体、自己にとって、無縁に近い強制的共存体や競争相手になってきているので、自己は、友人を利用するとき、自己の目的達成の手段としてのみに用いると言えるのである。しかし、われわれは、このような状態を肯定してはいけないのであって、今まで述べてきた本来の意味での友人と自己との結びつきを大切に持ち直さなくてはならないのだ。さらに、接触の段階にとどまってつき合ってしまったときは、自己と友人の間の理解を深め、結合の段階までいきつかないといけない。そうすれば、友情といったものも生まれてくるであろう。友人について考えることはひとつの人間関係としての正当性を意味していなく</p>	

てはならない。

〈反省点・問題点〉

友人そのものの定義づけは、個人個人によって多種多様であるから、極力避けよう
と思い、そのため本論の所で客観的に述べる上で苦勞した。

M……………〔Ⅱ〕(第二次作文)

自己と友人との関連において、自己は、何らかの目的意識があつて、友人を、その目的を達成するための手段として、獲得し、そして利用するということがあるのではないだろうか。

本来、友人というものは、自己が親近感を持つことにより、生まれるはずである。しかし、現実には単なる仲間意識を親近感の代わりに用いることによって、友人を得ている場合が少なくないのである。現在、友人というものは、あたかも、自己のまわりに、最初から——自分がその環境内に存在すると同時に、存在しているようであり、自然に自己と接触し、一見正当な人間関係を持つように見えるのである。これが仲間意識の実体にはかならない。そして、親近感によって得た友人に関しては、自己は友情というものを持つことができるが、単なる仲間意識によって得た友人に関しては、自己は友情を見い出さなければならず、形だけの人間関係になってしまうのだ。言い換えれば、仲間意識しか持たずにいることは、友人と自己の間の人間関係を不当化してしまうのである。

それでは、いったい自己にとって、友人とは何なのだろうか。本来、友人とは、自己が生んだ信頼の賜物であり、いわば自己にとって友人は二人三脚の相棒のはずなのである。正岡子規が、自分の交友論の中に、愛友・好友・酒友・真友・良友・文友・温友・親友の八種類を挙げている。つまり、彼は現にこの本来の意味で、友人というものを、理解し得ていたのであろう。だが、現在とは言えば、自己本意な考え方が先立つせいか、自己にとって友人とはもはや無縁に近い強制的共存体あるいは競争相手だとして見る意識が高まり、本来の重要性もわからぬうちに軽視してしまうきらいがある。友人は、いまや自己と接触はあるものの、結合の段階までいきつかなくなっているのである。そして、自己が、その接触の段階にとどまって友人とつき合うということこそが、友人を利用していることになるのである。したがって、友人に対して、最初、自然発生的に生まれるという表現を用いたけれども、ここに至っては、そのことは否定され、自己は友人を意識的に獲得するのであると言わねばならない

親近感
仲間意識

接触

不当化

賜物
交友論
二人三脚の相棒

強制的共存体
きらい
結合

自然発生的
意識的

<p>このように、友人と自己との間で、単なる仲間意識——友人が自己と接触し一見正当な人間関係に見える状態、を保持し始めている現在、自己が、友人を、意識的に獲得し、利用し始めていることは明らかである。その反面、友人というものの自体、自己にとって、無縁に近い強制的共存体や競争相手になってきてもいるので、自己は、友人を利用するとき、自己の目的達成の手段としてのみに用いると言えるのである。しかし、われわれは、このような状態を肯定してはいけなくて、今まで述べてきた本来の意味での友人と自己との結びつきを大切に持ち直さなくてはならないのだ。さらに、接触の段階にとどまってつき合ってしまうときは、自己と友人との間の理解を深め、結合の段階までいきつかないといけない。そうすれば、友情といったものも生まれてくるであろう。友人について考えることは、ひとつの人間関係としての正当性を意味していなくてはならない。</p>	
<p>起承転結という構成に改めたのだが、正岡子規についての引用文をどこへ置こうかと迷った。初めは冒頭へ持っていったのだがどうも感想文のようになるから、結局は話の本筋を変えないようにするため転の部分へ入れることにした。</p>	

M …………… [Ⅲ] (第三次作文)

<p>結論から言えば、自己と友人との関連において、自己は、何らかの目的意識があって、友人を、その目的を達成するための手段として、獲得し、そして利用するということがあるように思うのだ。</p> <p>本来、友人というものは、自己が親近感を持つことにより、生まれるはずである。しかし、現実には単なる仲間意識を親近感の代わりに用いることによって、友人を得ている場合が少なくないのである。現在、友人というものは、あたかも、自己のまわりに、最初から——自分がその環境内に存在すると同時に、存在しているようであり、自然に自己と接触し、一見正当な人間関係を持つように見えるのである。これが仲間意識の実体にはかならない。そして、親近感によって得た友人に関しては、自己は友情というものを持つことができるが、単なる仲間意識によって得た友人に関しては、自己は友情を見出さないばかりでなく、形だけの人間関係になってしまうのだ。言い換れば、仲間意識しか持たずにいることは、友人と自己の間の人間関係を不当化してしまうのである。</p> <p>それでは、いったい自己にとって、友人とは何なのだろうか。本来、友人とは、自己が生んだ信頼の賜物であり、いわば自己にとつ</p>	<p>親近感 仲間意識</p> <p>形だけの人間 関係</p> <p>不当化</p> <p>信頼の賜物</p>
--	--

て、友人は二人三脚的相棒のはずなのである。正岡子規が、自分の交友論の中に、愛友・好友・酒友・真友・良友・文友・温友の八種を挙げている。つまり、彼は、現にこの本来の意味で、友人というものを理解し得ていたのであろう。吉田兼好の書いた徒然草の中では、友人は、“同じ心に向かはまほしく思はん人”としてとらえられてもいる。あるいは、吉川英治が書いた三国志においては、相棒どころのものではなくて、“貞亮死節”しあう者として友人は存在していたのだ。だが、現在とは言えば、自己本意な考え方が先立つせいか、自己にとって友人とはもはや無縁に近い強制的共存体あるいは競争相手だとして見る意識が高まり、本来の重要性もわからぬうちに、軽視してしまうきらいがある。友人は、いまや自己と接触はあるものの、結合の段階まではいきつかなくなってしまうのである。そして、自己が、その接触の段階にとどまって友人とつき合うということこそが、友人を利用していることになるのである。したがって、友人に対して、最初、自然発生に生まれるという表現を用いたけれども、ここに至っては、そのことは否定され、自己は友人を意識的に獲得するのであると言わねばならない。

このように、友人と自己との間で、単なる仲間意識——友人が自己と接触し一見正当な人間関係に見える状態、を保持し始めている現在、自己が友人を意識的に獲得し利用し始めていることは明らかである。さらには、友人というものの自体、自己にとって、無縁に近い強制的共存体や競争相手になってきてもいるので、自己は、友人を利用するとき、自己の目的達成の手段としてのみに用いると言えるのである。しかし、われわれは、このような状態を肯定してはいけないのであって、今まで述べてきた本来の意味での友人と自己との結びつきを大切に持ち直さなくてはならないのだ。さらに、接触の段階にとどまってつき合ってしまうときは、自己と友人との間の理解を深め、結合の段階までいきつかないといけない。そうすれば、友情といったものも生まれてくるであろう。友人について考えることは、ひとつの人間関係としての正当性を意味していなければならない。

信頼の賜物
二人三脚的相棒
正岡子規の交友論
徒然草
三国志九巻から
貞亮死節

無縁に近い強制的共存体
きらい
結合
接触

自然発生的意識的
生まれる
獲得する。

正当性

冒頭に関して、できるだけわざとらしさをなくそうと思って、書き方を変える点で苦勞した。

引用文と前後のつながりという点でも苦勞した。

親にも兄弟にも話せないけれど、友達なら……とういうことは誰にでもあると思う。しかし、血のつながった家族と違ってややもすると誤解やまちがいが生じやすいというのも友人付き合いにおいてやむをえない事実であろう。「友人」という問題は、ほんの二、三才の頃からおそらく死ぬまで人間につきまとうものである。そして、幸福の条件を考える場合、最も大事な要素の一つとしてこれがあがってくると思う。では、友人とのつき合いをどのようにしていくべきかについて、これから私の考えを述べていくことにする。

「友」についてよく言われる言葉に、「友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする」というのがある。これをもう少し私流に解釈すると、本来、友情というものには二つの種類があって、一つは喜びを二倍にしてくれる友情、もう一つは悲しみを半分にしてくれる友情だと思うのである。そして前者の方は、普通一般に「友達」と呼ばれる人間関係、後者の方は「親友」と称せられるものをさすのではないかと私は考えている。なぜならば、人の悲しみを真に背負うことは、なまじ中途半端な付き合いでは不可能だからだ。ところが喜びは違う。たいていの場合他人の喜びはそのまま自身の喜びとなり得る。だから、たとえそれほど付き合いがなかったとしても、喜びを倍増させる友人関係は成立するのである。それゆえ、「友人」というものは複数多数でき、親友は限られた人数ということになるだろう。

人間にとって、その二つとも友情が私は必要だと思う。大勢の人とのつき合いによって自分の面積とでもいおうか、幅を広げ、少数の本当に心の深底までさらじ合えるような友との交流によって内面の奥ゆきを深める。どちらが欠けても人としての成長を遂げることはできないであろう。友とは、互いを高め、向上させるものなのである。

では具体的に、どういう人間関係を作っていけばいいのか。愛をもって接することである。こちらがまず愛すること。相手の長所をみつけてそれを愛することによって自分にとりこんでいく。これが友人付き合いにおける基礎であると思う。ゲーテはいった。「私たちは私たちの愛する人たちからのみ学ぶ」と。よく、しらじらしい関係がいやだから近所付き合いしないなどと言う人がいるが、それはまず愛するというのを放棄してしまっているのである。まずぶつがって見よ。まず愛して見るのだ。あるいは、しばらく付き合っているうちにその友の悪い所が見えてきていやになったという場合も同じことが言えるだろう。

・シラーの名言

・ゲーテの言葉

愛を手段に用いてはいけない。友人とは互いの人間成長のためにあると私は書いたが、それは結果としてそうなるということであって、まさかそんなことを意識しては付き合いなどできないし、またする人もないと思う。「友人」という人間関係において、「愛」と「成長」とが同時にからみあってこのような世界をつくっていると今は言えないのである。

高2 MS……………〔Ⅱ〕(第二次作文)

親にも兄弟にも話せないけれど、友達になら……そういうことは誰にでもあると思う。しかし、血のつながった家族と異なり、ともすれば誤解やまちがいが生じやすいというのも友人付き合いにおいてやむを得ない事実であろう。「友人」という問題は、ほんの二、三才の頃から、おそらく死ぬまで人間につきまとうものである。そして、幸福の条件を考える場合欠かすことのできない大事な要素としてこれがあがってくる。では、友人とのつき合いをどのようにしていくべきかについて、これから私の考えを述べていくことにする。

シラーの名言に、「友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする」というのがある。私はこれこそが、人間が友をつくる素朴な理由だと思う。終局の意味において、人が友を求めるのは“愛”が根源をなしているのだ。自分の喜びや悲しみをわかちあってくれる人を欲する、そしてまた相手の喜び・悲しみを理解したいと思う、その“愛”の感情が人に友をつくらしめるのである。だから、友をつくるにあたって、よけいな利害・打算は不必要。ただ愛をもって接すればいい。

ところが、そうはいっても、人間にとって一番大切なものは“向上”あるいは“進歩”である。向上のない人間など生きている価値はないし、空虚だ。たとえ、人間の本能ともいうべき“愛”が発端をつくっていようと、その友人関係というものを理性的に、精神の向上へと持っていくことこそが、人としての行いになるのだと思う。極端に言えば、おたがいを高めあうことのないつき合いなら、それは決して友情といえないのだ。

近世以来の俳句革新運動を興し、後の文学史に大きな影響をもたらした正岡子規。彼は実に多くの友をもち、その仲間同志の関係において、さまざまな人物評を行い合っている。一見やりすぎと思えるほど他人を細々と評価し、またすすんで自分の評価されることを好んだ彼であるが、やはりそこには向上を求める人間の姿がある。友人の長所を意識し、自分の非を常に自覚することによって自己成

・シラーの名言

・正岡子規

長を遂げた子規。さすがと感服せずにはいられない。他人を細かく批評することが必ずしも正しいとは思えない。しかし、他人を意識することは精神向上の上で大きな影響をもたらすであろう。

“友人”とは愛の対象である。しかし、私たちが理性を持った人間である以上、それだけでかたづけてしまってはならない。互いを認識し、見つめ合い、より高いところへと導き合うことこそが、真の友情と呼べるのだ。ゲーテは言った。「私たちは、私たちの愛する人たちのみから学ぶ」と。“愛”と“成長”とは常にむすびつき、交錯し合っているのかもしれない。

・ゲーテの言葉

高2 MS……………〔Ⅲ〕(第三次作文)

親にも兄弟にも話せないけれど、友達になら……そういうことは誰にでもあると思う。しかし、血のつながった家族と異なり、ともすれば誤解やまちがいが生じやすいというのも友人付き合いにおいてやむを得ない事実であろう。

“友人”という問題は、ほん*1)の二三才の頃からおそらく死ぬまで人間につきまとうものである。そして、幸福の条件を考える場合、欠かすことのできない要素としてこれがあがってくる。では、友人との付き合いはどのようにあるべきか、またその真価を問うてみたいと思う。

‘友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする。これはシラーの名言であるが、この言葉こそ、人が友をつくる理由を最も素朴にしているような気がする。自分の喜びや悲しみをわかち合ってくれる人を欲する。そしてまた相手の喜び・悲しみを理解したいと思う。結局、人が友を求めるのは、‘愛、が根源をなしているのだ。だから、友と接するにあたってよけいな利害・打算は不必要。ただ愛をもって接することである。

ところがそうは言っても、人間*2)にとって一番大切なものは、と考えると、私は決して愛だけでは終われない何かがあると思う。それは‘向上、あるいは‘進歩、とよばれるものであろう。向上のない人間など生きている価値はない。私たちは人間なのだ。たとえ本能ともいうべき‘愛、が発端をなしていようとも、その友人関係を理性的に、精神の向上へ持っていかなければならない。おたがいを高めることのない付き合いなら、決して友情とはいえないのである。

近世以来の俳句革新運動を興し、後の文学史に大きな影響をもたらした正岡子規。彼は実に多くの友人をもち、その仲間同志の関係

・シラー
(1759~1805)
ドイツの詩人
劇作家。ゲー
テと共にドイ
ツの古典主義
文学の黄金時
代を築いた。
作品に ‘群盗、
‘オルレアンの
乙女、‘ヴィ
ルヘルム・テ
ル、などがある。

・正岡子規
プリント参照

においてさまざまな人物評を行い合った人である。一見やりすぎと思えるほど他人を細々と評価し、またすすんで自分の評価されることを好んだ彼であるが、やはりそこには向上を求める人間の姿がうかがえよう。人をほめるよりは、むしろ人にそしられる方が好きだと彼は言う。遠慮のないきびしい付き合いの中に、自他共に成長しようとする真の友情が存在しているのではないだろうか。

また、『徒然草』の百十七段「友とするにわろき者七つあり」の中で、兼好は次のように語っている。

よき友三つあり。一つには物くるる友。二つには医師。三つには智恵ある友。

この場合の『物くるる友』とは、『物質的援助をしてくれる人』という意味ではないだろう。『何か』を与えてくれる人、そしてその『何か』とは、目に見えないが精神向上にむすびつく貴重な体験の堆積を象徴的に示しているのではなかろうか。

同様に、『医師』というのも『心の医者』つまり精神改革をおこさせてくれる人を指していると思う。こうして考えてくると、兼好も、子規の友人観と共通した部分をもっているようだ。

『友人』とは愛の対象である。しかし、私たちが理性を持った人間である以上、それだけでかたづけてしまってはならない。互いを認識し、見つめ合い、より高いところへと導き合うことこそが、真の友情と呼べるのだ。ゲーテ^{*1)}は言った。『私たちは、私たちの愛する人たちのみから学ぶ』と。『愛』と『成長』とは、常に結びつき、交錯し合っているのかもしれない。

(1979年10月)

・吉田兼好
『徒然草』
プリント参照

・ゲーテ (1749
~1832)
ドイツの世界
的詩人、小説
家、劇作家。
作品に『ヘル
マンとドロテ
ーア』、『ファウ
スト』、『若きウ
ェルテルの悩
み』など。

*表現上の工夫 (注意点)

- 1) 乳児期には家族との関係の他はほとんど意味を持たないが、二三才になって遊び友達ができてくると、友人の問題が生じる。ところがその場合の友とは単なる仲間のことで、後に述べる真の友ではない。
- 2) ずいぶん抽象的な問題を簡単な強い言葉で解決してしまっているが、文の主旨をはっきりさせるために、こういう言い方をあえてした。
- 3) ゲーテの言葉は直接本文と関係を持たないのかもしれないが、私なりの解釈によってどうしてもこの文を引用したかった。結論の発展した形で例示した。

§ 9. 実践報告 (5) 『三国志』(吉川英治著全10巻) めぐって

『三国志』を高Ⅱの授業に取り入れて今回が3回目である。その取り組みについては、「読書指導との結びつき」(§ 2) および「表現指導の年間計画」(§ 4) に述べた通りである。内容全般のまとめについては別の機会を待つとして、ここでは「表現指導」の実例として幾つかを挙げてみたい。「読んで書く」過程を設ける観点としては、「読書指導との結びつき」(§ 2) に述べたことを踏まえて、

1. 要約力をつける。(中編、長編のあらすじをまとめる力をつける)
2. 簡潔に表現する力をつける。(漢語の使用・句切り等の工夫をする)
3. 語彙力をつける。(『三国志』の中の豊富な語彙(漢語・熟語等)を使用してみる)
4. 名文、名場面をとらえる。(作文の素材として文章表現に生かす)

と言った「表現上の工夫」を挙げておきたいが、本筋として、「内容の正確な把握」・「読書の楽しみ」・「物語・歴史背景への興味」・「読書の広がり」・「生き方の問題」・「人格形成」等々、所謂、「啓発的意義」・「問題意識の高揚」を求めていることは言うまでもない。

〔1〕要約力をつける——『三国志』十巻本のうちの一巻全体をまとめる——

〈まとめ——あらすじ〉文 実例 1 (一巻約17万字)(まとめ文約1500字)

第一巻——桃園の巻——あらすじ——〔I〕(高Ⅱ H)

ときは今から約千七百八十年前、後漢の建寧元年のころ、悠久と水の行く黄河のほとりに年のころは二十四・五、身なりはいたって見すばらしいが、聡明そうな青年の旅人があった。涿郡の樓桑村の生まれである彼は、その名を劉備玄德りゅうびげんとくといった。

玄德は蓆ひしろや簾すだれをつくって売り歩くいわゆる行商人であったが、貯えた金で母の好物である茶を洛陽船から手に入れ、帰路の途中、当時の中国で威勢をふるっていた黄巾賊の徒党につかまり、齋堂にとじこめられるのだが、ある老僧の手助けにより元領主の娘芙蓉あやうと共に逃げる。二人は河の畔で賊に追いつかれるが、賊の中に身をひそめ、機をうかがっていた鴻家の旧臣である張飛ちやうひという大男によって危いところを助けられ、玄德は芙蓉の身を彼に任せ、先祖代々伝わる大事な剣を礼として与え、無事に故郷へ帰る。

故郷では、玄徳の帰りを一人蓆を織りながら待った母が迎えるが、人に大事な剣を与え、百姓になりきってしまうと息子の不甲斐なさに激怒する。筋金入りの頑固ものである母は、茶を河に捨て、玄徳を折檻した。

それから数年後、玄徳が城内に出向き、義勇の士を募る布告の文を見ていたときに声をかけた男、張飛と再会する。二人は互いに心をうちあけあい、玄徳は自分が中山靖王劉勝せいおうりやうしやうこういんの後胤で、景帝の玄孫である血すじを言う。また張飛の義兄にあたる関羽かんうと知り合い、三人は義盟を結び、官賊を討ち、世を救わんことを誓う。

檄文をとばし兵を集め、商人から馬と金銀をもらいうけ、準備を整えた。だんだんと数のふえる軍人を率い、三人は官軍を救い、賊軍と戦い、黄中の将を討ち、賊を苦しめたが、官爵を持たない彼ら私軍に対する態度は冷たかった。しかし帝が無益の活躍をしている彼らのことを知り、はからいで玄徳は中山府の安喜県の尉に任ぜられたが、地方巡察にきた刺使・督郵が賄賂を献上しない玄徳を落とし入れようとし、これ

を知った張飛が刺使を痛めつけてしまう。

張飛の不始末により、彼らはその地を捨てて北へと逃げ、代州の劉大人の邸にとどまる。ここで玄德は芙蓉と再会し恋におちたが定州の大守が劉邸に来るため、彼らは去り、三人は秋に再会することを誓って別れることとなる。

舞台変わって洛陽宮では靈帝が重病にかかり、その後継ぎ問題が表面化していた。帝には、何后との間に弁皇子が、また王美人との間に協皇子という二人の子がいた。妹、何后の力を得て勢力を増した何進と、いつも帝の側にいる十常侍とは常に対立しており、今回のことでも互いにいがみあいをしていた。帝が亡き者となったことにより、十常侍が何進を殺すことを企てるが、何進がこれを知り、宦官をみな殺しにしようとする。袁紹がその役を買って出、弁皇子を即位させ十常侍を殺しはじめる。そして何進が勢力を増し、諸国に檄文を飛ばし董卓らがやって来るが、何進が十常侍の策略にはまり、無念にも首をはねられてしまう。その後、十常侍によって地位を得た董卓らが新帝の弁皇子より協皇子（陳留王）の方が有能とにらむ。

宮内で勢力を増した董卓は、呂布らを味方につけ、反対者を消し、力を強め、陳留王を帝にしようとした。そして結局陳留王が新帝となり、廢帝となった弁皇子と何后は暗殺される。

また、宮内で強勢力をほこる董卓に対する反発は大きく白面郎曹操そうそうが策をたて討とうとするが失敗し、洛陽から逃げる。

〈指導過程と観点〉(Ⅱ)「あらすじ」をまとめる事前指導として、

- ①「あらすじ」はできるだけ簡潔に短くすること。
- ②「主要登場人物」の動向、「大きな出来事」に着目すること。
- ③「前後の話（前後の巻）」を考慮に入れること。
- ④「漢語・名言」等をできるだけ生かすこと。
- ⑤「物語の展開・場面の転換」に応じて明確に段落分けすること。

などを「まとめの要領」として注意した。

上掲の〈実例1〉は、実は、次のような最初の「あらすじ」(まとめ)を更に要約しながら書き改めたものである。

~~~~桃園の巻~~~~あらすじ~~~~〔Ⅱ〕(約3200字)

後漢の建寧元年の頃、悠久と流れる黄河の畔に一人の旅人があった。年は二十四、五で貧しげであったが聡明そうで賤しげなところのない青年であった。名を劉備玄德といった。彼の家は涿郡樓桑村であったが、母に飲ませてやるための茶を求めため、洛陽船をまっていたのである。(蓆や籠を売ってためた金全部を払い、茶の壺を得た)玄德はその日村の木賃へとまったが、運悪く、今頃、中国にはびこっていた黄巾賊が、その村を襲ったため、命からがら逃げだした。しかし、孔子廟びょうにむかって「いつか、自分が民を救おうと、誓っていたその時、黄巾賊の二人につかまってしまった。荷物を持たされてついていったある寺で、玄德は、老僧に「あなたは、いつか治をひろめ、天下をおさめ、民を救うだろう」と、さとされた。事実、玄德は漢の中山靖王劉勝の後胤で景帝の玄孫にあたる者であった。

張角が、ひきいる黄巾賊は、いつのまにか、大規模になり、土民をおびやかしていた。その賊に囲まれていた玄德であったが、茶に賊が気をとられている間、逃げようとして、齋堂にとじこめられた。しかし、その夜あの老僧に助けだされ、元領主の娘を逃がしてくれるようたのみ、白馬を与えられた。その娘の名は芙蓉といい性は鴻といった。そしてその僧は自ら命を断った。彼らは必死に逃げたが、おいつかれてしまい危いところを賊の中にもぐり込んでいた張飛という大男に助けられた。

彼は賊をつまみあげて、たたいて殺してしまった。

玄德は張飛が、取り返してくれた剣と茶をうけとりあらたに札をして、彼の剣を与えた。そして、二頭の馬は西と東に別れ去った。

彼の故郷の樓桑村は、二、三百の小駅であった。その中で玄德の家は、ひときわ目立つ大きな桑の木がうわっていた。何百年を経たものか誰も知る者はない。家に帰った玄德な、母に剣はどうしたのか聞かれ、賊のことや、張飛のことを話したが、母に「お忘れかえ、阿備、おまえの先祖は漢の中山靖王劉勝の正しい血すじなのです。おまえはまぎれもなく景帝の玄孫なのです。この支那をひとたび統一した帝王の血がおまえの体にながれているのです。あの剣は、その印綬というてよい物です」と言われ、玄德は自分も土民になりさがろうとしていたが、もうそのような気はない。いつかきっと…と決意した。そんなある日、一人の羊仙が現われ桑の木を見ていっか貴人が生まれると、予言して、羊を置いてどこともなく去った。これらのでき事は、二人だけの秘かごとであった。相かわらず、玄德は蓆をつくっていた。城内へ彼がでかけた時、義勇の士を募る布告の文をみていた彼に声をかけたものがあつた。髯をたくわえおそろしく大きな男であつた。彼は張飛であつた。二人は、心をうちあけ合い、血すじをあかし、会うことを約束して別れた。張飛は、元来大酒飲みで短気な男であつたので途中で役人を殺しながらも、義兄の関羽（雲長）の所へ、玄德のことを告げに言った。そして翌日、三人は合い、玄德の家に、むかつた。その晩は、彼の家で寝て、あくる朝、三人は玄德の母の精一杯の料理と酒で桃園で腐った官廷をとり除き、新しく、天下を治める。土民を救おうと、義盟をむすんだ。長兄は玄德そして関羽、張飛ということになった。早速兵を集めることになり檄文をとばし、あつという間に、七、八十人集まつた。そして、商人から馬と金銀をもらいうけた。軍装はととのつた。まず手はじめに幽州涿郡の大守劉焉のもとへ行き、黄巾賊の首をあげること一万余、すぐに鄭靖の手助けをし、またことごとくいためつけた。そして、また玄德は恩師を助けるため広宗の野の廬植の所に向つた。廬植は、賊の総大将張角の弟で張宝・張梁の二人がいる潁川の討伐を助けるようにたのんだ。ところが、その官軍の将朱儁は義軍に冷たかつた。玄德らが火をつけて賊軍になだれ込み戦っている時かなたから現れた官軍があつた。その将は、まだ若く肉薄く色白く細眼長髯・朋量人にこえその眸には、智謀は、はかり知れないものがあつた。

曹操字は孟徳という者であつた。この官軍と、玄德のひきいる私軍は、相協力して、賊を追いはらつた、朱儁は、何故か、再び玄德に廬植の元へ行くよう命をだした。官爵がないため、この私軍への態度は冷たかつた。ところが廬植は勅使に賄賂を与えなかつたことから、つかまえられ都に送られるところだつた。そのため、この軍は大興山に向かう義がなくなり北へむかつた。その途中官軍に出会い賊におわれているとこ



ろを助けたが、將軍の董卓に礼も言われることなく、再び、旅は続いた。朱雋のところへもどり、戦っていた。そんな時、広額、瀾面、昏は丹のようで、眉は峨眉山の半月のごとく高くして鋭い。熊腰にして虎態・孫堅字は文台という者が千五百の兵をつれて参加してきた。孫堅と玄徳の働きによってついに黄巾賊は破れた。

洛陽の城下でも私軍の彼らは門番をさせられ、いつまでたっても恩賞ももらえないでいた。帝は、やっとその事に気づき、第2の恩賞の実施となった。玄徳は中山府の安喜県の尉という官職についた。彼らの政治のおかげでその県は平和は日々がおとづれるようになった。しかし、その平和もつかの間で勅使の督郵が、賄賂を与えなかったので、玄徳をおとし入れようとしたため、張飛は怒り、彼をいためつけてしまった。そして、3人はその日のうちにこの地をすてて劉大人の邸にとめてもらうことにした。この家は張飛知り合いの家で、その家で玄徳は、昔彼が助けた芙蓉に出会い恋におちたがそこを出る日には、彼はやはり中山靖王の後胤劉備玄徳にもどったのである。

そして三人は別れた。この秋会うことを誓って。

ここは洛陽一。洛陽宮では靈帝が病にかかっていた帝は何后との間に弁皇子がいて、また王美人との間に協がいた。何后によって王美人は殺されたが、靈帝の母の董太后に協皇子はかわいがられていた。何后の兄の何進は妹の力を得てぐんぐん勢力を増していた。その何進と、いつも帝の側にいる十常侍は対立していた。帝が亡くなった時十常侍が何進を亡き者にしようとしている事を知り、宦官かんがんをみな殺しにしようと考えた。その役をかってでたのが袁紹であった。弁太子を即位させ十常侍を殺しはじめた。一瞬の間に禁門の内外は、この世ながら修羅地獄と化した。(この騒ぎの中一人悠久と笑ってながめている者がいた。曹操である。)

何進が、また勢力をました。そして諸国に檄文をとばした。それによって董卓もやってきていた。その様子を知った十常侍は何進をうまくだまし呼びよせ殺してしまつた。それを知って袁紹が襲ってきたため生き残つた十常侍が新帝と、弟の陳留王(協)をつれて逃げたがはぐれてしまい皇子二人だけになってしまった。隠れているところを袁紹らに助けられて帰る途中董卓に出会いその時、董卓は、陳留王に、心をひきつけられた。

董卓は都にはいり、いつの間にか勢力を増し、陳留王を新しく帝にしたいと思い、百官の前で提案すると、反対する者がいた。丁原であった。彼の養子の呂布のために、翌日、大敗してしまつた。しかし、一頭の名馬と金銀によってあっけなく呂布は丁原を殺し味方についた。

再び、陳留王のことを言うと、袁紹一人反対し、冀州の地へはしってしまった。残りの者誰も反対する者はいなかった。廢帝と何后は暗殺されていた。

そんな中で三公の重職の司徒王允は、ひとり日夜苦しんでいた。董卓を討ちたかつたのだが、計がなかったのである。彼はある日心の通じ合っている者ら呼びなげきあっていたのを聞いてその中で一人笑うものがいた。

曹操であった。彼は董卓を殺すと誓った。しかし、その計画は失敗におわり、曹操はすぐさま洛陽から逃げだした。

### 〈指導過程と観点〉

〔Ⅱ〕から〔Ⅰ〕へおよそ半分に短縮したことになる。「あらすじ」をできるだけ短く、簡潔にするのは、「まとめる力＝要約力」を養う意味に加えて、実は「発表」する場合にも関連している。1グループ（3人～4人）が「一巻」全体の「研究発表」、原則として「一巻の発表 1時間」としており、その中で「あらすじ」の説明が長いと他の部分（時代背景・登場人物・名文、名場面・見どころ、面白さ、現代的意味など）の発表時間が短縮されてしまう。「1時間配当」のうち、「5分」、長くて「10分」を原則とした。殊に「三国志」については全員が一応読んでいるのであるから「5分」程度のあらすじで足りるという判断からである。実際には15分～20分のグループもあったが、第1巻・第二巻の発表時、つまり、できるだけ早い時点で「長すぎる」ことを指摘しておく、後の発表において有効であった。更に、「レポート」としてとらえ、「書く」段階ではかなり長い「あらすじ」でも、発表時には短縮するよう指示した。つまり、手許の原稿をより短縮して「話す」ための「原稿」を準備させることにした。この方法、即ち、第一次〔長文のまとめ—あらすじ〕（全体の流れ、物語の筋を追うため、どうしても長いあらすじとなっている）→第二次〔第一次を更に短縮する＝発表の為のあらすじ〕の過程は、かなり「まとめる力」を養う上で効果的であったと思う。

### 〈まとめ—あらすじ〉文 実例 2

#### 第九巻～出師の巻～あらすじ

（高Ⅱ S）

魏、蜀、呉三国の接点ともいべき荆州の守備についていた関羽は敵将呂蒙と無名の士陸遜の術中にはまり、ついに呉軍に捕えられて斬殺された。こうして劉備玄德は挙兵以来の義弟関羽を失った上、要地荆州まで失って悲しみに打ちひしがれてしまった。ついで宿敵曹操が死んだ。そしてその子曹丕が後を継ぎ、献帝を脅迫して皇帝の位についた。玄德も群臣と民衆の推戴を受けて即位した。そして諸葛孔明を丞相に任命した。

蜀建国後、玄德は諸臣の反対を押し切り、関羽の仇を討つことを企てた。しかしその前途を示すかのようにもう一人の義弟張飛が部下の手で暗殺されてしまった。

悲しみを乗り越えて出陣した玄德軍は連戦連勝を重ね孫権をして大いにあせらせた。そして孫権が最後の切り札として派遣したのが無名の将陸遜である。陸遜は、伸び切った蜀軍の兵站線を一気にたたき火攻めの計を用いて徹底的に打ち破った。玄德は命からがら白帝城に逃げ帰った。そしてそのまま病床につき、成都から駆けつけた孔明に後軍を託し、もし我が子が帝としての価値のない男ならば、孔明が代って位につけ、と命じて世を去った。

玄徳の死後、ずっしりと重い責任が孔明の肩にのしかかってきた。五つの方向から攻勢をかける魏の戦法を、策をもって封じた。そして呉と同盟を結び、対魏政策を確立した。そしてさらに二年後、みずから南征の軍を率いて南蛮の異民族を平定し、後顧の憂いを絶った。

そしてさらに二年後、孔明は、魏と戦うことを決意し劉禅皇帝に対して、古今の名文とされる「出師の表」を提出した。この表は、国をうれえる真情をうちあけた名文で、読む者の胸にひしひしと迫る。

しかし、蜀の内部には、魏との戦いに反対する声が多かった。なぜならば、この蜀



の地は、先帝玄徳が領治して以来あまりにもまだ国家としての歴史が若く、かつは連年の戦にまだとうてい魏と対立するだけの實力は内に蓄えられていなかった。しかし孔明はこれらの諸將の反対に対して樂觀論でのぞんだ。だが孔明の心中では彼ら以上の覚悟があったのである。

〔指導過程と観点〕全クラス（4クラス） についてではないが、「第九卷」（従って発表も第9番目）になると、实例2（上掲）のような「まとめ」が見られた。文章そのものの巧拙はともあれ、「まとめる」力は訓練—練り直し—によってかなり上達すると思う。俗に言う「一冊の本」（『三国志』10巻本の一巻）のまとめ（あらすじ）としては、実際問題としては（勿論、宣伝文句などの場合は別として）上例程度の長さ（まとめ）が限度、あるいは適当と考えている。何度も読み直し、「あらすじ」を追い、「まとめ」、更に「要約」するには時間を要する。従って、夏休みなどの期間を使うことにしているのであるが、今一つ言えることは、「グループ編成—仲間—」＝共同作業という中で、自分の分担したことに責任を持つ、その自覚、一種の使命感を持たせることが大切である。嫌でも、しんどくても読む、書く、ということが、「読書嫌い」・「作文嫌い」を助長するとは思えない。「意義」・「作り上げた喜び」を感じることを必ずあると信じるからである。

## 〔Ⅱ〕簡潔に表現する力をつける。——『三国志』をめぐる——

### 〔簡潔な文章〕 实例 1

#### 第八卷~~~~図南の巻~~~~

かくして、関羽は勝った。しかし時運というものはわからない。この後、関羽は死の道を歩いていく。勝負は時の運。この戦で敗北をきった魏も、まだまだ絶大な力をもつ。時は戦乱の世。朝廷とか臣道とかの文字はあっても、中央は曹操が思いのままであった。その中で左慈とか、管輅など、一時の人物が暗躍する。劉備、孔明、曹操、孫権、関羽、張飛、さまざまの人の思いをのせて、時代はさらに戦雲の中へと進んでいく。

〔指導過程と観点〕 所謂「歯切れのよい文章」と言ってもよい。「名文調」と言ってもよい。勿論、生徒個人の「表現力」・「文章力」にもよるが、『三国志』全十巻を読み、書き（まとめ）しているうちに影響を受けたとも言えよう。所謂「吉川調」とも言えようが、簡潔な文章を書いてみる試み、意気ごみは大切にしたい。上掲の〔实例 1〕は、実は、次のような文章の続きで、最後のまとめとして書かれたものである。

桃園の義に始まり数々の戦乱を経たこの物語も、赤壁以後は、やや、マンネリの相を呈して、年月だけが過ぎていく。特にこの図南の巻は、劉備が蜀に入るといって、大きな意義があるにしても、他の赤壁、五丈原などと比べてスケールが小さい。それにしても、龐統の戦死、雒城の攻撃、張飛と張郃との戦い、最後の、龐徳の戦死のあたりなど、いずれも、吉川英治の名調子にのって読むものをして、手に汗をにぎらさず

にはいられない。ここでは劉備の蜀への侵攻を中心として、八巻の見どころを、吉川英治の文を使い、文献を参考に、自分なりに描きたいと思う。

『日は没しても戦雲赤く、日は出でてでも戦塵に晦かった。

玄德軍と、蜀軍と。

いまや成都是指呼のあいだにある。綿竹関の一線を堺として、

ここが陥れば、蜀中はすでに玄徳の掌にあるもの。ここに敗れんか、玄徳の軍は枯葉と散って空しく征地の鬼と化さねばならぬ』

劉備は雒城を囲むこと一年、腹臣の龐統を失うという犠牲を払って、やっと陥すことができた。つぎはいよいよ蜀のあるじ劉璋の居城成都を攻めることになる。幸いそのころには、荊州から馳せつけた諸葛孔明、張飛、趙雲たちが、やっと到着したのである。そればかりではない。曹操に追われた馬超が、いったん漢中の五斗米道王国のあるじ張魯を頼ったが、その宗教臭さがいやになって、劉備のもとに走った。

役者がそろった。……………（中略）

熊手や鉤槍をそろえて、いきなり彼の舷へ引っ掛け、瞬時にその河船を覆してしまった。

「やったな、見事」

「誰だ、あの大将は」

蜀軍はそれを見て、みな声をあげ、手を振って賞めた。不死身の龐徳も船もろとも水煙の底へ葬られたからだ。

ところが、彼を葬った蜀の一将は、それを以って満足せず、直ちに、自分も濁流の中へ身を躍らした。そして渦巻く波を切って泳ぎ、当の相手龐徳と水中に格闘して、遂にその大物を生け捕ってしまったのである。

戦い既に終わったので、関羽は船を岸に返し、その勇士が龐徳を曳いて来るのを待っていた。勇士の名は、蜀軍随一の水練の達者周倉であったことがもう全軍へ知れ渡っていた。

二十日足らずののちに、洪水はまったく乾いた。関羽は、于禁を生捕り、龐徳を誅し、魏の急援七軍の大半以上を、悉く魚鱉の餌として、熱い八荒に震い、彼の名は、泣く子も黙るといふ諺のとおり天下にひびいた。

## 〈簡潔な文章〉 実例 2

### 第二巻〜群星の巻・「歴史的背景」より

#### 法家と儒家

漢の中期、元帝時代から儒教思想の国家における役割が大きくなり、以前の法家の思想は影が薄れてきた。そして後漢後期には、礼教主義と呼ばれる中央と地方政府と民間が武力や法律の力によらず、道德の力によって互いに結びつく理想的社会が出来上がっていたのである。

しかしながら、このような理想郷も長くは続かなく、中央政府の腐敗からこの礼教主義世界にも大きな矛盾が生じてくるのである。この矛盾に身をさらすのを潔し

とせず、政治から身を引く隠士もこの時代多くいた。のちに出てくる孔明などもその一人であると思われる。

#### 漢帝国の最後

現実（中央の腐敗）と理想（礼教主義）とのギャップが広がるなかで、漢帝国は最後を迎えようとしていた。そして、その存在を否定する大衆運動が黄巾の乱といってもよからう。そして、いつの時代でも同じであるが、乱を鎮圧するためには軍隊の力が必要であり、そのために軍隊の政治的権力が増大して最後は軍の指導者が時の政権をくつがえすようになるものである。漢帝国もこの例にもれず、黄巾の乱以後あっさりと滅亡してしまい、軍事政権である魏・呉・蜀に代わられてしまった。

#### 新しい世界の変化

ではこの礼教主義と現実とのギャップが広がっていく中で、人々の礼教主義に対する考え方はどうかわっていったのだろうか、まず第一に、先にも述べたように、隠士になる、つまり逸民的な生活を選ぶ人々が出てきた。そして反対に礼教主義に見切りをつけて、礼教主義に対立する思想—法家の思想—をもつ人々があらわれてきた。ところで、この時代、特に注目しなければならないのは、個人主義の抬頭であらう。

今までの礼教主義的な道徳的連帯感は忘れられ、個人的利害関係において、連体・集合が作られるようになってきた。法家思想と個人主義、これによってこの時代、覇者が生まれてくるのである。

（指導過程と観点） 「簡潔な文章」とは「名文調」・「短文を歯切れよく並べる」だけではない。「語彙」を豊富に、しかも、要所においてしっかり文末をしめくくることが大切である。ここに掲げた（実例 2）ものは、本人には悪いが、さほど国語の学力が高い——通常テストなどの成績結果からみて——生徒の文章ではない。今までの作文などでは、随分冗長な文を書いていた生徒である。「三国志」を読み、そして書いた成果であるとは勿論言い切れないが、確かに、読み、調べ、書く、ことの好影響はあったものと判断している。他にも意外と思うほどの文章がかなり多かった。上例の文中において、~~~~線を施した部分は、特にしっかりした文、表現上の工夫が見られると判断したところである。上の二例は全部のクラスで朗読し、参考とさせた。「語彙」の面でも苦心のあとの見えるところである。

### 〔Ⅲ〕語彙力をつける。（漢字、熟語、語句、故事成語なども含めて）

#### 実例

- ① 「劉・孫連合軍が曹操を迎撃して大勝した赤壁の大決戦の後、玄德は自然、荊州を手に入れ、孔明の辣腕によって、今では蜀に代わって蜀を統治するようになっていた。」
- ② 「玄德は西涼の錦馬超という勇将を得、意気盛んで、やがて蜀の劉璋も降参する破目となり、ここに玄德は初めて一国を統治するようになる。ここで注目したいのは、劉璋の降を容れることになった時の熱い涙をたたえての玄德の言葉である。」

- ③ 「結局、劉璋は、廬を貸して母屋を取られたことになり、玄德がかわって益州の長官、牧と名のり、成都を根拠地とした」
- ④ 「赤壁の大敗によって、一転して没落した曹操であったが、後に意気を盛り返し、一挙に漢中地方を平定した後、宿望の南征を計っていた。ちょうどその頃、重臣董昭から魏公の位に上る勧めがあり、何と曹操は何のためらいもなくその気になり、ここに九錫の儀仗に護られる身となったのである」
- ⑤ 「彼は退嬰策をとった。つまり孫権は、まさしく兄が観察したように、創業の君ではなく、守成の人であったのではないだろうか」
- ⑥ 「成都陥落の後、軍師將軍に任ぜられた孔明は、新領土の統治に精力を傾注、いわば外来者である玄德らと、土着の貴族、豪族との間の利害関係をいかに調節するかが、孔明の苦心の焦点となる。

〈指導過程と観点〉 極めて豊富な、いや、極めて膨大な語彙（俗に言う単語・漢語、語句も含めて）に触れることも「三国志」を取り扱う大きな理由である。たとえ実用的でない言葉でも、一度触れるだけであっても無意味とは思えない。「漢字」が「書けない」「漢字を使わない」という一般的傾向の中では、ともかく「漢字」に触れることにも一義はあろう。「漢字・漢語」そのものの意味を求めなくても、敢えて「漢字」を「書く」努力は大切にしたい。例えば、ある生徒は分担した巻に登場する人物をほとんど書き抜いて〈主な登場人物〉としている。明らかに「無駄」とも思える。しかし、無駄を承知で無駄をすることもある。「こんな漢字もあるのか」、「こんな人名もあるのか」と驚くだけでもいい。すべて人は名を持ち、ほとんどの人はその名を残さずして消えてゆく。そんなことに気付くことがあっても面白い。このことは生徒にも話しておいた。

#### 第五卷~~~~孔明の巻~~~~登場人物~~~~~176名

関羽 曹操 蔡陽 程昱 張遼 許褚 徐晃 于禁 李典 廖化 杜遠 劉皇叔夫人  
 顔良 文醜 玄德 胡華 胡班 孔秀 袁紹 韓福 孟坦 普淨和尚 弁喜 王植  
 劉延 夏侯惇 秦琪 孫乾 劉辟 龔都 郭常 裴元紹 周倉 張宝 張飛 糜竺  
 糜芳 関定 関寧 関平 簡雍 郭図 趙雲 公孫瓚 劉表 孫策 劉勲 張紘 陳震  
 曹仁 孫匡 許貢 華陀 蔣林 張昭 于吉仙人 典獄頭 張津 呂範 孫權 劉瓛  
 孫靜 魯肅 劉子揚 鄭宝 麴揚 周瑜 諸葛瑾 諸葛珪 孔明 陳震 糜進 張郃  
 審配 曹洪 荀彧 史渙 韓猛 高覽 淳于瓊 呂威 韓菖子 陸元 許攸 沮授  
 典獄 蔣奇 趙叡 辛明 袁尚 酸棗 袁譚 逢紀 義渠 諸葛豐 袁熙 辛評  
 翠眉廟 高幹 夏侯淵 蔡瑁 滿寵 劉氏 郭嘉 辛毘 呂曠 呂翔 沮鵠 尹楷  
 李孚 馬延 張顛 審榮 葛丕 崔琰 甘陵 彭安 張燕 魚触 張南 王修 別駕  
 韓珩 田疇 冒頓 公孫康 曹子建 郭奕 張虎 陳生 張魯 蒯越 的盧 伊籍  
 劉禪阿斗 劉琦 劉琮 陳夫人 蔡夫人 王粲 文聘 鄧義 王威 蔡和 蔡仲  
 蔡勲 州衙 司馬徽 龐德公 龐統子 張良 蕭何 韓信 徐庶 劉泌 寇封 徐康  
 太公望 張子房 諸葛玄 許章 董卓 周術 朱皓 冼融 劉繇 石韶 孟建 崔州平  
 黃承彦 管仲 樂毅 石広元 孟公威 殷熹 孟子（三国志第五卷登場人物176名）

〔指導過程と観点〕 『三国志』の取り組みの中で「多くの言葉、漢語、熟語」に触れることは、単にこの書物中とは限らない。「調べる」—「読書の広がり」の中でも多くの言葉に触れる。それを「写す」だけでも、「触れた」ことにはなる。幾らかは身に付いて、ある場面、ある文章表現に生きてくることもあろう。例えば次の如きは他の書物からの「まる写し」であろうが、それはそれで何らかの意義を見出したい。「歴史的背景」を述べた、およそ一万字、レポート（ファックス用原紙）12ページに渡って書いてあるほんの一部を挙げてみよう。

- ① 「中国の宗教は根本的には呪術宗教であった。万物万象に精霊、鬼神があり、これと人間社会との関係に調和を失うことがあると、天変地異や疾病不幸が訪れると考えられたので、精霊、鬼神を調整支配する種々の超人間的術が主張された。巫術、呪術、方術などがそれである。」
- ② 「道教は、原始的な自然宗教から起こった中国の宗教で、多神教である。その源は、古代中国のアニミズム信仰にある上に、現世の幸福や不老長生などの現世利益を目的とするから、道教とは、中国古代の民間の雑多な信仰を基盤とし、神仙説を中心として、それに道家、易、陰陽、五行、卜筮、巫祝、護符、天文、占星、儒家などの説を加え、方術や呪術をも総合して、仏教の組織や体裁にならって宗教的な形にまとめあげられたものといえることができる。」
- ③ 「道教の信仰と、儒教の君子と小人の区別をし、君子による支配と秩序の確立を目指すという考え方が、『三国志』の全編を通じて流れている。」

#### 〔Ⅳ〕 名文、名場面をとらえる。

##### 実例 1

#### 第三卷 草莽の巻

（曹操の言葉）

「目には見えないが動いている。刻々動いて休まない天上と地上……。ああ偉大だ、悠久な運行だ。この間に生まれて、真に、生き甲斐ある生命をつかまないでどうする！おれもあの群星の中の一星であるのに。」

私はこの言葉に曹操らしさを感じる。情熱的で大望を抱いていた若き曹操。特に「おれもあの群星の中の一星であるのに」と言うところなどは一番響いてきた。まだそんなに実力を持っていない頃の若い曹操が自分の事をこんな風に表現し「今にきつと天下を……」と言う意味が裏に秘められているように思える。

「彼の夢はたぶん詩人的な幻想を含んではいる。けれど詩人の意見のごとく弱くはない。」

※ 彼と言うのはここでは曹操の事を指している。



戦いを楽しみとしている曹操のまた全然違った一面を表現していると思う。ただこの言葉の中に「詩人の意見のごとく弱くはない」というのは半分納得しかねる。と言うのは、詩人というのは時にかなりの風刺をし、それを貫こうとするところがあると思うからである。しかし曹操は、幻想的な夢を現実に変えてしまう力がある。いくら偉大な詩人であってもそんな事はできないし、そこまでしようとしない。(芸術家というのは応々にして、自己満足で終わってしまうところがあると思うため)だから最後に「詩人の意見のごとく弱くはない」とあるのだろう。

(指導過程と観点) 大体において上例のような「名文・名場面」のとらえ方をしている。今回特に目立ったことは(過去のものと比較して)その場面を述べて、その中に「名言」と思える言葉を入れる書き方であった。従って随分と長い文章のものが多い。それは、「名文を選べ」とした前回までと違って、「名文・名場面」としたためであろう。「場面」は広いから、書く方も苦労したようだ。例えば

### 第二巻~~~~群星の巻~~~~名文・名場面~~~~

読めば読むほど、どの場面も名場面のように見え、また美しい文やはっとさせられるような文も、いたる箇所にあり、いまひとつ焦点がしぼれないが、順をおって書こうと思う。

「我をして天下の人に反かしむるとも、天下の人をして我に反かしむるを止めよ一だ。」

「大きな仕事を手軽にやっけてのけるのが、大事をなす秘訣ですよ。」

董卓の元を逃げだし、故郷へ帰ったころの曹操の言葉である。これらで、曹操の人物もほぼ察せられる。大胆で情熱はあるが、道徳心などはかけらもない野心家、自信家である。

~~~~線部分にあるようなとまどいも見られた。

解説部分を省いて、生徒が「名文」として取り出したもの、数例を挙げておく。

名文

- ① 桃花は又春にして 若やぐが 母の白髪が再び黒くかえる日はない。春秋の人の身の上のみ短い。(桃園の巻)
- ② これなんその一軍の大將であろう。広額、瀟面、唇は丹のようで眉は峨眉山の半月のごとく高くし鋭い。熊腰にして虎態、いわゆる威あって猛からず、見るからに大人の風を備えている。(同上)
- ③ 人と人との応接は要するに鏡のようなものである。一驕慢は一驕慢をうつし謙遜は謙遜をうつす。人の無礼におごるのは自分の反映へおごっているようなものと言えよう。」
- ④ 「澄み暮れてゆく夕空の無辺は、天地の大と悠久を思わせる。白い星、淡い夕月——玄德は黙々と広い野をひとり彷徨ってゆく。……」(孔明の巻)
- ⑤ 「否々。いつの時代でも、決して人物が皆無ではない。ただ、それを真に用

うる具眼者がいないのじゃ。孔子も白^いっているではないか。十室ノ邑ニハ必ず忠信ノ人アリ、と。何でこの広い諸国に俊傑がないといえよう」(孔明の巻)

- ⑥ 「よろしい。天よ。百難をわれに与えよ。奸雄たらずとも、必ず天下の雄にはなってみせる」(群星の巻)
- ⑦ 「破壊は一挙にそれをなしても、文化の建設は一朝にしてはならない……」
- ⑧ 「事を謀るは人、事を成すは天」(五丈原の巻)
- ⑨ 「亮の命や一露より軽しと雖も、任は万山より重し」(同上)
- ⑩ 「人命何ぞ仮すことの短き。理想何ぞ余りにも多き」(同上)

〈指導過程と観点〉

「名文」を見つけておくということは、その言葉の意味が「啓発的意味」を持つことに意義があるのは勿論、実際の文章表現に生かすことができる。その文章のポイント・アクセント、時には「主題」ともなり得る。読書の偏り、名作離れ、の進む中で、やはり「名文・名言」としての言葉は身につけておかせたい。

§ 10. 実践報告 (10) 『三国志』をめぐって

「三国志」の取り組みでは、今までに見た以外に、

- (1) 物語の歴史的背景
- (2) 見どころ・面白さ
- (3) 現代的意義
- (4) 発表上の工夫……名場面の台本を作り、寸劇風に演じる——脚本化
- (5) 作文——「三国志における人物像」(全員、1500字程度)

などがある。これらについて、作文実例として挙げておきたい。

- (1) 「三国志」——物語の歴史的・時代的背景——

~~~~赤壁の巻~~~~

三国志に描かれている時代、即ち後漢の末期から魏、呉、蜀の三国分立の時代は、年代でいえば黄巾の乱のおこったAD.184年から魏が蜀を滅ぼした256年に至る一世紀にも満たない間のことである。また中国史の中の位置としては、漢、という強大な中央集権国家から、さらにすすんだ律令体制を持つ隋・唐の時代への過渡期にあたる時代といえよう。

四百年余りも続いた後漢が衰え、黄巾の乱で世に出た曹操が献帝を迎え入れて華北に大きな勢力を持った。そして一挙に天下統一かと見られたが、赤壁の戦いに敗れその夢は実現されなかった。この戦いを境に、魏呉蜀の三国はバランスを保ちながら互いに相手の動きを見るといった「三国鼎立」の形をとったのである。

三国志の中で漢朝は非常に良い王朝として書かれている。劉備玄德は、その漢の王、劉氏の末裔というだけで国の主君たる正当性を与えられるし、民衆は、「劉」の名を聞けば王として崇めたてる。しかし本当に漢朝はそれほどすばらしい王朝だったのだろうか。

答は「否」である。前漢あるいは後漢も劉秀の廷国のころならいざ知らず、後漢の政治は、民衆から離脱した、内部抗争のみがある悪政だったのである。後漢の中期には貴族は劉氏の外戚になろうとして、娘をおくり込み、そうして権力を握り国王そののけで采配を振るといふありさまだった。後期(125年ごろから)になると、その権力は、外戚から宦官に移っていったが悪政ぶりは変わらなかった。こうした行政の当然の結果として地方で

は物価の高騰、流民の増加がおり、ついには黄巾の乱といった賊の横行も出てきた。

以上のように、後漢中後期の政治のひどさは甚しいものであるのに、三国志の中であれほどの正当性を持たせているのは、有名無実になり終えたとはいえ、やはり、四百年の長い伝統を持つがためであったのだろう。このことは、曹操が最後まで帝にならなかったことにも通ずることである。彼の家柄が悪かったせいもあるが、長い歴史を持つ漢朝を打倒するというには何らかの抵抗が感じられたのであろうといわれている。

曹操、劉備、孫権らの将軍は、それぞれに多くの軍、多くの民を持っていたのであるが、それらに対する、食糧政策はどういうものであったのだろうか。これは、曹操だけのものであるが、屯田制という土地制度がある。196年ごろ献帝を許に迎え、そこを都とした曹操は、その許の近くに屯田をひらいた。戦乱と天災によって農作物は激減し、194年にはいなごの大発生によってさらに打撃をうけた。新しい秩序は未だ確立しないし、多額の軍需が戦争には必要である。これを賄いつつ国民の生活を安定させるためには彼は屯田をひらいたのであった。これは、農地を国有地とし、官牛を借りた者は六公四民私牛を持つものは五公五民の割で農作物を分けた。(民屯)屯田制そのものは、前漢の武帝によって始められたもので異なるところは、前漢の屯田制では、耕作者が兵、つまり軍人だったということである。こうした「軍屯」は曹操の時代には、呉や蜀との国境地帯で行われた。

ここで一つ興味深い事は、曹操がこの屯田制(民屯の方)を強制せずあくまで自由意志にさせたことである。もっともこれは地方の官吏によって強制が行われたことを示すのであるが、そのような強制ばかりでなく、私牛を持つ者も、自分たちの生活を保護してもらうために民屯の組織下に入ったことも十分考えられることである。この制度は、後の均田制、班田収授の法の基ともなるほどに発達したが、その理由の一つに戦乱によって無人化し、荒れた土地を国家が没収、所有することができたことがあげられる。

もう一つこの屯田法と並んで魏の官僚体制を作り上げるのに役立ち、南北朝時代の官吏登用法の源ともなった、九品官人法というものがあるが、これは曹操死して後の事であるのでここでは触れないことにする。

こうして中国の中では激しい動乱がおこっているとき他の国のようすはどうだったのだろうか。

ヨーロッパではギリシア、ローマ共和国、マケドニアが滅び、大ローマ帝国の時代であった。また魏と境する北アジアには、匈奴の後を継ぐ鮮卑人が蒙古高原に勢力を持っていた。朝鮮では高句麗、日本では小国分立の時代であった。なお、邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使した話は有名である。

中国は地味ながらも長い歴史からくる文化は大したものであり、官僚制度、三国志にも度々出てくる天文学、宗教などやはり世界一の文化を持っていたといえるだろう。ヨーロッパでも建築、キリスト教に基づく文化、哲学などで発達していたが中国には一歩及ばなかったようである。

話はまた初めの赤壁の戦いに戻って、黄巾の乱で劉備らと並んで世に出た曹操は、董卓が殺されて混乱していた関中から献帝を救い出して許に迎えた。帝を抱き込んで都をおいた彼は天下統一に一歩先んじたわけであった。200年の官渡の戦いで憂いの種であった袁紹の軍を破り華北を平定した。ここで彼の天下統一は成るかに見えた。

劉備は、曹操よりも既に遅れをとってしまっていたが、「三顧の礼」に知られるように、

又と無い謀士孔明を得て、彼に『荊州と益州を併せ持ち、北の曹操、東の孫権と鼎立すべきだ』という『天下三分の計』を説かれた。然し劉備はこのとき劉表の客将であったので、呉へ救いを求め赤壁で魏と相対した。この戦いでは、呉の火攻めの計が功を奏し、魏の軍は全滅するに至った。この計を考案したのは三国志中では孔明となっているが、これは史実としてはちょっと疑わしいところである。この戦いで曹操が敗れたのは、彼の全国制覇の望みを大きく打ち砕くものであった。一方劉備にとっては、今までの劣勢から横に並んだ形となり、彼は全国統一の機会を得たことになった。孔明の頭の中には、まず三国鼎立をもっていき、そして全国へ、という考えがあったのであろう。『大帝国に入る前の乱時代の兆し』といわれるこの時代の中で歴史を大きく変えた一戦であったのだと思う。

(2) 「三国志」～見どころ・面白さ

① ～第七巻～望蜀の巻の見どころ・おもしろさ

四川省、巴蜀、その河川流域の盆地は、米、麦、桐油、木材などの天産豊かであり、気候温暖な所ではあったが交通が不便であった。北方へ出るには劍閣の峻路、南は巴山山脈にさえぎられ、関中に出る四道、巴蜀へ通ずる三道も非常に険しく、「蜀の栈道」と呼ばれていた。それゆえに蜀は今までは時代の外にあったのである。しかし、漢中の張魯、荊州の玄德、魏の曹操らが、互いに他国を侵略しようとしてそれが成功しないと、中央から隔てた唯一の別天地を我が物にしようとするのは、当然のことである、劉璋が、その蜀を治めていたけれども、自国の無事に馴れて、いわゆる遊惰脆弱な暗君であったため、蜀はとうてい暗愚な彼では治まらずいづれ漢中に侵略される運命にあると思ったその同国の別駕張松が、もし曹操の人物さえよければ魏の国に蜀を取らしてもよいと考え、自ら一舌をもって魏に使いしようと言った。しかし、長時間を費やして蜀からの使者として初めて魏国を訪れた時、張松は、賄賂を吏員に贈らなければ曹操に目を通すことができず、曹操に会っても二、三対話するうちに曹操に激怒され、魏の国の人は諂倭だと嘲笑するに至る。その時、楊修が怒って曹操の大才を示そうと張松に見せるのが孟徳新書である。しかし、張松は、それが曹操自身の新書でないことをみやぶり哄笑し、さらに、曹操自身の敗北の歴史をつぶさに物語り、曹操を逆に威圧してしまった。そのため、まさしく『覇者は己れを凌ぐ者を忌む』という言葉どおり、曹操は赫怒し彼に対し百棒の刑を与えるのである。不遜な言を吐いたことにより半死半生にされ、使いをはたさず失意と恥を抱いた張松は、蜀へもどらずに荊州へ向かうのである。そこで待っていたのが玄德らの鄭重な出迎えだった。その出迎えによって、張松は、曹操の場合とは一転して、実に謙虚な人となり、蜀に迎えて蜀を治めるのはこの玄德ら以外にないと決心したのだった。

この場面における曹操と玄德の張松に対してとった対照的な態度が、また、張松自身の態度がおもしろい。

曹操は、自分よりすぐれている者をきらい性格を持っている上に、目つきや態度そして外見などで人をすぐに判断してしまうきらいがある。ところが一方玄德はと言うと、過去に、龍統に関して、人は風貌ばかりでは分らないと、つくづく思い知らされているので、その点曹操とは違って、外見ですぐ判断してしまうということはないのである。さらに、また、玄德は、自らの方針として曹操の行動の逆をもって行動してきているだけに、自分より優れている者に対しては、敬意を示し、篤くもてなすのである。

そんなところへやって来るのが張松なのである。背丈は五尺そこそこで、短身長臂で、おまけに鼻はひしげ、歯は出っ歯で、額は青龍刀みたいに広くて生えぎわがでたらしているのが張松の外見だったから、曹操が最初から虫が好かなかったのも無理もない。張松は、曹操が自分をどうみていたかわかっていたにちがいない。だから、自分が曹操に威圧されないうちに、自ら曹操を威圧するほどに弁舌をしたのであろう。そういう意味では、張松が曹操の前で吐いた不遜な言は、ただの戯れだったのかもしれない。

曹操と玄德各々が、張松に会って初めて口にした文句を比較してみるとわかりやすいのではないか。曹操は、ひとことめに「蜀はなぜ毎年の貢物を献じないか」と罪を責めている。これに対し、玄徳の言は「かねて大夫のご高名は雷のごとく承っていましたが、雲上はるかに隔てて、教えを仰ぐこともできなかつた」である。自分が用いたいと思う客に対してはまず自分が相手を謙遜した形での接待が必要なのだ。相手の気持ちを損ねないような対話が、ひとことめに、必要なのである。玄徳が行なった接待はまさしくその道理にかなっていたとみえて、張松は、玄徳に対して、その後ずっと実に謙虚に言を発し、家族と共に首斬られるまで玄徳をはげましていたではないか。

人というもの。それは、一般的に言えば、第一印象に左右される。したがって、第一印象により全てを悟り相手の善悪を判定する場合がよくあるのだ。そして、その判定に従って、相手に対する接し方を変えて、臨機応変な態度をとることのできる才能は、だれもが内に秘めている。このことの認識が人の接待において重要だということを、それを風刺しているのがこの場面だと言ってよい。

戦いに関しての見所は、殺された父の仇を討つために曹操へ向かう西涼の馬超と曹操の側の虎痴の綽名をもつ許褚との一騎討ちの場面である。霹靂に似た喚きに狂う龍虎両雄一馬超と許褚は、戦うこと百余合、双方とも馬を疲らせてしまったので、各々陣中へ引き分かれるのが、その一騎討ちの一度目である。そして、二度目斬り結ぶことまた百余合。火華をちらし槍を砕き、また戟をかえて戦うが、依然として結着つかず、再び引き分かれるのである。三度目には、双方がひっぱりあいついに折れてしまった槍の半分ずつで、なおも猛烈な激闘を交えていたけれども、大事な虎痴に万一があつては全軍の士気にも関わると見た曹操の命令により、許褚が退却したので、その一騎討ちは終わった。馬超にとっては、真に殺そうとしていたのは曹操であつたから、ここで許褚と一騎討ちして引き分けたことは、残念な結果であつたにちがいない。

それにしても、`猛牛の尾を引いてひきもどしたというほどの力をもつ許褚を相手に、堂堂と戦い得る馬超も馬超なり、また西涼の馬超を敵にまわして戦う者も、許褚をにおいては有るまい。実に`虎痴も虎痴なり`、という言葉どおりである。描写にまったくむだがなく、その迫力のある戦いぶりに読み手までも感嘆してしまいそうになるのである。

戦い以外に関する見所としては、そのひとつに、建安十五年の春、魏の広苑で行われた曹休・文聘・曹洪・夏侯淵・徐晃による弓の試みがあげられる。ここでは、曹操のもつ武府の諸将のすばらしさが示されており、曹操自身の心の春といったものがうかがえるのだ。もうひとつには、一夕の歡を諸大将と共にする時、その席上で、ひとりの将が、曹操に対し、彼の意外な戦法の行われた理由を問う場面があげられる。ここでは、曹操の、子弟に講義しているように懇切な解説によって初めて知ることができる、計り事の多いことを示している。また、もしかすると、ここで曹操が語る兵法談義そのものも、諸大将をみな嘆服

させ、「丞相いまだ老いず」と心から賀させるための弁舌の計だったのかもしれない。

② ～第十卷～五丈原の巻のみどころ

最終巻とあって、内容的にも充実した、結末にふさわしい盛り上がりを持った巻である。

何といっても蜀の「諸葛孔明」と魏の「司馬懿仲達」の智謀に智謀を重ねた戦いぶりが出ばらしい。相手の裏を読み、だしぬきあうこと十数回。勝っては負け、負けては勝ち、いずれとも勝敗が定まらない。祁山で陣をひくこと六度にわたる。両双、おびただしい損害をだしながらもその度全力を持って戦いに挑むさまは、さながら「天血の如し」である。

そして、そんな蜀と魏の戦いを上空から冷ややかな目で観戦している呉、表面上は蜀と同盟を結びつつも、内心両国の疲れを待って一躍天下をとろうという魂胆である。この呉の動きが、蜀及び魏の辛らつな戦いを一層緊張感のもたせたものになっている。

仲達の練りに練った作戦をもってする力戦もさることながら、晩年になるにしたがってますますその知性に磨きをかける孔明。常に仲達はあと一步というところで彼の神のごとき行動にひけをとるのである。しかし、天の与えた運命か、すぐれた部下のいないことも手伝って、孔明は魏を攻めあぐね、大志を完うし得ないままに、星となって堕ちていく。秋風吹く五大原、ここに三国志は最高のクライマックスをむかえ、孔明の死と共に、その偉大なる幕を閉じるのである。

何万、何億という人が戦い、そして死に、それでも時は流れ、季節は変化し、時代は過ぎさっていく……この後も、まだまだ蜀、呉、魏の戦いは続く。しかし、「松に古今の色無し」、「古往今来みな一色」、何か胸をすくような物悲しさと虚無感が読む人の心にせまってくるような、そんなあと味を残す最終巻であろう。

(3) 「三国志」——現代的意義——

① ～第四卷～臣道の巻の現代的意義～

この作品にはさまざまな人間が出てくる。また、この作品を現在読む人の方もさまざまである。しかし、読み手は、登場人物の中に自分の性質とそっくりなもの、あるいはよく似ているものを必ず見出すであろう。読み手はその人の言動を、その世界（三国志の世界）における自分の言動として受け取り（つまり、もし自分がこのような戦国の時代に生まれ育っていたなら彼と同じようにしているだろうということである）また、現在の自分というものを省りみる事が出来るのではないだろうか。

ふだん、現在の自分というものを省り見ることがあまりにも少ない私にとっては大きな意義があったが、同様に考えている人も少なくないと思う。

この作品の登場人物は大部分が男性であり、血で血をあらう戦いの世界である。が、現在の我々の生活というものは、色々な面で恵まれてはいるがとても単調であると思う。その単調な世界に長く生活することによってほしいほしいとその影をひそめてしまった闘争本能がすこしは甦ってきた気がする。

② ～第九卷～出師の巻の現代的意義

僕は「三国志」、その中で特に「出師の巻」を現代意義について考えながら読み進めた。

全体を通して、彼ら武人の、現代人には見られない精神力やガッツを感じたが、特に「骨を削る」を読んで現代の医療社会の腐敗を改めて痛感した。これは、呉国の華陀という名医と蜀の大將軍関羽との話である。

彼の言った言葉の中でこの書物に取り上げられているものには次の様なものがある。

蜀の関平が彼に「なぜ呉国の医者であるあなたが、蜀の大將軍である関羽を助けに来たのか」という間に、彼は、「医に国境なし。ただ仁に仕えるのみです」と答えた。また、みごとな治療に感謝の気持ちをこめて、関羽は、百金を包んで彼に贈ろうとしたが、彼は受け取らない。そして彼は、言った。

「大医は国を医し、仁医は人を医す。てまえには国を医するほどな神異もないので、せめて義人のお体でも癒してあげたいと、遙々これへ来たものです。金儲けに来たわけではありません」と。

僕が「三国志」という長編の中で、特に「骨を削る」をビック・アップしたのは、現在、世間を騒がせているような医者しか知らない僕に大きな共鳴を与えたからである。現代の医者は、「三国志」を読んだことがないのであろうか。いや僕は、彼らは読んだことがないのだと信じたい。先ほどビック・アップした彼の発言、すなわち真の医者の方と、現代の医者の間には、あまりにも大きなギャップ、矛盾がある様に感じる。

たとえば、彼は医に国境はないと言った。しかし現在の医療社会では、国境どころか、隣町の病院から隣町の病院へと、医者の無責任さによって患者が、たらいまわしにされ、そのために手遅れになったということが多く見られる。

また彼は「せめて義人のお体でも癒してあげたいと遙々これへ来たものです。金儲けに来たわけではありません」と言った。しかし、この現在、こんな立派な医者がいるだろうか。いや、いないと言って、さしつかえないのではなかろうか。患者の病を治したいという一心に遙々かけつけ、そして治療代もいらないと、まずこの様な医者は今いないと思う。そして、このうちどちらか一つは、当てはまるという医者もほとんどいないと思う。彼ら医者達は、医師免許を特権として扱い、労してはるばる患者を診に行くどころか、診療時間以外に急患が来ると居留守を使う。診療したとしても、往診すればサラリーマンの出張費に相当するものを要求し、診療時間以外に診察すれば、サラリーマンの残業手当に相当するものを要求する。これでは医師もビジネスマンではないか。病院自体、悪質企業と違いはない。医師とは仁に仕えなければいけないのではなかろうか。医者も普通の人間で、人権尊重の権利もあると思う。しかし現在の医者は、権利を乱用し、その特権によって、患者が弱い立場であることを良いことに、でたらめなことをしている。

このようなことを僕は「三国志」の現代意義として見出した。そしてただ単に見出したにとどまれば、意義にはならないと思う。今後、彼の精神を大切にしていきたいと思う。

(3) 発表上の工夫—名場面の脚本化

(注 1クラスのみ、全巻、つまり10班全部が名場面の台本を作り、寸劇風に演じた。面白くやろうとした例の一部を挙げる。

① 第四卷〜臣道の巻〜寸劇台本〜〔雷怯子〕の場面

『雷怯子』——玄德、曹操、小梅を煮つつ英雄を語る——

| | | |
|----|--|--|
| 玄徳 | いやあ、仲々立派な梅でんなあ。 | |
| 曹操 | そうだろう。今日は小梅の実でも煮て君と酒を飲み交わそうとね。 | <ul style="list-style-type: none"> •玄徳は田舎者の感じ。曹操は都会的に •曹操、玄徳の二人が向かい合って座っている。後ろに美姫たち。 •あたりを見渡しながら言う。 •玄徳にまあ一杯と酒をすすめながら •力なく笑う。 |
| 玄徳 | それは、わざわざすんまへんなあ。 | |
| 曹操 | 実は当今の英雄というものを君と論じたいと思ってねえ。どうも予はまだ書生の気分が抜けないところがあるらしい。ワハハハハ…… | <ul style="list-style-type: none"> •催促 •自信なさそうに |
| 玄徳 | ワハハハハハ…… | |
| 曹操 | どうかな。ひとつ君の胸の中にある人を言ってみたまえ、さあ。 | |
| 玄徳 | 淮南の袁術なんかは、世間では仲々の人物とゆうとりますが。 | |
| 曹操 | あれは墓の中のお骨よ。近日中この曹操が生けるであろう。 | <ul style="list-style-type: none"> •笑いとはばす |
| 玄徳 | ほんなら河北の袁紹は、家柄はええし、部下にはすぐれた奴が多いと聞いとりますけどなあ。 | |
| 曹操 | ハハハハハ……あいつは胆はうすいし決断力はないし、命は惜しむし大した奴じゃないよ。 | <ul style="list-style-type: none"> •きっぱりと言いつ切る |
| 玄徳 | ほんならこの辺で、いなしてもらいまひよか。 | <ul style="list-style-type: none"> •席を立ち上がりながら |
| 曹操 | いかん。君はまだ、二人しか名前を挙げとらんではないか。しかも英雄とは程遠い阿呆だ。もっとおるだろう。 | <ul style="list-style-type: none"> •玄徳の服をつかみ席に無理矢理座らせる。 |
| 玄徳 | そうでんなあ、荊州の劉表はどうでっか？ | |
| 曹操 | だめだめ、あれは部下にちよっと賢い奴が居るからだ。奴自身は酒色におぼれやすい。そんな人間じゃだめだよ。 | <ul style="list-style-type: none"> •かぶりをふりながら |
| 玄徳 | ほんなら、呉の孫策は。 | <ul style="list-style-type: none"> •小首をかしげて自信なさそうに |
| 曹操 | あれは、まぐれということもある。所詮親の七光りよ。 | |
| 玄徳 | 益州の劉璋は。 | <ul style="list-style-type: none"> •今度は自信ありげに |
| 曹操 | あれは単なる番犬だわい。 | |
| 玄徳 | ほんなら、張繡・張魯・韓遂なんぞはどないなもんでっしゃろ。 | <ul style="list-style-type: none"> •いい加減にしろという感じで |
| 曹操 | もっとましな人間がいるだろう。 | |
| 玄徳 | はあ、さあておりますやろか、そんな人物。いまへんやろ。 | <ul style="list-style-type: none"> •つつと立ち上がり、いきなり指で玄徳の顔を指さし、またその指を返して自分を指す。そして言う。 •立ち上がったまま演説 |
| 曹操 | 君と予とだノ
いいかね、今のこの時になって、大志を抱き、万計の妙を腹にかくし、行動してひるむことなく、 | |

| | | |
|------|---|--|
| | 時の流れにおくれず、宇宙の気宇、天地の理を体得して、万民の指揮に臨む者、それは、君と子の二人しかおるまい。 | <ul style="list-style-type: none"> •再び玄德を指さす |
| 玄 徳 | ひえー。 | <ul style="list-style-type: none"> •その時、雷がごろごろ鳴り近くに落雷 •両手で耳をふさぎなさけなく机にうつぶせる。 •美姫たちが玄德をアハハと嘲笑する。 •指さしたままの曹操は絶句して二の句がつけない。 |
| (心中) | | |
| 曹 操 | この玄德は思った程、大した奴ではなさそうだ。 | <ul style="list-style-type: none"> •安心 |
| 玄 徳 | わいの方が役者が一枚上じゃ | <ul style="list-style-type: none"> •横を向き舌を出す |

(4) 「三国志」における人物像 (注。これは「三国志」全巻を読んだあと、作中人物で最も印象深い人物をとり上げ、1500字程度で作文したものである。ねらいは「表現力の向上」(作文力)と、「啓発的意義」である。人物別に数例を挙げる。

① 「『三国志』における人物線——孔明について——」 高2 N

百十二年間の長期にわたる治乱興亡を極めた三国志の中で、唯一人の人物を挙げるとなれば私にはやはり諸葛亮孔明を除いて考えられない。三国鼎立の大勢をもって三国志の主たる背景とするならば、その創意を生み出した孔明こそが三国志の中心人物と言っても過言ではないし、事実私はそうだと思う。劉玄德が三国の一つ、蜀を手中に収めえたのもひとえに名士孔明を得たからであるし、あの曹操までが孔明には常に畏怖感を抱いていたと言う。又、総ての戦いにおいて彼の知は長け、その奇想天外な戦法、常に思慮深い行動には人を魅了するものがある。こういう次第で私は孔明を選んだのである。

そもそも孔明は、参謀となる人才を探し求めていた玄德によって世に出るきっかけを与えられたもので、その家柄は超特級ではなかった。しかしいつの世でも超特級の家からは超特級の人才はなかなか出ないという。よって孔明の家格は超特級の人物をだす可能性の範囲内で一流であったのだろう。ここで興味深いのは孔明の兄、諸葛瑾は孫権につかえ、族弟の諸葛誕は曹操に、そして孔明自身は玄德につかえと、当時の三勢力に一族が分かれている点である。これは思うに戦乱の中国によく見られる一族の危険を分散しようとしたものかもしれない。ところで、玄德が孔明の隠居している田舎を訪ねて会うことができず、三度も訪ねて行ってやっと出陣を承諾させたわけだが、この玄德も偉大な人物と言えるだろう。当時玄德は旧部下の精鋭をひきつけていたとはいうものの、領土を持たぬ、将来を約束されておらぬ客将であった。そういう身分でいて一流の名士孔明を引き出して部下に加えたのであるから、玄德はやはりどこか不思議な魅力を備えた人物であったにちがいない。前にも述べたように玄德が孔明を得たのは彼の一生においての最大の利となったが、逆に孔明から見て彼が玄德に巡り会ったのも名士孔明を世に生むきっかけとして、孔明自身にとってはもちろん大きく中国にとって益となったであろう。

ところでこの孔明の三国志において果たした役割とはいったい何であったのだろうか。彼は単に玄徳に仕えた一名士と言うにはあまりに偉大、かつ有能すぎる。それは玄徳の死後顕著に現れている。もちろん玄徳の生前も彼は諸能を一身に備えた軍略家であったが、玄徳没後の孔明の軍事・政治に打ち込む姿には何か神憑かり的なものをも感じる。それだけ玄徳が呉軍の反撃を受けて敗北、白帝城に死した後の孔明の辛苦は、一層加重されていたものと思われる。蜀の責任を一人で背負い込まなければならなくなった孔明は、玄徳死後の動揺をさけ、内部を鎮静するために呉と和睦し、先主玄徳の遺言をなるべく早く実行に移そうとしたのだった。孔明は真に律義で忠誠一途な臣であったと言えよう。そしてかの有名な出師の表を後主劉禪に奉って魏を討つべく出征する孔明であるが、十分な準備を整え秘術をつくした戦にもかかわらず、長びく戦のうちに過度の心労がたたったためか、病気にかかって重態に陥った。孔明が息を引き取ったときには、天に大きな彗星があらわれて赤い尾を引きそれが孔明の陣中に落ちたという。孔明なき後も「死してなお死せざる孔明の護り」があったと言うから、魏・呉・蜀の三国の争いは蜀の孔明の知と有力な魏・呉の武との争いであったとも言えるだろう。つまり孔明は三国志において、三国の戦いをならしめた中心人物と言って過言でないと思われるのである。

さて、この孔明の生き方は人間として結局どうだったのか。中国の長い歴史を彩る人物が数多い中、孔明ほど上下に人気のあるものは少ないという。彼が置かれた困難な境遇が、いたく後世の同情をひいたのであろう。彼の内政、外戦における非凡な才能はさることながら、年少な国君を戴いて、最も疑惑が集中されそうなときに、至誠をもって事にあたり、ついにお家騒動を引き起こさなかったのは、誠に尊敬すべき点だろう。こういう点が後々まで彼が中国人に愛され続けた所以ではないだろうか。孔明の生涯を見るに、彼は高い学問を身につけた名士でありながら、驕らずその鬼才をもって玄徳に忠誠をつくした。玄徳の死後も野心を抱くわけでもなく、玄徳の生前以上に誠をつくし、自らの意志を全うしたのだった。これほど律義で正直な生き方があるだろうか。最後まで亡き玄徳に誠をつくした孔明は、その生涯において自分自身に誠をつくしたと言えるだろう。

「至誠の人」孔明こそが三国志中の群雄の中で、真の英雄であったのではないかと思う。

② 「三国志」における人物像——曹操—— 高2 K

彼のエネルギッシュな生涯は、「三国志」の大きな見どころの一つであろう。彼には野望があった。「必ず天下の一雄になってみせる」彼の抱負は大きかった。「刻々、動いて休まない天体と地上。……この間に生まれて、真に生き甲斐ある生命をつかまないでどうするぞ」若い頃の彼は、覇気熱情がみなぎり、熾爽たる気風をもった青年だった。大胆で自信家である彼は、目的のためにはどんなことでもやっていた。自分を護るため、天下を自分のものとするためには悪事も平気だった。そのため無残に消えていった者は多く、「奸雄」「逆臣」「曲者」というレッテルを貼られている。その腹黒さには抵抗があるが、上官に媚びて甘言につとめる部下やそれを喜

ぶ上官に侮辱を感じその愚を笑う彼には何か小憎らしいものを感じる。また、彼の人間の大きさや理想の高さには教えられるところもある。陳宮が思ったように、やはり彼は「英雄」といえそうである。

多感多情の士であった。かわいがっていた部下を失えば回りもはだからず嘆き悲しむ。怒り出せばおさまるところを知らないし、感動すれば自分を忘れてしまう。詩を愛し、激しい恋愛もする。この者は、と見込むととことん惚れ込み、憎むとなるとその憎悪は人一倍である。故郷を思つて涙することもあれば人生を吟じて大酒したりもする。それらのどこか無邪気な、一途な言動には好感もてる。しかし、感情の起伏が激しくいつも自分本位に物を考えることは、彼に様々な失敗をさせている。怒って人を首斬り、あとで後悔することも何度かあったし、このおかげで随分憎まれもした。彼の自分勝手は全く感心できない。

士をよく愛した。これは彼の病的な性質である。敵であれ、味方であれ、真の勇士、真の良将を見ればその男に「恋」し、どうしても自分のものにしようとする。関羽に対する態度はその極限であり、彼の自分本位も関羽の前にはすっかり消えてしまって、涙ながらに別れるのである。また、人の言をよく聞いた。自分をよく知っており、諫められれば自分の非を素直に認める心の広さをもっていた。これらが、彼の元に良将が集まり忠義を尽くしたゆえんではないだろうか。

しかしこの長所も、彼が天子を擁し、権力をほしいままにするようになると、自分より能力があると思われる者は嫌って滅ぼそうとし、反対する者は一も二もなく罰するという致命的な欠点に変わってきた。王者の権力を振り、自分を強調するばかりの彼には醜さ以外感じられない。彼が真の覇者となり得なかった最大の原因であろう。

彼の戦は、彼そのものを表している。果敢即決、戦機を敏感に察知し、戦況を判断する鋭い「勘」と智慧をもっていた。智を以て策を弄し、力を以て突き進んでいく。しかし彼はしばしば自分の智に陥ってとんでもない失敗をしでかす。この点ではよく孔明などにしてやられている。自信をもった作戦を見破られて逃げる姿はぶざまであるが、孔明の完璧さとの対照がおもしろい。彼の勝ち方は快絶であるが負け方もまた痛烈である。何度も大敗戦を経験している。しかし彼の負けは負けで終らない。敗戦のあとには必ず立ち直り、成長していくのである。逆境をはねかえして前進の一步とするエネルギーを、彼はもっていた。難局に立てば立つほど現れるこの強靱さが、混乱の時代を生き抜き一国の王のしあがる原動力になったものと思われる。

彼の智謀は孔明に及ばず、武勇は関羽・張飛にはかなわない。玄德のような誠実さもない。けれどもその人間性には、他の誰にもない不思議な魅力がある。人間の強さ、善性、悪性、それらをみんな備えた人間であり、自分のもつすべてのものをその生涯において思う存分発揮したという感じである。彼の抱負は実行さされ、その一生はまさに生き生きとしている。

「好きな人物」という訳でもないのにこの人物を選び、否定しながらもどこか愛着を感じるのは、私もまた彼の大勢の家臣たちと同じように、彼のもつエネルギーと人間性の不思議な魅力に、とり憑かれてしまったせいだろうか。

歴史というものは必要などときには必ず人物をつくりだす。張飛もその一人であると思う。張飛は兄弟の中でただ一人、他の二人と性格の大ききちがう男である。大酒飲みで単純、乱暴な性格が、結局は自分自身をほろぼすことになるが、私はこの男が好きである。そこで、この英雄について少し書こうと思う。

そもそも、張飛が劉備を立ちあがらせたといえる。劉備もこの男に会わなければ、一生畑を耕していたであろう。その意味で三国志の発端を作った男である。また、張飛の出現によって運のかわった戦も数えきれない。といって彼は何も作戦を練るわけではなく、指図された所に出ては敵を虫けら同然に斬るだけであるが、それがまた私にとっては痛快なのである。事実、危地に「われこそ燕人張飛なり」の声を聞いて、読まぬ先に安心したものである。また、義にあつく、最期まで劉備のために働くことは、かんちがいによ、曹操から逃げてきた義兄の関羽をも討とうとしたことから読みとれる。そして、粗暴である。私はこれが張飛を代表する一語だと思う。前にも書いたが、張飛はこの性格のために部下に寝首をかかれた。人の性格というものは、どこでどうプラスになるかマイナスになるかわからないものだと思う。私もはじめはこの性格に反感をもっていた。劉備との約束をやぶって酒のみ、徐州城をとられたり、酔うとみだりに士卒を打擲する。しかし、「粗暴」であることは戦場において、これ以上のものはない。義にあつところにもってきて、この粗暴さである。そこには私情のはいるすきさえない。ただ敵を討つのみである。関羽は欠点か美点か、戦場で情のために、赤壁で大敗しておちてくる曹操を討つことはできなかった。しかし、張飛にいたっては、そのような心配は少しもない。それは呉に帰る玄德婦人から阿斗をとりもどしたことで説明はいらないと思う。そんな張飛ではあるが、彼も武だけの武人ではない。張飛が敵顔を生け取った時、彼は敵顔の縄を自ら解いた。今までの悪口雑言から考えると、斬って当然の相手なのに、この節義を知る行動に敵顔もついに降伏する。私はここで張飛の人物の深さがまたわからなくなった。私は今までの行動から考えて、張飛は偽りで敵顔に膝を折ったのではないと思う。しかし、戦のときにあれだけ擲擧されてそのまますすとも思われぬ。やはり、玄德・孔明・関羽などの交わりのうちに知らず知らずに戦の知恵がついたのではないかと思う。

さて、張飛の三国志における人物像であるが、やはり、戦乱の時代にふさわしい豪傑という言葉がそっくりそのままあてはまる人物である。張飛がわずか二〇騎をしたがえて長阪の断橋に提って、目をいからし、矛を横たえて曹操の追いつがる大兵をたじろがせた劇的な情景が世に知られているようにその戦いぶりは三国志にいちだんとすさまじさをます。ただ、おしむらくは、彼は人、つまり兵のあつかいがあまり得意でなかった。彼は部下に殺された。これは武人はもちろん、張飛のような豪傑にはたまらないことであつたにちがいない。殺されるにもやはり戦場で死ぬのが武人の本望であろう。この点で、性格的な問題もあろうが、桃園の誓いをした劉備、また蜀のために大失敗をしたといつてよいと思う。事実、劉備亡きあと、孔明は人の無いのをなげいたが、ここに張飛さえいれば局面がどのようにかわったかも知れなかったのである。また、土民がもとから持っている意識はあまりよくないようだ。劉備や孔明の廟

は長く香煙のたえぬところとなったし、関羽にいたっては民衆の信頼最も深き神に昇化したとあるが、彼にはあまりそのような話はない。戦場では非情さを発揮し、国では義にあつい。農民たちも安定しているならばそれでいいのだが、悪政にしいたげられ、いつも戦火にまどわされていたので、農民たちさえ心服させれば、また別の意味で三国志に残ったと思う。しかし「天は二物を与えず」といわれるように本当に天によって必要な時に生まれるべくして生まれた風雲児であるといえるのではないか。

〈指導過程と観点〉

これらの他に、「関羽」・「玄徳の母」・「貂蟬」・「呂布」・「趙雲」、勿論「玄徳」についての人物評が多かった。それぞれに見方、評し方があって大変面白かった。作文においてのみでなく、「張飛がいい」・「いや孔明に勝るものはない」、「あいつはここが悪い」等とやり合っているのも面白かった。遠足の途中でも「三国志」の人物評をたたかわしていた。話の種になったり、「去年は三国志で苦しみました」といった年賀状の文句なども、「三国志全十巻を読んだ」実感がこもっていて面白かった。あれこれ理屈をつけながらも、やはり「読んで書く」ことの意義、そして表現力を育成する一方法としては今後も色々工夫してみたいと思う。

おわりに

簡単にまとめる予定がかなり長いものになった。これでも実はまだ記録にとどめ、まとめておきたい資料・生徒の作品は山積して、十分にまとめた感じは持てない。具体的には、「三国志」以前の教科書教材をもとにした作文（二種）、「三国志」そのものの内容のまとめ、教材化の問題、指導方法の問題、等々。「三国志」が「大衆小説」「読楽小説」のレッテルを持つことからくる問題もある。しかし、過去3回の取り組みにおいて、「読み・書き・話す（発表する）」教材化への見通しはついたように思う。特に「表現力の育成」を目指す実際の取り組みにも効果的であると思う。

今回のまとめにあたっては、今年度（高Ⅱ）における取り組みの、一応最終的な作文・表現力を、そのまま集録することに重点を置いた。そのために作品・実例の羅列という結果になってしまった。しかしながら、実作抜きには何事も論じられないと考え、敢えて紙面を費した。それでも“十分にまとめた感じは持てない”と言ったのは、一つには指導過程が十分に述べられなかったこともあるが、主要な理由は、もっと多く載せたかったことにある。読み、そして書けば書くほど上達の著しい「苦心」の作を同様に載せられないことはつらいことである。実際、年度初めからの生徒の作品の中から、どれを採るか、というより、どれを捨てるか、そのことの方がつらかった。誇張でなく、用紙一枚の重みを実感した。個々のものが貴重に思えた。「作文は人格である」という感慨を強く持った。表現された人格を尊び、個々人の上達を楽しみにする意味で、一枚の紙きれを大切に扱ってゆきたいと思う。

中・高社会科教育の連関性を求めて

—中・高生徒の憲法（政治）についての知識・意識の調査報告—

研究ノート（2）

大阪教育大学附属中・高
社会科研究室（天王寺）

〈はじめに〉

われわれ中学・高校の社会科教官は、昨秋の本校主催の教育研究会で、“公民及び政経分野における中・高社会科教育の連関性を求めて”と云うテーマで発表を行なったが、その際、中学性、高校生の発達段階に応じた授業を行なう為に、中学生、高校生の憲法（政治）についての知識・意識の調査を大阪府下の先生方の協力を得て行なった。こうした調査の性格から云えば、大阪府下に広く協力校を求め、しかも高校の場合、普通科課程だけではなく、商業科・工業科等の実業高校、また全日制のみならず定時制などの調査も行なうべきであったが、それぞれの協力校の実情をざっくばらんにご教示いただける知人に協力を限定した為に、不備の多い調査報告になった。しかし、現場の先生方には授業案を計画する上で少しでも参考になればと考えて、敢えて、この調査結果を発表することにした。少しでもお役にたてば幸いである。なお、この調査を踏えての公開授業の指導案を付記した、忌憚のないご叱正をいただければ幸いである。また、研究ノート（2）としたのは本集録20集の続きである為である。

1. 調査実施要項

この調査を実施した期日等は以下の通りである。

調査実施期 1979年7月～9月

アンケート用紙はご協力をいただいた方々に7月初めお渡ししたが、各校の都合で自由に実施していただいた。

調査実施校 計8校 658名 中学校3校 252名 高校5校 406名

アンケート調査は、クラス単位で実施していただいた。詳細は以下の如し。

公立中学校 A校 (男25名 女25名 憲法既習 3年生)

〃 B校 (男22名 女22名 憲法既習 3年生)

本校中学校 (男100名 女58名 憲法未習 3年生 4クラス)

私立高校 C校 (女58名 憲法既習 3年生 2クラス)

府立高校 D校 (男 53名 女35名 憲法既習 3年生 2クラス)

〃 E校 (男 23名 女23名 憲法未習 2年生)

市立高校 F校 (男 23名 女20名 憲法未習 2年生)

本校高校 (男 110名 女61名 憲法未習 1年生 4クラス)

私立C校は一学級構成が29名と少ないので2学級で実施していただいた。

また、府立D校は選択の為、理系一学級と文系一学級で実施していただいたが、集計の結果、殆んど見るべき差がなかった為に、合せて集計した。

なお、各校での憲法学習はそれぞれ次の如き学年で実施している。

A校 3学年 B校 3学年 本校(中) 3学年

C校 3学年 D校 3学年 E校 3学年 F校 2学年

本校(高) 1学年 である。

アンケート調査項目 以下の如し、各項目はNHKの政治意識調査等を参照して作製した。わら半紙一枚に印刷して調査を行なった。

憲法(政治)に対する意識調査

学年 中・高 年 男・女 (○をつけてください。)

- ① 日本国憲法の三原則とは何んですか。下に三原則を書いて下さい。

- ② 憲法第11条は「国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない…」と基本的人権を保障しています。実際問題として人権は尊重されていると思いますか。ア～エから1つ選び、その記号を□に書いて下さい。さらに、そのように思う理由を書いて下さい。

ア) 尊重されている イ) あまり尊重されていない ウ) まったく尊重
されていない エ) わからない

理

由

- ③ 憲法第14条は「すべて国民は、法の下で平等であって、人権・信条・性別・社会的身分又は門地により、政治的・経済的又は社会的関係において差別されない」としています。現実の社会生活はどうでしょうか。ア～エから1つ選び、その記号を□に書いて下さい。さらに、そのように思う理由を書いて下さい。

ア) まだまだひどい差別が残っている イ) まだ、すこし差別が残って
いる ウ) ほとんど差別は残っていない エ) わからない

理

由

- ④ 憲法第25条は「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」

としていますが、そのための社会保障は、現実にはどのようになっていると思いますか。ア～エから1つ選び、その記号を□に書いて下さい。さらに、そのように思う理由を書いて下さい。

- ア) 十分おこなわれている イ) まあまあである ウ) 不十分である
エ) わからない

理
由

| |
|--|
| |
| |

- ⑤ 憲法第28条は「勤労者の団結する権利及び団体交渉その他の団体行動する権利は、これを保障する」としてありますが、これらの権利は保障されていると思いますか。ア～オから1つ選び、その記号を□に書いて下さい。さらに、そのように思う理由を書いて下さい。

- ア) 保障されている。 イ) まあまあ保障されている ウ) あまり保障
されていない エ) 保障されていない オ) わからない

理
由

| |
|--|
| |
| |

- ⑥ 下のア～カのうちで、憲法で、義務ではなく、国民の権利として定められているのはどれですか。いくつでもあげて、その記号を□の中に書いて下さい。

- ア) 思っていることを発表する イ) 税金を納める ウ) だれ
でも裁判を受けられる エ) 労働組合をつくる オ) 道路では
人は右、車は左を通る カ) わからない

- ⑦ 国の政治に、一般国民の意見や希望はどの程度反映していると思いますか。ア～オから1つ選び、その記号を□に書いて下さい。

- ア) 十分反映している イ) かなり反映している ウ) 少しは反映して
いる エ) まったく反映していない オ) わからない

- ⑧ 日本の政治が、これから取り組むべき課題の中で、あなたが重要と思うものは何んですか。ア～サから2つ選び、その記号を□に書いて下さい。

- ア) 国内の治安・秩序をたもつ イ) 経済を発展させる ウ) 国民の
福祉を向上させる エ) 国民のいろいろな権利をまもる オ) 学問・
文化を向上させる カ) 外国との友好関係を深める キ) 軍事力を高
める ク) 国民の政治への参加機会をふやす ケ) エネルギー問題の
解決をはかる コ) その他(下へ書いて下さい) サ) わからない

(コの内容)

| |
|--|
| |
|--|

2. 調査各項目についての結果と分析

調査結果は以下の如くであるが、その見方は、表中の数字は回答実数であり、その下の()内の数字はその百分率数である。

調査結果

① 日本国憲法の三原則とは何んですか。下に三原則を書いて下さい。

| | 中・高
合 計 | 中 学 校 | | | | | 高 等 学 校 | | | | | | |
|----------------------------|---------------|---------------|--------------|------------|----|---------------|---------------|---------------|--------------|----|----|----|---------------|
| | | 中合計 | 他中合計 | A中 | B中 | 本校中 | 高合計 | 他高合計 | C高 | D高 | E高 | F高 | 本校高 |
| ア 基本的人権 | 567
(86.2) | 220
(87.3) | 87
(92.6) | 46 | 41 | 133
(84.2) | 347
(85.5) | 187
(79.6) | 48 | 82 | 39 | 18 | 160
(93.6) |
| イ 国民主権 | 509
(77.4) | 193
(76.6) | 85
(90.4) | 47 | 38 | 108
(68.4) | 316
(77.8) | 154
(65.5) | 39 | 83 | 18 | 14 | 162
(94.7) |
| ウ 戦争放棄 | 515
(78.3) | 208
(82.5) | 83
(88.3) | 46 | 37 | 125
(79.1) | 307
(75.6) | 148
(63.0) | 8 | 83 | 35 | 22 | 159
(93.0) |
| 無
答
(
空
白
) | 基本的人権 | 44
(6.7) | 6
(2.4) | 5
(5.3) | 2 | 3 | 1
(0.6) | 38
(9.4) | 33
(14.0) | 6 | 1 | 2 | 24
(2.9) |
| | 国民主権 | 76
(11.6) | 25
(9.9) | 6
(6.4) | 2 | 4 | 19
(12.0) | 51
(12.6) | 47
(20.0) | 13 | 0 | 13 | 21
(2.3) |
| | 戦争放棄 | 84
(12.8) | 27
(10.7) | 7
(7.4) | 2 | 5 | 20
(12.7) | 57
(14.0) | 53
(22.6) | 21 | 0 | 11 | 21
(2.3) |

主な誤答例 三権分立、平等主義、自由主義、象徴天皇、所有権の不可侵 etc

憲法の三原則については小・中・高校と3回も教えるものであるが故に正答率が高い事は当然予想できた。が、選択肢があれば、正答率が高いだけでなく、中・高の差は余りないのではないかと予想したのであるが、このように記述させたならば、若干明白な差が出るであろう、と考えていた。結果は上記の如く確実に知識の定着度が高い事に安堵している。しかし問題点がないわけではないと思う。

中学校三校の数字を比較してみると、憲法学習を既に行なったA、B両校に殆んど差がない点は興味深い。また憲法を未学習の本校中学生の正答率が他校に比べて低いのは当然として、国民主権の正答率が低い点に留意せざるを得ない。しかも誤答例に「三権分立」が9名、「民主主義」が2名などがあることから、正答率の低さの原因の1つには、「国民主権」という概念の抽象性があるのではないかと、思える。従って、授業を行なうに際して教師は、政治、議会、選挙、地方自治等の制度と小・中学生の日常生活を如何に結びつけて、如何に具体的に説明するかの工夫の努力が重要である事がわかる。

一方、高等学校五校の数字をみみると、大きな差が出てくるのに驚く。この原因の1つには、公立中学校での数字を考えると、高校入試で厳しく選別され、希望の高校に入れなかった失望感や、自分なりに努力したのに希望校に入れなかった無力感というものがある

げられるのではないかと、と思われる。そして、もう1つには、「国民主権」という抽象的用語の回答率と憲法学習未習のことを考えると、教師側の教授内容・方法にも問題があるのではないかと、と思われる。この点は後で触れるつもりだが、E、F両高の場合、理由説明の記述になると極端に回答率が低くなるからである。A、B両中学校の憲法学習が調査時期と余り時間的差がないことを考えると、正答率が高いのが当然であるだろうし、また、現行の高校入試制度の実情から選択肢の中から正答を選ぶのに慣れている生徒の中には、2年間の時間が過ぎるなかで、抽象的用語の定着度の弱さを露呈する者が出てきても不思議ではないように思う。かと云って、E、F両高校生の憲法（政治）についての知識が少なくてか、無関心であるとは云えない。と云うのは両校生徒の回答例からそう云えると思うのである。

E校生徒の回答例はこうである。「四民平等、基本的人権の尊重、平和主義^{ママ}」（男）「平和主義、民主主義、個人尊重主義」（男）「主権は国民、戦争放棄、基本的人権の尊重」（男）「軍隊を持たない、主権は国民に、平和主義」（男）「国民主義、基本的人権の尊重、国民一人一人は平等である」（女）「基本的人権、男女平等、平和主義」（女）「民主主義、天皇は日本のしようちようだ、戦争はしない」（女）。F校生徒の回答例もE校同様アット・ランダムに書いてみるとこうなる。「国民主権、恒久平和、空白」（男）「基本的人権の尊重、戦争ほうき、空白」（男）「知らない、わからない、興味ない」（この男生徒の場合、他の設問の回答をみても、順番に、ウ、イ、ウ、エ、6番はエのみ、7番はウ、8番はウ、ク、と答えており、本心から政治に“興味ない”とは思えない。）「基本的人権の尊重、主権在民、平和主義」（女）「基本的人権の尊重、空白、平和主義」（女）「空白、空白、平和主義」（女）。

こうした回答例から考えて、高校の教師としては、抽象的概念を如何に具体的に説明をするかに努力するだけでなく、現行の学校制度を踏えれば、如何に正しく用語を使い、正しく書けるように指導するかは大きな課題ではないかと考える。

さて、中、高の数字を見て気になる事が1つある。それは、ウの戦争放棄の回答数が低いのではないかと、いう事である。これは私だけかも知れないが、戦後民主主義の教育の試行錯誤の時代に教育を受け、平和憲法うんぬんと授業でも説明している私には、他の2項目以上に答えやすいように思えるのであるが、「国民主義」同様に誤答率、無答率が高い(?)のが気にならざるを得ないのである。C校に関しては、授業で「基本的人権の尊重」及び「国民主権」の説明は済んでいたが、「戦争放棄」の説明が終っていなかった、とお聴きしているが、その事を考えても、中、高の正答率は低いように思える。特にヴェトナム戦争、インドシナ問題あるいは、米ソ間のSALT問題などがマスコミに取りあげられている昨今なので、こうした時事問題を扱うことによって巧みに、戦争問題や第9条問題を現代的問題として生徒に問題提起できるのではないかと思うのである。たとえ、教師が思想的にどのような立場であれ。もしかしたら、教育の中立、と云うことから教師がこの問題をタブー視して取りあげるのに消極的なのではないか、と考えたくもなってくる。断定できるものではないが、今後も、この数字の意味は検討しつづければならぬと思う。

② 憲法第11条は「国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない…」と基本的人

権を保障しています。実際問題として人権は尊重されていると思いますか。ア～エから1つ選び、その記号を□に書いて下さい。さらにそのように思う理由を書いて下さい。

ア) 尊重されている イ) あまり尊重されていない ウ) まったく尊重されていない エ) わからない

| | 中・高
合 計 | 中 学 校 | | | | | 高 等 学 校 | | | | | | |
|----------------|---------------|---------------|--------------|----|----|--------------|---------------|---------------|----|----|----|----|---------------|
| | | 中合計 | 他中合計 | A中 | B中 | 本校中 | 高合計 | 他高合計 | C高 | C高 | E高 | F高 | 本校(高) |
| ア 尊重されている | 126
(19.1) | 45
(17.9) | 19
(20.2) | 8 | 11 | 26
(16.5) | 81
(20.0) | 51
(21.7) | 8 | 33 | 6 | 4 | 30
(17.5) |
| イ あまり尊重されていない | 348
(52.9) | 116
(46.0) | 34
(36.2) | 19 | 15 | 82
(51.9) | 232
(57.1) | 112
(47.7) | 35 | 33 | 25 | 19 | 120
(70.2) |
| ウ まったく尊重されていない | 27
(4.1) | 18
(7.1) | 7
(7.4) | 4 | 3 | 11
(7.0) | 9
(2.2) | 7
(3.0) | 0 | 2 | 0 | 5 | 2
(1.2) |
| エ わからない | 157
(23.9) | 73
(29.0) | 34
(36.2) | 19 | 15 | 39
(24.6) | 84
(20.7) | 65
(27.6) | 15 | 20 | 15 | 15 | 19
(11.1) |
| 人 数 | 658 | 252 | 94 | 50 | 44 | 158 | 406 | 235 | 58 | 88 | 46 | 46 | 171 |

理由について大別して整理すると以下のようになる。

| アに対する理由 | 中 学 校 | | | | | | 高 校 | | | | | | | | |
|----------------------|-----------|-------|----|-----|-----|-----------|-------|-----------------------|-----|----|----|-----|----|----|----|
| | 中・高
合計 | 中 学 校 | | 高 校 | | 中・高
合計 | 中 学 校 | | 高 校 | | | | | | |
| | | 中合計 | 他中 | 本中 | 高合計 | | 他高 | 本高 | 中合計 | 他中 | 本中 | 高合計 | 他高 | 本高 | |
| 憲法によって、権利・自由が保障されている | 27 | 7 | 2 | 5 | 20 | 11 | 9 | 公害がある | 21 | 11 | 0 | 11 | 10 | 3 | 7 |
| 他国にくらべて日本は自由である | 13 | 7 | 0 | 7 | 6 | 1 | 5 | 部落差別がある | 44 | 16 | 0 | 16 | 28 | 14 | 14 |
| 日頃人権をおかされた体験がない | 16 | 3 | 0 | 3 | 13 | 10 | 3 | 身障者に対する差別がある | 17 | 7 | 0 | 7 | 10 | 7 | 3 |
| 裁判が公正に行われている | 9 | 3 | 1 | 2 | 6 | 4 | 2 | 生活の格差がある
社会保障の不備 | 38 | 9 | 0 | 9 | 29 | 15 | 14 |
| 戦前にくらべて権利・自由が保障されている | 7 | 3 | 0 | 3 | 4 | 2 | 2 | 人種差別がある | 9 | 5 | 1 | 4 | 4 | 2 | 2 |
| | | | | | | | | 政治上の不平が多い。社会的弱者へのしわよせ | 34 | 17 | 2 | 15 | 17 | 4 | 13 |
| | | | | | | | | 男女差別がある | 6 | 2 | 1 | 1 | 4 | 2 | 2 |

| エに対する理由 | | | | | | | |
|----------------------------|------|-----|----|----|-----|----|----|
| | 中高合計 | 中学校 | | | 高校 | | |
| | | 中合計 | 他中 | 本校 | 高合計 | 他高 | 本校 |
| 自分で体験したことがない | 6 | 2 | 0 | 2 | 4 | 2 | 2 |
| 尊重されている面もあるし、ない面もあるのでわからない | 21 | 9 | 0 | 9 | 12 | 6 | 6 |
| 具体的にわからない | 9 | 9 | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 |

理由の具体例文をいくつかあげておく。

アの場合

- 人がやりたいと思うことはいくらでもできるし、昔のように非国民ともいわれないし、宗教も豊富にあるので、やはり、今は憲法にあるように人権は尊重されていると思う。
- 選挙のときでも差別なく、成人は全員投票できるし、いろいろな権利をすべての人が同じように持つことが認められていると思うから。
- 資本主義の中で失業しても年金制度があり、全く働かなくても衣食住はできる。

イ及びウの場合

- たとえば部落差別にみることでできる差別意識や住宅問題などや、スモン問題を考えてみると尊重されているとはいえない。
- 低所得者への保障がすくないため生活のできない人や、公害に苦しんでいる人など、国民の一部では十分に人権を尊重されていない。
- 例えば成田空港建設や安保問題のときにも多勢の人々が逮捕されたし、また安保のときは野党議員が国会からしめ出されたから。
- 被差別部落をはじめとしてさまざまな差別が世の中にあるし、日常の親子関係のようなたわいない事でも現実的には年令の低い青少年（児童を除く）の基本的な人権は尊重されていないように思う。
- 大部分の人は人並みの生活をして権利も充分保障されていると思うが、例えば西成区なんかへ行ってみると公園で寝ている人など、そんな人の権利はどうなっている。
- 選挙などの権利は尊重されているが、子供を道づれに親子心中したり、赤ん坊を殺す（産まない）ことが行われているから。
- 一部では部落差別がおこっているし、男女同権といっても、給料なども女性の方が低い。国民の考え方がそうさせているのだと思うが、……。
- 部落問題やあいりん地区などの問題があるし、全国民がある程度水準に達して生活しているわけではなく、職業をもつことができない人々が多いから。

エの場合

- 人権ということばのもつ意味の深さが私にはまだよくわからない。
- あまり個人の自由を認めると世の中がうましくないし、自由を無視すると人権は失

われると思う。このバランスが取れて世の中がなりたっているのだからわからない。

- 私自信、私のまわりだと、尊重されていると思うけど、社会で習った同和問題とか名前だけはしってるけど実際の内容は知らないことがあるように思うから。
- 基本的人権を侵されたという気持ちをいだいたことがないのではっきりとはわからない。

③ 憲法第14条は「すべて国民は、法の下で平等であつて、人権・信条・性別・社会的身分又は門地により、政治的・経済的又は社会的関係において差別されない」としてあります。現実の社会生活ではどうでしょうか。ア～エから一つ選び、その記号を□に書いて下さい。さらに、そのように思う理由を書いて下さい。

- ア) まだまだひどい差別が残っている イ) まだ、すこし差別が残っている □
ウ) ほとんど差別は残っていない エ) わからない

| | 中・高
合 計 | 中 学 校 | | | | | 高 等 学 校 | | | | | | |
|----------------------|---------------|---------------|--------------|----|----|--------------|---------------|---------------|----|----|----|----|--------------|
| | | 中合計 | 他中合計 | A中 | B中 | 本校中 | 高合計 | 他高合計 | C高 | D高 | E高 | F高 | 本校高 |
| ア
まだまだひどい差別が残っている | 241
(36.6) | 92
(36.5) | 34
(36.2) | 21 | 13 | 58
(36.7) | 149
(36.7) | 93
(39.6) | 22 | 34 | 23 | 14 | 56
(32.8) |
| イ
まだすこし差別が残っている | 344
(52.3) | 130
(51.6) | 51
(54.2) | 26 | 25 | 79
(50.0) | 214
(52.7) | 117
(49.8) | 34 | 44 | 22 | 17 | 97
(56.7) |
| ウ
ほとんど差別は残っていない | 46
(7.0) | 23
(9.1) | 8
(8.5) | 2 | 6 | 15
(9.5) | 23
(5.7) | 10
(4.2) | 2 | 5 | 1 | 2 | 13
(7.6) |
| エ
わからない | 27
(4.1) | 7
(2.8) | 1
(1.1) | 1 | 0 | 6
(3.8) | 20
(4.9) | 15
(6.4) | 0 | 5 | 0 | 10 | 5
(2.9) |
| 人 数 | 658 | 252 | 94 | 50 | 44 | 158 | 406 | 235 | 58 | 88 | 46 | 43 | 171 |

理由について大別して整理すると以下のようになる。

| 理由 | 部部問題が解決していない | | | | | | 男・女の性差による差別 | | | | | | 人種による差別 | | | | | | 経済力による差別 | | | | | | | | | |
|----|--------------|-----|-------|----|-----|----|-------------|-----|-------|----|-----|----|---------|-----|-------|----|-----|----|----------|-----|-------|----|-----|----|---|----|---|---|
| | 中 | | 中 学 校 | | 高 校 | | 中 | | 中 学 校 | | 高 校 | | 中 | | 中 学 校 | | 高 校 | | 中 | | 中 学 校 | | 高 校 | | | | | |
| | 中・高合計 | 中合計 | 他中 | 本中 | 他高 | 本高 | 中・高合計 | 中合計 | 他中 | 本中 | 他高 | 本高 | 中・高合計 | 中合計 | 他中 | 本中 | 他高 | 本高 | 中・高合計 | 中合計 | 他中 | 本中 | 他高 | 本高 | | | | |
| ア | 128 | 49 | 12 | 37 | 79 | 49 | 30 | 42 | 9 | 2 | 7 | 33 | 25 | 8 | 39 | 19 | 6 | 13 | 20 | 12 | 8 | 18 | 5 | 2 | 3 | 13 | 9 | 4 |
| イ | 142 | 57 | 16 | 41 | 85 | 53 | 32 | 62 | 23 | 2 | 21 | 39 | 29 | 10 | 48 | 20 | 9 | 11 | 28 | 14 | 14 | 14 | 8 | 1 | 7 | 6 | 3 | 3 |

| 理由 | 家柄・地位による差別 | | | | | | 身体障害者に対する差別 | | | | | | 学歴による差別 | | | | | | | | |
|----|------------|-----|-------|----|-----|----|-------------|-----|-------|----|-----|----|---------|-----|-------|----|-----|----|---|---|---|
| | 中 | | 中 学 校 | | 高 校 | | 中 | | 中 学 校 | | 高 校 | | 中 | | 中 学 校 | | 高 校 | | | | |
| | 中・高合計 | 中合計 | 他中 | 本中 | 他高 | 本高 | 中・高合計 | 中合計 | 他中 | 本中 | 他高 | 本高 | 中・高合計 | 中合計 | 他中 | 本中 | 他高 | 本高 | | | |
| ア | 23 | 8 | 2 | 6 | 15 | 7 | 8 | 14 | 7 | 5 | 2 | 7 | 5 | 2 | 9 | 5 | 2 | 3 | 4 | 2 | 2 |
| イ | 22 | 11 | 5 | 6 | 11 | 4 | 7 | 18 | 9 | 2 | 7 | 9 | 4 | 5 | 11 | 4 | 1 | 3 | 7 | 2 | 5 |

理由の具体例

アの場合

- 男尊女卑の考えは根強い。貧富の差、職業などでの差別もひどいものがある。部落差別もまだまだ未解決。
- 部落出身者に対する就職・結婚等の差別。家の格を今だに結婚のときに考える。女性が特に大企業に入りにくい、又よい仕事を与えられない。
- 部落問題も解決されていないし、弱肉強食のある社会に差別はかならず何らかの形で出てくると思う。

イの場合

- 表面的には一見差別はないが、奥へはいると部落差別や身障者に対して差別があると思う。
- なくなりつつはあると思う。しかし部落差別や身障者・精薄者差別などが残っているし、企業内においては、学歴によって給与・昇進に歴然とした差があると聞いたから。

ウの場合

- 老入などはまだ差別意識の残っているような感じだが、若者では全くそんなかんじをうけない。
- 小学校のころ朝鮮人の生徒がいたが、みんなはそれを知っていてもばかにしたりしない。それに男女間も差別はなくなってきていると思う。
- 差別がどうかこうとか言う方が差別しているのである。全ての人が気にしなければ差別なんてない。差別があるかないかは個人の問題だ。

ついでに、男女差別を指摘した生徒の男女の内訳をみておこう。

| | 中高合計 | | 中合計 | | 他 中 | | 本 校 | | 高合計 | | 他 高 | | 本 校 | |
|---|------|----|-----|----|-----|---|-----|----|-----|----|-----|----|-----|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| ア | 11 | 31 | 3 | 6 | 0 | 2 | 3 | 4 | 8 | 25 | 6 | 19 | 2 | 6 |
| イ | 21 | 41 | 11 | 12 | 0 | 2 | 11 | 10 | 10 | 29 | 5 | 24 | 5 | 5 |

- ④ 憲法第25条は「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」としていますがそのための社会保障は、現実にはどのようになっていると思いますか。ア～エから選び一つ選び、その記号を□に書いて下さい。さらに、そのように思う理由を書いて下さい。

ア) 十分おこなわれている イ) まあまあである ウ) 不十分である

エ) わからない

| | 中・高
合 計 | 中 学 校 | | | | | 高 等 学 校 | | | | | | |
|------------------|---------------|---------------|--------------|----|----|--------------|---------------|---------------|----|----|----|----|---------------|
| | | 中合計 | 他中合計 | A中 | B中 | 本校中 | 高合計 | 他高合計 | C高 | D高 | E高 | F高 | 本校高 |
| ア 大分おこな
われている | 29
(4.4) | 15
(6.0) | 5
(5.3) | 3 | 2 | 10
(6.3) | 14
(3.5) | 10
(4.3) | 4 | 4 | 0 | 2 | 4
(2.3) |
| イ まあまあで
ある | 201
(30.6) | 87
(34.5) | 32
(34.1) | 18 | 14 | 55
(34.8) | 114
(28.1) | 77
(32.8) | 20 | 26 | 13 | 18 | 37
(21.7) |
| ウ 不十分であ
る | 372
(56.5) | 125
(49.6) | 47
(50.0) | 24 | 23 | 78
(49.4) | 247
(60.8) | 124
(52.8) | 32 | 48 | 28 | 16 | 123
(71.9) |
| エ わからない | 56
(8.5) | 25
(9.9) | 10
(10.6) | 5 | 5 | 15
(9.5) | 31
(7.6) | 24
(10.1) | 2 | 10 | 5 | 7 | 7
(4.1) |
| 人 数 | 658 | 252 | 94 | 50 | 44 | 158 | 406 | 235 | 58 | 88 | 46 | 43 | 171 |

- イの理由 ●不備な点を指摘するもの、老人福祉(11)、社会(7)、身障者(4)、母子家庭(4)、失業保険(1)、薬価(1)、諸外国と比較して(6)
- 評価できる点を指摘するもの、生活保護をしている(5)、年金制度(6)、健康保険制度(含老人医療)(4)、最低賃金制度失業保険、衣食住はなんとか(各1)
- 比較して 一応あるが諸外国を比較して(7)、中流意識(4)、開発途上国と比較して(1)、税金が安いから仕方ない(1)、餓死者なし(1)

| ウの理由 | 中・高
合計 | 中 学 校 | | | 高 校 | | |
|-------------|-----------|-------|----|----|-----|----|----|
| | | 中合計 | 他中 | 本校 | 高合計 | 他高 | 本校 |
| 生活保護不十分 | 64 | 15 | 4 | 11 | 49 | 15 | 34 |
| 老人福祉不十分 | 57 | 14 | 5 | 9 | 43 | 24 | 19 |
| 母子家庭 | 20 | 2 | 0 | 2 | 18 | 10 | 8 |
| 身障者 | 25 | 7 | 2 | 5 | 18 | 16 | 2 |
| 医療費が高い | 15 | 4 | 0 | 4 | 11 | 7 | 4 |
| 浮浪者がいる | 32 | 17 | 4 | 13 | 15 | 9 | 6 |
| 欧米・共産圏にくらべて | 18 | 3 | 3 | 0 | 15 | 4 | 11 |

理由の具体例

アの場合

- 十分でないかもしれぬが、国が大事な予算をさいて行う保障制度なのだから不平をいうのはばちあたりだ。

イの場合

- 生活保護というもので最低の生活は保障されているし、老人や身障者に対する福祉もわりと十分行われていると思う。老人医療に関しては、国は援助しすぎだと思う。

- 福祉はかなり充実してきたように思われるが、まだ年金を支給する年齢などに問題が残っていると思う。
- 少し不足のような気もするが、それぐらいの方がなまけてお金だけ受け取るという人がいなくてかえってよいと思う。

ウの場合

- 中学の時、生活保護の実体を学び、そのあまりの程度の低さにおどろいた。
- 国のいつている最低限度の生活というものは実際には生活できないひどいものだから。
- 我が国の社会保障は他国より大きく劣っている。国家予算で、社会保障にあてている金の割合が少ないのがよい例。

5] 憲法第28条は「勤労者の団結する権利及び団体交渉その他の団体行動する権利は、これを保障する」としていますが、これらの権利は保障されていると思いますか。ア～オから一つ選び、その記号を□に書いて下さい。さらに、そのように思う理由を書いて下さい。

ア) 保障されている イ) まあまあ保障されている ウ) あまり保障されていない エ) 保障されていない オ) わからない

| | 中・高
合計 | 中 学 校 | | | | | 高 等 学 校 | | | | | | |
|---------------|---------------|--------------|--------------|----|----|--------------|---------------|--------------|----|----|----|----|--------------|
| | | 中合計 | 他中合計 | A中 | B中 | 本校中 | 高合計 | 他高合計 | C高 | D高 | E高 | F高 | 本校高 |
| ア 保障されている | 150
(22.8) | 62
(24.6) | 21
(22.3) | 16 | 5 | 41
(25.9) | 88
(21.7) | 45
(19.1) | 14 | 26 | 2 | 3 | 43
(25.2) |
| イ まあまあ保障されている | 217
(33.0) | 67
(26.6) | 24
(25.5) | 6 | 18 | 43
(27.2) | 150
(36.9) | 82
(34.9) | 22 | 33 | 15 | 12 | 68
(39.8) |
| ウ あまり保障されていない | 100
(15.2) | 37
(14.7) | 11
(11.7) | 5 | 6 | 26
(16.5) | 63
(15.5) | 38
(16.2) | 8 | 11 | 12 | 7 | 25
(14.6) |
| エ 保障されていない | 26
(4.0) | 7
(2.8) | 1
(1.1) | 0 | 1 | 6
(3.8) | 19
(4.7) | 8
(3.4) | 0 | 3 | 2 | 3 | 11
(6.4) |
| オ わからない | 165
(25.0) | 79
(31.3) | 37
(39.4) | 23 | 14 | 42
(26.6) | 86
(21.2) | 62
(26.4) | 14 | 15 | 15 | 18 | 24
(14.0) |
| 人 数 | 658 | 252 | 94 | 50 | 44 | 158 | 406 | 235 | 58 | 88 | 46 | 43 | 171 |

理由を大別して整理すると以下のようになる。

| 理由 | 組合が会社にはある
審判やアモが行われる | | | | | | | | | | 未組織労働者がいる。大企業
では保障されているが、中小
企業ではまだまだ保障されて
いない | | | | | | | | | | 公務員などにはスト権が保障
されていない | | | | | | | | | | 昇給・地位による差別、配置
替えなどがある。いろんな地
分がある | | | | | | | | | |
|----|-------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------------------|---------|---------|---------|---|-----|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | 中 学 校 | | | | | 高 校 | | | | | 中 学 校 | | | | | 高 校 | | | | | 中 学 校 | | | | | 高 校 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中
合計 | 他
中校 | 本
中校 | 高
合計 | 他
高校 | 本
高校 | 中
合計 | 他
中校 | 本
中校 | 高
合計 | 他
高校 | 本
高校 | 中
合計 | 他
中校 | 本
中校 | 高
合計 | 他
高校 | 本
高校 | 中
合計 | 他
中校 | 本
中校 | 高
合計 | 他
高校 | 本
高校 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ア | 96 | 43 | 13 | 30 | 53 | 26 | 27 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | |
| イ | 90 | 27 | 5 | 22 | 63 | 34 | 29 | 19 | 4 | 1 | 3 | 15 | 6 | 9 | 29 | 5 | 0 | 5 | 24 | 8 | 16 | 11 | 4 | 0 | 4 | 7 | 2 | 5 | | | | | | | | | | | | |
| ウ | 4 | 3 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 27 | 5 | 2 | 3 | 22 | 14 | 8 | 13 | 2 | 0 | 2 | 11 | 4 | 7 | 26 | 9 | 0 | 9 | 17 | 8 | 9 | | | | | | | | | | | | |
| エ | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 8 | 2 | 0 | 2 | 6 | 1 | 5 | 6 | 1 | 0 | 1 | 5 | 2 | 3 | | | | | | | | | | | | |
| オ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | | | | | | | | | | | | |

| 理由 | 保障されすぎている
ストのやりすぎである | | | | | | | | | 警察や政府などの介入がある | | | | | | | | | そ の 他 | | | | | | | | |
|----|-------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------------|-------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------------|-------------|-------------|------------------|-------------|--|
| | 中 | | | 中 学 校 | | | 高 校 | | | 中 | | | 中 学 校 | | | 高 校 | | | 中 | | | 中 学 校 | | | 高 校 | | |
| | 中
高
合
計 | 中
合
計 | 他
本
校 | 中
合
計 | 他
本
校 | 高
合
計 | 他
本
校 | 中
高
合
計 | 中
合
計 | 他
本
校 | 中
合
計 | 他
本
校 | 高
合
計 | 他
本
校 | 中
高
合
計 | 中
合
計 | 他
本
校 | 中
合
計 | 他
本
校 | 高
合
計 | 他
本
校 | 中
高
合
計 | 中
合
計 | 他
本
校 | 中
高
合
計 | 他
本
校 | |
| ア | 21 | 9 | 0 | 9 | 12 | 8 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | | | | | | |
| イ | 5 | 3 | 0 | 3 | 2 | 1 | 1 | 5 | 4 | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 | 2 | 3 | | | | | | |
| ウ | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 8 | 5 | 0 | 5 | 3 | 3 | 0 | | | | | | |
| エ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 1 | 3 | 2 | 1 | | | | | | | |
| オ | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 | 3 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | | | | | | | |

理由の具体例

アの場合

- 国鉄、私鉄、航空などのストが毎年のように行なわれている。
- 保障されすぎだ。集団の暴力をふるう人が多すぎる。
- デモなどをしていても、その横に警官がついて歩いたりはしているが、取り締まったりはしていない。

イの場合

- 公務員にはストライキの権利がゆるされていない。
- たいていの会社に労組はあるし、ストなども適当にしているから。ただ、小さな工場や会社では、会社の苦しいときは経営者だってもっと大変なのだし、労使の交渉などしてられないと思う。
- ストなどであるていど保障されているように思う。
- 公的な職業には保障されていない。それは本当によいことなのか、悪いことなのか…僕にはわからない。

ウの場合

- 保障されてるなアと思ったりもするが、しようぼう署やけいさつなどにつとめている人などにはないということはやはり人によっては保障されていないことではないだろうか、人はみな平等ならば……。
- 組合の運動に参加した労働者が会社側からにらまれたり、一方的に解雇される場合がある。
- 中小企業などでは上の人達が労働者達を団結させまいとしてわざと労働者同士の中を悪くさせている現状がある。
- 中小企業は団結があまりできない。国直属のものはだめ。その他雰囲気的にできない状態にされているのがふつうではないだろうか。

エの場合

- 現在においてもタコ部屋がある。またそれに似たものもある。自分で見てきたからこれは言える。
- 公務員の場合、警察官などは団結する権利を認められていないし、国鉄もスト権がない。
- 新聞なんかでも、組合にはいつている人といない人で給料がちがうというのはもうじ

ようしきになっている。国鉄のストが長くないのもそのためだ。

オの場合

- 保障されている様にも見えるのだが、一部公務員の権利が認められなかったり、国鉄のスト権の不承認などが有りわからない。

②から⑤までは勿論「基本的人権」についての設問である。この項目は、教育研究会の公開授業でこの問題を扱うために、生徒の知識・意識を調べんがために、諄い感じもしたのであるが、抽象的に、そして具体的に設問を設けてみた。

さて、この数字を見て、中・高を比較すると顕著な差があるのに気づく。それは、どの設問も、選択肢での回答では、中・高の差が殆んどない、という点であり、また、記述の説明になると、差がはっきり出てくる事である。この事は、特に②、④、⑤、の各表を比較していただければ一目瞭然であろう。③で差がでていないのは大阪府下における部落解放運動を軸にした人権についての教育の成果であろう。また、本校中学生の理由についての記述が多いのは、本校中学生が附属高等学校に全員進学できる為に、所謂高校入試の為の勉強を強いられていない事と、手前味噌となるが、夏期休暇には自由研究発表会、修学旅行での野外活動の調査発表、社会科授業での時事問題発表(註)と自分でテーマを決め、調査し、まとめて発表する機会が多く、「書くこと」に慣れている為と思われる。ここに1つわれわれが考えるべき事があるように思われる。選択肢での回答では中・高の差が大きく顕われないと云う事は抽象的には基本的人権の権利意識においては差がないと云うことである。義務教育ではよく「読み」「書き」そして「そろばん」の能力をつけるものと云うが、「読み」まではなんとか出来るが「書き」がまだ中学生には無理なのであろうか。つまり、中学生には基本的人権の権利意識は持てるが、それを具体的に主張させる事はできないのであろうか、という問題がある。もっとも、具体的に権利意識を主張するにはそれなりの社会意識がなければならない。たしかに、④と⑤の理由についての表を見てみれば、中学生と高校生では社会認識の広さに差がある。しかし、社会認識は広さだけでなく、深さにも関係がある。この深さについてはこの調査では明白なことは云えないが、②の理由の具体例文(殆んどが本校中学生のものである)と③、④、⑤の具体例文(全て高校生のものである)とを比較すると「書くこと」の力に大きな差を感じない。(もっとも、文章を書く余白が狭く、差が出ない、ということもあるが。)従って教師の指導によっては社会認識の深さを身につけさせるのは、十分可能と考えられる。ただし、現実の中学生の公民の教科書と高校生の政経の教科書を比較して、中学生が学ばねばならない知識量を考えると、それはかなりのものと云える。これらを義務教育であるが故に、全て教えねばならないとすれば、大いに疑問だが、やはり、問題解決学習法のように生徒の自主性を活かす点を考えるべきではないか、と思える。あるいは、現実の中学校ではそれが出来ないとなれば、高校進学率が90%を超える大阪では、高校の教師がこの課題に取り組むべきなのかもしれない。「深さ」の認識力が身につけば生徒諸君は各自の力に応じて「広さ」を広めていけるだろうから。

ところで、「図説 戦後世論史」(NHK ブックス 243、S50年版)で「浸透した憲法理念と人権意識」(同書 pp. 122—138)や「定着した戦前より戦後がよいという評価」(同書p.218)を読むと如何に初等、中等教育での憲法学習が重要であるかを改めて思い知ら

されると同時に、同じシリーズの「現代青年の意識と行動」(NHKブックス 322, S54年版)の中で「社会を良くするためにとくにしたい活動がないという人は、20、30代の35%前後を起点に年齢とともに(に?)増加する(略)。逆にいえば、この年代で六割前後は少なくとも社会参加の希望を抱いているのである。参加の希望をもちながら、現実に参加活動を行っていないという、希望と実態のズレが最も大きいのが、20代前半である。」(同書p 189)とか「社会的不満をもっているにしても『選挙権を行使するくらいで、それ以上積極的な行動はとらない』という多くの青年たちに、その理由をたずねている。日本の青年は、73%が『個人の力では及ばぬところに問題があるから』と答えた。」(同書p 190)という文を読むと、憲法学習というか、社会科の学習では「読み」「書くこと」だけでなく、「行動すること」の重要さと1人の人間の力のすばらしさを如何に教えるかという現在の問題をも考えざるを得ない。というのは、今回のアンケート調査の回答の中である生徒が次のような文を書いているからだ。

「学生的身分で社会問題を積極的にとり入れようという姿勢をとっても、実際のところ親にやしてもらっている身では100%実感できないのが現状である。だから何1つ自分の身として経験したことのない学生の立場から憲法について論ずるのは思いあがりもはなはだしいのではないか。だから、このような質問に答えるわけにはいきません。学生の憲法に対する意識も大切だが。」(高1、女)

この生徒は□項目のみ「平和主義、国民主権、基本的人権の尊重」と回答しただけで、あとの設問には全て答えていない。この文を書いた生徒に直接質問し回答を得たわけではないので、その真意は勿論わからないわけだが、社会的活動への参加、政治的活動への参加の為には、選挙権などを得た年齢でその能力がいきなり身につくわけでは勿論ないのであって、小学生・中学生・高校生にそれぞれふさわしい社会参加の活動があり、その中でそうした能力、というか姿勢を身につけていくはずである。そうしたものを社会科教師は特に意識して、そうした能力や姿勢を持たせるべく、授業で試行錯誤を重ねるべきではないかと思う。それは下の設問の結果を見ても痛感される。

⑥ 下のア～カのうちで、憲法で、義務ではなく、国民の権利として定められているのはどれですか。いくつでもあげて、その記号を□の中に書いて下さい。

ア) 思っていることを発表する イ) 税金を納める ウ) だれでも裁判を受けられる エ) 労働組合をつくる オ) 道路では人は右、車は左を通る カ) わからない

| | 中・高
合計 | 中 学 校 | | | | | 高 等 学 校 | | | | | | |
|------------------|---------------|---------------|--------------|----|----|---------------|---------------|---------------|----|----|----|----|---------------|
| | | 中合計 | 他中合計 | A中 | B中 | 本校例 | 高合計 | 他高合計 | C高 | D高 | E高 | F高 | 本校高 |
| ア 思っていることを発表する | 547
(83.1) | 206
(81.7) | 62
(66.0) | 32 | 30 | 144
(91.1) | 341
(84.0) | 186
(79.1) | 43 | 80 | 39 | 24 | 155
(90.6) |
| イ 税金を納める | 51
(7.8) | 20
(7.9) | 13
(13.8) | 5 | 8 | 7
(4.4) | 31
(7.6) | 25
(10.6) | 12 | 1 | 3 | 9 | 6
(3.5) |
| ウ だれでも裁判を受けられる | 588
(89.3) | 228
(90.5) | 79
(84.0) | 42 | 37 | 149
(94.3) | 360
(88.7) | 197
(83.8) | 47 | 85 | 39 | 26 | 163
(95.3) |
| エ 労働組合をつくる | 517
(78.6) | 186
(73.8) | 63
(67.0) | 33 | 30 | 123
(77.8) | 331
(81.5) | 179
(76.1) | 46 | 74 | 34 | 25 | 152
(88.9) |
| オ 道路では人は右、車は左を通る | 28
(14.3) | 11
(4.4) | 7
(7.4) | 5 | 2 | 4
(2.5) | 17
(4.2) | 15
(6.4) | 5 | 0 | 3 | 7 | 2
(1.2) |
| カ わからない | 21
(3.5) | 4
(2.4) | 4
(4.2) | 1 | 3 | 2
(1.3) | 17
(4.2) | 14
(6.0) | 1 | 0 | 2 | 11 | 3
(1.8) |
| 人 数 | 658 | 252 | 94 | 50 | 44 | 158 | 406 | 235 | 58 | 88 | 46 | 43 | 171 |

⑦ 国の政治に、一般国民の意見や希望はどの程度反映していると思いますか。ア～オから一つ選び、その記号を□に書いて下さい。

- ア) 十分反映している イ) かなり反映している ウ) 少しは反映している
エ) まったく反映していない オ) わからない

| | 中・高
合計 | 中 学 校 | | | | | 高 等 学 校 | | | | | | |
|---------------|---------------|---------------|--------------|----|----|---------------|---------------|---------------|----|----|----|----|---------------|
| | | 中合計 | 他中合計 | A中 | B中 | 本校中 | 高合計 | 他高合計 | C高 | D高 | E高 | F校 | 本校高 |
| ア 十分反映している | 3
(0.5) | 1
(0.5) | 1
(1.1) | 1 | 0 | 0
(0) | 2
(0.5) | 1
(0.4) | 0 | 1 | 0 | 0 | 1
(0.5) |
| イ かなり反映している | 47
(7.1) | 21
(8.3) | 13
(13.8) | 7 | 6 | 8
(5.1) | 26
(6.4) | 10
(4.3) | 3 | 6 | 0 | 0 | 16
(9.4) |
| ウ 少しは反映している | 392
(59.6) | 153
(60.7) | 48
(51.1) | 27 | 21 | 105
(66.5) | 239
(58.9) | 139
(59.1) | 35 | 52 | 28 | 24 | 100
(58.5) |
| エ まったく反映していない | 168
(25.5) | 60
(23.8) | 19
(20.2) | 9 | 10 | 41
(25.9) | 108
(26.6) | 64
(27.2) | 18 | 24 | 14 | 8 | 44
(25.7) |
| オ わからない | 48
(7.3) | 17
(6.7) | 13
(13.8) | 6 | 7 | 4
(2.5) | 31
(7.6) | 21
(9.0) | 2 | 5 | 3 | 11 | 10
(5.8) |
| 人 数 | 658 | 252 | 94 | 50 | 44 | 158 | 406 | 235 | 58 | 88 | 46 | 43 | 171 |

⑧ 日本の政治が、これから取り組むべき課題の中で、あなたが重要と思うものは何んですか。ア～サから二つ選び、その記号を□に書いて下さい。

- ア) 国内の治安・秩序をたもつ イ) 経済を発展させる ウ) 国民の福祉を向上させる
エ) 国民のいろいろな権利をまもる オ) 学問・文化を向上させる カ) 外国との友好関係を深める
キ) 軍事力を高める ク) 国民の政治への参加機会をふやす ケ) エネルギー問題の解決をはかる コ) その他(下へ書いて下さい)
サ) わからない

| | 中・高
合計 | 中 学 校 | | | | | 高 等 学 校 | | | | | | |
|-------------------|---------------|---------------|--------------|----|----|--------------|---------------|---------------|----|----|----|----|---------------|
| | | 中合計 | 他中合計 | A中 | B中 | 本校中 | 高合計 | 他高合計 | C高 | D高 | E高 | F高 | 本校高 |
| ア 国内の治安・秩序をたもつ | 93
(14.1) | 41
(16.3) | 13
(13.8) | 6 | 7 | 28
(17.7) | 52
(12.8) | 26
(11.1) | 7 | 11 | 3 | 5 | 26
(15.2) |
| イ 経済を発展させる | 56
(8.5) | 21
(8.3) | 12
(12.8) | 4 | 8 | 9
(5.7) | 35
(8.6) | 23
(9.8) | 4 | 9 | 4 | 6 | 12
(7.0) |
| ウ 国民の福祉を向上させる | 374
(56.8) | 106
(42.1) | 39
(41.5) | 23 | 16 | 67
(42.4) | 268
(66.0) | 153
(65.1) | 45 | 45 | 34 | 29 | 115
(67.3) |
| エ 国民のいろいろな権利をまもる | 77
(11.7) | 29
(11.5) | 13
(13.8) | 6 | 7 | 16
(10.1) | 48
(11.8) | 26
(11.1) | 9 | 7 | 9 | 1 | 22
(12.9) |
| オ 学問・文化を向上させる | 35
(5.3) | 6
(2.4) | 4
(4.3) | 3 | 1 | 2
(1.3) | 29
(7.1) | 16
(6.8) | 2 | 12 | 0 | 2 | 13
(7.6) |
| カ 国外と友好関係を深める | 118
(17.9) | 53
(21.0) | 23
(24.5) | 12 | 11 | 30
(19.0) | 65
(16.0) | 38
(16.2) | 8 | 17 | 8 | 5 | 27
(15.8) |
| キ 軍事力を高める | 42
(6.4) | 25
(9.9) | 8
(8.5) | 4 | 4 | 17
(10.8) | 17
(4.2) | 11
(4.7) | 0 | 4 | 6 | 1 | 6
(3.5) |
| ク 国民の政治への参加機会をふやす | 109
(16.6) | 51
(20.2) | 17
(18.1) | 11 | 6 | 34
(21.5) | 58
(14.3) | 36
(15.3) | 10 | 18 | 7 | 1 | 22
(12.9) |
| ケ エネルギー問題の解決をはかる | 332
(50.5) | 138
(54.8) | 56
(59.6) | 29 | 27 | 82
(51.9) | 194
(47.8) | 117
(49.8) | 29 | 42 | 19 | 27 | 77
(45.0) |
| コ その他 | 67
(10.2) | 32
(12.7) | 2
(2.2) | 1 | 1 | 30
(19.0) | 35
(8.6) | 15
(6.4) | 1 | 11 | 2 | 1 | 20
(11.7) |
| サ わからない | 13
(2.0) | 2
(0.8) | 1
(1.1) | 1 | 0 | 1
(0.6) | 11
(2.8) | 9
(3.7) | 1 | 0 | 0 | 8 | 2
(1.1) |
| 人 数 | 658 | 252 | 94 | 50 | 44 | 158 | 406 | 235 | 58 | 88 | 46 | 43 | 171 |

この主なるもの

中学校

(他 中)

- 自然環境を守る

高 校

(本 校)

- きれいな政治をする(9)
- 入試制度を改める(4)
- 青少年を厳しくしつける(2)
- 富国強兵
- 公害防止

(他 高)

- 公害防止と生活環境の整備(5)
- きれいな政治をする(4)
- 自然環境を守る(4)
- 自衛隊・天皇の否定(2)
- 人口・食糧問題

(本 校)

- きれいな政治をする(7)
- 入試制度の改善(4)
- 軍事力をなくす(3)
- 公害防止(3)
- 税金のムダ使いをしない(2)
- 食糧確保

これらの結果とNHKの世論調査の結果を比較してみよう。NHKの数字は、「現代日本人の意識構造」(NHK ブックス344 S54年版)より引用したものである。

⑥の場合(選択肢の内容をわれわれは若干入替えている。※印が同じもの)

いろいろなことがらが並んでいますが、この中で、憲法によって、義務ではなく国民の権利と定められているのはどれだと思いますか。いくつでもあげてください。

| 選 択 肢 | 1978年 | 1973年 | 中高生 |
|---------------------|-------|-------|-------|
| ア. 思っていることを世間に発表する※ | 45.8% | 49.4% | 83.1% |
| イ. 税金を納める | 35.5 | 33.9 | 7.8 |
| ウ. 目上の人に従う | 5.7 | 5.6 | |
| エ. 道路の右側を歩く ※ | 19.3 | 19.9 | 14.3 |
| オ. 人間らしい暮らしをする | 69.6 | 69.6 | |
| カ. 労働組合をつくる ※ | 36.0 | 39.4 | 78.6 |
| キ. わからない 無回答 | 7.0 | 7.8 | |

⑦の場合(選択肢内容同じ)

私たち一般国民の意見や希望は、国の政治にどの程度反映していると思いますか。リストの中から、お答えください。

| 選 択 肢 | 1978年 | 1973年 | 中高生 |
|----------------|-------|-------|------|
| ア. 十分反映している | 3.6% | 3.6% | 0.5% |
| イ. かなり反映している | 17.7 | 17.5 | 7.1 |
| ウ. 少しは反映している | 56.3 | 52.4 | 59.6 |
| エ. まったく反映していない | 15.7 | 19.2 | 25.5 |
| オ. わからない、無回答 | 6.7 | 7.3 | 7.3 |

⑧の場合（選択肢内容若干異なる。※印が同じもの。また、中・高のアンケートでは2つ選ばせたが、NHKは1つだけ選ばせている。）

現在、ニッポンの政治が、取り組まなければならないいちばん重要なことがらは、何でしょうか。リストの中から、1つだけ選んで下さい。

| 選 択 肢 | | 1978年 | 1973年 | 中高生 |
|---------------------|---|-------|-------|-------|
| ア. 国内の治安や秩序を維持する | ※ | 17.3% | 12.6% | 14.1% |
| イ. 日本の経済を発展させる | ※ | 21.1 | 10.7 | 8.5 |
| ウ. 国民の福祉を向上させる | ※ | 31.9 | 48.5 | 56.8 |
| エ. 国民の権利を守る | ※ | 8.9 | 11.5 | 11.7 |
| オ. 学問や文化の向上をはかる | ※ | 2.0 | 1.4 | 5.3 |
| カ. 国民が政治に参加する機会をふやす | ※ | 6.9 | 6.0 | 16.6 |
| キ. 外国との友好を深める | ※ | 5.3 | 2.7 | 17.9 |
| ク. その他 | ※ | 0.2 | 0.4 | 10.2 |
| ケ. わからない、無回答 | ※ | 6.5 | 6.1 | 2.0 |

このように比較すると、憲法を学習したばかりの中・高の生徒の憲法知識が高いのは当然とはいえ、驚く。ただし、それでも、⑥のカ、「労働組合をつくる」の回答率が、ア、とか「だれでも裁判を受けられる」に較べると若干低率なのが、気になる。しかも、⑤で憲法第28条の条文を明記してあるのを彼らは読んでいてこの低率は、たとえ彼らが社会人でない為に実感がないのであろう、と好意的に解釈しても疑問である。そして、この疑問は、日本人は外国に比較して権利・義務の意識が薄い、とよく云うが、これと結びつけて考えると深刻にならざるを得ない。われわれ教師としては、この憲法知識が高いということ単純に喜ぶ訳にはいかない。⑧の「国民が政治に参加する機会をふやす」の回答率の低さと合せて考える時、政治というものはわれわれ庶民の手の届かない処で行なわれる権力闘争である、などと考えさせないで、政治とはわれわれの生活のあり方を決める行為であり、国民一人一人が重要なその一翼を担わねばならないのだ、という事をより教えるべきではないだろうか。いや、それだけではなく、「基本的人権」だけではないが、憲法にある権利・義務というものが、どの様な歴史をもって確立し変化してきたのか、そして、その時代の人々はその為にどうしたのか、などをより重視して教えるべきではないか、とも考える。最近の中学校の公民分野の教科書では、また高校でも同じだが、歴史的背景の記述が減少してきている。これは歴史分野で扱え、と云う事だと思いが、最近の生徒は、国語で学習した事を社会科で尋ねると答えられず、また芸術で学習した人物などを歴史の授業で尋ねると怪訝なふうを見せるような事が増えているように、授業体験を通して感じる。悪しき専門化が進んでいる、と云えるか。こうした事を考えると、公民分野だから、などと云わず、専門化した社会科の各分野を重複を恐れず有機的に活用すべきではないか、と考える。言葉を変えれば、知識の定着度を高める為にも、もっと人間の生活や歴史の中で教えるべきではないか、と考えるのである。その事が、⑧のウ、カ、そしてキ、あるいは⑧のコ（その他）回答で「きれいな政治をする」と答えた生徒の「夢」をより現

実的なものにしてあげられる事になるのではないか、とも考えるのである。

最後に⑦の世論の政治的有効性感覚の結果に触れてみたい。

NHKの調査結果の分析では「『選挙』については『やや強い』という人まで含めると六割が有効性感覚をもっているが、『デモ、陳情、請願』については四割、『世論』が国の政治に反映していると感じている人は二割強に過ぎない。」(前掲書No. 344, p168) しかも、「知識は高いが、有効性感覚の弱い『積極的不信型』は若年層(16~29歳)が断然高い数字を示していると云う。(前掲書、p 171 参照。もっとも、ここで云う有効性とは選挙、デモ・陳情・請願、世論の相違を抜きにしたものであるが、前文と絡めて考えれば、世論だけならばその数字はさらに高いものになるのではなかろうか。) 今回のわれわれの結果では、ウとエを合わせると85.1%という高い数字である。この数字を、敗戦を体験し、戦後民主主義の建設を担ってきた高年層(50歳以上)の信頼率41%、61%(前掲書、p 171 参照。‘78年の数字。前者新中・旧小卒者のもの、後者大卒者のもの。)の高数字と比較すると、われわれ教師は何を教えていたのか、と反省せざるを得ない。われわれの態度・授業が、高い政治知識を有し、現実の政治・大人に不信感を持つことがカッコイイ若者である、と教えているのではないだろうか、と。われわれは、知識の定着度を高めるのに努力し、現実を見つめさせるのに努める。そして、社会への参加の姿勢を持たせようと努める。たしかに、未は博士か大臣か、と昔から云われる風潮があり、また、政治は汚い、との風潮もあり、敗戦後の経済優先の考え方もある。しかし、こうした社会風潮があるからこそ、教育は現実と理想を子供に教え、現在と未来に希望を持たせる義務があるはずなのだ。それ故、ある者は教師からが政治的实践を行なう。また、ある者は教育基本法を遵守してそれを拒否する。私はそのいずれも良いと思うが、子供達のこの不信感を除く為に、今回の結果を踏えて、自らの姿勢と授業をもう一度再点検してみたい。

〈おわりに〉

以上がアンケート調査の結果である。男女の相違の分析などを行なうべきであったか等の反省点は沢山ある。しかし、こうした不備の多いものを敢えて公表する事によって、怠慢になりがちな私に、今後教育の為により役立つ資料をつくれ!との宿題を課し、今後それを実現して、今回の恥をそそぎたく思っている。なお、調査結果の数表のあとの分析文は、われわれ社会科研究室での討論で話されたことや、私個人の日常の授業等で感じていることなどを合せて書いた個人的な感想の域を出るものでないのは読者には明白と思うが、文責は私個人にある。最後になったが、今回のアンケート調査で多くの方々にお力をいただいた。調査結果が何らかの意義を持つとすれば、これらの方々のおかげである。こゝに記して謝意を表す。(なお、氏名は希望により公表しない。)また、貴重な時間を割いていただいたのにこのような粗末な報告しかできない事をあわせて記し謝す。深謝。

社会科研究室メンバー一覧。*岩城一郎(高、倫社・政経)、白土芳人(高、日本史)

*高木正喬(高、世界史)、田原悠紀男(高、地理)、*富田健治(中、地理分野)西田光男(中、歴史分野)、場本 功(中、公民分野)〈五十音順)全員によってアンケート調査の集計を行なった。(※文責者)

次に付記として、中高の公民・政経の授業案を載せておく。その為、文責は、岩城・富

田、高木としたが、本文は高木に文責がある。

註 自由研究及び野外活動の報告については本校研究集録第18集（S50年度）にそれぞれ p. p19～22, pp 114～127 に説明があるので参照されたい。時事問題発表については、10年間程実施しているので、今後分析し発表したいと考えている。

〈付 記〉

社 会 科 学 習 指 導 案

指導者 富田 健治

- 1) 日時 昭和54年11月14日（水） 9時40分～10時30分
- 2) 場所 大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校 北館2階 視聴覚室
- 3) 学級 大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校3年D組（男子25名、女子14名）
- 4) 主題 基本的人権の尊重
- 5) 目標
 - (1) 基本的人権は、人類共通の財産であり、人間としての基本的な権利であることを理解させる。
 - (2) 基本的人権は、多くの人々の努力によって獲得され、拡大してきたことを理解させる。
 - (3) 具体的な事例を通じて、基本的人権について考えさせ、自分なりの意見を持てるようにする。

6) 指導計画

| | 学 習 内 容 | | 時間配当 |
|-----|-----------|-----------|------|
| 第一次 | 自由権的基本権 | | 4 |
| 第二次 | 社会権的基本権 | 環境権 (本時分) | 1 |
| | | 社会保障 | 1 |
| | | 団結権 | 1 |
| | | 教育を受ける権利 | 1 |
| | 公共の福祉 | 1 | |
| 第三次 | 私たちと基本的人権 | 3 | |

7) 本時の指導

(ア) 題材 環境権

- (イ) 目標
- ・人間としてふさわしい生活環境の確保は、人類の生存のためには不可欠な権利であることを理解させる。
 - ・生徒の身近な具体的事実を取り上げることによって、権利に対する関心を高め視野を広げ、自分なりの意見を持てるようにする。

(ウ) 準備物 教科書（日本書籍）、中学公民資料（東京法令出版）、プリント

(エ) 指導過程

| | 生徒の活動 | 指導者の活動と留意点 |
|-----------|---|---|
| 導入
5分 | <ul style="list-style-type: none"> 前時の復習と本時の学習内容の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 自由権的基本権としての表現の自由の意味の確認と、本時は、生存権的基本権について考えることをつたえる。 |
| 展開
40分 | <ul style="list-style-type: none"> 時事問題の紹介を聞く プリントを読んで、自分の感想・意見をまとめる まとめた文を発表する 住民運動のもつ意味を考える | <ul style="list-style-type: none"> 3Aの生徒の時事問題発表（琵琶湖の汚染問題）を紹介する 琵琶湖の汚染問題について知っていることを発表させる 毎日新聞（昭54年10月15日）のコピーを配布する 自分なりの立場で、自分の感想・意見をまとめるように指示する なるべくちがった立場の意見を発表させる（住民運動からの立場・営業の自由の立場） この運動は、単に合成洗剤の追放だけでなく、生存権にかかわっていることに気付かせる 小さな住民運動が条例制定にまで高まっていった意味を考えさせる |
| まとめ
5分 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を、第25条と関連させてまとめる | <ul style="list-style-type: none"> 第25条と関連させてまとめさせる |

社会科（政治・経済）学習指導案

指導者 岩城一郎

- 日時 1979年11月14日（水）午前10時40分～11時30分
- 場所 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 北館2階 視聴覚室
- 学級 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 第1学年B組 45名（男子29名、女子16名）
- 主題 日本国憲法と基本的人権
- 目標 日本国憲法の人権規定を歴史的に理解させると共に、判例等を通じてその実際の運用を知ることによって、現代社会の問題の一端を理解させる。
- 計画

| 区分 | 学 習 内 容 | 時間配当 |
|----|--------------------|---------|
| 1次 | 日本国憲法の成立過程と基本的人権総論 | 2時間 |
| 2次 | 自由権的基本権 | 4時間 |
| 3次 | 法の下での平等 | 1時間（本時） |
| 4次 | 社会権的基本権 | 2時間 |

7. 本時の学習指導

- (1) 題材 日本国憲法 第14条
- (2) 目標 不合理な差別と合理的な区別の意味を理解させる。
- (3) 準備物 教科書「政治・経済 改訂版」（実教出版）、政治・経済資料'79（東京法令出版）
- (4) 指導過程

| 段 階 | 学 習 事 項 | 生 徒 の 活 動 | 指 導 上 の 留 意 点 |
|--------------|--|--|--|
| 導 入
(10分) | ○平等思想 | 近代宗教思想近代自然法思想に培われ、封建的身分制廃止の要求として宣言されたことを確認する。 | 簡単にふれるにとどめる。 |
| 展 開
(35分) | ○明治憲法
○日本国憲法

○判例Ⅰ（尊属殺）

○判例Ⅱ
（女子の結婚退職制） | 天皇制下での身分制度の存在を知る。
平等条項を確認すると共に、平等の多義性、不合理な差別と合理的な区別の違いを知り、不合理な差別を禁止することが第14条1項の趣旨であることを理解する。
不合理な差別といっても、意見の分かれる例として学ぶ。
性別による不合理な差別から救済される例として学ぶ。 | 差別に気付かない状態を意識させる。
条項の憲法学的解釈はせず、語義の説明も最少限にとどめ、「出生による」というメルクマールを強調しておく。

最高裁大法廷の実際、又刑法の規定の実際にもふれる。

性別による合理的な区別と混同した考えをもたないようにする。 |
| 整 理
(5分) | | 合理性の内容を確認する。 | 社会的差別の存在を忘れないようにする。 |



高等学校における『関数』の指導について

— 必修の数学としての内容を考える —

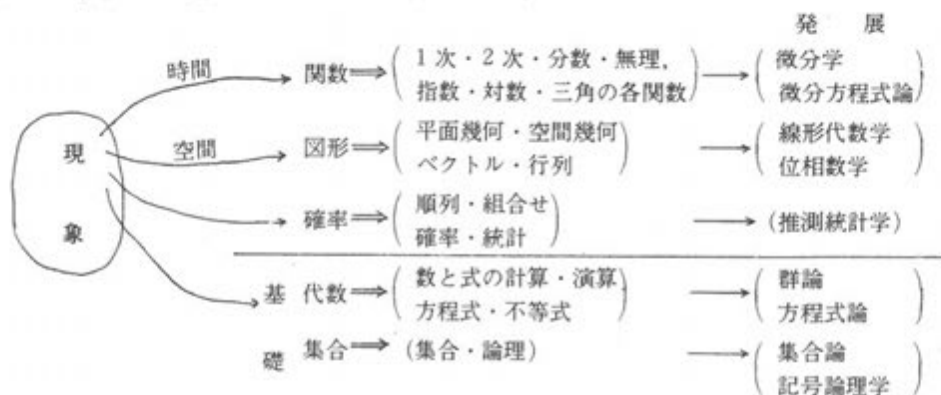
ほん ま とし ひろ
本 間 俊 宏

§1. はじめに——子どもの学ぶ数学の内容について

「集合や方程式や関数を学んだことが、将来、何の役に立つのですか。」「数学はパズルみたいなものですね。」「数学は、自分で楽しむものですね。」このような問いかけを、子どもからしばしばあびせられる。これは、子どもが真剣に数学を学ぼうとしていることのあらわれである。それに対して、数学の教師は、子どもが納得できる答えをだしてやる必要にせまられている。

1970年代は、数学教育の現代化が小・中・高にわたって全面的に実施されたが、後半になると教える側の力量不足と学ぶ側の学習意欲の欠如が相乗して、衰退の一途をたどった。その反動として、1980年代は、現代数学の考え—集合・論理—が表面的には、小・中・高の数学から消えてしまおうとしている。しかし、現代数学特有の柔軟な考え方は重要である。1980年代の数学教育では、子どもひとりひとりが個性豊かに生きていくための力となる数学とは何か、そしてどのような内容をどのように展開していくかということ念頭に置くべきであり、はじめにあげた子どもの問いかけに答えることにもなるのである。

数学を、偉大な数学者の考えによってつくられた文化遺産として教えるのではなく、子どもの見たり、聞いたり、体験したりする身のまわりの現象から数学をつくりだし、それを用いて、身のまわりの現象と対決し克服していく過程を学ばさせるものとして位置づけたい。そのためには、現代数学の自由な考えをとり入れていくことをも辞さない覚悟をもちたいものである。ニュートン・ライブニッツの微積分からアインシュタインの相対性理論までを展望しながら、私たちの身のまわりの現象を空間と時間によって分けてみた。そして、それらの現象から、どのような数学がつくり出せるかということ、現代数学の考えをもとに、大胆に系統だててみたのが下図である。



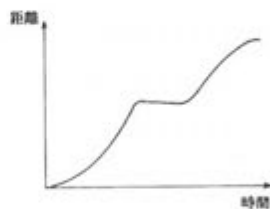
私たちの身のまわりの現象を説明するために、私たちの生きている場をいわゆる「時間」と、生活空間などという「空間」とに分けてみた。第一に、「時間」とのかかわりで、「関数」をとりだし、第二に、「空間」とのかかわりで、「図形」をとりだす。第三に、不確定な現象についての考察をすすめるために、「確率」をとりだす。第四に、「関数」、「図形」、「確率」を数学的に展開していく基礎として、「代数」と「集合」をとりだす。これら、5つの基本概念である「関数」、「図形」、「確率」、「代数」、「集合」を、私たちの身のまわりの現象の中から抽出するわけである。いい方をかえて、これら5つの基本概念を、図のように位置づけするのだと述べることもできよう。

私は、これら5つの基本概念が、子どもの人格が形成されていく各段階—幼・小・中・高一で、その段階の子どもにふさわしい形で、学ばれることが望ましいと考えている。この小論では、「関数」について、幼・小・中の段階を経た子どもに対して、高では、どのような内容を、どのように展開し、子どもは、どのように学び、どのようなことを学ぼうとしているかということについて、子どもとの実践をもとに考察する。

§2. 「関数」の指導の問題の所在——子どもの認識から

中学校卒業時における「関数」についての子どもの認識をさぐるために、本年度の高1の「関数」の授業の前に、「関数とは何か、具体的な例をあげて説明せよ」という題の作文を書かせた。その中から、いくつかの作文を原文のまま、次に紹介する。

A：最も身近な例としては、よく出されるが、自動車が時間につれて、距離が変化していく例だと思う。自動車が進んでいけば、距離もそれにつれてのびてゆく。これをグラフにあらわしてみると、[右図]のようになる。だから、この場合は、時間に対しての距離をあらわしてあるのであって、距離に対しての時間ではない。このような関数のグラフは、日常よく使い、また1目みただけで、その運動がわかるので、単に数学内の事柄ではない。このグラフからわかることの第1点は、時間がたっても距離がのびていないことから止まっていることがわかる。次に、グラフがいろいろな傾きをもっているが、傾きが、大きな方が、距離も多いので、速さがはやいことがわかる。このように先にあげたように、非常に便利なものだと思う。また、時間と距離との関係をはっきりと知ることが、この関数をすることになると思う。



B：1. 物体が自由落下するとき、落ちはじめからの時間が1つ決まると、その瞬間の速さも1つだけ決まるので、関数である。

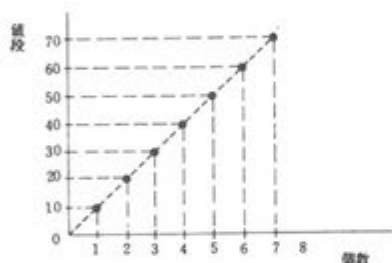
2. 子供の集合と、その母親の集合があった場合に、子供と母親の関係は、子供1人(又は数人)に対して、必ず1人の母親が対応するので、これは、1対1、又は多対1の対応であり、関数である。

C：たとえば、水槽に水を入れるとして、1分間に3*l*入るとすると、最初はやはり、水槽内の水の量は0で、1分後で3*l*、2分後で6*l*、3分後で9*l*、…、*x*分後に9*xl*、ここで、*x*分後の水槽内の水の量を*y**l*とすると、式であらわすと、 $y = 3x$ になる。この式が関数であると思う。だから、もし、最初に水槽内に水が10*l*入って

いれば、 x 分後には、 $(3x+10)l$ だけ入っていることになり、その値を y とおきかえて $3x+10=y$ となるのである。関数というと、いかにも難しそうに感じがちだが、具体例でしめすと、割に日常生活にそれがあることが多いのだ。だから、ろうそくの長さや経過時間なども関数である。もしかすると、関数は日常生活内から生まれたのだろうか。でも、それにしても、数学という学問の中で、いかにも難解なものとして含まれているのではないか。これはおかしい、矛盾している。日常生活での事ならわからないでもないが、いざ関数となるといちいちグラフを書いたり、線を引いたりしてややこしく考えないといけぬ。理論だけでは人間は暮らしていけないのにな。

- D：具体例としては、日常的な事柄で説明する方がわかり良いので、ぼくは下の例を上げる。近所の子供が1コ10円（ちょっと高いかな）のタコヤキをいくつか買いに行ったとする。この場合1コであれば値段は10円となり、2コあれば20円となるので、1つの数に対し必ず対応する数がある。すると右図

のようなグラフ（・の部分）ができる。つまり、ここでタコヤキの個数 x 個とし、それに対応する値段 y 円が決定される。式 $y=10x$ ただし、1コ10円なので $10x$ となる。また、現実的には3.3個とか、3.1個とかいう数は売ってくれないが、それを考えると上図の点線のようになる。幼稚な例であったが、ただ今ベルがなったのでやめる。



- E：昔、使われていた、ろうそくを用いた時計。ろうそくの部分に目もりがうつてあり、時間の経過とともに、ろうそくはとけていく。そのとける速さはほぼ一定とみなせるので、その残っている長さや、経過した時間は、1対1で対応してゆく。決して、多対多、1対多、多対1にはならない。
- F：もし、今、地球から離れていくロケットがあるとすると。そのロケットと地球間の距離をはかると、常に1つの値しかでない。なぜなら $(1つの時間) \times (速さ) = (距離)$ であり、この値は1つしかないから。これは、1対1対応だから、これは関数である。ここでもし、ロケットの中で、ロケットと反対の方向にロケットと同じ速さで投げた石があるとすると、1つの時間に対して速さは0であるから、距離は進まないから止まっている。（それも多対1で関数）しかし、この運動を中からみれば進行方向に対して（-）で動いているので、外から見た運動と中から見た運動の関係も1対1であるから関数である。このように、関数は2つの集合だけでなく、たくさんの集合に関しても、ある集合の値が決まれば、他の集合の値が決まるものを関数という。（ちょっとややこしいですが、がまんして下さい）
- G：井戸から水を1分間に10lくみ出す。その時の時間とくみ出した水の量との関係。時間を x 、水の量を y とすると、 x の値に対して必ず y という1つの値が決まる。それは1つ以外にはありえない。そして時間が増えるとともに、水の量も増える。この関係は $y=10x$ として表わすことができる。
- H：自動車等速で走っている時、その自動車の走った距離と走った時間とは関数の関係にある。時間を x 、距離を y 、自動車の時速を k とすると、 $y=kx$ となる。

I : ある地点でボールを離して、そのボールが鉛直下向きに落下するときの時間 t 秒と距離 L cmとの対応を考える。物体の自由落下の加速度を 980 cm/s^2 とすると、時間と速度 F との関係式は $F = 980t$

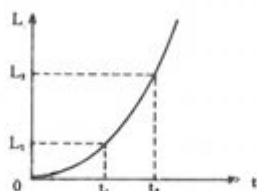
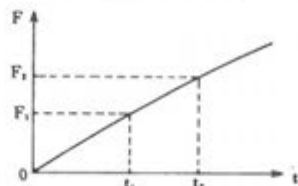
これは、右のグラフのように表わされ、このような関数は1次関数である。(t_1 に対して F_1 、 t_2 に対して F_2 と、1対1の対応であり、これは関数といえる。)

次に時間と距離との関係式で表すとすると

$$L = \frac{1}{2} \times 980t \times t = 490t^2$$

となり、右の図のような2次関数となる。

(この場合も、 t_1 に対して L_1 、 t_2 に対して L_2 が1対1で対応する) また、この場合、距離、時間には、制限がある。その時、 t の範囲で変域といい、その集合内でのみ関数が考えられる。



J : ある距離 x km を走る自動車の速度 v km/h と所要時間 t の関係は

$$t = x \cdot \frac{1}{v} \quad v = x \cdot \frac{1}{t} \quad \text{となつて、} \quad x=30 \text{ とすると}$$

右の表のように、 v の値がきまれば、

t の値がきまり、 t の値がきまれば、

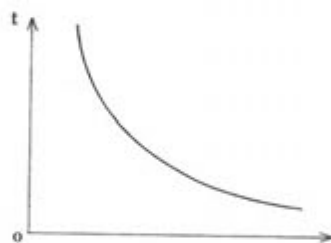
v の値がきまるというように1対1の

対応が成立する。これをグラフにする

と右のように反比例の関係のグラフと

なり、関数であることがわかる。

| | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|---|---|----|----|----|--------|
| v | 1 | 2 | 3 | 5 | 6 | 10 | 15 | 30 | 60... |
| t | 30 | 15 | 10 | 6 | 5 | 3 | 2 | 1 | 0.5... |



ここに紹介した10人の子どもの作文例からわかることは、関数を日常生活と結びつけて、日常生活の中に関数を見出そうとしていることである。そして、見出した関数を、式・表・グラフに表わそうとしている。子どもAのように、関数をグラフに表して、そのグラフの特徴を読みとることから関数の特徴を知ろうとしている。すなわち、グラフを見れば、関数の変化がわかることを述べている。子どもBは、関数を一意対応としてとらえており、式化することや変化に着目することについては触れてはいない。他の子どもC~Jは、式化された関数を例としてあげており、子どもC~Hは、変化の割合が一定の関数すなわち1次関数を例としている。子どもIは、2次関数 $y = ax^2$ 、子どもJは、反比例の関数 $y = \frac{a}{x}$ を例としている点が他の子どもと違う点である。いずれにしても、中学校で学ぶ関数の例は、ひと通りはとりあげられたといえよう。これらのことをまとめると、『関数』についての子どもの認識は

- ① 関数は日常生活と結びついたものである。
- ② 関数は一意対応である。
- ③ 関数は式に表したり、グラフに表したりして、変化のようすを調べる。
- ④ 関数の多くは、変化の割合が一定であるという特徴をもつ。

となる。さて、子どもCは、関数といえばグラフがつきものであるということに反発していることに注意したい。関数といえば、グラフをかくことに終始しており、子どもAのように、グラフを読みとることをしないことへの警告とも受けとれよう。

§ 3. 「関数」の指導計画

§ 2. の子どもの認識から、高等学校の必修の数学としての『関数』の指導の方針として、

- ① 関数は、日常生活と結びついたものである。
- ② 関数には、式表示されない関数と式表示された関数がある。
- ③ 関数の変化を知るために、式化したり、グラフ化したりする。関数のグラフを、図形とみるのではなく、変化を知る方法として扱う。
- ④ 2つの集合間の一意対応として、関数を扱う。
- ⑤ 関数の変化の割合は一定のものばかりでなく、種々ありうること。

があげられる。これらの方針のもとに、次のような指導計画をたててみた。

◎第1次（6時間）

式表示された関数（1次関数、2次関数など）を指導する前に、式表示されない関数を取りあげ、2変量の抽出、関数の定義などから、区間変化率（平均変化率）までを、具体例（線香の長さ、国鉄運賃など）をもとに指導し、最後に、お湯をわかす実験をする。

◎第2次（6時間）

有理関数（1次関数、2次関数、分数関数）について、定義域・値域、増減、区間変化率、対称性、漸近線など変化の様子を解析して、その結果をグラフ表示する、最後に基本形からのグラフの平行移動に触れる。

◎第3次（6時間）

再び、2次関数について、最大・最小、方程式・不等式への応用を考える。

◎第4次（5時間）

逆関数の定義とグラフ、無理関数を2次関数の逆関数として導き、最後に、関数 $y=f(x)$ のグラフの平行移動の一般論に触れる。

◎第5次（5時間）

写像の考えを説明し、合成写像、逆写像の意味を考える。

◎第6次（12時間）

指数を自然数から実数にまで拡張し、指数関数・対数関数を扱う。簡単な対数計算に触れる。

◎第7次（20時間）

三角比の定義と三角形への応用、一般角の三角関数とそのグラフ、正弦定理・余弦定理、三角形の解法、三角形の面積公式を扱う。

上の指導計画の特色は、第1次と第2次にあり、第3次以降は、教科書と大差はない。ここにあげた指導内容は、現行の数学Iであり、必修の数学としては、第1次から第5次までは扱われるべきであり、第6次、第7次をどの程度まで扱うかについては議論の余地がある。

§ 4. 「関数」の指導の実際 I—授業実践から

通常の高1の関数指導は、1次関数 $y=ax+b$ について復習し、関数の定義（2集合間の一意対応）を確認し、平行移動の一般論を扱い、2次関数に入る。2次関数では、 $y=ax^2 \rightarrow y=a(x-p)^2+q \rightarrow y=ax^2+bx+c$ の順で、グラフをかくことが、平行移動を基礎として扱われる。1次関数・2次関数の導入で、日常生活との関連を扱うか否かは、指導法の問題であるかもしれないが、ここで、抽象的、一般的に扱うことは、§2の子どもの認識からはずれるものと考えられる。そこで、§3. の指導計画で述べたように、第1次を設定し、中学校までに学んだ「関数」について、その意味や議論された内容を確認するとともに、体系化、一般化して、第2次以降への発展を滑らかにした。

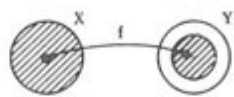
◎第1次 関数入門（6時間）

（第1時）関数の意味

（例1）身のまわりの現象から関数を抽出するために、線香をもやすことを考えた。変数としては、集合 {経過時間}、{線香の長さ} などがあげられる。そこで、{経過時間} から {線香の長さ} への対応を考えてみる。変数としては、 t （経過時間）、 s （線香の長さ）とおく。実際に、線香をもやして、2分ごとの線香の長さを測定したのが下表である。

| | | | | | | | | | | | |
|----------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| t (分後) | 0 | 2 | 4 | 6 | 8 | 10 | 12 | 14 | 16 | 18 | 20 |
| s (cm) | 11.4 | 10.5 | 9.6 | 8.6 | 7.7 | 6.7 | 5.8 | 5.0 | 4.1 | 3.2 | 2.3 |

上の表より、定義域は $\{t \mid 0 \leq t \leq 20\}$ 、値域は $\{s \mid 2.3 \leq s \leq 11.4\}$ であり、 t を自変数（独立変数）、 s を従変数（従属変数）ということの説明した。最後に、次のように、関数の定義などを抽象的にまとめた。

- (1) 数の集合 X 、 Y において、 X のどの要素にも、 Y の要素が1つずつ対応しているとき、この対応を X から Y への関数といい、 $f: X \rightarrow Y$ と表す。
 - (2) 関数 $f: X \rightarrow Y$ において、 X を関数 f の定義域という。定義域 X の要素 x に対応する Y の要素を $f(x)$ で表し、これを関数 f の x における値（関数値）という。関数値全体の集合 $\{f(x) \mid x \in X\}$ を関数 f の値域という。このとき $\{f(x) \mid x \in X\} \subseteq Y$ である。
- 
- (3) 関数 $f: X \rightarrow Y$ において、定義域 X の要素 x に対応する Y の要素を y とするとき、関数 f を $y=f(x)$ と表す。 $y=f(x)$ であるとき、 y は x の関数であるといい、 x を自変数（独立変数）、 y を従変数（従属変数）という。

§2の子どもの作文からは、関数が1対1、多対1の一意対応であることはうかがえるが、ある集合から、別のある集合への一意対応というようには押えられていないので、変

量としての集合を意識させた。

(第2時) 関数値の変化

関数値の変化のようすを表示する方法としては、グラフがあるが、グラフに表す以前に、対応表・対応図に表すことを扱った。

ここでも、身のまわりの現象から関数を取り出した。

(例2) 体育大会のタンブリングで人間ピラミッドをつくる。

関数 f : {第一段目の人数} \rightarrow {全体の人数}

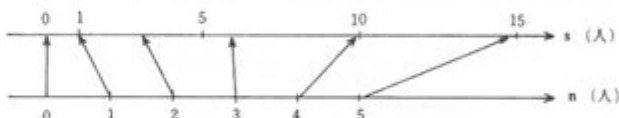
自変数: n (第一段目の人数)

従変数: s (全体の人数)

対応表に表すと、次表のようになる。

| | | | | | | |
|---------|---|---|---|---|----|----|
| n (人) | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| s (人) | 0 | 1 | 3 | 6 | 10 | 15 |

ここで、対応図とは、自変数と従変数のとる値を平行な2つの数直線上に表し矢線で結んだもののことであり、(例2)の対応図は、次図のように表される。



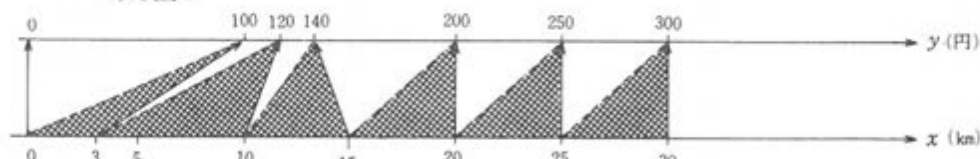
(例3) 国鉄運賃表より関数をつくる。(1 km未満の距離は切り上げる)

関数 f : { x | x は距離} \rightarrow { y | y は金額}

対応表:

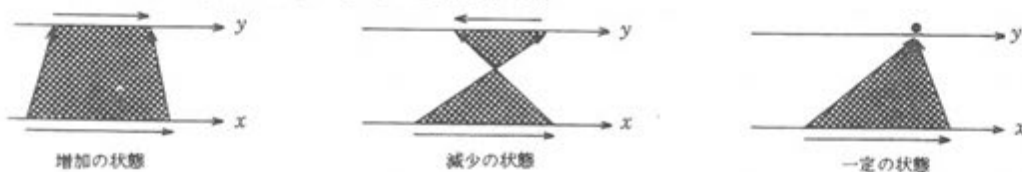
| | | | | | | | |
|----------|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| x (km) | 0 | ~3 | ~10 | ~15 | ~20 | ~25 | ~30 |
| y (円) | 0 | 100 | 120 | 140 | 200 | 250 | 300 |

対応図:



対応図では、たとえば、 $3 < x \leq 5$ となる x に対しては、すべて y は120であるから、上図のように矢線は黒くぬりつぶされることとなる。

次に、変化の状態は、増加の状態、減少の状態、一定の状態が考えられることを説明し、対応図に表すと下図のようになることを触れた。

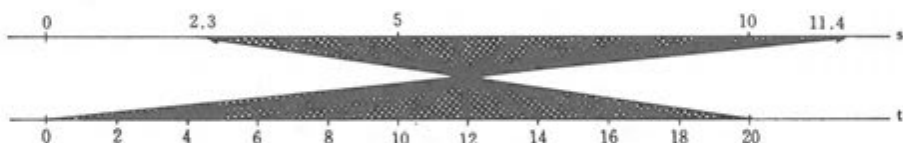


さて、変量としては、離散量（有理数の集合）と連続量（実数の集合）が考えられ、前者は「人数」、「金額」、後者は「時間」、「長さ」、「距離」がその例である。さらに、定義域が離散量の場合には、関数の変化のようすは離散的な変化である。例としては、(例2)の人間ピラミッドで抽出した関数があげられる。また、定義域が連続量の場合には、対応のしかたによって、関数の変化のようすは、連続的な変化と不連続な変化がある。前者の例は、(例1)の線香についての関数であり、後者の例は(例3)の国鉄運賃についての関数である。ということに触れた。

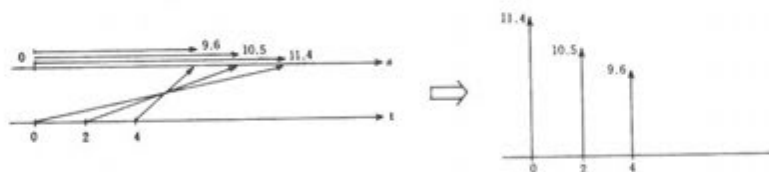
関数を対応の立場から追求するのは、第5次の写像で扱うこととし、ここでは、関数の変化のようすを分析する方法として、グラフを扱う前に、対応図を扱った。これは、グラフを用いることの意義を確認するために有効なことである。また、身のまわりの現象から抽出される関数を体系的に扱うために、変量を離散量と連続量に分類し、関数の変化のようすを離散的な変化と連続的な変化と不連続な変化に分類した。さらに、増加・減少・一定の各状態を対応図で表したことは、次時に数式化するときの伏線になるはずである。

(第3時) 関数のグラフ

(例1)の線香についての関数の対応表から、対応図をつくると、次のようになる。

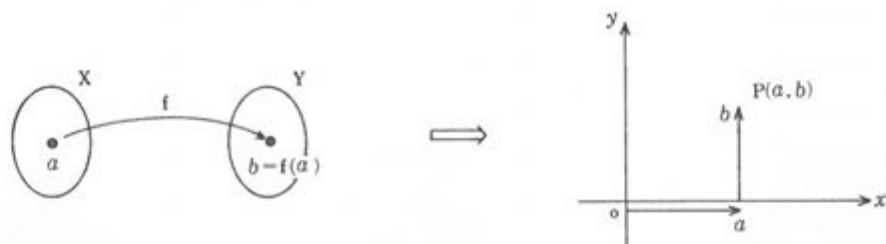


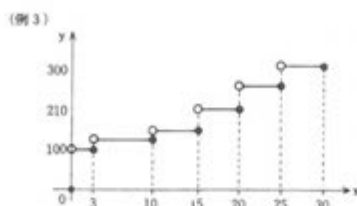
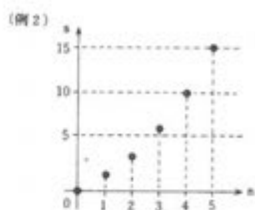
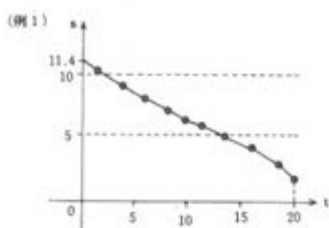
しかし、対応図では、黒くぬりつぶされてしまって、連続量の場合には、対応がわかりにくくなる。そこで、下のように工夫する。



(0, 11.4), (2, 10.5), (4, 9.6) を座標として考えることを確認し、次のようにまとめた。

(4) 関数 $f: X \rightarrow Y$ において、座標平面上で $y=f(x)$ を満たす点 (x, y) 全体の集合 $G = \{(x, f(x)) \mid x \in X\}$ を関数 f のグラフという。





本時は、グラフ上の点 (x, y) が、 x から y への対応を表すことを確認させることをねらいとした。対応表からグラフ化するのではなく、対応表→対応図→グラフとすることによって、グラフの意味を明確にすることができるからである。

(第4時) 連続的な変化の精密化——区間変化率

連続的な変化を詳しく調べるには、定義域をいくつかの部分に区切って調べねばならない。定義域(実数の集合)をいくつかの部分に区切ったものを区間(実数の集合)という。ここで、先ず、区間という用語を導入した。そして、関数の変化の状態を、次のように数式化した。

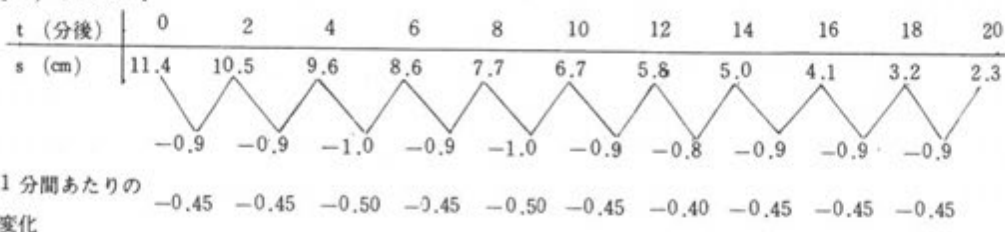
(5) 関数 $y=f(x)$ ($x \in X, X \subseteq \mathbb{R}$) において、ある区間に属する任意の x_1, x_2 に対して、

(i) $x_1 < x_2$ ならば $f(x_1) < f(x_2)$ であるとき、
関数 $f(x)$ はその区間で 単調に増加する という。

(ii) $x_1 < x_2$ ならば $f(x_1) > f(x_2)$ であるとき、
関数 $f(x)$ は その区間で 単調に減少する という。

(iii) $x_1 < x_2$ ならば $f(x_1) = f(x_2)$ であるとき、
関数 $f(x)$ は その区間で 一定である という。

(例1) について

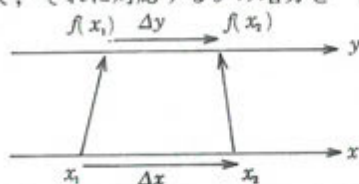


上の例より、区間変化率(平均変化率)の定義を与えた。

(6) 関数 $y=f(x)$ ($x \in X, X \subseteq \mathbb{R}$) において、自変数 x が x_1 から x_2 まで変化するとき、 $x_2 - x_1$ を x の変化量 (増分) といい、 Δx で表す。このとき、従変数 y が $f(x_1)$ から $f(x_2)$ まで変化するものとすれば、 $f(x_2) - f(x_1)$ を y の変化量 (増分) といい、 Δy で表す。

さらに、 x の増分 1 あたりについて、それに対応する y の増分を 区間変化率 という。すなわち、

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{f(x_2) - f(x_1)}{x_2 - x_1}$$



ここで、ある区間で、 $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ が常に正、負、0 ならば、それぞれ、その区間で、増加、減少、一定であることは (5) よりわかることに触れた。

本時でとりあげた区間変化率は、中学校で変化の割合として学んだものであり、通常、高等学校では、微分法を学ぶときに、区間変化率 (平均変化率) → 瞬間変化率 (微分係数) として、学ぶものである。しかし、微分法が導入されない段階での、関数の変化の解析をするにあたって、中学校で学んだ変化の割合の発展として、区間変化率は、粗ではあるが使用にたえるうものと考えている。このことの一例は、§6 で示したい。

(第5時) 関数の実験 (於 化学実験室)

前時までで、中学校までに学んだ「関数」の復習および体系化、理論化はすんだわけである。式表示された関数、抽象的な関数の性質についての議論をする前に、これまでに学んだ関数について、作業を通して、肌で確かめるために、簡単な実験を行なった。

実験：お湯をわかすという現象から関数を抽出し、その変化のようすを調べる。

容器 (ビーカー、フラスコ、ナス型フラスコに水を 200 cc メスシリンダーで測って注ぐ。ガスバーナーを点火して、お湯をわかす。お湯が沸騰してきたら、15 分後に消火して、そのまま、お湯をさます。

他の準備物として、ストップウォッチと棒温度計 (アルコール) を用意した。



ねらい： 実験そのものは、小学校高学年や中学校でもできる簡単なものである。ここでは、実際に、関数を抽出し、変化のようすを調べることによって、これまで学習した関数全般について再確認し、以後の学習の一助とする。とくに、区間変化率は常に一定とはかぎらないこと。時間の経過に対応して、お湯の温度が連続的に変化すること。式表示できるとはかぎらないこと。などを、肌で感じとらせる。

(第6時) 実験の考察

関数の変化のようすを、グラフに表す。式表示ができるかを考える。電卓を用いて、

区間変化率を計算する。などにより、お湯をわかす現象について考察する。

§ 5. 「関数」指導後の問題の所在——再び、子どもの認識から

(第6時)の実験の考察のときに、「関数の授業前とくらべて、関数についての考え方に変化があったか。また、とくに、実験についての態度、感想、批判などを述べよ」という作文をさせた。§ 2で紹介した10人の子どもの作文を順に紹介しながら、子どもの認識の変化のあとをたどってみる。(原文のまま)

A: 頭の中でばかり考えていたのでは、常識はずれな答えや考え方ができたりするがこのような実験をしておいたら、身をもっておぼえたり、新しいことを考えたりすることができるので、いいことだったと思います。ただ、このプリントを仕上げるときに、区間変化率の平均をもとめました。この実験においては、これはあまり意味のあるものではなかった。しかし、これをもつと小さくわけて出した区間変化率の平均ならば、その変化がよくわかったと思う。ここで出したものは、単に増加、一定、減少しかわからなかった。また、この実験をしているとき、全体的にさわがしかったようだった。

B: 中学校の頃の関数というものの考え方では、関数というものは、すっきりした式に表すことのできるものという感じがあった。中学の時の線香の実験もきれいな式に表すことができた。それが今度の実験などで、そのようなものだけでないことがわかった。その点今回の実験はよかったと思う。このような実験を数学の時間に行うことは少ないのもっと真剣にやらなければならなかったと思う。しかし、化学や物理ではなくて、数学だということが頭に残っていたためか決してまじめとはいえなかった。それで、ところどころ測定を忘れていたところがある。それでグラフはかけたが区間変化率はところどころ抜けてしまった。

C: 関数に対する考え方は別に変化していないと思う。というのは、関数というのは、やっぱり日常生活に深いかかわりがあると思っているからだ。たとえ、実験をやったとしても、この実験を風呂の湯を沸かすことと同じだと考えてしまう。だから、僕の関数に対する考え方は変わっていないだろう。そして、授業中の態度だが、大体においてあれで良かったと思う。たまたま、沸点の93℃というのにおどろいたので、まわりにきいてまわったことが、ちよつとわかったかなと思う。でも、一応、僕は真剣にやったつもりだ。実験の結果があんまり良くなかったけど……。最後に、批判、感想だが、実際この結果は見るからに無残なものだ。だって、区間変化率がいろいろと変わるから。こんなじや考察しても結論がでないの、非常に困る。うちの班の人はどういう風にしたか知りたいものだ。でもこの結果じやねえ、どないにもしようがないんじゃないかと思ってしまうわけで、いったいどうすればいいのだろう。一応結論は出そうと思ったけど。どこでこういう風になったのか考えて見ると、ある程度最初の内は順調に温度が上がっていった。ところが70℃を越えたあたりから、だんだんと温度が上がりにくくなっていった。ということは、まわりの温度が低すぎて高くなるにつれて、湯の熱が空気に伝わる量が増えたということも考えられる。そして、下がる時、最初ははやいが、途中で気温との差がへってきたら、水温が下がりにくくなった。まわりに熱がにげださなくなったからだろう。あと一回実験すればわかる

かも知れないのだが、それはおいといて。自分は自分なりに実験をした。これでいいだろう。

- D：関数とは、数学の勉強だけに出てくるものではなく、身のまわりにたくさん表れていることがわかる。例えば、今日の実験でやかんの中の水の温度も1次関数になっていたのである。このように、身近に感じられてきた。このように効果のある実験だったが、何んとなくものたりない。それは、あまりにも実験が単純であったからだ。だから、少し気抜けもしていたが、実験態度はそうふざけることもなく行った。ただ、温度計がぐるって100℃をこえたのには驚いた。温度を急激に上げすぎたのかも知れないが。
- E：実験中の態度はわるいとは思えないが、先日やつた化学の実験に比べて非常に簡単だったので、少し気楽になりすぎたところもある。今、考えるに、一体何のための実験だったのかと思う。結果が楽に予想でき、処理しやすいものだから、別にこう「関数」というものを意識せずにしてしまった。実験というのはする度に何か新しい発見があってこそおもしろいのだが、今日、何も発見しなかったのでつまらなかった。関数という意識もわかかなかった。この実験は自分達で実験内容を決めるべきではなかったかと思う。
- F：実験中の態度はよくて、みんなかなりやっていたと思う。それから関数についての考え方は前とあまり変わらない。なぜならこういうことのグラフ化や、又、区間変化率という言葉は知らなくてもグラフの傾きということだけでだいたいつかめていたからだ。それから、ぼくは、数学とは頭の中で考える部分がかなり多いから、このような実験は理科の方に回してやらないと、これから出て来る関数には、現実の世界に置きかえることがむづかしいことが多いと思うので、ぼくとしては、この実験は、関数の具体化には役だつと思うが、具体化しすぎるのではないかと思う。
- G：始めに作文を書いた時とそんなに変わったと感じないけれども、実験したことによって、体験をもって感じる事ができたので、関数の関係が本当にそうなるんだなあと感じる事が少しできました。実験中の態度は、友達としゃべったりして時間になったら温度をはかって記録するという事だけで、その時間を有効的に使えたと思えません。実験はむづかしいものではなかったので数値もうまくでよかったと思います。けれどももう少し変わった実験を試みたかったという気持ちもあります。
- H：私が前に出したプリントの中であげた実験は、物質がふえるような物だけで、グラフにかけば、右上りの直線またはそれ+〔プラス〕平行線(x軸に)だけの物で、順に下がってくるような関数は考えていませんでした。しかし、関数に関する根本的な考え方はまだ変化していませんが、内容という点では、変化があったように思います。この実験は化学的にはたいくつなものでした。ですから記録をとる1分間のあいだには、少しおしゃべりしたようなところもありましたが、まじめに失敗もせずにできたと思います。この実験は前に書いたようにあまりにも簡単でたいくつなものでしたが、関数を知る点では役にたち、私自身も楽しめました。
- I：この実験を通して関数というものは、ある限られた範囲内(定義域、値域)での物事と物事(この場合は経過時間と水温)の規則的な結びつきであることが実感された。また、その規則は条件の変化(この場合、強熱、弱熱)によって著しく変化し、区間

変化率や規則を表す式を求めることは、その関数の置かれた状態を知るうえで重要である。また、関数においてはその結びつきを一般化するべきであり、なるべく広い視野から見て、簡潔な規則を見出す必要があることを上のグラフを書きながら知った。ごく細部にまで目を配るのも必要なときがあるかも知れないが、上のグラフのような場合、そのように細かいことにこだわっていると、それらを貫く大きな流れには気づかないだろう。この実験は、関数を知るうえで大切であったのだが、実験中はそのことがわかりにくく、あまりに簡素な実験であったので、それほど真剣にできたとは思われないが、加熱のようすを変えたことは、後で考える時に関数の変化をつかむ手がかりとなり、うまくできたと思う。これは、何か条件の変化を与えてみようとする事なので、数学的な考え方をする上で大切なことだと思ふ。このような実験からでも、数学的な考えが得られる。そう思うと僕は、感激し、日常のでき事にも数学的な目を向けてみたいと思ふ。

J：いままで関数というのは、ばく然と一意対応するものとだけ思っていたような感じであったが、数学的に考えて行くとなんとなくうまく整理していくことができるので関数とはやはり数学的に考えた方が都合のいいというように思えてきた。

(第5時)の実験は、結果が予想できるほど簡単な実験であることはどの子どもも認めている。単に測定するだけでなく、数学として、関数としてみると、いろいろな感じ方がでてくる。これまで漠然と関数を見てきたのが、実験の中で実際に体験することで関数をより確実に把握できるようになった子どもが多くでてきている。子どもAは、関数のグラフを上手に読むことによって、関数の特徴がわかることを指摘したが、そのことが、実験によって、明確になったと考えている。子どもBは、関数は式に簡単に表わせるもの、単に一意対応であるというわりきっていたのが、今回の授業・実験によって、いろいろな変化をする関数があったことを思い出している。子どもCは、関数と日常生活のかかわりを強調していたが、今回の授業の展開が、関数と日常生活のかかわりから出発したので、とくに関数についての考え方の変化はなかったようである。現象に対する関心が深いだけに、2分間ごとの区間変化率の増減が激しかったので、その原因を化学的・物理的に考察しようとしていた。子どもDは、関数の例を日常生活からあげているが、やや作作的であった。今回は、やかんのお湯などの自然現象にまで視野を広げてきている。子どもEは、関数の例を日常生活からあげているが、関数についての本人の感想はなく、今回も、関数についての考え方が変わったのかどうかはうかがえなかった。しかし、実験に対する感想は鋭いものがある。実験することによって新しいものを発見する喜びがあるが、今回のお湯をわかす実験では何もえられなかったと述べている。このことばは心して反省したいと考えている。子どもFは、関数と現象とのかかわりを認めつつも、高1の今の時点(6月)では、かなり抽象的にものごとを考えられるようになってきているので、具体的に考えるよりも、抽象的に考えることを好むと主張している。この認識の変化にも注意する必要がある。子どもG、Hは、実験によって関数を肌で感じることができ、いろいろな関数がありうるのだということを知ったと述べている。このような認識の変化が、平均的な子どもの認識かと思われる。子どもIは、漠然と1次関数・2次関数の例をあげていたのが、今回の授業・実験によって、関数と定義域の関係、対応の規則性、区間変化率の意味などを、非常に

深く把握している。ここまで関数についての認識を深めうる子どもは多くはないと思われる。子どもJは、ただ漠然と反比例する関数の例をあげ、関数は一意対応ぐらいに考えていたが、実験のデータの処理にあたって、数学的に考えることによって、処理がすっきりすることを強調している。

上述の子どもの認識の変化をまとめると、

- ① 関数と身のまわりの現象が深くかかっていることを実験によって確認できた。
- ② 実験によって、関数というものを肌で感じられるようになった。
- ③ 関数は、漠然と一意対応であるというのではなく、もう少し結びつきのあるものである。
- ④ 関数の変化のようすはいろいろあり、区間変化率もいつも一定とはかぎらず、いろいろな関数がありうる。
- ⑤ お湯をわかす実験そのものは、結果が予想できる程に簡単であり、実験中の態度も騒しかった。つまらなく、新しいものが発見できなかった。
- ⑥ 具体的な関数を考えるよりも、抽象的なものを考えたい。

さらに、子どもの多くは、お湯をわかす実験における関数の数式化を試みたが、区間ごとに1次関数で近似しようとしたため、式の数が多くなり、数式化をあきらめていた。

§ 6. 「関数」の指導の実際Ⅱ——授業実践から

式表示することに重点をおかない関数についての指導は§ 4で述べた。§ 5の子どもの認識からあきらかになったことは、ある程度の抽象化を望んでおり、さらに、身のまわりの現象と関数のかかわりを追求しようとする、実際は知らないために関数の式表示ができないのではないかという疑問もでてきたことである。そこで、第2次以降では、式表示された関数について、変化のようすを解析していくことにした。授業の展開にあたっては、関数といえはすぐグラフというパターンを形式的にすすめることをさけ、グラフは変化のようすが解析された結果を視覚化したものというように位置づけた。

◎第2次 有理関数 (6時間)

(第1次) 1次関数

問 (例1)で、線香が燃えつきるのは何分後と考えてよいか。

区間変化率は -0.5 で、ほぼ一定であるとしてよいかから

$$s = -0.5t + 11.4$$

燃えつきるのは $s = 0$ のときだから $-0.5t + 11.4 = 0 \quad \therefore t = \frac{114}{5} = 22.8$
(答) 22.8分後

自変数 x についての1次式 $ax + b$ ($a \neq 0$) で表される関数を x の1次関数という。

(x の1次関数 $y = ax + b$ ($a \neq 0$) の性質)

- ① 定義域は 実数全体の集合 R
- ② 値域は 実数全体の集合 R

- ③ 対応は 1対1である。
 $(\because ax_1 + b = ax_2 + b \text{ とすると } a(x_2 - x_1) = 0 \text{ より } x_2 = x_1)$
- ④ 定義域全体で、関数は連続的な変化をする。
- ⑤ $a > 0$ のとき 関数は単調に増加する。
 $a < 0$ のとき 関数は単調に減少する。
 (証) $f(x) = ax + b$ とする。

$$x_1 < x_2 \text{ のとき } f(x_2) - f(x_1) = a(x_2 - x_1)$$

$$a > 0 \text{ ならば } f(x_2) - f(x_1) > 0 \quad \therefore f(x_1) < f(x_2)$$

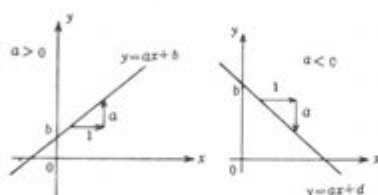
$$a < 0 \text{ ならば } f(x_2) - f(x_1) < 0 \quad \therefore f(x_1) > f(x_2)$$

- ⑥ $x_1, x_2 \in \mathbb{R}$ に対して

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{a(x_2 - x_1)}{x_2 - x_1} = a \quad (\text{一定})$$

よって、区間変化率は常に a で一定である。

- ⑦ 関数のグラフは、傾き a , y 切片 b の直線。



(第2時) 2次関数

(例4) ある物体をビルの屋上から落とした。(自由落下)

関数 $f: \{t \mid t \text{ は経過時間}\} \rightarrow \{y \mid y \text{ は落下距離}\}$

とすると、関数 f は $y = 4.9t^2$ で表される。

(例5) ある物体を地上より初速 3 m/秒 で鉛直方向に投げあげた。

関数 $f: \{t \mid t \text{ は経過時間}\} \rightarrow \{y \mid y \text{ は物体の地上よりの高さ}\}$

とすると、関数 f は $y = 3t - 4.9t^2$ で表される。

自変数 x の2次式 $ax^2 + bx + c$ ($a \neq 0$) で表される関数を x の2次関数という。

〈 x の2次関数 $y = ax^2$ ($a \neq 0$) の性質〉

- ① 定義域は実数全体の集合 \mathbb{R}
- ② 値域は $a > 0$ のとき $\{y \mid y \geq 0\}$, $a < 0$ のとき $\{y \mid y \leq 0\}$
- ③ 対応は 多対1
- ④ 連続的な変化
- ⑤ 区間変化率:

$$x_1 > x_2 \text{ とすると } \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{ax_2 - ax_1}{x_2 - x_1} = a(x_2 + x_1)$$

区間が原点付近では区間変化率の大きさは0に近く、原点から遠ざかると区間変化率の大きさは次第に大きくなる。

- ⑥ 変化の状態:

$$a > 0 \text{ のとき } 0 \leq x_1 < x_2 \text{ ならば } \frac{\Delta y}{\Delta x} > 0$$

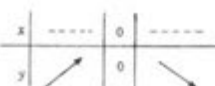
よって $x \geq 0$ で 単調に増加する。

$$x_1 < x_2 \leq 0 \text{ ならば } \frac{\Delta y}{\Delta x} < 0$$

よって $x \leq 0$ で 単調に減少する。

$$a < 0 \text{ のとき } 0 \leq x_1 < x_2 \text{ ならば } \frac{\Delta y}{\Delta x} < 0$$

よって $x \geq 0$ で 単調に減少する。



$x_1 < x_2 \leq 0$ ならば $\frac{\Delta y}{\Delta x} > 0$
 よって $x \leq 0$ で 単調に減少する。

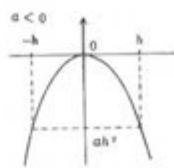
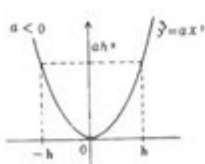
⑦ 関数のグラフ:

y 軸に関して対称な放物線で

$a > 0$ ならば 上に凸

$a < 0$ ならば 下に凸

頂点は 原点 $(0, 0)$ である



(第3時) 2次関数Ⅱ

問 $y = 2x^2 - 4x + 5$ の性質を調べ、関数のグラフをかけ。

- ① 定義域は 実数全体の集合 \mathbb{R}
- ② 値域は この段階ではわからない。 [⑤より $\{y \mid y \geq 3\}$]
- ③ 対応表:

| | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|---|---|---|----|----|
| x | -3 | -2 | -1 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| y | 35 | 21 | 11 | 5 | 3 | 5 | 11 | 21 |

④ 区間変化率:

$$x_1 < x_2 \text{ とすると } \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{(2x_2^2 - 4x_2 + 5) - (2x_1^2 - 4x_1 + 5)}{x_2 - x_1} = 2(x_2 + x_1) - 2$$

対応表を参考にするると、区間が $x=1$ の付近では区間変化率の大きさは 0 に近く、 $x=1$ から遠ざかると区間変化率の大きさは次第に大きくなる。

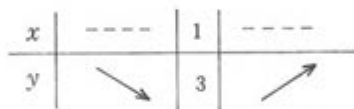
⑤ 変化の状態

$1 \leq x_1 < x_2$ ならば $\frac{\Delta y}{\Delta x} > 0$

よって、 $x \geq 1$ で 単調に増加する。

$x_1 < x_2 \leq 1$ ならば $\frac{\Delta y}{\Delta x} < 0$

よって、 $x \leq 1$ で 単調に減少する。



⑥ 対称性:

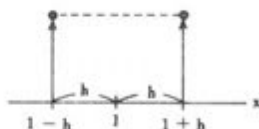
対応表より $x=1$ に関して y の値は対称であると予想される。

$$f(1+h) = 2(1+h)^2 - 4(1+h) + 5 = 2h^2 + 3$$

$$f(1-h) = 2(1-h)^2 - 4(1-h) + 5 = 2h^2 + 3$$

$$\therefore f(1-h) = f(1+h)$$

すなわち $f(x)$ は $x=1$ に関して対称な値をとる。



⑦ 関数のグラフ:

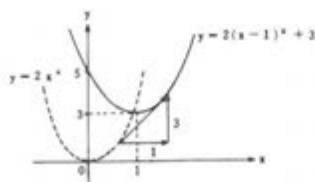
⑥において、 $1+h = x$ とすると $h = x-1$ $\therefore f(x) = 2(x-1)^2 + 3$
 $1-h = x$ とすると $h = 1-x$ $\therefore f(x) = 2(x-1)^2 + 3$

| | | | | | | | | |
|------------|----|----|----|---|---|---|----|----|
| x | -3 | -2 | -1 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| y | 35 | 21 | 11 | 5 | 3 | 5 | 11 | 21 |
| $2(x-1)^2$ | 32 | 18 | 8 | 2 | 0 | 2 | 8 | 18 |
| $2x^2$ | 18 | 8 | 2 | 0 | 2 | 8 | 18 | 32 |

↑+3 ↑+3 ↑+3 ↑+3 ↑+3 ↑+3 ↑+3 y軸方向に3
 x軸方向に1

上の考察より、 $y = 2(x-1)^2 + 3$ のグラフは、 $y = 2x^2$ のグラフを x 軸方向に1、 y 軸方向に3だけ平行移動した放物線であり、

軸は 直線 $x = 1$ 、頂点の座標は $(1, 3)$ である。



(第1時)、(第2時)は中学校で学んだことの復習である。グラフは、変化のようすの解析の結果として指導している点が従来と異なる点である。(第3時)は、抽象的ではあるが、一般の2次関数の変化のようすを解析することを試みた。2次関数の対称性に着目して、2次式の平方完成形を導いた。その結果は、子どもの多くは平行移動よりも対称性に着目してグラフをかいていた。

これ以後の関数の指導では、分数関数 $y = \frac{cx+d}{ax+b}$ については、漸近線を利用したが、指導の展開については、別の機会に述べることにする。また、区間変化率を調べることは複雑になるので、これ以後では行なわなかった。

§ 7. おわりに——今後の課題

小・中・高を通して『関数』の指導の目標は、身のまわりの現象の変化の解析であると考えている。この小論では、中・高の接点に焦点をあてて論じてきたが、子どもの認識からすれば、関数と身のまわりの現象とのかかわりは、中学校で十分に学んできているといえる。それを受ける高等学校では、関数で議論される内容を理論的・体系的に展開することの必要性は § 4 で論じた。その際、作業や実験によって、直接、身のまわりの現象から関数を抽出することは重要であることは、多くの子どもによって認められている。しかし、高等学校で扱う実験によっては、結果が予想でき、新しい発見をもたらさないものならば、それはたいくつなものであり、時間つぶしの遊びにすぎず、むしろ、具体よりも抽象を志向させることにならざるをえない。ここに、高等学校でも実験するにたえるような関数の実験を開発することが今後の課題といえる。

関数と日常生活とのかかわりは重要であるという認識の上になって、第1次・第2次の指導は展開されてきた。指数関数では微生物の増殖現象、三角関数ではクランク軸による円運動と直線運動の関係から導入していったが、無理関数と対数関数は、逆関数の性質を用いて抽象的に導入してしまった。このように関数の指導がすすむと、身のまわりの現象とのかかわりがうすれていくのは、それだけ関数が理論的に展開される上で、やむをえないことともいえる。そこで、第二の課題は、いろいろな式表示された関数を知った段階で、再び身のまわりの現象から関数を抽出して、その性質を調べたり、身のまわりの現象に関数を用いて説明したりするには、どのような作業や実験をするのがよいかということである。

第三の課題としては、高等学校の必修の数学としての『関数』はどのような内容がふさわしいかということである。これは、第二の課題が解決できれば、かなりの部分があきらかにされると考えている。

最後に、この小論では、中・高の接点の『関数』の内容はあきらかにできたが、高等学

校独自の『関数』の内容は、現行の教科書と大差なく、とくに、必修の数学の内容についてはその糸口を論じたにすぎない。高等学校の必修の数学は、それ自身が小・中と続いてきた数学の完成であるとともに、次への数学の入門であるという性格をもっている。『関数』についていえば、身のまわりの現象から関数を取りだし、理論化することによって、質の高い立場で現象を見直すとともに、微積分や微分方程式に発展させることによって、より高次の認識へと変えていくような展望をもった内容がしくまれる必要があるということである。これらのことは、これからの実践によってあきらかにしていきたいと考えている。

アメリカ合衆国における初等幾何への入門教材

(カリフォルニア州, サクラメント高校の補助教材より)

ひら ばやし ひろ あき
平 林 宏 朗

はじめに

ここに記載する初等幾何への入門教材は, アメリカ合衆国, カルフォルニア州, サクラメント市, サクラメントハイスクールの Ms. Marion Phillips から提供されたものである。すなわち, 彼女が同校で使用した初等幾何補助教材の一部であり, いわば, 初等幾何の教科書への手引とでも言えよう。我々が教科書の或る章への導入にあたって, 補助的に使用する教材と全く同種のものである。

サクラメント高校は他の多くのアメリカの高校と同様に, Freshman, Sophomore, Junior, Senior の 4 学年に分れている。また, 日本の高校と異り, 単位取得が完全な選択制となっているために一概には言えないが, この教材で学ぶ生徒の学年は, Freshman, 又は Sophomore, すなわち, 日本でいえば中学三年生又は高校一年生に相当するとのことである。

この補助教材を通して, アメリカ合衆国における初等幾何学への導入がどのような内容で, 如何にして行われているかを, 概ね理解できよう。また, これと我が国における初等幾何学への導入教材との類似点, 相異点を比較観察するのも意義あることと思われる。

内容紹介 (EXERCISES の一部も含む)

REVIEW OF PROPERTIES OF REAL NUMBERS.

In this section, we will assume that a , b , c , and d are real numbers.

Definitions :

Absolute value : If $a \geq 0$, $|a| = a$; if $a < 0$, $|a| = -a$.

($|a|$ is the greater of a and its opposite.)

Subtraction : $a - b = a + (-b)$

(a minus b is the sum of a and the opposite of b .)

Division : $a \div b = a \cdot \frac{1}{b}$

(a divided by b is the product of a and the reciprocal of b .)

Properties of operations on real numbers :

Operations of addition :

1. Closure property $a + b$ is a unique real number.
2. Commutative property $a + b = b + a$
3. Associative property $(a + b) + c = a + (b + c)$
4. Additive property of zero $a + 0 = a$
(Zero is the identity element for addition.)
5. Property of additive inverse $a + (-a) = 0$
(The opposite of a number is its additive inverse.)

Operations of multiplication :

1. Closure property $a \cdot b$ is a unique real number
2. Commutative property $a \cdot b = b \cdot a$
3. Associative property $(a \cdot b) \cdot c = a \cdot (b \cdot c)$
4. Multiplication property of one $a \cdot 1 = a$
(1 is the identity element for multiplication.)
5. Property of multiplicative inverse $a \cdot \frac{1}{a} = 1$
(The reciprocal of a number is its multiplicative inverse.)

Distributive property $a(b + c) = ab + ac$
(Multiplication distributes over addition.)

Properties of equality :

1. $a = a$ Reflexive property
2. If $a = b$, then $b = a$. Symmetric property
3. If $a = b$ and $b = c$, then $a = c$. Transitive property
4. If $a = b$, then $a + c = b + c$. Addition property
5. If $a = b$, then $a - c = b - c$. Subtraction property
6. If $a = b$, then $ac = bc$. Multiplication property
7. If $a = b$, then $\frac{a}{c} = \frac{b}{c}$, ($c \neq 0$) Division property

Properties of inequality :

[Definition of inequality: $c > a$ (c is greater than a) iff (if and only if) there is a positive number b such that $c = a + b$.]

If $c > a$, then $a < c$ (a is less than c)

Symbols: \geq (is greater than or equal to)

\leq (is less than or equal to)

1. If $a < b$ and $b < c$, then $a < c$. Transitive property
2. If $a < b$, then $a + c < b + c$. Addition property
3. If $a < b$, then $a - c < b - c$,
but $c - a > c - b$. Subtraction property
4. If $a < b$ and $c > 0$, then $ac < bc$,
but if $c < 0$, then $ac > bc$. Multiplication property

5. If $a < b$ and $c > 0$, then $\frac{a}{c} < \frac{b}{c}$, but

if $c < 0$, then $\frac{a}{c} > \frac{b}{c}$: Division property

Order property :

Exactly one of these is true : $a < b$, $a = b$ or $a > b$.

Zero product factor property :

If $a \cdot b = 0$, then $a = 0$ or $b = 0$ or both are zero.

Substitution principle :

If $a = b$, then a may be replaced by b in any equation or inequality.

(Exercises 1)

SET NOTATIONS AND RELATIONSHIPS.

The idea of *set* is used when considering a group of objects which have certain properties in common.

Examples : The set of counting numbers: $\{1, 2, 3, 4, \dots\}$

The set of whole numbers: $\{0, 1, 2, 3, \dots\}$

The set of integers, $\{\dots, -3, -2, -1, 0, 1, 2, 3, \dots\}$, might be described as the numbers which can be found by beginning with 1 and repeatedly adding or subtracting 1.

A set can be denoted as a single letter, by a rule or by a roster (a list).

We must know what set the letter stands for.

Examples:

| <i>Letter</i> | <i>Rule</i> | <i>Roster</i> |
|---------------|------------------------------------|--|
| S | Solution set of equation : $x^2=4$ | $\{-2, 2\}$ |
| I | The set of integers | $\{\dots, -3, -2, -1, 0, 1, 2, 3, \dots\}$ |
| A | The set of even integers | $\{\dots, -6, -4, -2, 0, 2, 4, 6, \dots\}$ |
| B | The set of positive odd integers | $\{1, 3, 5, 7, \dots\}$ |

Some language of sets :

$3 \in B$ "the number 3 is an element of the set B"

$B \subseteq A$ "the set B is a subset of the set A"; that is, each element of B is also an element of A.

A *finite* set is a set which has a limited number of elements.

An *infinite* set has an unlimited number of elements. If you try to count the elements, the count will never end.

$\{-2, 2\}$ and $\{1, 2, 3, 4, 5\}$ are finite sets but $\{1, 2, 3, \dots\}$ is an infinite set.

Two sets are *equal* sets iff each set contains every element of the other.

$C = D$ iff $C \subseteq D$ and $D \subseteq C$.

Two sets are *equivalent* sets if their elements can be put into a one-to-one correspondence.

Examples of equivalent sets :

| | |
|--|--|
| a) $\{c, a, t\}$ | b) $\{1, 2, 3, 4, 5, \dots\}$ |
| $\begin{array}{c} \downarrow \downarrow \downarrow \\ \{1, 3, 9\} \end{array}$ | $\begin{array}{c} \downarrow \downarrow \downarrow \downarrow \downarrow \\ \{2, 4, 6, 8, 10, \dots\} \end{array}$ |

We are concerned with sets of points in Geometry.

- (a finite number of points)
- (an infinite number of points)

The *union* of two sets, A and B, written $A \cup B$, is the set of elements which are either in A or in B or in both.

The *intersection* of two sets, A and B, written $A \cap B$, is the set of elements which are in both A and B.

| Set: | <u>A</u> | <u>B</u> | <u>$A \cup B$</u> | <u>$A \cap B$</u> |
|------------|-----------|-------------|------------------------------|------------------------------|
| Example 1. | {4, 6, 8} | {12, 8, 4,} | {4, 6, 8, 12} | {4, 8} |
| 2. | {1, 3, 5} | {1, 3} | {1, 3, 5} | {1, 3} |
| 3. | | | | |



| | | | | |
|----|----------------|----------------|------------------|--------|
| 4. | $G = \{1, 3\}$ | $H = \{2, 4\}$ | $\{1, 2, 3, 4\}$ | ϕ |
|----|----------------|----------------|------------------|--------|

ϕ or $\{ \}$ denotes the *empty set* or the *null set* for it contains no elements. G and H are called *disjoint* sets since they have no elements in common.

POINTS, LINES and PLANES

To avoid circularity (discuss in class), the geometric terms *point*, *line* and *plane* are not defined. These are the undefined terms of geometry.

We define any other geometric figures using sets of points, lines or planes.

A point has no size ; it has position only.

A line has no width ; it has no end point.

A plane extends indefinitely in a flat surface.

Assumed relationships between points and lines :

- a. A line is a set of points and contains at least two distinct points.
- b. Two distinct lines intersect in at most one point.
- c. Every pair of distinct points lies in one line.

Through any two points there is exactly one line. \iff Two points determine a line.
 Definition : Three or more points are called *collinear points* if they all lie on the same line.

Assumed relationships between points and planes :

- d. A plane is a set of points and contains at least 3 points which are not collinear.
- e. For any three non-collinear points, there is exactly one plane which contains them.

Definition : Three or more points are called *coplanar points* if they all lie in the same plane.

Assumed relationships between lines and planes :

- f. If two distinct points are in a plane, the line determined by these points is a subset of the plane.
- g. If two distinct planes intersect, their intersection is a line.

These assumptions (a — g) are also called postulates or axioms.

The Ruler Postulate

The points of a line can be put in one-to-one correspondence with the real numbers. Any desired point may be matched with zero. The *distance between two points* having coordinates a and b is $|a - b|$.

- a. Distance is never negative ; $AB \geq 0$.
- b. The distance between two points is zero iff the points are identical ; $AB = 0$ iff $A = B$.
- c. The distance between two points is unaffected by the order in which they are considered ; $AB = BA$. (Note, no bar over letters.)

Betweenness Property

If A , B and C are three collinear points and $AB + BC = AC$, then B is between A and C .



A *line segment* with endpoints A and B (\overline{AB}) is the set of points whose elements are A and B and all points between A and B . The line segment \overline{AB} is a subset of the *line* containing A and B . The length of a line segment is the distance between its endpoints.

A *ray* with endpoint A and containing B (\overrightarrow{AB}) is the union of \overline{AB} and all points C such that B is between A and C .



\overrightarrow{AB} and \overrightarrow{AC} are opposite rays iff A is between B and C .



A *good definition* of a word or phrase must include only words defined previously, commonly understood, or purposely undefined. It must also describe accurately the idea being defined. It must include no more information than is necessary for an accurate description.

Consider the merit of these statements :

1. The midpoint of a segment is the middle point of the segment.
2. The midpoint of a segment is a point between the endpoints.
3. The midpoint M of a segment \overline{AB} is the point M in \overline{AB} between A and B , the same distance from A and B , with $AM = MB$.
4. The midpoint of a segment AB is the point M in \overline{AB} such that $AM = MB$.
5. Point M is the midpoint of \overline{AB} iff M is in \overline{AB} and $AM = MB$.
6. The midpoint of a segment is a point in the segment equidistant from its endpoints.

Class will discuss the merits of these statements as definitions.

For #6 we must define *equidistant*. When a point is the same distance from two or more points, we say that it is *equidistant* from those points.

A definition is reversible. Reverse of #6: A point in a segment equidistant from its endpoints is the midpoint of the segment.

Some Essential Definitions :

Space: The set which consists of all possible points.

Collinear Points: A set of points all of which lie on the same line.

Coplanar Points: A set of points all of which lie in the same plane.

Betweenness of Points: Point B is said to lie between points A and C if and only if all three points are distinct points on a line and $AB + BC = AC$.



Line Segment: For any two points, A and B, line segment AB (\overline{AB}) is the set of points containing A, B, and all points between A and B. (Usually referred to as a *segment*.)



Length of segment: The length of a segment is the distance between its endpoints. (Designated by writing AB or BA.)

Equal Segments: Two segments are said to be equal if they have the same length.

Midpoint of a segment: The midpoint of a segment is the point which divides the segment into two equal segments.

Bisector of a Segment: A line or segment which passes through the midpoint of another segment is the bisector of that segment.

A plane can also bisect a segment. *

Ray: Ray AB (\overrightarrow{AB}) is the union of segment AB and the set of all points, C, such that B lies between A and C. A is called the endpoint of the ray.



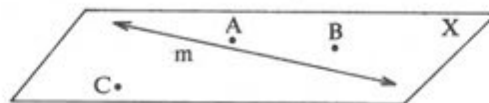
Opposite Rays: Rays AB and AC are called opposite rays if A, B, and C lie on a line and A is between B and C.

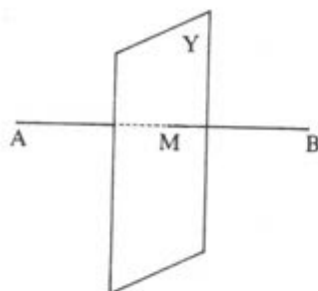
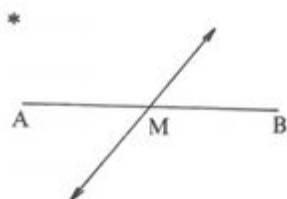


Angle: An angle is the union of two rays which have the same endpoint. The two rays are the sides of the angle, their endpoint the vertex.

Symbol for angle: \sphericalangle

Half-plane: Any line of a plane separates the plane into two half-planes. The line itself is called the edge and is considered to be a part of each half-plane.



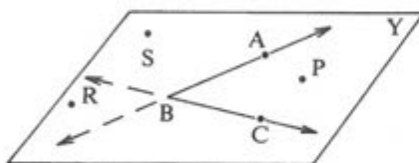


More Definitions :

P lies in the *interior* of $\sphericalangle ABC$ in this figure.

A, B, and C lie on the angle.

R and S lie in the *exterior* of the angle.



To each angle there is associated a unique real number called its *measure*.

The unit of measure we will use is the degree. ($^{\circ}$)

Acute angle : an angle with a measure less than 90° .

Right angle : (rt. \sphericalangle) : an angle with a measure of 90° .

Obtuse angle : an angle with a measure greater than 90° but less than 180° .

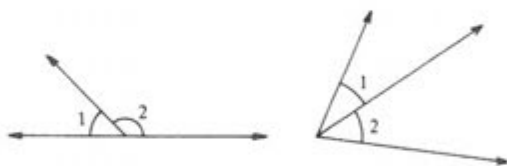
Straight angle (st. \sphericalangle) : an angle whose sides are opposite rays.

The measure of a straight angle is 180° .

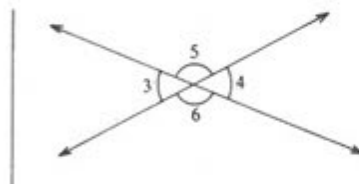
Reflex angle : an angle whose measure is greater than 180° but less than 360° .

Adjacent angles : (adj. \sphericalangle s) : two angles in the same plane which have a common vertex and a common side but have no interior points in common. The rays not common to both angles are called the exterior sides of the two adjacent angles.

Vertical angles (vert. \sphericalangle s) : angles whose sides form two pairs of opposite rays.



In each figure,
 $\sphericalangle 1$ and $\sphericalangle 2$ are adjacent angles.



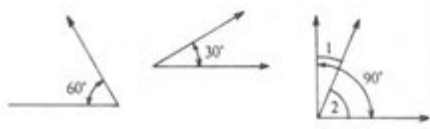
$\sphericalangle 3$ and $\sphericalangle 4$ are vertical angles.
 $\sphericalangle 5$ and $\sphericalangle 6$ are vertical angles.

Complementary angles : *two* angles the sum of whose measures is 90° .

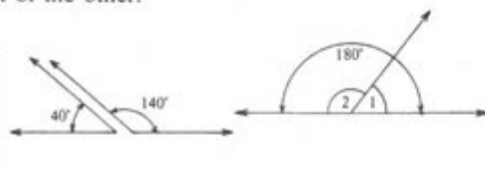
Each angle is called the complement of the other.

Supplementary angles : *two* angles the sum of whose measures is 180° .

Each angle is called the supplement of the other.



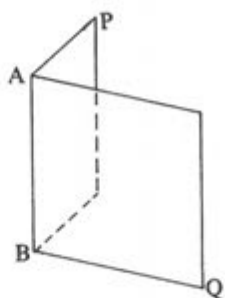
Pairs of complementary angles.



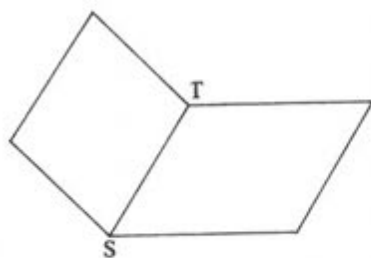
Pairs of supplementary angles.

Equal angles : angles which have the same measure.

Dihedral angle : the union of two half-planes with the same edge. Each half-plane is called a *face*.



Dihedral angle P-AB-Q



Dihedral angle X-ST-Y

Exercises 1

Fill in the blank with one of the symbols $<$, $=$, or $>$ to make each a true statement :

1. $5 + 3$ _____ $5 - 3$

2. x _____ $x + 10$

3. 3^4 _____ 2^5

4. -14 _____ $\frac{-28}{2}$

In these use the symbols \leq , \geq or $=$:

5. If $a \geq b$, then b _____ a .

6. $\frac{3}{-9}$ _____ $\frac{-1}{3}$

7. $\frac{1}{3}$ _____ $-\frac{1}{3}$

8. $-5 \leq x$ and $x \leq 3$, therefore, -5 _____ 3

Name the property illustrated by each statement :

9. $7 + y = y + 7$ _____

10. $(17 \cdot 15) \cdot 12 = 17(15 \cdot 12)$ _____

11. If $32x = 64$, then $x = 2$. _____

12. $5 + (-5) = 0$ _____

13. $6x + 3y = 3(3x + y)$ _____

14. $16 \cdot \frac{1}{16} = 1$ _____

15. If $x - 2 = 19$, then $x = 21$. _____

16. If $64 = 32x$, then $32x = 64$. _____

17. If $x > 5$ and $5 > y$, then $x > y$. _____

18. If $a < b$, then $-3a > -3b$. _____

19. If $y < -4$, then $y - 1 < -4 - 1$ _____

20. $3 < 5$; therefore, $9 - 3 > 9 - 5$ _____

Express each number without using the absolute value symbol :

21. $|-7| =$ _____

22. $|3| + (-3) =$ _____

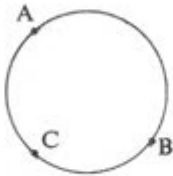
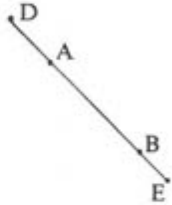
23. $|-8| + |8| =$ _____

24. If $a < 0$, $|a| =$ _____

25. $|-9 - 7| =$ _____

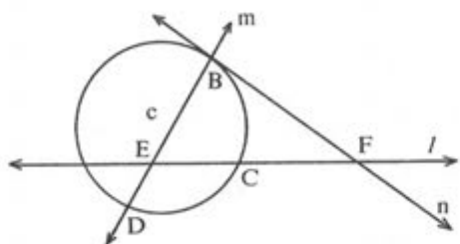
Exercises 2

Fill in the last two columns of the table :

| Set | A | B | $A \cup B$ | $A \cap B$ |
|-----|--|---|------------|------------|
| 1. | $\{-3, 0, 3, 6\}$ | $\{-3, 3\}$ | | |
| 2. | $\{6, 7, 8, 9\}$ | $\{9, 8, 7, 6\}$ | | |
| 3. | $\{2, 6, 10, 14\}$ | $\{3, 9, 15\}$ | | |
| 4. | <p>(Draw the figures.)</p>  |  | | |
| 5. | <p>x is an integer</p> $\{x : x > 5\}$ | $\{x : x < 8\}$ | | |
| 6. | <p>x is a real number</p> $\{x : x > 5\}$ | $\{x : x < 8\}$ | | |
| 7. | <p>The set of all people who are not underweight.</p> | <p>The set of all people who are not overweight.</p> | | |

Suppose $A = \{1, 2, 3\}$, $B = \{1, 3, 6\}$, and $C = \{1, 4, 7\}$. Find :

8. $A \cap B =$ _____
9. $B \cap C =$ _____
10. $A \cup B =$ _____
11. $(A \cap B) \cap C =$ _____
12. $\{1, 2\} \cap$ _____
13. $A \cap (B \cap C) =$ _____
14. Is A a subset of B? _____
15. Are A and B equal sets? _____
 equivalent sets? _____
 disjoint sets? _____
 finite or infinite? _____



Refer to the figure above in which c is a circle, l , m , and n are lines, A , B , C , D , E , and F are points. Find each of the following:

- | | |
|---------------------------|--|
| 16. $c \cap l =$ _____ | 17. $\{l \cup n\} \cap m =$ _____ |
| 18. $n \cap c =$ _____ | 19. $\{l \cap n\} \cup \{l \cap m\} =$ _____ |
| 20. $l \cap n =$ _____ | 21. $c \cap \{l \cap m\} =$ _____ |
| 22. $\phi \cap l =$ _____ | 23. $n \cap \{l \cap m\} =$ _____ |
| 24. $c \cup \phi =$ _____ | 25. $c \cap \{l \cup m \cup n\} =$ _____ |

Exercises 3

Find the best word or phrase to fill each blank:

- Lines and planes are sets of _____
- Points are collinear if _____
- If two lines intersect, their intersection is a _____
- If two planes intersect, their intersection is a _____
- A line contains at least _____ points and a plane at least _____ points.
- Points are coplanar if they _____
- A line is determined by _____
- Any three non-collinear points determine exactly one _____

Imagine a "geometry" (called a Finite Geometry) in which there are exactly four "points", six "lines", and four "planes" as indicated:

| POINTS | LINES | PLANES |
|--------------|--------------------------------|----------------------------|
| A, B, C, D | $\{A, B\}, \{A, C\}, \{A, D\}$ | $\{A, B, C\}, \{A, C, D\}$ |
| | $\{B, C\}, \{B, D\}, \{C, D\}$ | $\{B, C, D\}, \{A, B, D\}$ |

- Choose any two different planes. Show that their intersection is a line.
- Choose any two different lines. Do they intersect? If so, what is their intersection?
- How many lines contain both points A and C ? With which postulate on my page 98 & 99 does your observation agree?
- Show that the "points", "lines", and "planes" in this "geometry" satisfy every part of the postulates (a – g) on my page 98 & 99.

Think of a coordinatized line. Find the best word, symbol, or phrase to fill each blank.

13. To each real number there corresponds one _____.
14. To each point on the line there corresponds one _____.
15. The number which corresponds to a point is called the _____ of that point.
16. The distance between two points is zero exactly when the two points are _____.
17. To each pair of points there corresponds a number called the _____ between the points.
18. If A and X are points and $AX=5$, then $XA=$ _____.
19. Suppose points A and B have coordinates a and b, respectively. Then, the fact that the distance between A and B is unaffected by the order in which they are considered is expressed by $|a-b|=$ _____.
20. Two points P and Q have coordinates x and 3, respectively. What real number does x stand for if the distance between P and Q is 10?
21. Two points P and Q have coordinates y and -9, respectively. What are the possible values of y if $PQ < 5$?
22. Repeat #21 for the case where $PQ > 5$.
23. Repeat #21 for the case where $PQ = 5$.

Find the solution set for each of these:

24. $|x+3| < 3$

25. $|x-2| = 2|x-1|$

Exercises 4

Suppose point P is between points M and N as shown.



1. Name the segments determined by these three points: _____
 2. Name the rays determined by these three points: _____
 3. How many lines are determined by these three points? _____
 4. Using only M, P and N, in how many ways could the given line be named?
List the names: _____
- | | | |
|--|--|--|
| 5. $\overline{MP} \cup \overline{PN} =$ | 6. $\overline{MP} + \overline{NP} =$ | 7. \overrightarrow{PN} and \overrightarrow{PM} are |
| 8. $\overrightarrow{PM} \cap \overrightarrow{PN} =$ | 9. $\overrightarrow{PM} \cup \overrightarrow{PN} =$ | 10. $\overrightarrow{MP} \cap \overrightarrow{PN} =$ |
| 11. $\overrightarrow{MN} \cap \overrightarrow{NM} =$ | 12. $\overrightarrow{NM} \cap \overrightarrow{PN} =$ | 13. $\overrightarrow{MP} \cup \overrightarrow{PN} =$ |

14. $\{M\} \cup \{N\} \cup \{\text{all points between } M \text{ and } N\} = \underline{\hspace{2cm}}$

15. Draw two rays which have the same endpoint but are not opposite rays

16. How many lines are determined by 3 non-collinear points?

How many rays?

17. How many segments are determined by 4 points, no 3 of them collinear?

18. How many segments are determined by n points, no 3 of them collinear?

19. How many doubles teams in tennis can be formed from 4 people?

From n people? (Compare with #17 and #18.)

On a coordinatized line, the graph of each set described below is a familiar geometric figure. Name the figure.

20. $\{x : x \geq 5\}$

21. $\{x : -4 \leq x \leq 2\}$

22. $\{x : x \leq 2 \text{ or } x \geq -4\}$

Given any two distinct real numbers, it is always possible to find a third real number which is between the first two. That is,

For any distinct real numbers a and c , there exists a real number b such that
 $a < b < c$ or $a > b > c$.

(Density Property of Real Numbers)

Show that this property holds for the pairs of real numbers:

23. -3 and -2

24. 3 and 3.14

25. 2.23 and 2.24

内容解説

• REVIEW OF PROPERTIES OF REAL NUMBER

この節では、一見初等幾何とは直接関係が少いと思われる実数の性質について述べられている。すなわち、実数全体を実数体として構造的に把握させることを目標としているようである。絶対値、減法、除法の定義を与えて四則計算を完成させ、また、実数では反射律、対称律、移動律等が成立することを示して、同等（同値）の概念を確認させている。更に、大小関係を導入し実数の順序体としての性質にも触れているのである。

上記からも分るように、この節の内容は、我々が取扱っている高等学校数学Ⅰにおける「数の演算と大小関係」の章と、多少の差はあれ、ほぼ同一内容を持っているといえよう。ただ、この節が、初等幾何への入門教材として適切であるかどうかは問題点として残るであろう。

• SET NOTATIONS AND RELATIONSHIPS

中学校で取扱っていた「集合」の章をもう少し詳しく述べたのがこの節の内容である。すなわち、有限集合と無限集合の定義、2つの集合の相等概念の定義を与え、部分集合、和集合、積集合等を、わかり易い例によって説明している。勿論この教材は教科書の補助教材であるので、この他の内容は教科書で学ぶものと思われる。この節も、また、初等幾何への入門というよりもむしろ数学の基礎として学ぶ方がより適切ではなからうか。

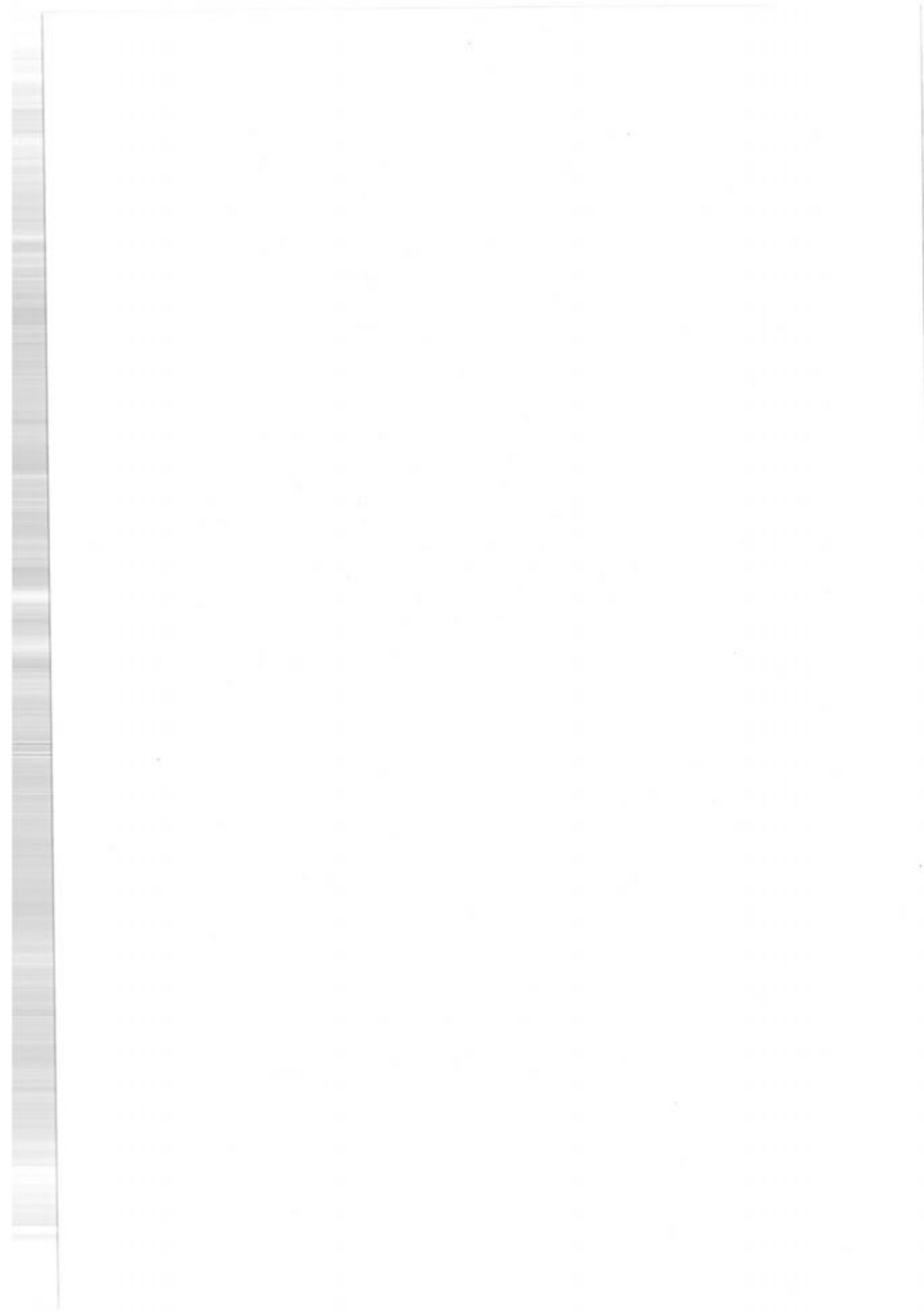
• POINTS, LINES AND PLANES

この節は、この補助教材の主要な部分を占めるものであり、初等幾何への入門としてかなり工夫されている。我が国の中学校における「図形」及び高等学校における「図形と論証」の章に相当するが、或る部分では、これ等より更に詳しく説明されている。ただ平行線の公理が記載されていないのはやはり後に教科書で学ぶものだからだと思われる。

内容について概説すると、点、線、平面は無定義用語とし、「点と線間で当然成立すると考えられる関係」、「点と平面間で当然成立すると考えられる関係」、そして「線と平面間で当然成立すると考えられる関係」に関する7つの仮定をあげ、これ等を「公理」として取扱っている。そして「3つ以上の点がすべて同一線上(同一平面上)にあれば、それらは *collinear points* (*coplanar points*)と言われる」と共線(共面)の定義をし、次に、数直線に関する公理をとりあげまた2点間の距離を定義し、そして距離に関しての性質のいくつかをとりあげている。また線分、方向性を持つ半直線、線分の二等分線等も定義している。更に、数学的語句の良い定義はどんなものでなければならぬかを例をあげて説明しているのも興味あることである。その他の定義として、角、内角、外角、鋭角、直角、鈍角、対頂角、余角、補角、2面角等をあげ、また我が国では用語としては余り用いられてない *adjacent angle* 等も定義されている。

おわりに

この補助教材を通じて観察されることは、実数、集合、点、線、平面を、公理、定義によりそれ等のものは一体どの様なものか、また、その持つ性質を徹底的に理解させることを目標としていることである。だから、それ等に付随する証明問題をすべて省略し、生徒達の図形に関する概念の形成に重点をおいているのが考察される。このことは、*exercises* を通じて理解し得る。*exercises* は学習内容の理解を深めるためのものであるが、ここに於ける *exercises* の特色は、証明問題はなく、図形等の概念を徹底的に理解させる問題ばかりである。これはこの補助教材の目標である初等幾何への入門に徹した結果であろう。しかし、この点で少し我々の初等幾何への導入の仕方とは異なると言えよう。すなわち、我々がしているように、もう少し定義・公理を精選し、生徒達に親しみを感じさせる必要があるのではなからうか。また、過程に証明がないのはいささか物足りなさを感じさせる。しかし、この様な徹底した概念理解を先ず生徒達に求め、後で教科書を通じて証明の過程をつくって行くのも数学指導の一方法として評価されるべきであろう。



短距離走の実験指導（第4報）

——課題解決的学習過程への手がかりとして——

かざ ま たつ お
風 間 建 夫

はじめに

第4報として短距離走の実践例を述べる前に、過去に報告してきた実践例のもとになった考えや、その過程で得られた考えなどを、紙面のつごうもあるがメモ的にまとめておきたい。

近年の社会情勢の中で子供達の「からだ」や「生き方」を考えると、生涯スポーツと切り離された学校体育は考えられなくなってきた。このことは新指導要領の中にも、運動やスポーツそれ自体のもつ自発性にもとづく「運動に親しむ」ということが加えられ、スポーツの本質である「自己目的的活動」が強調されて示されている。このことから考えてみても学校体育の中では、運動やスポーツのよろこびや楽しみ方（苦しみをさけた楽しみという意味でなく、そのスポーツのもっている特性に少しでもふれることのできたよろこびなど）を教えることが重要な課題といえる。そして、この課題を学習者が身につけていくためには、次のような力を育てることが必要といえる。

- (1) 教師から与えられるよりは、自らに課した容易でない技や力を伸ばしていく力
- (2) その努力の中で友達と一緒にたすけあい、学びあいながら技や力を伸ばしていく力
- (3) その過程、あるいは結果として、運動の感覚を自分でしっかりと感じとる力

そのためには、学習者が意欲的、主体的に取り組めることが前提条件であることはいうまでもない。（今までも、学習者が意欲的に取り組めたときは、満足のいく授業ができるということは経験的にも知っている）しかし、学習者の意欲も、単に教材のもつ魅力や教師のもつ魅力に左右されているのでは心もとない。もっと普遍的なものの中に魅力を位置づけたいと願うとき、当然学習過程の工夫に着目せざるを得ないのである。

学習過程の工夫

過去に進めてきた授業を振り返ってみたとき、その学習過程に含まれるいくつかの問題点に気づく。

- (1) その運動を成り立たせている技術の中心を明らかにしないで、技術を並列的に分解してならべて指導するだけで、個人やグループの要求する課題と対応できていない場合。
- (2) 個人やグループの課題が、指導者からのみ一律に一斉指導的に提示されるため、次の指示があるまで学習者が何を活動してよいか分らない場合。
- (3) 主体的に活動する時間が与えられても、具体的な学習のめあてがないために、十分追求する学習ができない場合。

などが代表的な例であるといえる。それでは実際にどのように工夫していけばよいのかと考えたとき、次のように作業を進め、工夫の手がかりをつかもうとした。

- (1) 運動のしくみ（教材の構造）を明らかにし、中心的な課題を明らかにして学習過程を工夫する。
- (2) 学習者が、その教材で学習すべき技能の「めあて」や「みおとし」を持ち、主体的に追求できるようにする。
- (3) ひとつの学習課題に対して、いくつかの学習場面（課題解決場面）を認め、追求的な学習過程をつくる。

などである。すなわち、提示的——系統的——斉学習的よりは、探求的——課題解決的——グループ学習的（もしくは発見的——体験的——個別学習的）な方向へ進もうとしたのである。

運動素材の研究

前述したように運動のしくみを明らかにし、追求的な学習過程を工夫し、つくるためにはどうすればよいのだろうか。どこにその手がかりを求めればよいのだろうか。広島大学の佐藤は「現実には教材となる以前の運動素材についての分析研究が徹底しておこなわれていないと、教材を仕組むことも選択することもできない。また、教材内容を選択し編成するときには素材のもつ内容や価値が明確になっていなければならない」と述べている。また、素材研究のアプローチとして、(1)文化的研究、(2)歴史的研究、(3)キネシオロジック的研究、(4)創造的研究、(5)社会学的研究、(6)心理学的研究などがあると述べている。そこで、私もまた素材そのものを調べることにより学習過程作成の手がかりにしようとした。

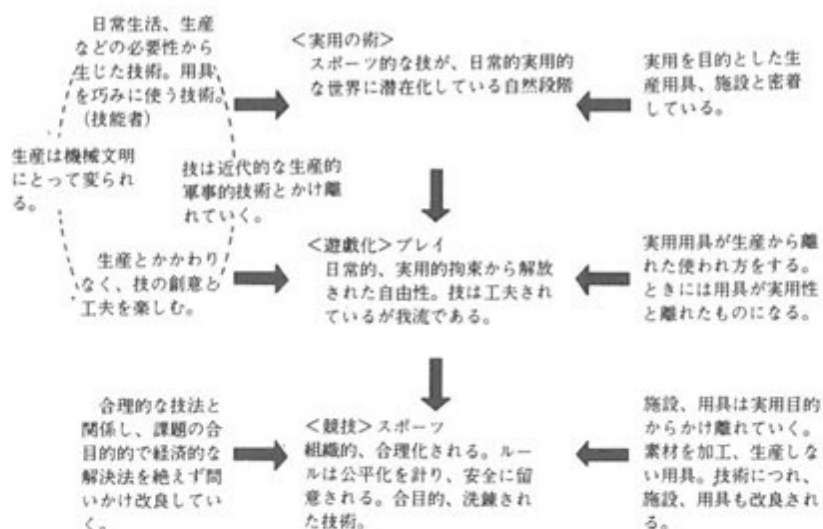
(1) 素材研究へのアプローチ

我々の扱っている運動には技術がある。この技術は現在の時点では完成されたものであっても「目的—手段関係」にある限りは今後とも変化する可能性は十分に考えられる。同じように現在の技術も過去の「目的—手段関係」により、多くの先人の知恵が生かされ、開発されてきたものといえる。この過程にこそ学ぶべき多くの内容が含まれているといえる。初心者が初めて取り組む運動は、先人が初めて取り組んだときと同じ動作をするかもしれないし、学習者がぶつかる壁は、やはり先人も突きあたって壁なのである。この壁を突き破るために先人が問いかけ、開発してきた過程は、そのまま学習の際の問いかけのモデルとなり得るものであり、学習者の学習内容、学習課題となり得るものと思われる。従って学校で扱う運動素材としてのスポーツの技術開発の歴史を調べ、まとめることが必要と考えた。

(2) スポーツ（素材）発展の過程

現在取り扱っているスポーツの発展の過程と、それにかかわる技術や施設、用具とのつながりを簡単に示すと図1ようになる。そして、我々が素材として考えて分析していくのは、スポーツ<競技>として確立された段階だけで十分であると考えられる。

図1. スポーツの発展過程と技術、用具の関係



(3) 陸上競技(短距離走)の技術史

原始時代からの生活実用術から発展、分化してきた陸上競技の歴史は、大変興味深いものであるが長大でもあるので、短距離走の日本での技術開発のようすに限定してみると図3のようである。日本独特の発展のしかたもあるが、外国からの影響を受けながら発展していることが多いので、外国も同様の過程であると考えられる。

以上の過程を、少し大胆ではあるが要約してみると、右の図2のような過程になる。この各項目が先人の問いかけの歴史であり、工夫し、開発してきた過程である。この中により速く走るための解決過程や発見の過程が含まれており、体育授業時の学習者の具体的な課題解決のモデルとなる。このようにして考えてみると、現在の時点でもっとも完成された技術を、その体系に従って学習させる方法がいわゆる系統的学習に相当するものであり、先人と同じような課題に対しながら、要素的な技術や全体の把握、さらにはもう一度全体から個々の要素的な技術へと仮説を立てながら実証し、学習していく

図2. 短距離走のなりたち



M37 スタンディングスタートで、上体を垂直にして腰は前へ張りきり、顔を
あおむけ、ピッチをあげる。フィニッシュはかけ抜けるようにする。その理
由①やつとのごとで走ってきたと見られぬ。②抜かれることがある。③審
判がしにくい。

明治時代全般に胸を体側から離さず、手を後ろまで振らないフォーム

M45 クラウチングスタート導入。穴は浅くやつと入る位

M45 大森 短距離走は一步一步巾跳の連続である。

T 初期 ストライド走法全盛

T 5 武田 フィニッシュは速力が鈍るので走り抜ける。最後まで同一の速さでは
走れない。最後の30mを研究すべきである。

T 5 明石 膝より下の短い者は、地面とすれすれに足を運ぶとよい。ピッチを
上げてスピードが出れば、自然にストライドは広がる。

T 5 穴の廻り方や目の位置の指摘

T 9 腕の振り方をピストンロッド状にする。

T 9 アントワープ大会のパドック選手のフライングフィニッシュが真似られ全盛

T10 バンチスタート考案、また 200mは 100mに比して、股を大きくする。フ
イニッシュは少しでも胸を張り、前に出す。

T12野口 発走後10mで完全な疾足状態になる。また前傾との関係から股を高く
上げ、着陸の時間を短くする。スタート後30度ぐらいの前傾が適当。十分な速
度に達すると、相当起こしてもよい。

T13 穴の廻り方としては前方の穴を深く廻る。

T14野口 余りにもスタート万能の傾向がでている。スタート後30mぐらいの練
習がほとんどで、50m以上の練習が少ない。

S 3. スプリントフィニッシュ 全力疾走のまま走り抜ける。

S 4. スプリントでは膝を伸ばし切らないのはまちがいである。犬や馬はよく伸
びている。

S 5. 腰を低くして、出発にエネルギーを浪費しない。

S 5. 谷 15~17m(10~11歩)で全力疾走になる。力の配分としては、20mまでと
20~70m その後、S5 相沢 力の配分は25mまでと25~75mとその後

S 6. ストライト走からピッチ走へ移る。腕は最後はとにかく早く振る。

S 7. 吉岡 100mを走るのに110~150mの距離を走る。疾走練習に時間をかけ
ねばならない。

S 8. 60m以後、腕の角度を小さくする。

S 9. スタート姿勢の体重の配分は、前足に8、両手に2

S12. オウエンス 日本人はもっとリラックスした走法で、後半ががんばらねばな
らない。

S13. 吉岡 全力疾走になるのは30m地点である。力の配分としては、0~4.5m
出発区間、4.5m~30.40m全力疾走準備区間、40~80m全力疾走区間、80m~
最後の区間、また腕、肩の緊張を解いて走ること。日本選手の前傾は70°以上。

S24. 佐々木 スターティングブロックの使用により、上体の訓練も必要である
また肩が手よりも前方になければならぬ。

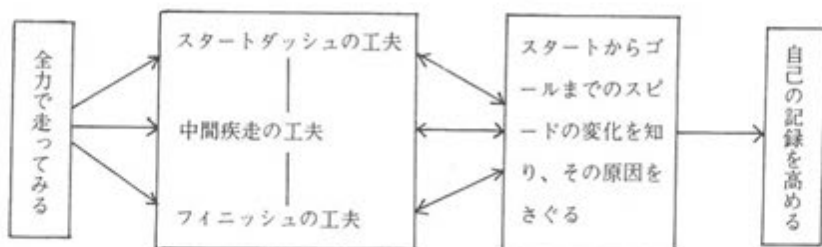
M42 明石 ストライクを使用、一般へ普及し始める。

S 24 スターティングブロックを使用

図3. 短距離走技術の開発過程

方法がいわゆる課題解決的な学習といえる。そしてこの図2そのものが短距離走教材のなりたちそのものであり、構造ともいえるものである。これを教材としての短距離走の技能の構造として図示すると、下の図4のようになる。

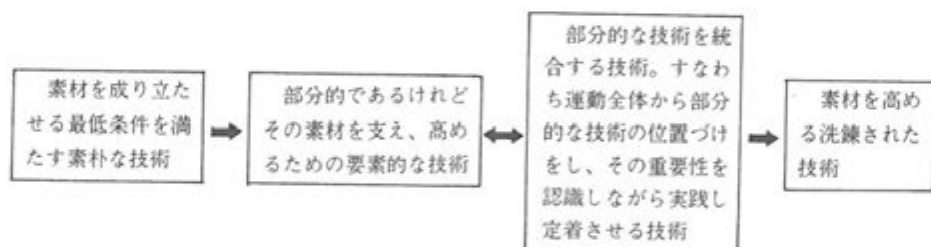
図4. 短距離走技能の構造



(4) 陸上競技の技能の構造

陸上競技の種目の特性から考えてみると、短距離走であっても、走り巾とびであっても同じように技術が開発された過程があり、先人の問いかけの歴史がある。従って、短距離走の技能の構造は、多少の違いはあっても各種目とも共通の基礎的なものとなり得る。そこで大きくまとめたのが、図5の陸上競技の技能の構造図である。

図5. 陸上競技の技能の構造図



さらに発展させると、走り巾とびの技能の構造図は図6のようになり、長距離走は図7ハードル走は図8と展開することができる。

図6. 走り巾とびの技能の構造図

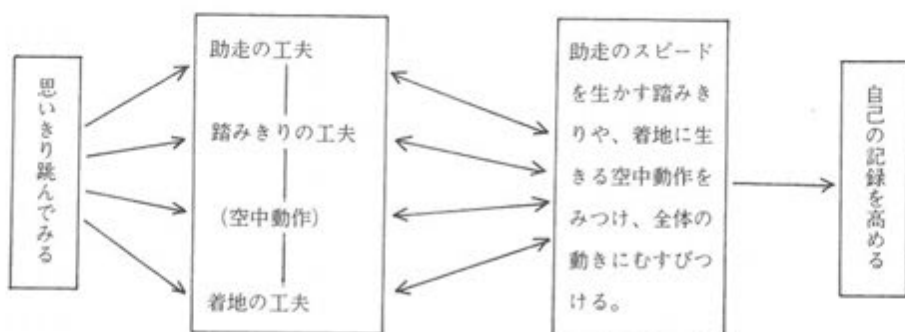


図7. 長距離走の技能の構造図

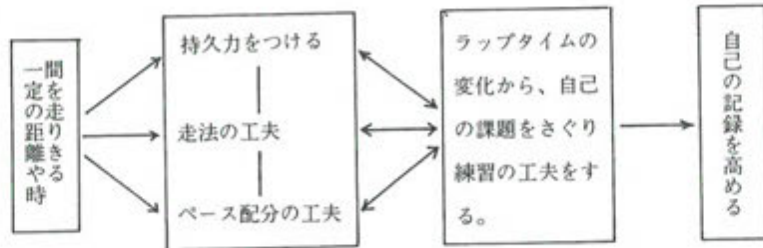
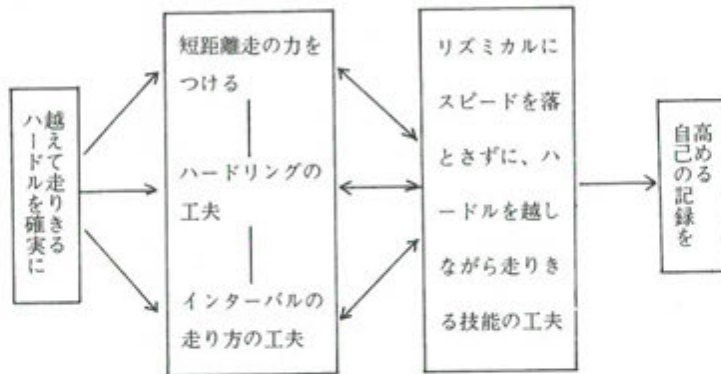


図8. ハードル走の技能の構造図



課題解決的学習過程への試行

今まで述べてきたように、先人がたどったと同じように学習者も技能のめあてをつかみ、それを達成するためにはどのような練習をどのような方法でするとよりよいのか、ためし、修正し、そして修正した技能を身につけていくことになる。また当然その予想がめあてとずれている場合には、練習方法や内容を修正することになる。ひとつの技術に対していくつかの課題や解決方法を予想し、追求していく過程として具体的には次のように考えた。この流れは一単元全体だけでなく、一単位時間を通じても考えられることである。

- みとおす — 技能のめあてとそれを達成するための練習法を予想する。
- ためす — 工夫した練習法にもとづき、ためしみて問題点をつかみ、手がかりとする。
- なおす — ためしで起きた問題点を検討し、個人やグループの課題に対応した技術の習得や修正を行う。
- 高める — さらにためし、たしかめて、めあてに近づくためにより高い技能を身につける。
- たしかめる — めあてを達成できたか、どのような練習法がよかったのかなどを反省し、さらに高い目標にむかう基礎をつくる。

陸上競技の有している内容は、自己の最高能力を発揮して、他人との競争や記録との戦いの中で、「勝った」、「記録が伸びた」というときの喜びの大きさ、記録へ挑戦する過程での創意工夫などの価値ある内容を有している。しかし、陸上競技の発生の歴史からみても、生活実用術から生まれてきたものであり、リクリエーション的要素の少ないスポーツであり、生徒達が意欲的にとりくみにくい教材である。その中でも短距離走はその代表的なものであろう。

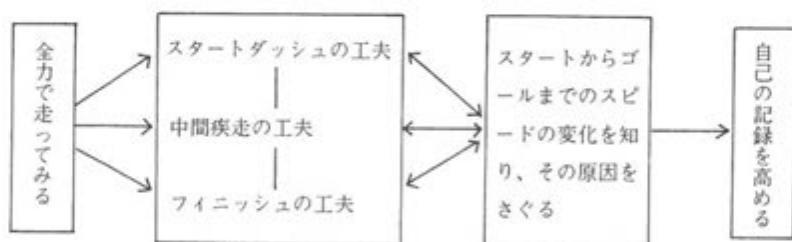
1. 短距離走教材がもたれているイメージと学習過程

一般的に短距離走教材が生徒達にもたれているイメージは、

- (1) 単調で体力的要素が強い。
- (2) 練習効果があらわれにくく、勝者と敗者がはっきりしている。

などであり、このイメージは記録の悪い者ほど強くもっているようである。このイメージは、より速く走るための技術を単に並列的にならべ、中心をなくした構造化と、それにとまなう教師中心のいわゆる系統的学習より生じていると考えられる。このことから考えると、前頁に述べた力を育てるためには、技能の構造を明らかにするとともに、子供と教師がそれぞれの立場で主役になるような、いわゆる課題解決的な学習過程を設定することが必要である。そして系統的学習と比較のもとに実践をこころみた。

2. 短距離走技能の構造



スタートからゴールまで同じスピードで走っていると思いがちだが、実際はスピードの変化がある。その変化に応じてスタート法、中間疾走法、ラストスパートの方法などが関連し、練習の課題となってくる。従って自己のスタートからゴールまでのスピードの変化を知ることが、最も大事なことになる。

3. 実践例

短距離走教材は個人の能力を最高度に発揮して記録の向上をめざす中で、個人の努力や工夫が課題となる。そのためには自己の能力の伸びをはっきりと数値的にみとめることができるようにしてやり、しかもその伸びをみんなで見とめあうような学習を進めていくことが必要である。

① 簡易な測定方法の考案

誰にとっても、自分達が走ったあとのランニングの様相がどうなっているかということは興味のあることである。それが簡易に、しかも早く知ることができたなら、次のランニングの課題をつかんだり、走り方を工夫して走りなおしてみたいという意欲にかられることは予測される。そこで一定間隔ごとの経時記録から疾走速度を換算し、簡易にグラフにあらわす方法を考案し（資料参照）学習過程にくみ入れた。

② 学習過程の工夫

前記の簡易スピード曲線測定法を手だてとしてとり入れながら、生徒達ひとりひとりが自らの課題意識をもって、意欲的、主体的により組めるように課題解決的な学習過程を工夫した。また学習過程による相違を比較するために、対照として系統的な学習過程による授業も他方で進めた。

短距離走のねらい：自己の能力を最高度に発揮して記録に挑戦し、走力を伸ばす。

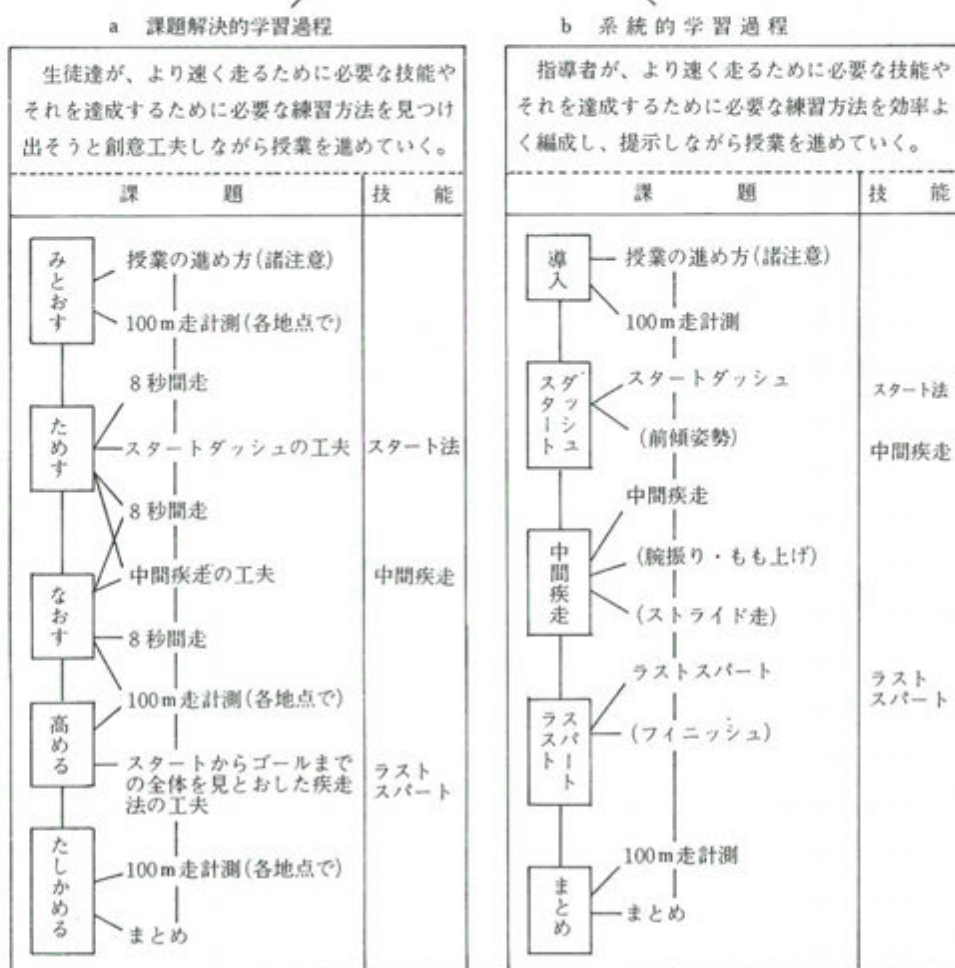


図1. 課題解決的学習と系統的学習の授業の流れ

③ 授業の展開

a. 課題解決的学習…… (異質グループ)

| 次 | 時 | 問題の提示 | 学習者の反応(実践) | | |
|-------------|---|-------|---|---|----|
| みとおす | 1 | ½ | <ul style="list-style-type: none"> ・100m走を行う。自己の記録への挑戦が課題である。 ・50m走の記録をもとに、100m走の記録とスピードの変化を予測させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○100m走の記録は50m走の記録の2倍よりも速いだろうか、遅いだろうか。 | ※1 |
| | 2 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・速度の記録方法を示し、100m走の記録を測定させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○どんなスピードの変化になるだろうか。 | |
| | 3 | ½ | <ul style="list-style-type: none"> ・100m走の測定記録をグラフに整理させ、自己の速度変化を確認させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○100m走の記録は50m走の記録の2倍よりもよい。 ○スタートダッシュには、タイムのロスがかなりある。 ○歩巾は後半もそう落ちていない。 | ※2 |
| | 4 | ½ | <ul style="list-style-type: none"> ・スプリンターの曲線と比較させ、自己のこれからの課題をみつけさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○最高速度の高さが違う。 ○スプリンターは最高速度到達距離が遅い。 ○スプリンターは後半スピードの低下の時期が遅い。 | |
| | 5 | ½ × 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・100m走の記録を伸ばすために、上記課題にもとづいて、練習方法を工夫、実践させる。 ・練習効果がすぐ判定できるように、8秒間走の練習法を提示し、必要に応じ実行させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○前半の課題—すばやいスタートダッシュ。
最高速度をあげる。
技術—前傾姿勢をとる。
練習—坂道をダッシュする。
○ボールを追いかけてダッシュする。
○スタートダッシュ。
○階段をかけ上がる。 ○後半の課題—最高速度を維持する。
技術—歩巾を大きくする。
歩数をおとさない。
練習—後半伴走をつけて走る。
○後半ボールをころがして追いかける。
○100mより長い距離を走る。
○後半坂道をくだる。 | ※3 |
| た
め
す | | | | | |
| な
お
す | | | | | |

| | | | | | |
|-------------|---|------------------------|---|---|--------|
| 高
め
る | 6 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 再度100m走の記録と速度変化を計測し、グラフに整理し、第2次の記録と比較させ、練習の効果をたしかめさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 8秒間走は伸びにくい、100m走の記録は伸びている。 最高速度が少し高くなり、後半の速度低下が少ない。 前半セーブして走ったとき、後半気持ちよく走れた。 | ※
4 |
| | 7 | $\frac{1}{2} \times 2$ | <ul style="list-style-type: none"> 第6次の記録をもとに、さらに練習の課題を指示し、みつけさせ、実践させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 班で前半スピードをセーブした走り方をためしてみたら、多くの者が100mの記録を伸ばした。 | ※
5 |
| | 8 | $\frac{1}{2} \times 2$ | <ul style="list-style-type: none"> ある班で前半スピードをセーブして走った結果記録が伸びたことを紹介するとともに、各班でも全体をみとおしていろいろの方法でためさせる。 どんどん100m走を計測し、ためさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 前半軽く走り、後半がんばるようにして走ると記録が伸びた。 前半歩巾をおさえ、後半広げるようにして走ると、記録が伸びた。 前半歩数をあげるようにして走ると記録が伸びた。 | ※
6 |
| | 9 | $\frac{1}{2}$ | <ul style="list-style-type: none"> 自己の記録に挑戦し、目標に到達できたか。 短距離走は君達にどんな意味があったか。 今後の課題を考えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 満足する結果が得られた。 走り巾とび、走り高とびももっと考えてとぶようにすると、記録が伸びるだろう。 何となく自分に自信が持てるようになった。 | ※
7 |

た
し
か
め
る

注)

- ※1. 短距離走に対するイメージについて授業前、授業後にとり比較をした。(後述表1 図2参照)
- ※2. 「記録を伸ばすために工夫をしよう」のアンケートよりS君の例
- 自分のランニングの状態を知ろう。
- (1)スピードの変化のようすは?……「最高速度に達するのが20~40mの区間である後半速度が低下する」
- (2)スピードの変化と関係が深いのは?……「前半はストライド、後半はピッチ」
- 一流選手のランニングの状態を知ろう。(スプリンターの疾走曲線と比較しながら)
- (1)スピードの変化のようすで自分達とちがうところは?……「最高速度をある程度持続している。しかし、最後はやはりおちている」
- (2)他に自分達とちがうところは?……「最高速度が速い。最高速度になるのが遅い」
- ※3. 自分達の疾走経過から明らかになった前半、後半の課題や練習の工夫を、アンケートから抜きだしたものである。しかし、生徒達の工夫した練習には指導者の意図と一致しないものや、長期にわたらなければ効果のあらわれにくい内容もあったが、適宜助言を加えながら指導を進めた。練習の効果は8秒間走や100m走でたしかめさせた。8秒間走をとり入れたのは、最高速度が高まったか、維持することができるようになったかを調べるには十分な時間だからである。

※4. 教材と学習者がぶつかりあうなかで、いろいろな疑問がおこり、それが学習のとききっかけになることも多くみられた。例えば、8秒間走の記録は伸びにくい、100m走の記録は伸びるといったことはその代表的な例である。このことは後半のスピードの低下を防ぐことは比較的容易であるけれど、最高速度を高めることはむずかしいといふことの認識を高め、スタートダッシュの本格的なとりくみへと発展した。

※5. 自分達の課題を解決する方法が、生徒達のあいだで練り上げられていくようすも認められた。例えば、指導過程のアンケート「コーチになったつもりで練習の工夫をして、ためしてみよう」よりK君の例。

○後半の課題は何だろうか?……「前半をセーブし、後半に力をもっていく。後半に力がでてくるときがあるので、それをフルに活用する」

○それを達成するために必要な技術は?……「後半50mを越すと意識的に前傾姿勢をたもって脚を上げる。思いっきり腕を振る。ゴールの線だけを見て、あとのものは気にしない。ゴールのむこうに何か目標をつくる」

○その技術を身につけるための練習の工夫は?……「走ってみて、そのコツをつかむしかない」

※6. 資料1. 資料2参照。

※7. 表1. 図2参照。

b. 系統的学習……(異質グループ)

| 次 | 時 | 問題の指示 | 学習者の反応(実践) | 注 |
|---|---------|---|---|----|
| 1 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 100m走を行う。自己記録への挑戦が課題である。 50m走の記録をもとに、100m走の記録を予測させる。 100m走の記録を計測する。 | <ul style="list-style-type: none"> 100m走の記録は、50m走の記録の2倍よりも速いだろうか。 自己の記録を知り、目標記録の修正をする。 | ※1 |
| 2 | 1/2 | <ul style="list-style-type: none"> スタートダッシュの練習をさせる。とくに重心を前に出すために前傾姿勢をし、低い姿勢でとび出すことを理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 重心の位置を前に出すと走りやすい。 野球の守備、すもうの仕切りなども一緒なのか。 | ※2 |
| 3 | 1/2 × 2 | <ul style="list-style-type: none"> より低い前傾姿勢を身につけさせるために、いろんな姿勢からのダッシュをさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> スタート後すぐに上体を起こす人が多い。 腰がまがっているだけでは前傾姿勢とはいえない。 | ※3 |
| 4 | 1/2 × 2 | <ul style="list-style-type: none"> 25mぐらいから、十分上体を起こしももを高く引き上げるようにして走らせる。 腕をまげて強く振り、脚の振り出しを補助させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ももを上げているつもりでも上がっていない。 歩巾を広げようとする膝から下だけで伸ばそうとしている。 腕が伸び、上半身がゆれている。 | ※4 |
| 5 | 1/2 × 4 | <ul style="list-style-type: none"> 170、180、190、200cmの各区画線を引き、その線上を走り、ストライドを広げる練習をさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 目標ができて、歩巾を広げやすい。 ジャンプをするようにしないと、 | ※3 |

| | | | | |
|---|------------------------|---|--|-----|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ももを上げる運動や腕の振りの矯正をする。 コーナーを走らせたり、坂道を下らせたりして、リラクゼーションを身につけさせる。 | <p>より長い歩巾で走ることはできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> スライドは伸びてきている。 全力で走っている感じがしない。 | |
| 6 | $\frac{1}{2} \times 2$ | <ul style="list-style-type: none"> 70~80m区間に線を引き、ラストスパートの目印とし、練習させる。 特にピッチがおちないように、一気に走り抜けさせる。 スピードが低下するので、声援や伴走をさせたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ラストスパートのラインを通過すると、とたんに力みはじめてうまくいかない。 ラインを通過するところで、気分を切り換えて走ることができる。 伴走者のスタートのタイミングがむつかしい。 声援してもらおうと力が入ってよい。 | |
| 7 | $\frac{1}{2} \times 2$ | <ul style="list-style-type: none"> 100mをとおして走りながら、今までの技能を反復練習させる。 | <ul style="list-style-type: none"> スタート後、上体を起こすタイミングが悪いと、いつまでもペースにのれない。 後半一気に走り切れなくて、脚が重くなってしまう。 100mを長く感じなくなった。 | |
| 8 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 100m走の記録の計測を行う。 自己の目標記録を達成できたか。 短距離走は君達にどんな意味があったかの。 今後の課題をまとめさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> うまく記録が伸びた。 思ったほど伸びない。さがってしまった。 走ることは楽しい。 走ることは好きじゃない。 たったひとりのスポーツだと思う。 | ※ 4 |

注)

※ 1. 課題解決的学習と同じアンケート「短距離走のイメージ」を授業前、授業後にとり比較した。(表1、図2参照)

※ 2. 前傾姿勢を身につけるために、下記の要領で練習をさせた。

○腕立て伏せの姿勢などを利用して、低い姿勢からとび出す。

○坂道の登りを利用して、低い姿勢からのダッシュを行い、その感覚を平地でのダッシュに生かす。

○クラウチングスタートの「用意」の姿勢を、うしろから腕、もしくはタオルなどで保持してやり、前傾姿勢をとりやすくしてやる。

などが代表的な例である。

※ 3. スライドを広げるための練習として、区画線上をランニングする方法もとり入れた。要領としては、グラウンド上に一定距離の区画線を何種類か作り、その上を踏

むようにしてランニングをさせる。最初は短い距離で始め、少しずつ伸ばすようにさせた。

※4. ※1に同じ(表1、図2参照)

④ 授業後に変化したこと

以上のように簡易な疾走曲線を組み入れ、生徒達が主体的にためし、なおしながら自己の走力を高めさせるという課題解決的な学習過程で授業を進めた結果、系統的な学習過程による授業結果とは顕著な違いがみられた。

a. 短距離走に対するイメージの変化

第1次と第9次(系統的学習では第8次)に、表1に示すような短距離走に対するイメージについてアンケート調査を行った。

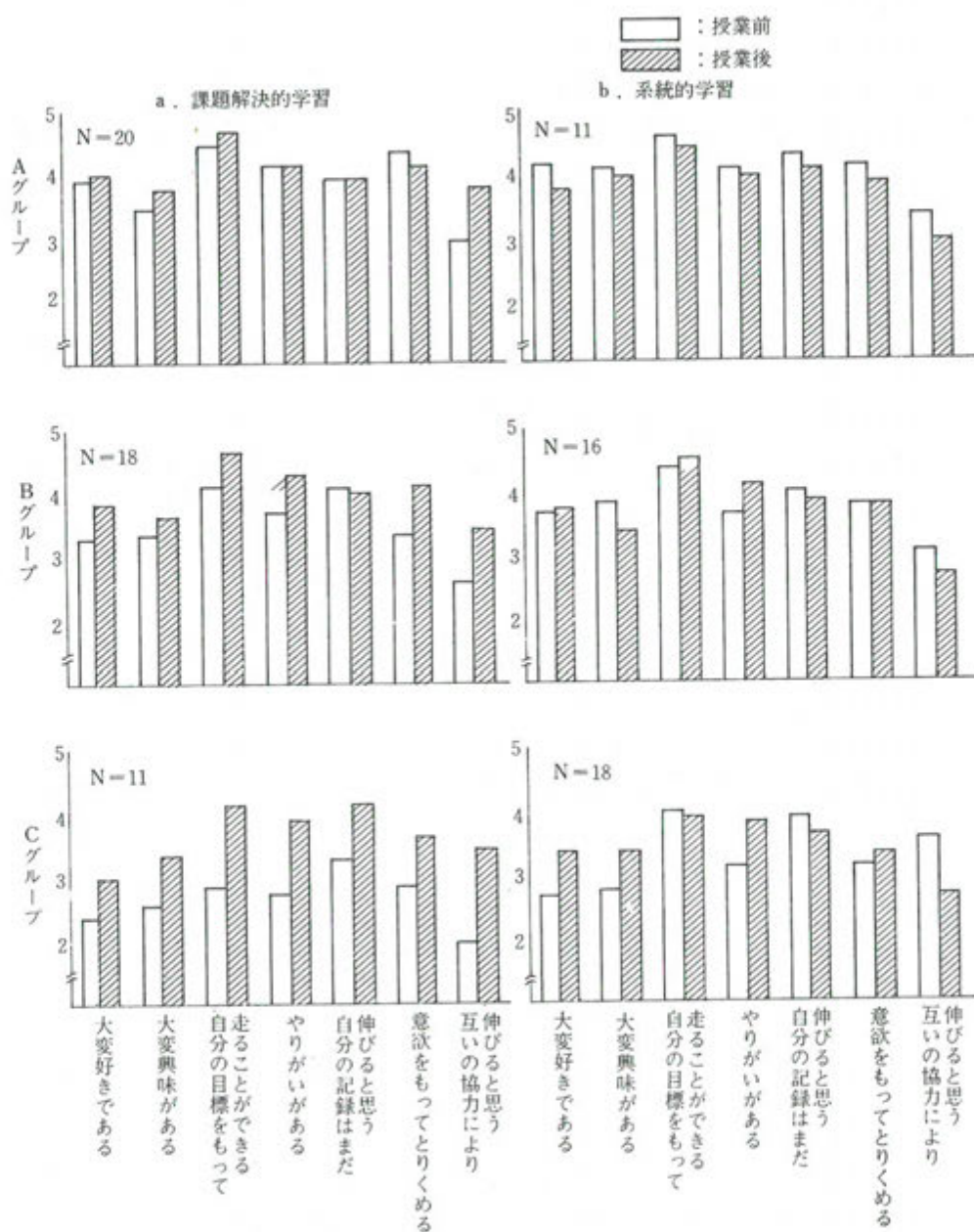
表1. 短距離走のイメージについてのアンケート

| 陸上競技 短距離走についてのアンケート | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------------|--|--|--|--------------------|------------|--|--|--|
| 年 組 番 名前 | | | | | | | | | |
| 短距離走について、君が持っているイメージ、考えを正直に答えてください。 | | | | | | | | | |
| (1)大変好きである | 大変嫌いである | | | | (5)自分の記録はまだ伸びる。 | 自信がない | | | |
| 5 4 3 2 1 | | | | | 5 4 3 2 1 | | | | |
| (2)大変興味がある | 全く興味がない | | | | (6)意欲をもってとりくめる | 意欲がない | | | |
| 5 4 3 2 1 | | | | | 5 4 3 2 1 | | | | |
| (3)自分の目標をもって走ることができる | 競争的ただ走らされるだけ | | | | (7)互いの協力によって伸びると思う | 一人だけの種目である | | | |
| 5 4 3 2 1 | | | | | 5 4 3 2 1 | | | | |
| (4)やりがいがある | やりがいがない | | | | | | | | |
| 5 4 3 2 1 | | | | | | | | | |

図2は資料を整理する時点で、疾走能力別にAグループ(14"4~16"0)、Bグループ(16"1~17"7)、Cグループ(17"8~19"4)の3グループに分類し、疾走能力によるイメージの変化をみようとしたものである。

授業前、疾走能力の高いものほど、各項目のイメージにおいて高い得点を示した。このことは前に記したとおりであり、図2はそれを示している。しかし、授業後では課題解決的学習のB、Cグループの伸びが著しく、その傾向は疾走能力の低いCグループほど顕著である。項目では……自分の目標をもって走ることができる、やりがいがある、意欲をもってとりくめる、互いの協力により伸びると思う……が代表的である。このことは、ひとりひとりが課題をもち、友達とともに技や力を伸ばそうと学習を進めてきた結果といえる。Aグループは授業前からかなりよいイメージをもっていたこともあるが、もっと伸びを期待できるようにしなければならない。今後の課題である。系統的学習ではCグルー

図2. 短距離走に対するイメージの変化



ブほど伸びる傾向はあるが、課題解決的学習ほどではない。特にAグループでは全項目にわたっておちこんでしまった。極論すれば、系統的学習では速い子がもともと内的動機づけを持っていても、学習とともに意欲が減退し、興味を失う危険性を有していると考えられる。課題解決的学習では、学習の過程で内的動機づけが生まれ、持続する可能性があることを示唆していると考えられる。

b. 記録の変化

授業前後における100m走の記録の伸びにも顕著な差がみられた。

表2. 授業前後における100m疾走記録の変化

| グループ | 人数 | 項目 | 課題解決的学習 | | | 系統的学習 | | |
|------|----|-----|---------|------|---------|-------|------|--------|
| | | | 授業前 | 授業後 | 伸び | 授業前 | 授業後 | 伸び |
| A | 7 | M | 15.4 | 14.8 | ※※ 0.6 | 15.4 | 15.2 | 0.2 |
| | | S.D | 0.31 | 0.31 | | 0.31 | 0.53 | |
| B | 7 | M | 16.8 | 16.0 | ※※※ 0.8 | 16.8 | 16.6 | 0.2 |
| | | S.D | 0.28 | 0.34 | | 0.28 | 0.47 | |
| C | 7 | M | 18.6 | 17.3 | ※※※ 1.3 | 18.6 | 17.8 | ※※ 0.8 |
| | | S.D | 0.56 | 0.36 | | 0.55 | 0.28 | |

注) ※※※ 0.1%、※※ 1%

課題解決的学習グループの記録の伸びは、練習した内容によるよりも、前記のイメージの変化とも関連し、課題を意識して学習を進めた結果によると思われる。

c. とりくみ方の変化

下の感想文は課題解決的学習グループの例である。

T君……疾走能力ではBグループ

- 授業前……「短距離走は好きではない。それはその人の生まれもった才能と思う。おそい人が努力すれば記録は伸びるかもしれないが、子供のときから速い子だっているので、その才能をもっている人は好きだろうと思う」
- 授業後……「始めはおもしろくなく、いやでしかたがなかった。それは多分、小学校のときはがむしゃらに走るだけでしんどいだけだった。しかし、走法を研究したり、グラフに書いて考えたり、楽しみながら走れた。そのため記録も1秒弱も伸びてとても好きになった。中2になってからもあると思うので、そのときにはもう0.5秒くらい伸ばしたいと思う。この短距離走は大げさだが、何だか自分に自信がもてた」

W君……疾走能力ではAグループ

- 授業前……「なかなかおもしろい。トップのときは気持ちがいい。記録を伸ばしたい」
- 授業後……「短距離走は結果的には一人だけの記録になるかもしれないが、みんなで協力してはじめて自己最高記録というものが生まれるのではないかと思う。例えば、

柔軟体操がいい例だと思う。一人だけではやりにくい。とってやらなければいい記録は出ない。つまり、おかしい所を教えてくれる人がいなければいけない。その他いろいろ。だからぼくは陸上は一人をするのではない。みんなで協力して、はじめていい記録が出るのだと思う』

A君……疾走能力ではCグループ

- 授業前……「小学生のときから体育は好きでない。よって短距離もきらいだ」
- 授業後……「短距離走というのは、努力しだいで伸びていくものだと思う。これまで体育が苦手だったので、あまり走る機会もなかったが、中学になっていろいろ工夫し、考えて走ることができて体育の楽しさを知った。はじめは半分あきらめ気味だったが、あとになるとどんどん伸びていきそうだったので、おもしろくなっていっしょうけんめいやった」

課題解決的学習グループでは、系統的学習グループに比して、授業の過程で課題意識をもつ子が多くみられるようになった。また、なかには運動の感覚を自分で感じとるような生徒もみられるようになった。しかし、次に示すS君のように、意欲的に取りくめたとはいいたい感想文もあり、今後の課題解決的学習の課題としたい。

S君……疾走能力Aグループ

- 授業前……「ただおもしろい。走っているとき地面が流れているのを見ていると非常に楽しい。一番で走るときは非常にゆかい」
- 授業後……「興味があって楽しいし、目標もあるし、やりがいがあるけれど、もひとつおもしろくない。グループでいろいろな練習をしたけれど、結局は自分一人のことになってしまう。一学期はみんなでバレーをしておもしろかったけれど、短距離走は楽しいけどおもしろくない。始めのころは興味もあっておもしろかったけど、本格的になってからおもしろくなくなった」

3. まとめ

短距離走に対する a. イメージ、b. 疾走能力、c. 学習に対するとりくみ方や態度の変化を、授業前、授業後について比較すると、課題解決的学習グループは系統的学習グループに対して

- (1) 短距離走に対するイメージをある程度好意的に変化させることができた。この傾向は、とくに能力の低い生徒ほど顕著であった。
- (2) 疾走能力の伸びにも有意な差がみられ、とくに能力の低い生徒ほど顕著であった。
- (3) 学習に対するとりくみ方では、課題意識をもつ子が多くみられ、なかには運動の感覚を自分で感じとるような生徒もみられた。

以上の比較は実践的研究の範囲の中で行ったもので、厳密には諸種の制約される要因はあるが、教師と生徒がそれぞれの立場で主役となるような課題解決的学習は、当初より授業の条件として考えた生徒の力を伸ばすのにより近い方法であることが、短距離走教材においてもある程度実証された。しかし、この方法がすべての生徒について有効であるかど

うかは、今後さらに方法論の検討が必要である。

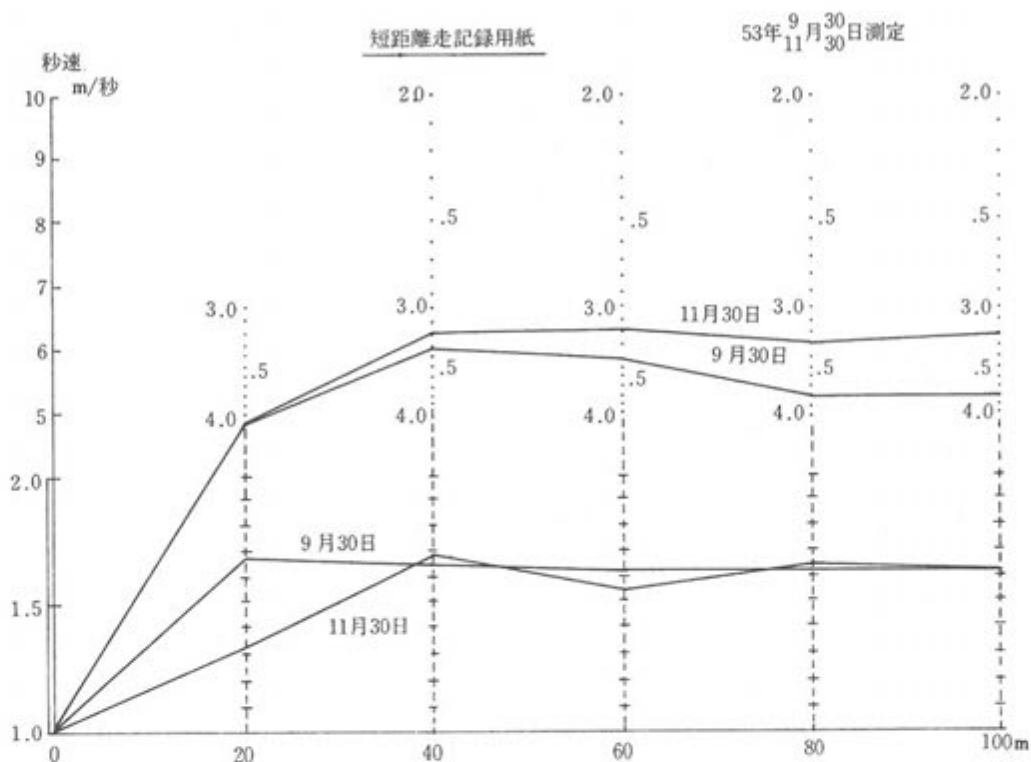
〈追記〉

第3報では、系統的学習グループとして他校を、課題解決学習グループとして本校を取り上げていたが、教師の与える影響などを考えると厳密には比較しにくい部分が多かったが、今回の第4報では同一教師によってもほぼ前回と同様の結果を得ることができた。また実践例は日本体育学会30回大会の体育科教育専門分科会シンポジウムの資料としてまとめたもので、前文とのつながりが悪く、読みづらかった点をお詫びいたします。

・参考 引用文献

- | | | |
|-----------------------|----------------|------------------------------|
| 1) 体育教材学序説 | 佐藤 裕著 | 黎明書房 |
| 2) 新しい体育の実践 | 辻野 昭監修 | タイムス |
| 3) 短距離走の実験指導
(第3報) | 風間 建夫 | 大阪教育大学附属天王寺中、高校
研究集録 第19集 |
| 4) 体育科教育法 | 宇土 正彦
松田 岩男 | 大修館 現代保健体育学大系
第10巻 |
| 5) 陸上競技の力学 | G・ダイソン | 大修館 |

資料 1

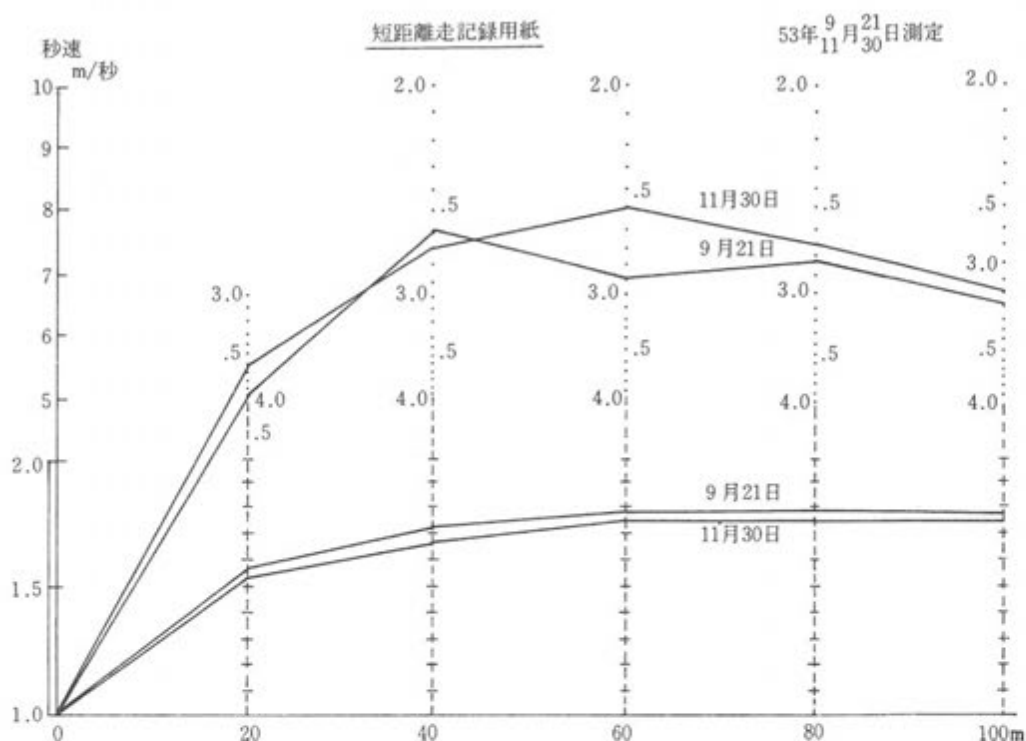


| 地 点 (m) | 20 | 40 | 60 | 80 | 100 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 記 録 (秒) | 4.1 | 7.4 | 10.8 | 14.6 | 18.4 |
| | 4.1 | 7.3 | 10.5 | 13.8 | 17.1 |
| 差 (秒) | 4.1 | 3.3 | 3.4 | 3.8 | 3.8 |
| | 4.1 | 3.2 | 3.2 | 3.3 | 3.3 |
| 歩 幅 (2歩) | 3.15 | 3.33 | 3.27 | 3.25 | 3.25 |
| | 2.66 | 3.39 | 3.10 | 3.29 | 3.27 |
| 歩 幅 (m) | 1.675 | 1.665 | 1.635 | 1.625 | 1.625 |
| | 1.33 | 1.695 | 1.55 | 1.645 | 1.635 |
| ピッチ (回/秒) | | | | | |

工夫したことや感想 中間しっそう (60m) で歩幅がさがっているのに秒があがっているのは歩数が多いからその歩はばを前のときぐらいにすると、もうすこしきろくがのびるのではないかと思う。

1年A組5番 名前 Y・K

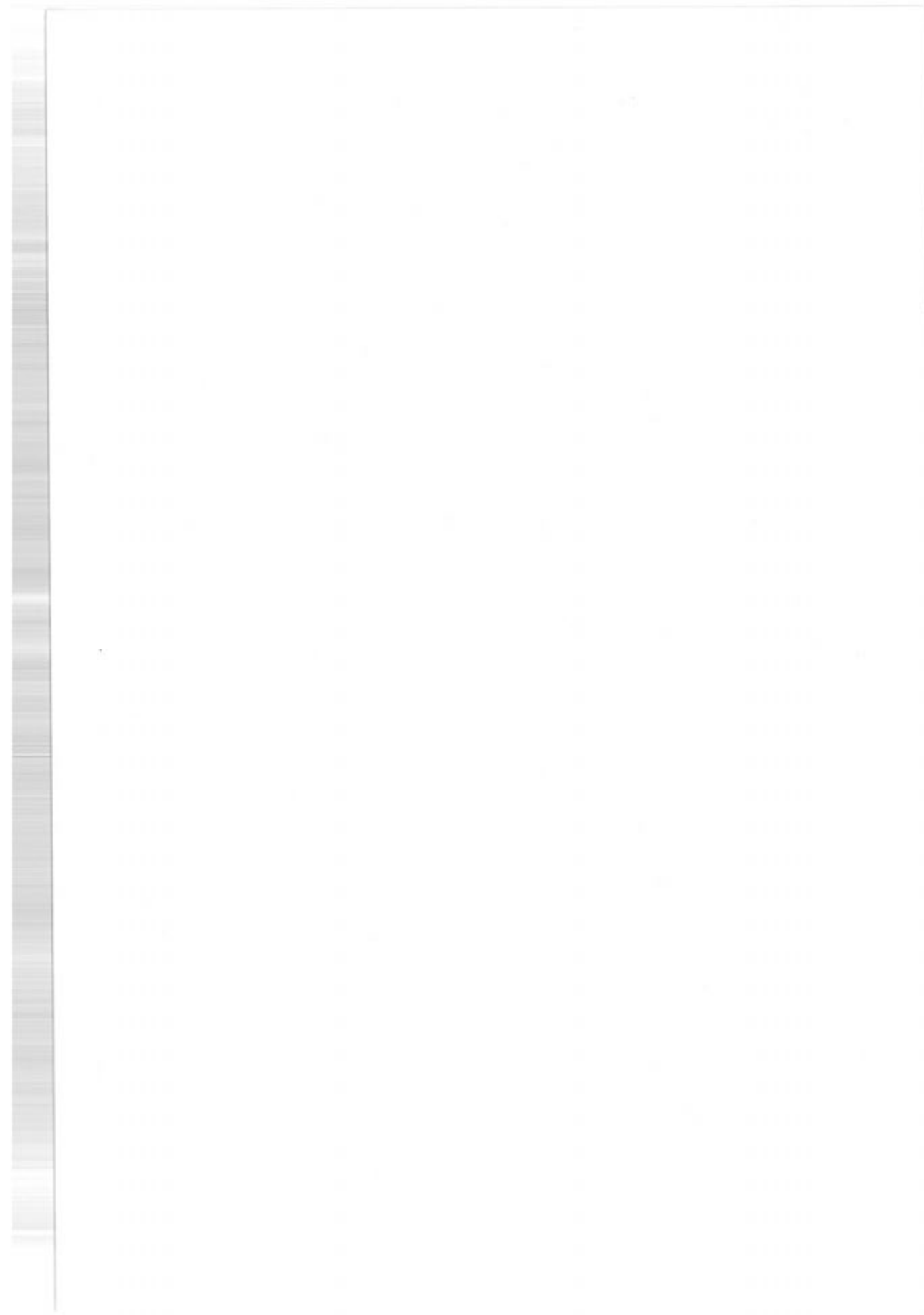
資料 2



| 地 点 (m) | 20 | 40 | 60 | 80 | 100 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 記 録 (秒) | 3.9 | 6.5 | 9.4 | 12.2 | 15.3 |
| | 3.6 | 6.3 | 8.8 | 11.5 | 14.5 |
| 差 (秒) | 3.9 | 2.6 | 2.9 | 2.8 | 3.1 |
| | 3.6 | 2.7 | 2.5 | 2.7 | 3.0 |
| 歩 幅 (2歩) | 3.15 | 3.44 | 3.55 | 3.58 | 3.55 |
| | 3.11 | 3.35 | 3.50 | 3.43 | 3.48 |
| 歩 幅 (m) | 1.575 | 1.72 | 1.775 | 1.79 | 1.775 |
| | 1.555 | 1.675 | 1.75 | 1.715 | 1.74 |
| ピッチ (* / 秒) | | | | | |

工夫したことや感想 初めのスタートダッシュは思い切り出た。それから少しペースを落とし気味で、中間疾走でがんばった。それをラストまで、続けようとした。結果としては、40～80mまでは前回よりもだいぶ上がったし、80～100mも0.1秒ではあるが縮まった。

1年B組23番 名前 T・M



視力低下の調査と検討について

楠 本 久美子

1. はじめに

本校の生徒の視力は全国と比較して 0.9以下の視力者が多く、中学1年時ですでに40%代の 0.9以下の視力者があり、また高校3年時になるとさらに60%代に増加する。視力低下の原因と視力回復あるいは視力低下の進行を止める手だてではないものかと昨年度より調査、検討をしてきた。それらの経過報告を述べる。

2. 本 論

本校の生徒の 0.9以下の視力者の実態は表1のごとくで昭和48年度から54年度までの推移がよくわかる。48年度以前の資料も参考にしたかったのだが、あいにく集計の方法が異なるため48年度以前の資料は省いた。この表から、0.9以下の視力者が前年度よりも10%以上増加している学年が中学1年から2年にかけての時期であることがわかる。視力が低下

| 校種
学年
性別
年度 | 中 学 校 | | | | | | 高 校 | | | | | |
|----------------------|-------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| | 1 年 | | 2 年 | | 3 年 | | 1 年 | | 2 年 | | 3 年 | |
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 48 | 41 | 36 | 50 | 46 | 53 | 56 | 64 | 54 | 60 | 54 | 64 | 79 |
| 49 | 39 | 55 | 50 | 44 | 56 | 48 | 56 | 63 | 76 | 56 | 62 | 56 |
| 50 | 56 | 64 | 51 | 58 | 54 | 52 | 63 | 52 | 50 | 48 | 75 | 50 |
| 51 | 46 | 53 | 62 | 65 | 55 | 66 | 60 | 51 | 62 | 67 | 61 | 63 |
| 52 | 43 | 50 | 60 | 61 | 74 | 66 | 65 | 69 | 63 | 53 | 70 | 61 |
| 53 | 40 | 57 | 55 | 61 | 68 | 53 | 76 | 72 | 69 | 61 | 58 | 60 |
| 54 | 41 | 47 | 36 | 51 | 59 | 45 | 66 | 68 | 69 | 75 | 64 | 73 |

表1 単位%

しやすい時期は中学1年生のころと推測できるが、視力低下の原因としては①目の疾病によるもの、②栄養不足によるもの、③運動不足によるもの、④目の酷使によるもの、⑤遺伝体質によるもの等があげられる。これらの視力低下の原因として掲げたものは本校の眼科検診医があげたものであるが、本校の生徒の視力低下の原因が何であるかを検討するため幾種類かのアンケート調査を実施した。

その中から今回の研究の資料として適当と思われるアンケート調査だけを掲げ検討してみることにする。

まず最初の目の疾病による視力低下であるが、本校の定期健康診断時に眼科医の治療を要すると診断された生徒のり患前後の視力を調査してみた。表2が「目に疾病あり」と診断された生徒の前年度と翌年度との視力を表わしたものである。本校では眼科検診で要治療を勧告される生徒が少ないので表2だけで決定できないが、表2からは、目の疾病と視力低下との間に関係がみうけられない。次に栄養不足による視力低下であるが本校の生徒で幼児期から「栄養不良児」と診断された生徒はいないが、栄養の摂り方にかたよりのある生徒はいるものと思われるが、栄養のかたよりと視力低下との関係の調査は今回省いた。次の運動不足による視力低下であるが、本校の体育行事から考えて決して運動不足になる

| 52年の視力 | | 53年の視力と疾病 | | | | 54年の視力 | |
|--------|-----|-----------|-----|--------|-----|--------|--|
| 1.0 | 1.0 | 1.2 | 1.2 | 麦粒腫 | 1.5 | 1.5 | |
| 0.9 | 1.5 | 0.5 | 1.2 | 霰粒腫 | 0.5 | 0.5 | |
| 1.2 | 1.2 | 1.5 | 1.2 | 結膜炎 | 1.2 | 1.5 | |
| 0.7 | 0.7 | 0.2 | 0.2 | ◇ | 0.2 | 0.3 | |
| 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | ◇ | 1.5 | 1.5 | |
| 0.9 | 0.8 | 0.9 | 0.9 | 眼瞼縁炎 | 1.0 | 0.9 | |
| 0.4 | 0.3 | 0.4 | 0.3 | ◇ | 0.3 | 0.4 | |
| 0.7 | 0.5 | 0.3 | 0.3 | 眼球位置異常 | 0.2 | 0.2 | |
| 1.5 | 2.0 | 1.5 | 1.5 | ◇ | 2.0 | 2.0 | |

表2

| 種類 | 運動 | | 積極的 | | 消極的 | |
|------------|----|----|-----|----|-----|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 0.5以下の視力低下 | 60 | 16 | 8 | 16 | | |
| 視力変化なし | 26 | 9 | 13 | 8 | | |

表3 単位%

| | 原因 | 視力 | | |
|----------------|--------------|-------|---------|---------|
| | | 1.5以上 | 小学校から近視 | 中学校から近視 |
| 遺伝 | 片親が近視である。 | 14 | 38 | 0 |
| | 両親が近視である。 | 0 | 23 | 0 |
| 読本
みの
方 | 暗い所で読んだ。 | 0 | 38 | 60 |
| | 姿勢が悪かった。 | 0 | 46 | 100 |
| テレビ
の見
方 | 1mしか離れなかった。 | 14 | 46 | 50 |
| | 2mしか離れなかった。 | 28 | 7 | 20 |
| | 1日平均3時間以上見た。 | 28 | 14 | 100 |

表4 単位%

る生徒のほとんどは体質によるものが多いといえる。暗い所で、または、姿勢を悪くして本を読んだりした場合の視力の変化は、小学校からの近視者と中学校からの近視者との間に0.01%有意水準で有意差があるので、近視の体質がなくとも本の読み方が悪ければ中学校時代から視力が低下するか近視になるかそのどちらになることがわかる。テレビの見方と視力については、1.5以上の視力者と近視者との間に、また小学校からの近視者と中学校からの近視者との間にそれぞれ0.01%有意水準で有意差がある。これらからわかることは、近視になる者のテレビの見方が悪いことが当然のごとくわかるが、中学校から近視になるほとんどの生徒は特にテレビ、本の見方読み方に原因があることがわかる。小学校から近視の生徒の場合は、体質以外に中学校からの近視者同様にテレビの見方、本の読み方にも原因があるといえる。この調査で理解できることは、視力を低下させないために本を

とは思えないが、生徒に積極的に運動に参加するか、もしくは運動には消極的であるかという質問をし、それらの解答と視力との関係を検討してみた。それが表3であるが、調査対象者は52年度から53年度に視力低下が増加した現在の中学3年の男女である。52年度から53年度にかけての0.5以上の視力が低下した生徒群と視力が変化していない生徒群とを比較した。両者に有意差はなく、本校の場合運動と視力とは無関係のようである。次に目を酷使したために視力が低下すると

いう考えであるが、本の読み方が悪かったりテレビを見すぎたりして視力が低下することはよく知られているが、遺伝も考えあわせて、1.5以上の視力者と小学校からの近視者、中学校からの近視者に遺伝体質の有無・本の読み方、テレビの見方について質問してみた。その結果が表4である。調査は視力の移動がこれから先、ほとんどないと

思われる高校3年生のうち、近視の生徒と1.5以上の生徒とを対象とした。その調査の結果、小学校から近視と診断を受けている生徒は親の体質をよく受けついでいるようで中学校からの近視者や1.5以上の視力者との間に0.01%有意水準で遺伝において有意差があった。

これは小学校から近視になる

読む時の姿勢と照明が適切であることや、テレビを見る時の距離や時間が大事なことを生徒に強調しなければならないことである。目の酷使による視力低下は本の読み方が悪いあるいはテレビの見方が悪いからであるが、それ以外に遠望することが少なく長時間本を読むために視力が低下するとも考えられないこともないのでそこで目を休める時間が少ないために視力低下が起こると想定して次のような調査を中学1年の16名だけに行ってみた。試験期間中の視力とそうでない時の視力がどのように変化しているかを調査したわけである。表5は試験期間をはさんで視力を測定した結果であるが被検査者は両眼とも同一視力で視力が0.05、0.1、0.2、0.3、0.4、0.5、0.6、0.7、0.8、0.9、1.5、2.0がそれぞれ1名ずつ、1.0と1.2の視力の者が2名ずつとした。視力表はランドル氏環で行ない、測定方法

| 項目 | 天候 | 試験前の3日間 | | | 試験後の3日間 | | |
|-------------------|----|---------|----|----|---------|----|----|
| | | 雨 | 晴 | 晴 | 晴 | 晴 | 晴 |
| きのうあまり眠れなかった。 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 今、目が疲れている。 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 視力表がいつもと同じに見える。 | | 16 | 16 | 16 | 5 | 16 | 16 |
| 視力表が普段よりもボーッと見える。 | | 0 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0 |
| 視力に変化なし | | 16 | 16 | 16 | 9 | 16 | 16 |
| いつもよりも視力が0.1低下した。 | | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 〃 〃 0.2 〃 | | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 〃 〃 0.5 〃 | | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |

表5 単位(人) 試験後は試験終了日を含む。

は目を細めずすぐ解答すること、斜めに開いたランドル氏環を含み同一の視標が二つ以上読めることとした。試験前は皆よく睡眠をとっているのか、試験前の緊張のためか「眠れなかった」「目が疲れている」と答える者もいないし、視力の変化もない。試験終了日だけ目がぼんやりすると答えているのは長時間緊張して試験用紙を見つめていたためであろう。0.5の視力低下

があったのは視力が2.0の生徒で視力表が2.0のすぐ下が1.5のため大幅な視力低下に思われるが、それほどの視力低下を実際に起しているとは思えない。0.2の視力低下も同様で1.2の視力の生徒が1.0に低下してしまったわけである。この日の視力測定の後、生徒たちは視力表がいつもよりも見にくいことにショックだったのか視力のもどる方法を知りたがっていた。遠望、睡眠をよくとる、テレビを見ない、暗い所で本を読んだり悪い姿勢で読んだりしないことを注意した。その日は試験が終わったという解放感があったためかそれと疲労のためなのか普通の日には見られないひどい外傷が続出している。翌日からの視力測定では全員がいつもと変らぬ視力にもどっている。試験終了後の視力低下は一過性の低下にすぎなかったようである。生徒たちも一安心といった表情であった。試験終了後の一過性の視力低下が普段と変らずテレビを見すぎたり本の読み方が悪かったりすると視力低下がそのまま固定してしまうのかもしれないとも考えられる。

3. 考察

今回の調査で視力の低下は一般によく注意されているように、本を読む時の姿勢や明るさ、それとテレビを見る時の距離と時間が問題となる。活字やテレビを長時間見つめる場合は途中で目を休ませるか、あるいは遠望する必要がある。特に身内に近視者がいる場合早くから視力に注意することが必要である。そうしないと一過性の視力低下がそのまま固定してしまうのではないかと推測する。生徒への指導は本校の眼科検診医の指導の下に本

の読み方として、①30cm以上離して読む。②30分に1回は目を休め遠望する。③車中で読まない。テレビの見方としては、①2 m以上離れて見る。②30分に1回、目を2分間閉じることを注意することにした。また、各教室に視力表を貼り、各自視力に注意するよう呼びかけることにした。また大きなランドル氏環を、運動場にとりつけ、それを遠望させるのもよいのではないかと現在、考慮している。今回の調査は調査対象者が少人数であることが難点だが、全般によくいわれる視力低下の原因のうち、運動不足を除く他の原因税が本校の視力低下の特色であることやまた視力低下を防ぐ今後の指導について述べてみました。この調査にあたりご協力を賜った先生方に深謝いたします。

80年代の高等学校英語教育を考える

ち くさ もと ひろ
千 種 基 弘

昭和57年度から学年進行で高等学校の学習指導要領が改訂される。これを機会に、本稿では、新しい外国語（英語）の指導要領を踏まえ、更に筆者が過去3カ年英語の授業を担当した高校3年生と昭和53年度のAFS留学生に対して行ったアンケートの結果を考察して、80年代の高等学校の英語教育のあり方を考えてみたい。

1. 新しい学習指導要領の施行にあたって

新学習指導要領では、英語は、従来の「初級英語」、「英語A」、「英語B」、「英語会話」の区分がなくなり、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語ⅡA」、「英語ⅡB」、「英語ⅡC」に区分されている。指導要領の中には記されていないが、今回の改訂に伴って今までと大きく変わる点は、文部省の検定教科書の受理種目である。これまでは、例えば「英語B」を履修する場合、リーダー・英作文・英文法の3種類の教科書を並行して使用するのが最も普通の形であったが、改訂後は「英語Ⅰ」を初めとして各科目に対する検定教科書は1種になる。「英語ⅡA」、「英語ⅡB」、「英語ⅡC」は、それぞれ「聞くこと・話すこと」「読むこと」、「書くこと」を目標にしたものであるが、「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」は、聞く・話す・読む・書くの4領域にわたる言語活動を総合的に指導するものである。

学習指導要領の第3款「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取り扱い」において、(1)「英語Ⅰ」は、原則として第1学年において履修させるものとし、「英語Ⅱ」は「英語Ⅰ」を履修した後、更に英語の履修を希望する者に、引き続いて履修させること、(2)「英語ⅡA」、「英語ⅡB」及び「英語ⅡC」の各科目は、「英語Ⅱ」の履修と並行して選択履修させることが望ましいこと、とあるから「英語Ⅰ」は普通科・職業科を問わずほぼすべての高等学校で履修され、更に普通科の高等学校では「英語Ⅱ」を引き続き履修することになる。

これらのことから、昭和57年度以降それぞれの高等学校で「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」の授業が、どのような教材を使いどのような教授法によって展開されるかが、今後の高等学校の英語教育を左右することになり、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」の検定教科書編集者とそれを扱う現場教師の責任は重大なものである。教養であり実用でもある生きた英語教育のためには①教材の精選、②視聴覚教材及び教育機器の整備、③指導上の工夫改善、④英語教員の自己研修等において当事者のたゆみない努力が必要であることは言うまでもないことであるが、本稿ではそのうち主として「指導上の工夫改善」について問題提起をしたい。

英語教育に携わる者は誰も、先賢の言に耳を傾け、また自らの経験に基づいて試行錯誤しながらより良い授業を目指しているが、その授業を生徒たちはどう受け止めているのだろうか。本稿は、生徒に対する2つのアンケートの結果を考察し、そこに筆者自身の今までの授業方法の反省を求め、改善への手がかりを求めるものである。本稿が、

筆者と同じように高等学校の英語教育に携わる方々の参考になり、新しい学習指導要領での80年代の英語教育のあり方を考える一助になれば幸いである。

2. 高Ⅲ生徒へのアンケート

筆者は昭和52年度入学生徒の英語リーダーの授業を3カ年連続して担当した。3学年も後半に入り、教科書をほぼ終了した段階で、3カ年の授業の反省資料を得るために生徒にアンケートを書かせた。

(1) アンケートの内容

対象：高校Ⅲ年生 177名 (男子 105名、女子72名)

内容： 質問1

中1から高Ⅲまで、あなたにとって英語は好きな科目でしたか、嫌いな科目でしたか。好きな場合は○、嫌いな場合は×、どちらとも言えない場合は△を記入しなさい。

| 中1 | 中2 | 中3 | 高Ⅰ | 高Ⅱ | 高Ⅲ |
|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | |

質問2

(質問1で×のある人のみ答えなさい) 英語が嫌いであったり、途中で嫌いになった理由を書きなさい。

質問3

高Ⅱ、高Ⅲの教科書で読んだ lessonの中で強く印象に残っているのはどれですか。下から3つ選んでその番号を書きなさい。

(高Ⅱの教科書)

- ① April Fool
- ② A Chance for a Story
- ③ Look Around and See!
- ④ Deep under the Sea
- ⑤ The Awakening
- ⑥ Victorian Narrative Paintings
- ⑦ The Inca Empire
- ⑧ Urban Crises in America
- ⑨ How a Negro Poet Writes a Poem
- ⑩ Bless My Homeland Forever!
- ⑪ Youth Never in Despair
- ⑫ The Canary
- ⑬ Winter in Moscow

(高Ⅲの教科書)

- ⑭ Japan through Western Eyes

- ⑮ The Use of Poetry
- ⑯ Ulysses
- ⑰ Ignoring Contexts
- ⑱ Paul Gauguin — in Search of the Sun —
- ⑲ Must the sea Die ?

質問 4

今までに多読の授業や夏休みなどの宿題で読んだ英語の本の中で特に印象に残っているのはどれですか。その書名を書きなさい。

質問 5

あなたの英語学習の目的は何ですか。主なものを2つ書きなさい。

質問 6

あなたはどの程度の英語の力をつけたいと思っていますか。具体的に書きなさい。

質問 7

高校での英語の授業のやり方について、あなたの意見や感想を書きなさい。

(2) アンケートの結果

質問 1

| | | 中1 | 中2 | 中3 | 高I | 高II | 高III |
|----|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 男子 | 好 き | 43% | 38% | 36% | 26% | 30% | 28% |
| | どちらとも言えない | 35% | 36% | 45% | 45% | 47% | 47% |
| | 嫌 い | 22% | 26% | 19% | 29% | 23% | 25% |
| 女子 | 好 き | 51% | 47% | 61% | 38% | 26% | 28% |
| | どちらとも言えない | 31% | 38% | 32% | 54% | 59% | 62% |
| | 嫌 い | 18% | 15% | 7% | 8% | 15% | 10% |
| 計 | 好 き | 46% | 42% | 46% | 31% | 29% | 28% |
| | どちらとも言えない | 33% | 37% | 40% | 49% | 51% | 54% |
| | 嫌 い | 21% | 21% | 14% | 20% | 20% | 18% |

質問 2

1. 辞書を引くのが面倒である・単語力がない (20名)
2. 授業が十分に理解できない (16名)
3. 成績が下がった (15名)
4. 英語の勉強を怠けた (11名)
5. 文法がわからない (7名)

6. 憶えることが多すぎる (5名)
7. 授業が単調である (3名)

質問3

1. Japan through Western Eyes (63名)
2. The Inca Empire (54名)
3. Bless My Homeland Forever! (47名)
4. The Canary (45名)
5. Paul Gauguin —in Search of the Sun— (45名)
6. How a Negro Poet Writes a Poem (38名)
7. Ulyses (36名)
- ⋮
15. Ignoring Contexts (10名)
16. Winter in Moscow (9名)
17. Look Around and See! (8名)
18. Must the Sea Die? (8名)
19. A Chance for a Story (4名)

質問4

1. The Boyhood of David Copperfield (62名)
2. Ben Hur (47名)
3. The Red Headed Club (41名)
4. O. Henry's Short Stories (20名)
5. Stories from Shakespeare (17名)
6. Enoch Arden (13名)
7. Mark Twain's Best Stories (11名)

質問5

1. 大学入試のため (111名)
2. 外国人と話しができるようになるため (57名)
3. 教養・知識を身につけるため (37名)
4. 原書が読めるようになるため (35名)
5. 将来の職業のため (19名)
6. 外国旅行をするため (18名)
7. 国際人になるため (15名)
8. 日本語の理解を深めるため (11名)

質問6

1. 自由に会話ができるぐらいの力 (110名)

2. 原書が読める力 (52名)
3. 大学入試に合格できる力 (18名)
4. 洋画が楽しめるぐらいの力 (5名)
5. 英検1級に合格できる力 (3名)

質問7

- いつも同じようなパターンで授業が進むので退屈に思うこともあり、安心感もあった。
- 語彙を増やしたり文法の力をつける点では良い授業だと思うが、会話など実用的な力はつきにくいと思う。
- 読み書きも大切ではあるが、聞く話すことをもっとやってほしい。
- 外人講師を呼んでほしい。
- 文法を早く終えてしまって、多読や会話をやってほしい。

(3) アンケート結果の考察

- ① 「好きこそものの上手なれ」という諺が日本にあるが、英語では *What one likes, one will do well.* とか *Liking shows where one's talent lies.* といった諺があり、何ごと也喜欢であれば、熱心になり上達するという事は洋の東西を問わず真理である。英語教育においても、生徒に英語を好きな科目にさせておくことは非常に大切なことである。

質問1 の回答から、英語が好きな科目であると答えている生徒の数は中学校段階では半数近くあるのに対して、高校段階では約30%に減少していることがわかる。また英語は嫌いな科目であると答えている生徒は中1段階から高Ⅲ段階まで約20%で大きな数の変化はみられない。中学入学当初はほぼ全員の生徒が英語に強い関心を持ち決して初めから英語が嫌いではなかったと想像されるが、英語を習い初めて1年のうちに5人に1人の生徒が英語嫌いになっている。中3の段階で、女子生徒で英語を好きとした者の数が急増し、男女共に嫌いとした者の数が大きく減少しているが、これは本校では中3で外人講師の英語の時間が週1時間あることと大いに関係しているものと思われる。

中学段階と高校段階を比較して、英語を嫌いとする者の数は殆んど変化はしていないが、英語を好きとする者の数が大きく減少することには責任を感じる所である。

質問2 の回答から、英語が嫌いになる理由がうかがえる。辞書を引くのを面倒がったり、勉強を怠けたり生徒自身の責任に帰せられるものも多いが、授業が十分に理解できないとか単語力がなくて生徒に感じさせている点では教師の側に責任がある問題である。教材の提示の仕方とか、きめの細かい指導によって解決する点もあるように考えられる。教材とか指導法の問題以外に、成績が下がった生徒や能力的に遅れを取ってゆく生徒に対する心理的バックアップが大切なように思われる。

- ② 教材の善し悪しが教授者や生徒に及ぼす影響は大きい。教材が授業の成功・不成功を決定する大きな要因となる。教科書を扱っていて、*lesson*によっては授業者も全く興味が湧かず、こんな課は早く終わってほしいものだと念じつつ授業を進めることがあるが、このような場合、良い授業ができるはずはないのである。

本校においては、少しでも内容のよい教科書を求めて、毎年採用する教科書を変えている。昭和52年度入学生は、リーダーの教科書は Revised UNICORN ENGLISH READERS (文英堂) を使用した。

質問3 の回答から、生徒にとって興味を持てる教材、また逆に興味を持っていない教材をある程度推し測ることができる。約3分の1の生徒に強い印象を与えている Japan through Western Eyes は、Book 3 の最初の Lesson で Peter Milward, Jack Seward, James Kirkup 3 氏の日本観と Lafcadio Hearn の日本印象記から成り、日本及び日本人を外人の目を通して見たものである。生徒に人気のあったベスト7 中の Bless My Homeland Forever ! は、ミュージカルでヒットした 'The Sound of Music' の原典である Maria Augusta Trapp の自叙伝 The Story of the Trapp Family Singers の一節であり、The Canary は、Katherine Mansfield の短編小説であり、Ulyses は、William Saroyan の The Human Comedy からの2編である。更に、Paul Gauguin-in Search of the Sun-は画家ゴーガンの伝記であるが、appendix として Somerset Maugham の The Moon and Sixpence 中の主人公 Strickland が妻子を捨てて画家となる決意を語る場面が付されている。The Inca Empire は、ペルーの Machu Picchu の遺跡を中心にしたインカ帝国に関する説明文である。How a Negro Poet Writes a Poem は、黒人詩人 Langston Hughes の作詩についての essay であり、appendix として Martin Luther King が1963年の March on Washington で行った演説の一部が付されている。

逆に、生徒にあまり印象を与えなかった lesson の Ignoring Contexts は、アメリカの言語学者 Dr. S. I. Hayakawa の語と文脈に関する論文であり、Must the Seas Die? は、海洋汚染を取り扱った科学論文であり、Look Around and See ! 物の見方を述べた説明文である。Winter in Moscow は、紀行文であり、A Chance for a story は、イギリスの日常生活の物語り文である。

以上のことから、高校生が興味関心を持つ教材は、国際的な視野を拓けるような内容を持つものや文学作品であることがわかる。また、Book 3 の教材は、殆んど retold されていない original 作品が多く、格調の高い英語を感覚的によいと感じているようにも思われる。逆に人気のない教材は、理屈っぽさや serious な内容を持つ論文であり、高校生の知的水準に達しない幼稚な内容の説明文や物語り文である。

- ③ 本校では、1・2年生の英語の授業時数は週5時間で、その内1時間を多読指導にあてている。昭和52年度入学生の場合、多読の授業では The Red Headed Club と The Boyhood of David Copperfield を読んでいる。また、春・夏・冬の長期休暇には70ページ前後の本を宿題として読ませている。

質問4 は、多読教材についてのアンケートであり、その回答から、The Boyhood of David Copperfield, Ben Hur, The Red Headed Club が、他の作品に比べて非常に強い印象を生徒に与えていることがわかる。Ben Hur は、1年生の冬休みの宿題として読んだものであるが、その活劇的な内容とか、映画がテレビで再三放映されていることなどから生徒の印象に強く残っているものと思われる。The Boyhood of David Copperfield と The Red Headed Club は、前述のように教室で

多読教材として読んだものであり、他の作品は長期休暇の宿題として読み、どちらかと言えば読みっぱなしになっているものである。結局、多読的に長い作品を読んでゆく場合でも、指導者がいてポイントを押さえ、難解部には解説を加えて、内容を正確に把握するような読み方をしなければ、効果的でないと言えるのではないだろうか。

- ④ 目的のない行為は徒勞に過ぎない。英語の学習者にしても、それぞれ目的があって英語を学習すればこそ学習に熱が入り、学習効果も上がるのである。

このアンケートを実施したのが、生徒たちが否応無しに大学受験を意識する3年生2学期のことであるとはいえ、**質問5**の回答から6割強の生徒が、英語学習の目的を「大学入試のため」と答えているのは少なからぬ驚きである。大学入試が、良くも悪くもいかに大きな影響を高校生に与えているかということがわかる。この生徒たちが、大学に入ってしまったなら、彼らにとって英語は一体何になるのだろうか。英語学習の目的については、この生徒たちが高校に入学した時にいろいろ話し合ったのであるが、3年の間に目的意識には変化があり、筆者自身の授業においても大学入試を意識した要素が増えてゆき、このような結果につながったものと思われる。大学受験を無視することはできないが、より次元の高い目的意識を指導者が常に意識していなければならない。

- ⑤ 言葉とは、本質的に話したり聞いたりする音声から成り立っているものである。しかしながら、英語教育の現場では、印刷された文字から成り立つ英語に焦点が当てられ、聞くこと話すことというより本質的な言語活動が等閑に付されている。

質問5の英語学習の目的に、全体の3分の1の者が、「外国人と話しができるようになるために」と答えている。そして、**質問6**に対して6割の生徒が、「自由に会話ができるぐらいの力」と答えている。また3割弱の生徒は、「原書が読める力」と答えている。このことから、生徒が求めている英語の力とは、読み書きの力よりはむしろ聞く話す力であり、それは取りも直さず現在の社会が英語教育に求めているものでもある。

- ⑥ **質問7**の回答は、筆者の授業に対する批判である。生徒の意見や希望をすべて取り入れることはできないが、反省の資料とし、今後の授業で改善すべき点は積極的に改善してゆきたいと思っている。

3. AFS留学経験生徒へのアンケート

昭和53年に American Field Service の奨学生としてアメリカに留学した高校生は近畿2府5県で24名であった。彼らは1年または2年間日本の高等学校で教育を受け、その後1年アメリカの高等学校で教育を受けているので、日本とアメリカの高校教育の比較ができ、特に英語圏での生活をしてきているので日本の英語教育に対する批判もできるものと思われる。これからの英語教育を考えると、彼らの体験を通しての意見を聞くことは有益なことであると思ったので、上記24名の諸君に対してアンケートを送った。回答を得たのは男子8名、女子7名の15名であった。

(1) アンケートの内容

質問1

あなたの現在通学している学校名を書いてください。

質問 2

あなたは留学する前、学校以外の所で英語を習っていましたか。習っていた場合は具体的に（どこで、どれぐらい、だれに、どんな英語を等）書いてください。

質問 3

あなたは留学する前、ラジオやテレビで英語講座を継続的に視聴していましたか。していた場合は具体的に（何を、どれぐらい等）書いてください。

質問 4

留学中、日本の中学や高校で学んだ英語は役立ちましたか。実感したことを書いてください。

質問 5

留学してみて、あなたが日本で習った学校英語をどう思いましたか。良い点・悪い点を書いてください。

質問 6

留学中、あなたの受けた英語の授業で特に良かったと思ったこと、特に役立ったと思ったことを書いてください。

質問 7

留学中、学校で英語以外の外国語を履習しましたか。した場合、それは何語で授業のやり方はどんなふうでしたか。日本の英語の教え方と比較して書いてください。

質問 8

もしあなたが高校の英語の教師になったら、何をどのように教えますか。英語の授業の理想像を書いてください。

(2) アンケートへの回答

質問 1

国公立高校生 7 名（男子 3 名、女子 4 名）と私立高校生 8 名（男子 5 名、女子 3 名）からの回答を得た。以下 A, B, C……H は男子回答者（A, B, C は国公立高校生）、I, J, K……O は女子回答者（I, J, K, L は国公立高校生）である。

質問 2

英語学校で習っていた 5 名（C, D, E, G, L）
塾で受験英語を習っていた 2 名（H, J）

質問 3

NHK 英語会話（ラジオ） 11 名（A, B, C, D, F, G, H, K, M, N, O）
NHK 英語会話（テレビ） 5 名（D, F, G, L, O）
百万人の英語 3 名（A, G, N）
FEN のニュース 1 名（F）
セサミストリート 1 名（M）

質問 4

（役立ったと回答した者 10 名）
・しっかりした文法の力が役立った。特に作文・論述試験においてはアメリカ人よりもしっかりした英語だとほめられた。（E）

- アメリカで必要であった英語は、中学英語を充実させたものにほかならなかった。一番良かったと思うことは、高校で身につけた単語力と読解力であった。(G)
- 日常会話では中学の英語で十分であった。授業を英語で受けたり教科書を読むためには高Ⅱぐらいの力が要求され、高校で学んだ英語はとても役立った。(A)
- 中学で習った英語は基本なのでもちろんだが、高校の時のLL学習や選択の英語会話がとても役立った。(K)
- 学校でoralで教えられたことが非常に役立った。(M)
(役立たなかったと回答した者2名)
- 留学中に最も必要なのは「聞く・話す」ことであり、学校で学んだ英語は極端なまでに文法中心だったので即戦力にならなかった。最も大きな課題は語彙力であり文法ではなかった。(F)
- 学校での英語の成績は相当なものだったが、最初の1か月ほどは他人の言っていることはほとんどわからず、自分の英語もわかってもらえなかった。(O)
(中間的立場の回答をした者3名)
- 読み書きの方では役立ったが、会話の面ではほとんど役に立たなかった。(N)

質問5

- (良い点)
- 分析的・論理的に読解する力を養っている。(A, D, K)
 - 文法を体系的にきっちり教えている。(C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O)
 - 単語・熟語力をつけている。(E, M,)
- (悪い点)
- 読み書きに偏っている。(B)
 - 受験英語にとらわれ無味乾燥な文法問題をやる。(A, C, N)
 - 発音指導をあまりやらない。(D, G, N)
 - oral drillが少ない。(D)
 - 聞く話すの言語活動がほとんどない。(F, I, K, L, N, O)
 - 教科書の英語は古くさくて生き生きしていない。(D, F, J)
 - 英語を読む量が少ない。(J)
 - 速読・多読の練習が少ない。(K)

質問6

- 読む量が多く、それで読解力や英語に対するカンが養われた。(B, H, L, M, N)
- Speechのclassで、自分の意志を正確に、しかも効果的に相手に伝えることを学んだ。(C, F, K, O)
- 作文のclassで、与えられたテーマで文を書き、注意された所を“A”がもらえるまで書き直しをさせられたが、これは大きな収穫だった。(K, O)

質問7

- 外国語のクラスには、必ずLLやheadphoneの設備があり、ポスターや地図が教室には貼ってあり、生徒の学習意欲・興味をわかせるようにしていた。(B)
- フランス語を履修した。基本動詞の活用形など文法のテストが繰り返しあった。会話を重視しており、できる限りフランス語で授業が進められた。生徒にもフラ

ンス語で話すようにさせていた。フランスの歴史や生活様式や文化についてもかなり詳しく教えていた。(C, E, M)

- ドイツ語を履修した。テープを何回も聞かせてドイツ語に慣れることを重視していた。教科書の会話文を憶えさせ、生徒2人にその会話を再現させることが多かった。文法の説明・文字と発音の関係・問題演習は日本の英語の教え方と変わらない。言語そのもののみでなく文化を学ばすためにスライドを見せたり、プリントが配られたりした。楽しく学ばせているが、最大の欠点は遅々として進まないことで、日本でなら1学期間で教えるようなことを1年間かかって教えていた。(H, N)

質問8

- テープ教材をもっと利用する。日本人の発音には限界があるから。/会話教材をもっと取り入れる。/多読として文学作品の鑑賞をさせる。/英文法は高1のはじめにポイントを押さえ一通りやる。/受験用の穴埋めのような問題集は使わない。(A)
 - ただ単に英語の語法などの技術的な面だけではなく、英語国民の発想やロジックを教えなければならない。さもないと、外国人とはうわべだけのやりとりで終わってしまい、真にコミュニケーションすることはできないからである。更に、英語の歴史的文化的な背景も教えたい。少なくとも、言語とはそれを話す民族あるいは国民の文化・歴史そのものだということを教えたい。最終的には、英語教育とは生徒たちに自分は日本人であるという *national identity* を持たせ自国の文化に対する理解をいっそう深めさせ、その上で国際人としての *international identity* を持ち世界の他の民族と共にいかにしたら平和な人間社会を築き上げられるかということを求め続けさせるものである。(D)
 - 文法は必要以上には教えない。/生徒と英語で会話をする時間を設ける。/視聴覚教具を利用して生みの英語を聞かせる。/英語国民と日本人の発想の違い、文化や生活様式の違いを生徒に調べさせて発表授業をさせる。(F)
 - まず、クラスの人数は20人以下にする。なんといっても語学の学習は少人数制が一番だと思うからだ。テキストは生徒が興味をいだくような内容のものを選ぶ。英語を日本語に訳すようなことはあまりせず、長い英文を英語で短くまとめさせるなどして英語を英語で理解させるようにする。アメリカやイギリスの生活の様子などのフィルム等を見せてそれについてディスカッションをしたり、テーマを決めてスピーチをさせたりして、英語を机上の学問で終わらせることのないようにする。(N)
- (3) アンケートへの回答の考察
- ① Diligence is the mother of success. さすがA. F. S. 奨学生に選ばれた生徒たちである。質問3 の回答の示すように、ラジオやテレビの講座を継続的によく聞いている。中には中学1年から5年間欠かさずラジオ講座を聞いている者もあり、不断の努力なしでは英語を身につけることができないことを如実に語っている。
 - ② 質問4 , 質問5 の回答は、高等学校の英語教育のあり方に示唆を与える所が大である。役に立たない英語として非難されている文法・読解偏重の高等学校英

語は、実は非常に役に立つ英語であるとも言える。native speaker をして「しっかりした英語だ」と言わしめるだけの英語をものにして生徒を育てている点では、現在の日本の英語教育にもっと自信を持ってよいだろう。文法を体系的にきっちり教えるやり方は、これからも続けてゆくべきである。

日本の高校英語教育に関して、多くの回答者が悪い点として指摘しているのは、発音指導を初めとする音声面での指導不足である。この点こそが、役に立たない英語の謗りを受ける元凶であると考えられる。

③ 質問7 の回答から、アメリカでの外国語教育の一端をうかがい知ることができる。フランス語にせよドイツ語にせよ hearing, speaking の指導に重点が置かれている点と、その言葉を使っている国民の生活や文化を教えている点に注目しなければならない。

④ 質問8 については、内容的によく似た回答が多かったので、代表的な4名の回答を紹介した。全回答者15名のそれぞれの考えなり意見は、この4名のもののいずれかに含まれている。

日本とアメリカ両方の高等学校での学習を体験し、その経験を通して高校英語教育のあり方を考えた意見であり傾聴に値する。理想像を述べたものであるから、現状では実現が極めてむずかしい所もあるが、現在の英語教育に対する1つの批判として受け止めたい。

4. むすび

昭和57年度からのカリキュラムの組み方は、頭の痛い所である。指導要領に示されている標準単位数は、英語の場合、「英語Ⅰ」が4、「英語Ⅱ」が5、「英語ⅡA」・「英語ⅡB」・「英語ⅡC」がそれぞれ3で、合計18単位になる。他教科との関係で英語の履習単位数は、普通科の場合15単位前後に落ち着くものと思われる。そうすると、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」のほかに、「英語ⅡA」・「英語ⅡB」・「英語ⅡC」のうちの2科目が選択される可能性が大きい。その場合、LL等の施設のことや大学入試のことに影響されて、「聞くこと・話すこと」を目標とした「英語ⅡA」がはずされるケースが多いのではないだろうか。

現在の日本の英語教育においては、文法と読解が偏重されている。しかし、文法と読解を重視することは、正しい英文が書け正しく英文を読み取ってゆく素地を作るものであり、大いに奨励されるべきことである。問題は、文法・読解と「聞く・話す」言語活動をどのようにバランスを取って指導するかという点にある。その点では、「英語ⅡA」の履習が勧められるべきであるが、普通科の高校においては大学入試との板ばさみになり苦しむ所である。例えば、国公立大学の共通一次試験をみても、問題の大半は語彙文法と読解問題であり、hearing, speaking に関する問題は発音問題を除いて皆無である。また、高校生の大半が英語学習の目的を大学入試と答える今日、大学入試のあり方が高等学校教育に与える影響は極めて大きい。この点を考慮して、教養であり同時に実用である英語教育が高校で行なわれるように、大学関係者は更に入試改善に努めてもらいたい。

「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」では、1種の教科書を使って聞き、話し、読み、書くの4領域の言語活動を総合的に指導することになる。従来のように、ある教師は文法だけ、またある教師は作文だけと指導すればよいという授業の持ち方はむずかしくなるであろう。英語教師

1人1人が、改めて英語教育の目的を問い直し、何をどのように教えてゆくべきかを考えなければならない。英語教師が、英語について日本語で解説する英語の授業は過去のものにしなければならない。English そのものを教え、それを通して英語国民さらには世界の人々の生活や文化を教え、国際人を育てることこそが80年代の英語教育である。

本稿は、学習指導要領の改訂を機会に、筆者自身が今までの英語の教え方を振り返り、これからどうすべきかを考えるために行った2つのアンケートの紹介に過ぎないが、高等学校の英語教育が何のために行われ、何をどのように教えるべきかと考える一助になれば幸いである。

中学3年生による「8mm映画製作」(第一報)

なが まち みつ いえ
長 町 充 家

はじめに

本校では今年初めて美術の授業で「8mm映画製作」を取り上げたので、その報告をしたい。「映画製作」は、従来主に高等学校で、クラブあるいはサークルで行われたという話しは耳にするが、授業として全学年にわたって取り上げたという話しは、まだ耳にしていない。「新教材の開発」というのが現在私の持っているテーマであるので、この報告も「新教材の開発」という視点に立ってまとめているところなのであるが、「映画製作」はそれ自体の中に、単に美術科の一教材としてだけではなく、現在話題になっている新教育課題の「ゆとり」の問題、さらに「学校行事」「合科教育」「美術科の目標とその範囲」等々、幾多の他の分野との関連の中での位置づけが必要となる。ところが現在の時点ではまだ映画は完成しておらず、一部は撮影終了で、一部はまだ現在撮影中である。そこでこの第一報においては、現在に至るまでの経過を、生徒の記録を中心とし、さらに関連があると考えられる学校行事を含んだドキュメントとして、事実を中心に、できるだけ個人的な意見をひかえる方向で報告したい。そして第二報において、編集、音響、互いの作品鑑賞を感想等の残りの記録と「映画製作」の美術教育における位置、価値等の考察をしたいと考える。授業のより完全な記録こそが教育研究の出発点となると考えるからである。

生徒の状況・学校行事等

中学校における生徒の状況は次の通りである。

○人数—1学年の人数は約160名(内男子約100名、女子約60名)

1学級の人数は約40名(内男子約25名、女子約15名)

1学年はA組、B組、C組、D組の4クラス

1学年約160名の内附属小学校からの生徒が約80名で一般入試による生徒は約80名である。

○通学範囲——本校は大阪教育大学の附属中学であるので生徒の通学範囲は、大阪府全域、生及び奈良県、兵庫県の一部に限定されており、さらにその地域で通学時間は50分以内となっている。従って生徒の居住地は、同じクラスであってもかなりの広範囲にわたり、日常生活においては、下校後の生徒間の交遊は時間的に不可能である。

○美術の時間数——1年生—2時間/週、2年生—2時間/週、3年生—2時間/週といわゆる2・2・2が現在確保されており、2時間は連続して行われている。従って美術の時間は週1回、2時間連続の時間帯で行われている。

○教育実習——附属学校として教育実習生(主として4回生、一部大学からは3回生が実

習を行う)を受け入れるが、その期間は次の通りである。

- (1) 基本実習(中学校課程学生) 5週間(9月17日～10月20日)
- (2) 併習実習(小学校課程学生) 2週間(11月5日～11月17日)
- (3) 養護実習(養護教諭養成課程学生) 2週間(11月5日～11月17日)

美術科における実習生の数は基本実習の場合、本年－2名、昨年－4名、一昨年4名と本年は特別少なかったが、例年は3～4名受け入れている。又、併習実習生の数は4～5名である。さらに基本・併習の実習生以外に、例年6月頃に卒業生実習を受け入れる。これは本高等学校の卒業生の実習で、美術科の場合、中・高等学校を通して美術科の専任教員が一人であるので中学校で実習を受ける。ただし、美術科の場合卒業生実習に来る学生は、本高校から美術系大学に行く生徒の数が少ないこともあり、過去4年間で3名にとどまる。

実習生に対する美術科としての基本的な姿勢は、実習期間中に一つの教材を完結させ、評価まで行わせる。というものであり、教材の決定については、実習生との話し合いの中で、まず、その学年が現在まで行ってきた学習内容を示し、その上で実習生の希望を中心に、その内容を定めるという方法を取っている。この方法の場合、事前の話し合いにかなり時間が必要であることと、年間の時間数も、こちらの予定の中でかなり少なくなるという欠点はあるが、附属校という本校の性格上、やむをえないと考えている。

(8mm映画製作に関しては、今年は中学3年生に実習生の配当はさけたので、時間数はある程度確保できた)。

○学校行事等

学校行事(生徒会行事等も含む)において、本校は他の学校に比べかなり特色を持っていると言えよう。全般的に言えば「行事が多い」と言えるわけであるが、その内容については、本校には本校の特色があるはずであるので、その傾向の是非を述べる必要もないと考えるが、いずれにしても、ここでまずその既略を本校の学校要覧からの抜粋をもとに一部つけ加えて紹介したい。

| 月 | 中学校生徒会・学校行事 |
|----|--|
| 4 | ※対面式、※クラブ編成、※規律規定説明会、※クラブ説明会・見学会 |
| 5 | ※クラブ登録、※生徒会予算原案作成・予算決定、×中2理科野外実習、×中2遠足、×中3修学旅行、中1合宿、×スポーツテスト |
| 6 | △英語暗唱大会 |
| 7 | ○臨海学校、×中2富士登山 |
| 8 | ○自由研究 |
| 9 | ×泳力テスト、○自由研究発表会、○三附中交歓会 |
| 10 | ○体育大会、※生徒会後期役員選挙 |
| 11 | ×遠足、○学芸会 |

| 月 | 中学校生徒会・学校行事 |
|----|--------------------|
| 12 | |
| 1 | ×耐寒訓練、×マラソン大会 |
| 2 | ○文化クラブ発表会、展示会、△音楽会 |
| 3 | ※次年度生徒会前期役員選挙 |

○印：生徒会関連行事 ×印：学行行事等 △印：教科行事

以上の諸行事の中で8mm映画製作について、関連があると思われる行事についての説明をすると、まず学年別の行事では

中学2年生

○富士登山

2年生では7月の下旬、学年全員で2泊3日で富士山に登るのであるが、この際、記録の一環として8mmの記録映画を製作する。昨年の例をあげると、写真係ということで各クラス4名、計16名がこの係にあたった。この中にはスナップの係も含まれ、実際に8mm映画の撮影をした生徒は4人であり、学校の2台のカメラで撮影をした。これは記録という性格上、できるだけ4クラスをまんべんなく写すことが要求されるためである。しかし事前の準備の段階においては、各クラス2名ずつ計8名の生徒がこれに携わっている。この準備の話し合いの段階では、それ以前の記録映画を見ながら、係の教官の指導のもとに、例えば、新大阪駅での出発時のようす、新幹線の車内でのようす、三島駅から富士山の5合目に至るバスの車中のようす、新7合目までの登山のようす、山小屋での宿泊、御来光のようす、等々、行動を予想されるそれぞれの場所で、どのようなシーンをどのくらいの長さで撮るか、ということを決定する。予算の関係、映画が出来上がった時に鑑賞する時間の関係等で、フィルム全体の長さで60分～70分、本数で言うと20本～25本の長さがこれに当てられた。車中、山小屋、頂上、旅館等での撮影は生徒によって行われるのであるが、登山中の撮影は、かなりの体力が必要なために、主に教官によって行われている。

そのようにして撮影されたフィルムを、次には編集するのであるが、これにはかなりの時間を必要とする。撮影の段階では、カメラが2台しかないので、直接撮影をする生徒の数も限定されるが、編集では10人前後の生徒がこれにたずさり、夏休み明けの9月から2学期いっぱいを使う。さらに、音響の問題がある。年によっては編集されたフィルム（30分～45分）に磁気テープを塗り、それに音を入れることもあるし、あるいは音楽だけをカセットにふきこみ、説明は1人～3人の生徒によって、写しながらされることもある。いずれにしても、2年生の段階で、ごく一部ではあるが、生徒は8mm映画製作を経験しているのである。

中学3年生

○修学旅行

3年生になると、5月の終わりから6月にかけて、長野県の乗鞍高原において5泊6日の

修学旅行が実施される。この修学旅行の特徴は、一般の修学旅行に比べ期間が長いということと、もう一つ内容が基地方式をとっていることにあると思う。普通の修学旅行は、電車、バス等を利用し、九州なら九州を一周とか半周するものであるが、本校の修学旅行の場合には、乗鞍高原の民宿を基地とし、そこで、オリエンテーリング、飯合炊さん、植林作業、乗鞍登山、各グループでテーマを定めた自由研究（テーマの例：乗鞍の民家、そばの研究、川の生物、写生、作詩、地図づくり等）キャンプファイヤー等の活動を行う。ここでも、中2の富士登山と同じように記録班がつけられ、その中にスナップと8mm映画の製作が行われる。手順は富士登山で説明したものと大差がないので、ここでは省略する。

直接8mm映画製作としては、以上の2つであるが、次に間接的に大きな影響を持つと考えられる学芸会について説明したい。

○学芸会

これは毎年12月の初めに行われるものである。それぞれの学級単位で1つの劇を作りあげるのであるが、まず上演時間は、1年、2年が20分、3年が30分以内という時間で行われる。演題、スタッフ、キャストの決定はすべて生徒によって行われる。初めて経験する1年生については、文化委員会という委員会組織を中心に、2・3年生が一年生の指導にあたる。演題の決定については、特に制約はなく、創作・既成の劇をもとにしたもの等があるが、近年は既成の脚本をもとにして題本が作られる場合が多い、参考のために昨年の演題をあげてみると、

1年生：「真夏の夜の夢」「くらがり峠」「貧乏神と福の神」「だれかがよこした小さな手紙」

2年生：「赤いろうそくと人形」「野菊の墓」「お月さんも色」「たけくらべ」

3年生：「ミラノ・ド・ベルジュラック」「石の微笑」「おとうと」「HAMLET」

であった。

これはすべて劇であるが指導の方針としては、例えばミュージカルのようなものでもよいという姿勢をとっている。しかし、毎年、劇形式のものが、そして劇の中でも既成の話しを脚色したものがほとんどであるのは創作劇の、そしてミュージカルのようなものが、中学生にとっては能力的にも、また、2カ月足らずの準備期間という意味からも、かなり困難であるということなのであろうか。

教科行事で8mm映画製作に関連があると思われるものは、音楽科の音楽会と英語科の暗唱大会である。音楽会においては、年により多少の変更はあるが、まず1年においては笛を中心にした器楽合奏、2年生では課題曲1曲と自由曲1曲、3年生では自由曲というような構成がなされている。2年生の自由曲と3年生の自由曲では当然その内容に違いがある。2年生では比較的簡単なものが選ばれるが、3年生ではかなり長時間の、例えばベートーベンの第9の合唱をドイツ語で歌ったり、ストーリーのある近代的な歌唱曲が歌われたりする。

英語科の暗唱大会においては、1年生が教科書の部分的な暗唱であるのに対し、3年生では自作の英作文を暗唱する、というように、教科のちがいは関係なく、そこには学校としての、中学校教育に対する共通の考え方が存在するように思われる。

最後に夏休み中の「自由研究」であるが、これは夏休みの課題の一つとして、「できれば一つの課題を3年間経続して」ということで、1年生から3年生まで毎年行われている。ここでは、さまざまなテーマ、例えば「淀川の水質調査」「アリの行動」「電子蚊取線香のメーカーによる効能の違い」といった理科系統の研究から「仏像」「寺社の門」「道標」といった社会科的分野、さらに「駅の便所のようす」「新聞の投書欄の差異」「堺市のサイクリング・ロード」といったものに至るまで、非常に巾の広い中で生徒達は研究を行っている。

8mm映画製作の授業の展開

このような学校の背景の中で8mm映画製作を行った。ここでその授業の展開を紹介すると、

○第1週（9月中旬）

8mm映画製作の予告、説明、班分け

班分けは、クラス内で自由に行うこととした。ただその時に、カメラマン、演技指導、キャストなどを考えると最低5～6人は必要であろう。また、人数が多すぎても全体の進行がうまく行かないだろうという助言を与えた。

班の決定については、友達関係より、自分の好きな分野毎に分かれ、中学校生活のモニュメントとしての映画を製作することのおもしろさを述べた。そこで次に考えられる分野について生徒に質問をしたが、期待した答えがかえってこなかったために、次のような分野が存在することを例示した。

○劇映画（S. F. オカルト、学園もの、探偵もの、恋愛もの、家庭もの、民話、ミュージカル等）

○記録映画（他の班の映画作製の記録、ある個人の日あるいは一週間、体育大会の練習から当日まで等）

○アニメーション（宇宙戦艦ヤマトあるいはドラエモンのようなもの、人形を使ったアニメーション等）

○教育映画（いわゆる教育映画で、例えばある生物の発生、地理的、物理的なものの説明等、教育テレビの番組のごときもの）

○抽象的映画（60年代に流行したアングラ的抽象表現、色や音による抽象表現等）

さらに、それぞれの中に、悲劇的要素、喜劇的要素があるであろうという説明をした。

その結果、4クラス15班（後に一つの班が二つに分かれ、結局、各クラスとも6名～15名の4班ずつになった）が生まれ。内容についてはさまざまな分野（特に、記録、アニメ）が出ることを期待していたが結果はすべて劇映画となった。

○第2週

班毎に内容の検討、ストーリーのあらすじを決定

それぞれの班の内容をさらに具体化するための話し合い。

この時点では、まだ班の再編成は自由にした。ここでかなり方向が具体的になった。

○第3週

昨年の3年生の製作した8mm映画の鑑賞

昨年度は、卒業記念製作として、自由なグループによる工作的な製作活動を行なったがその中で1つだけあった8mm映画、サイレントのオカルト風学園ものを鑑賞し、感想を述べる。それを参考にストーリーをさらに具体化、ほぼ決定。

○第4週

劇と映画のちがいについての話し合い。スタッフ、キャストの決定

映画の特性を知らせるために、経験のある劇と映画のちがいについて話し合わせた。さらにスタッフ・キャストを決定。

○第5週

絵コンテの製作練習、絵コンテの製作、各役割の練習

映画においては、カメラアングルが表現の大きな手段になるという説明のために「愛する男女の悲劇的な離別の場面」「自信のない数学のテストを返される場面」について絵コンテの練習。その後、各班毎にそれぞれの脚本の絵コンテを作成。作成しないものは各自の役割の内容についての練習・検討。

○第6週

撮影開始

以上のような順序で映画についての指導を展開した。なお、撮影中、役割によってはかなり時間をもてあますものが出てくるのが予想されたため、約2カ月の期限で、他の課題を設定した。(課題内容「錯視、錯覚」)

以上、紙面の関係でかなり省略をしたが、8mm映画製作の大筋を説明した。最初に書いた通り、私は、授業に関する研究は、まず、その完全な記録から出発しなければならない、という考えをもっているために、ここでは、できるだけ個人的な意見や感想をひかえて書いてきた。

第2報では、編集、音響時の記録を、生徒の記録の続きとして、さらに、8mm映画の教材としての意味の考察をしてみたい。また第2報では、紙面が許すなら、今回の報告と違う班の2～3の記録をあわせて紹介し、その比較の中で分析的に生徒の発想、行動を見たいとも考えている。さらにその時点で今回書き落した生徒の生活背景、学校、生徒会行事、授業の展開の補足もあわせて行いたい。

次に、ある一つの班のレポートを、生徒から提出されたままで紹介すると。

- 戸の下から何かが入ってくるように
- 血のりをつかえ!
- 足は写さずに、足あと(血の)だけにすればよい

小道具

- 血を静脈血みたいにとす黒く
- 戸があかないシーンも、うら側からうつすなどとして具体的に

雑用係

- ……もつと役者や監督に対してサービスすべきだ。

雑(後)

- ・下の外を見ておどろいては何か何かの何か
- ・エンビソリでかい白人王と話す。(コンパス、覚悟)
- ・教室の椅子を倒して逃げ出す、とわ、く、り。
- ・父の教室から逃げ出したときの服とハンカチに。
- ・一人が体験するより複数がよい。トキ、たら、(後と伴音節のこと)
- ・長町先生にたづなぐみたりおもしろいから、たか、長町先生も複数登場させる。
- ・足元も光の当り具合で2人の口。つづきの(後)がわからない
- ・最後のキリスト、スタッフの紹介も、オカルト風にキク屋からキク屋に統一して、やらせと中途半端
- ・教室にもしどめられたシーンも、理体的に。

9月28日

前から先生がやっていた。オカルト映画を見た。なんか単純で私のこれからとり組む映画とは月とスッポムみたかったが、我々も、とも、と苦学するのでも、なんか、まあこれからの苦学的生活に耐えかねたらぬ、とれも思うと、 どう? と、さき、恐い、恐い、や。

話し合の結果、題名は「空母地球を救う」となり、内容はオカルトである。長町先生は寄ってきて、

→と、いい、我がストーリーをどう人に作り
 →と、み、し、や、り、舞、台、は、学、校、に、し、ろ、う、
 と、か、2、3、丈、句、つ、つ、て、立、ち、去、り、て、い、い、た、。

前の時機の状況とたたいて(写真)すみやかに立ち去った。



は、今日、わりとむかしと入ってきていっしょにげらげら笑い、登場人物のところを見せ、「美人はたれや!」といい「お前さん」と答える。「どう」と感じし、「おめくし女は? 緑虫は?」と質問を重ね

3 C美術映画〈1班〉案その1

オカルト「愛は地球を救う」

☆スタッフ

- 監督 村瀬
- 助監督、兼演出 野崎
- カメラマン 林、中蔵
- シナリオ 全員（主に松岡・岡本）
- 小道具 松本、丸谷、野崎、竹谷
- 雑用 竹谷

☆キャスト

- 野崎中成 野崎
- 松岡節子（野崎の友人、夜行性女、来っ子） 松岡
- 松岡なし子（次女、なめくじ女） 岡本
- 松岡かをり（三女、緑虫） 松本
- 松岡佳子（長女、ちようらんあんこう） 丸谷
- ゴキブリ（小動物） 竹谷、中蔵、林
- 勇者 村瀬
- 悪魔

☆ストーリー

野崎という勤勉な、特技は歩きながら本を読むことという少年のオカルト体験を表現する。

野崎は勤勉で、女などには興味を示さなかったが、級友の松岡節子にせまられ、女性を意識するようになり、ある日、彼女の家に招待される。

野崎は招待して、彼女の家へ行った。しかし、そこはバケモノ屋敷同然

住人は彼女の姉3人（上から、ちようらんあんこう、なめくじ女、緑虫）と巨大なゴキブリやねずみ。その上、松岡節子までが夜行性女であった。

野崎は彼女の家で、しばかれ、いたぶられ、ほうほうのていで逃げ出す。しかし、彼女らの追跡は続き、野崎自身もついに“砂かけばあ”と変身してしまう。砂かけばあになった彼は超能力を生かし彼女らに復讐ゆうする。だが人間とは思えない自分の姿を思うと、悲しくなってくる。

そんな時、無心必殺仕置流免許伝の勇者とともに、邪心を追い払い、砂かけばあではなくなり、彼女たちも実は悪魔のおかげであんな姿になった事を知る。

そして悪魔と戦い、危ういところで勇者の助けを借りて、やっつける。

3C1班

美術映画「愛は地球を救う」

1. 出会い
 一ろう下—野崎歩いてくる (めがねかけて、本読んで、背中
 ランドセル)
 野 崎 「(つまづいて) あをつ」 (こけて本落としランドセルの中身
 が出る, めがねおとす)
 松 岡 「あらー, 大丈夫〜」 (色気出して)
 [野崎] 無視して眼鏡を拾いランドセルの中身を入れ直す
 [松岡] むかつきの表情。手をさっと上げひいひい勤か
 すと野崎の拾おうとした本がびよんびよん飛ぶ
 野 崎 「本を追いかけて壁に激突脳味噌噴出 グオーツ。(けいれん)」
 [松岡] あきれの表情。野崎を保健室へひきずっていく
 —保健室—
 ベッドに野崎横たわっている。周りに女子四人
 野 崎 「ん? (目こする)」
 佳 子 「目覚ましたわが!」 (野崎をのぞきこむ) ⑧ あんこう
 野 崎 「ギャー!」再び気絶。
 松 岡 「あんたたちは出なさい!」 (かおり, なし子, 佳子を追い出す)
 野 崎 「ん? (再び目覚めます)」
 松 岡 「やっとなつづいたわね」 (まがでお)
 野 崎 (にやける) 「ぼぼくは〜」 (と言いつつ窓の外を見ると佳子
 が見える)
 「ギュー!」 (窓の外を指さして)
 「どうしたの!」
 松 野 「あんこー! ちようちあんあんこー!」

—保健室の外で声がかきこえる—ま「野崎君を思うともう」

の「中成感激—」

—校門—
 (野崎帰っている, 後ふり帰り)
 (松岡さんてやさしいなあ)
 (校門を出る)

2. 発展

—教室—

(野崎の机の中に手紙)
 野崎手紙読む
 (手紙をアップでうつす)
 《松岡声入り》

体育館でお昼休み会いましょう
 ねねねーのねノ 節子

野 崎 「おい竹谷」 (竹谷のうしろから)
 竹 谷 「なんやー」 (ふりかえる)
 野 崎 「昼休み体育館用シューズかして」
 竹 谷 「なんでや」
 野 崎 「……」 (口を竹谷の耳に近づけ囁く)
 竹 谷 「えー。」 (考えて) 「よろしい, おれもつき合うわ」
 野 崎 しぶい顔

—体育館—

[竹谷・野崎] 体育館シューズをもって体育館内へ入る。
 「こらー! よけいな奴つれてくんなんノ!」
 (竹谷をべん毛で巻きつける)
 「ヒューツ」 (裸ぬかす)
 「そーじゃ」 上からマットの上へ落ちてくる。

(竹谷、二人に床にたたきつけられ死ぬ) 鼻血・口血
 「うまそーやんか」(竹谷の腹をやぶり、胃や腸を食う)
 「おー」
 「わたしにもわけてノ」
 「あーおまえはノ(囃)保健室で見たちよーちゃんあんこーノ」
 (あとずさり)
 「そー。私たちは魔女」
 「ちようちんあんこー佳子ノ」
 「なめくじ娘なし子ノ」
 「緑虫かおりノ」
 「夜行性女節子ノ」
 (しりひかる)
 「ま、まつおかさんノ君まで」(あとずさり)
 「ふっふっふ。いたぶったんでー」(よだれたらして接近)
 (ポケットに手をつつこんでカプセルをとり出し)
 「えいっ」投げる。
 カプセルの中から(巨大ゴキブリ) [林] 登場
 「コックコックコックローチノ。今のはゴキブリ語でやつらをやつけるということですよ」
 「コックローチノ 今のはまかしとけということ」
 (四人に接近しおそいかかる)
 「ふん」(口からコックローチS噴射)
 「ギェー」(逃げる)
 「がんばらんかいノ」(林を追いやる) (自分は入り口めざして逃げるが戸があかない)
 「ヌォー」死ぬ(けいれん)
 「わー、開かない。(ふり返って〔4人せまってくる〕) ひえー、助けてー」
 「おんどりやーノあんなカプセルもつとるとこ見るとただもん

ちやうなー」
 「あやしいもんではございません(ポケットに手をのぼす)」
 「そーはさせるか」(べん毛で手を巻きつける)
 「このやろー」(歩み出る)
 「わー、なめくじがなんでそんな速く動けんねん」
 「うるさい、加速装置つきなんじゃ」
 「一句ノ 近代化 なめくじにまで その力 便所できばる時の苦しき……うっぶ」
 (なし子野崎にのしかかる)
 「なし子」野崎の上をはいずり回る
 「野 崎」まっ白になってでてくる
 「4人」いたぶり野崎気絶
 「4人」野崎をひきずり保健室へ
 —保健室—
 「ご臨終です」チーン
 「あら、やりすぎたわ」
 砂場へひきずって行きうめる
 (つまらなさそうな顔)
 —砂場—
 「砂かけババアはこんなことでは死なんノ」(4人が去ったあと出てくる。)
 3. 展開
 「いいカモはいないかしら」
 「あ、あれ」
 (村瀬を見て)
 —体育館—
 (なし子、かおり、佳子、松岡 → 村瀬に迫る)

野 崎
 かおり
 なし子
 野 崎
 なし子
 野 崎
 竹谷(医者)
 松 岡
 野 崎
 かおり
 佳 子

4 人 「ふっふっふっ」
 村 瀬 「くっそーノ」 竹刀を見つめる〈しめたノ〉
 かおり 走って竹刀をとりに行く
 「逃げたぞノ」
 (村瀬竹刀もって)
 村 瀬 「来いノ」
 なし子 「ええ度きようやんか」

乱 闘

松 岡 (村瀬) ドアをあけて逃げる
 「しまった」
 —教室—
 村 瀬 「おい野崎ノ おまえ信じへんかもしれんけどな」
 野 崎 「ん？」 (話をきいて) 「何、お前も？」
 (2人で話しながらでいく)
 —男子便所—
 村 瀬 「おー、そしたらあいつらに挑戦するわけやな」
 野 崎 「せや」

4. 戦闘

—教室—
 松岡の机の上に手紙
 わいらは、おまえらにちよーせんするどー。
 3時半体育館に來い 村セ・のざき
 松 岡 「んノ」 (きつとした表情)
 4 人 佳子、なし子、かおりと4人で相談
 「おー」
 —体育館—

乱 闘

(なし子) つぶされ
 (松 岡) なぐられ
 (かおり) べん毛切られ
 (佳 子) 鼻と口にせんをされ } → くだばる
 「へん、ざまあみい」
 稲妻ピカッ
 「こらー、」
 「わしの娘たちをよくもいじめたな」
 「む、悪魔かノ」 (刀かまえる)
 「中やぶきたないノ」
 「ガクッ」 (こける)
 「しめた」 (刀を中やぶの胸につける)
 「ままってくれ、わしはただ娘たちと仲よくしてほしいと」
 「ほほーそーですか」にやけて

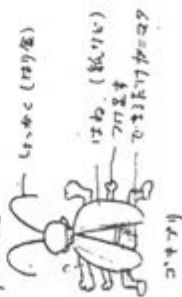
5. 終結

野 崎 「何うまれたノ」
 「はい」
 「節子やったーノ」
 「あなた~~~~」 (なきけなく)
 「ひえー、これは」
 赤ん坊は、しりがひかる砂かけハバァであった
 (おしまい)

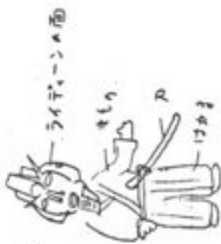
図本



竹谷、村、中藪



村：頼



著者

ストーリー (あらすじ)

野崎という勤勉な特技は歩きながら本を読むことという少年のオカルト体験を表現する。

野崎は勤勉で女などには興味を示さなかったが、級友の松岡節子に激しくせまられ、女性を意識するようになり、ある日、彼女の家に招待される。美人でそう明な彼女の家の家なので、野崎は期待して家へ行った。

しかし、そこはバケモノ屋敷同然、住人は、彼女の姉3人（上から、さようちんあんこう、なめくじや、一緑虫＝）と、巨大なゴキブリやねずみ。その上、野崎が心を初めて寄せた女、松岡節子までが夜行性女であった。

野崎は、彼女らの家で、しばかれ、いたぶられ、ほうほうのていで逃げ出す。しかし、彼女らの追跡は続き、野崎自身もついに“砂かけばばあ”にと変身してしまふのであった。砂かけばばあになった彼は超能力をいかし、彼女らに復しゆうする。だが人間とは思えない自分の姿を思うと悲しくなってくる。

そんな時、無心必殺仕置流免許皆伝の勇者とともに邪心を追い払い砂かけばばあではなくなり、彼女たちも実は悪魔のおかげで、あんな姿にされてしまった事を知る。そして悪魔と戦い、危ういところまで勇者の助けを借りてやつつけ、最後には、松岡節子とうまくゆくようになるのであった

3C 1班

—美術映画—愛は地球を救う—

絵コンテ



(プロローグ)

(3階のろう下)

佳子走ってくる

手前林が走っていく

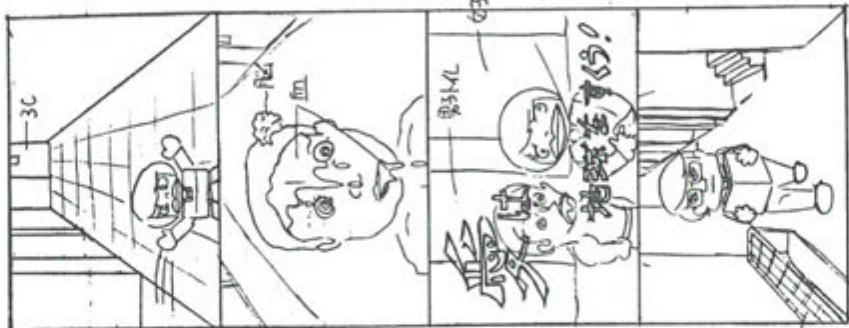
二人すれちがう (林はパンツ一丁)
次第にズレル

佳子肩で息をする

制服

林激突脳味噌噴火
(女子ロッカー室に)

佳子男子トイレへ
(3階)



佳子 男子トイレから出る
(走って出てくる)

林 = アップ =
(佳子と体面)

好トハ 林・佳子こつちを向く

タイトル (白い字)

(出会い)

野崎本を読みながら歩いてくる

かざたて

手前 3C

高2の教室

野崎 こける

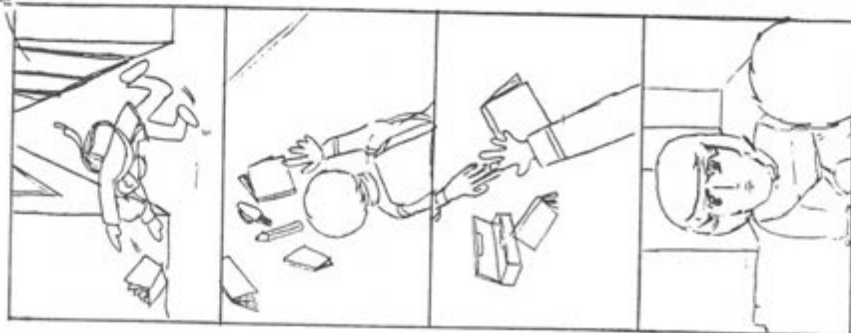
本を落としランドセルが開いて
中身が出る

野崎 本や中身を集める

野崎 松岡の手に触れる

野崎 見上げると松岡の顔がある

松岡 「大丈夫?!」



ダスタシユート

野崎 ポケーとして

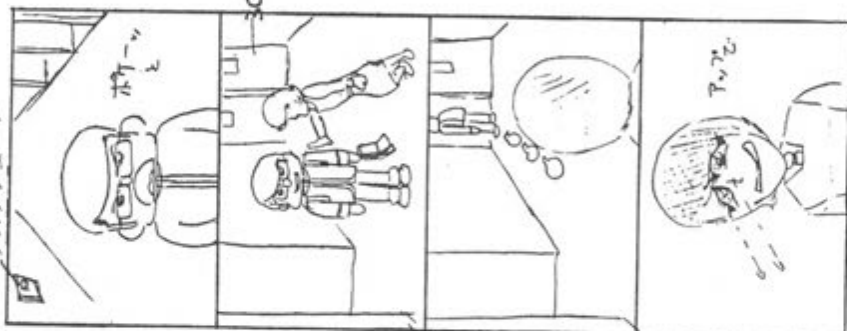
松岡 「ほんとに大丈夫?」ほこりを
払ってやる

野崎 「……」本を持って直立不動

野崎 無言で教室へ

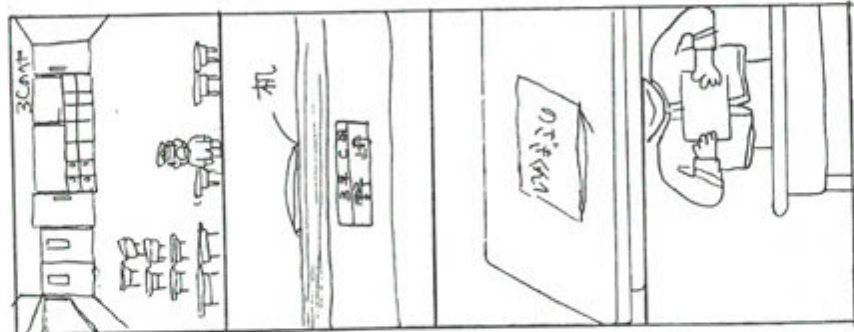
松岡 静かに見おくる

松岡 にやりと笑う
〔目は、カメラをむかない〕



〔発 展〕

朝 みんななわいわいしている



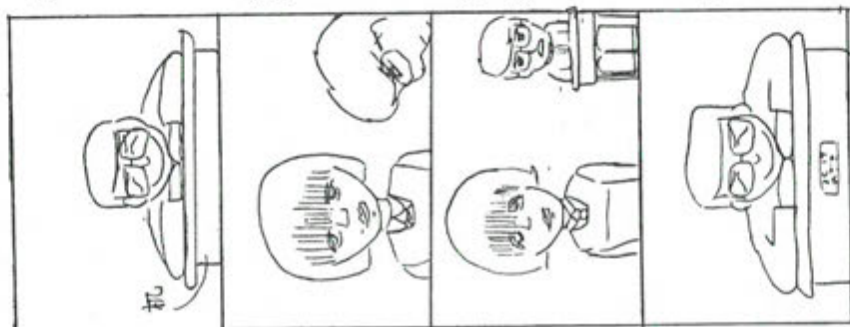
机をアップで

机に手紙が

野崎 手紙を見る

野崎 にやけて

「松岡さんてやさしいな」(一人言)



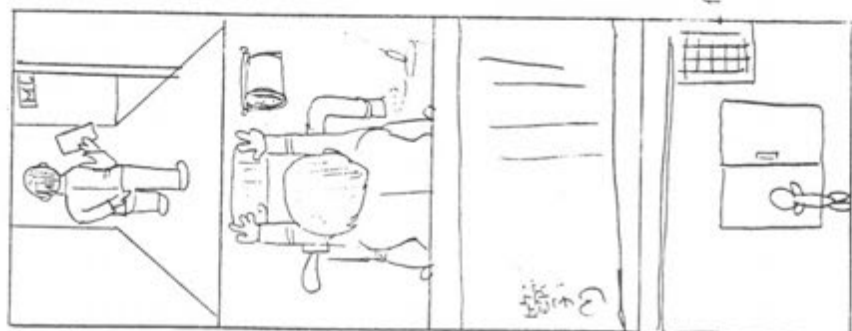
松本 「やけにうれしそうね」
野崎 一瞬まがおに

松本 「フフフフ」笑いながら去ってゆく

野崎 身ぶるい「何んじゃ今の」(一人言)

野崎 ふたたびにやけて

「松岡さんてやさしいな」(一人言)

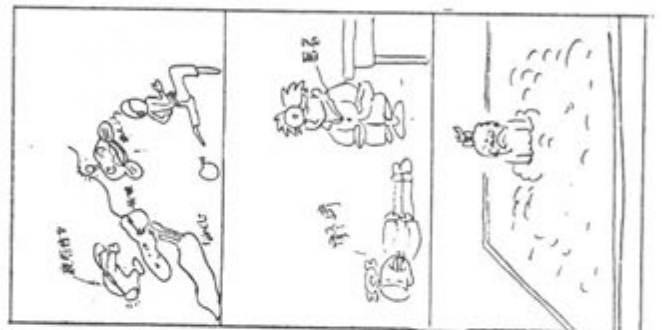


野崎 女子トイレにスキップしながら
手紙をもって入る

野崎 便所で手紙を読む

手紙アップ

体育館に野崎入る

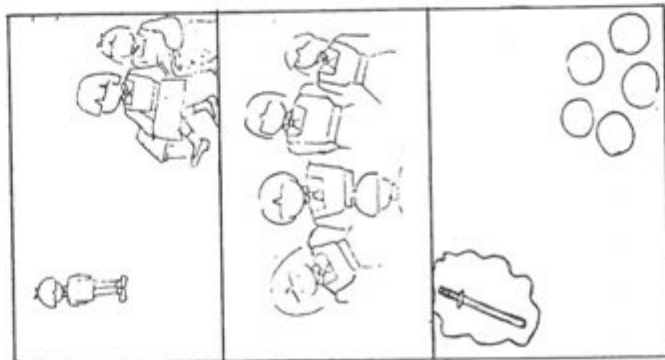


野崎 入ってくる

怪物に追いかけてられ逃げ
追いつめられ、気絶
保健室へひきずっていかれる

医者に診断される
「ご臨終です」

【野崎】
砂場にうめられるが砂かけババアとな
って復活



(展開)

手前に 佳子、かおり
向こうに小さく村瀬

at 体育館
○全体アップ

○1人1人の顔と
村瀬の顔・交互にアップ

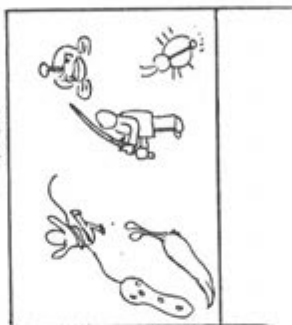
○たまたに女性をうつす
(画面のスマミにナメクジ)

↓
手前の5人 ぼかし
竹刀だけはっきり

村瀬 竹刀の方へ走り出す

↓
乱闘

—戦とう—

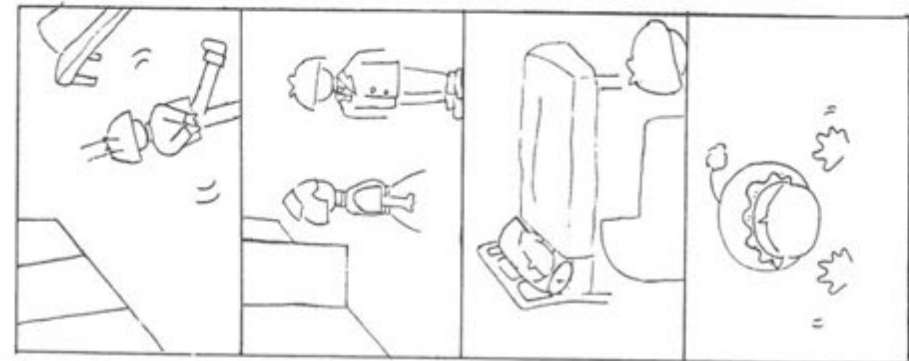


乱とう

女四人死ぬ

悪まがでてきて

2人に仲よくしくれとたのむ



(終章)

at 病院
野崎 廊下でウロウロ

看護婦でてくる

at 病室

手前に野崎の後ろ姿
節子のベッドの手前に
幼児ベッド

最後

赤ちゃんの顔アップ。

3C1班

- 会計 丸谷
- 題字 中藪, 林
- 衣しよう ○手のこんだもの …… まる (選考)
- ざつなもの …… 竹谷, 野崎
ねずみ

砂かけばばあ

- まるのはらまきの上に まる
- はんでん ばあかあ
- ズボン ばあかあ
- リボン (大五郎風) なし
- せったらしきもの (古風) まつつん
- ペーパーハウダー ばあかあ

あくま

- 黒のセーター のざきくん
- 制服のズボン なかやぶくん
- 黒のかわぐつ そのへんにある

夜行性女

- 黒のジャージ かっちゃん
- 黒のTシャツ まつつん

あんこう

- 赤の長そでTシャツ まる
- むらさきのまつつんのスカート まつつん
- なめくじ女

○黒のTシャツ

- 黒のジャージ のざきくん

緑虫

- 体そう服 まつつん
- ゴキブリ○ざつ

プロローグのシーン

朝 8 : 00 ~

林君がバンツードでろう下を走った

林君の感想「とても寒くて死にそうだった」



女子ロッカー室に激突 (関節を痛める)

美術室で

映画撮影の説明と諸注意

長町先生の注意

あんまり目立つな——公共の電力を使うな

(うちの斑は、女子ロッカー室前で目だちすぎてしまった)

☆撮映開始

林君の顔はドアに激突の為脳味噌噴出なので、

わりからし (脳) ケチャップ (血) を顔にかけた



10分もたつと、からしが頭にしみてきたらしくさかんに痛みを訴える



高校の休憩時間になり、着がえの女子がたくさんロッカー室にきて、おどろく



目だちすぎたので、予定変更して林くんをみてとおる女子高校生の姿をうつす



林くんが痛み訴えるため 中止

次、グリーンベルトに移る

林くん草の上に横になり、そのおなかの上に、ウインナーソーセージを置き、ケチャップをぶちまける



女子がウインナーソーセージたべる

〈反省〉

うちの斑は、女子ロッカー室の前で少しめだちすぎたなにおん授業中に行動するので、おとなしくしたい

グリーンベルトでの撮影のとき、林くんのおなかの上に、ソーセージをおいて、ケチャップをぶちまけたが、林くんがおなかをひくひくさせて笑ったんで、ソーセージが草の上におちてしまった。草にまみれてしまったソーセージを「これも美術のため」と草をはらって食べる真似をした。

11月9日(金)

フイロ映画をとり始めた。ストーリーは大幅改良? スケッチは、ストーリーがあり、そのストーリーをあらすじとかができりから、詳しくおもしろいので、ストーリー廃止。そして、飛脚シーンを集めようというわけである。その手始めとして、今日は7000ク部分をとった。



その始末順にあっててめいしてあげよう。
記

① 朝8時。

林がバンジーで三階のろう下を走った。(とても寒くて死にそうだったとゆうです)

↓
女子ロッカールームに激突。(関節をいじめる)

② 美術室で

映画の撮影の説明と注意

(以死でくどくどと)

黒板にこつこつと描いた女子ロッカールームの先生は

と笑っている

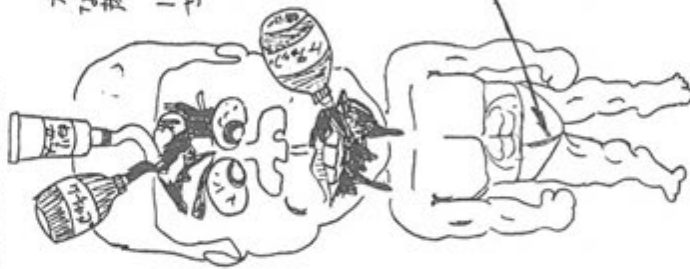


女子ロッカールーム前までかくと



にいた。授業は環状線事故の為 20分遅れ、再校は平常とわりとわかった。

③ さつえい開始



林の頭はドリアンに激突、脳味噌が飛び出し、鼻から血が流れ出し、顔にかいた。

10分もたつと、からしが頭にこびりついて、さかんに痛みを訴え出した。

↓
さつえい並に

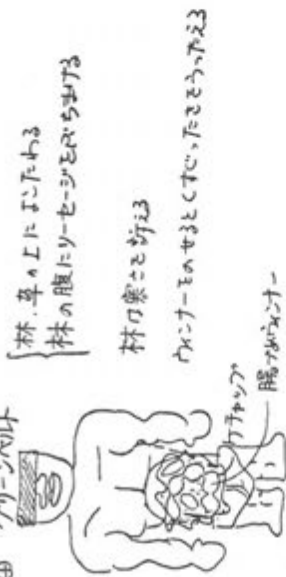
遅悪く、高校の休み時間とギリ、着かえの女子がよけのロッカールームに来て、林のパンツ一丁の姿を見て通る。

予定変更して、林を見て通る。女子の生徒の姿をうつす。

↓
林の対峙を訴えるので撮影中止。

↓
からしをとり去ると、頭がさかんにこびりついており、からしのにふいにファンファンしていた。

④ グリーンベルト



林 バンツェを、ケチャップを塗ったので、大勢でシャワーを浴びに行くと、
 (因習) 死にかげや。(鼻をスルスルウラシメながら)

というのがおもしろいです。これを撮影して、写真一同、映画づくりのくまの
 骨身にしておいた。一は、骨身にしようの口林を、一日中、ケ
 ップのにおいをファンゴせて、歩き回っていました。
 次回撮影予定の竹谷は、おれも口林を、おいておいた。
 かねいとうに、おれは竹谷、おんた。

11 / 16

☆撮影内容

- 野崎君の砂かけババアのシーン
 (衣装) 赤むらさきのはんてん、えんじ色のズボン、ぞうり、ざる
 (砂入り)
- (場所) グリーンベルト、砂場

☆撮影

- 砂かけババア草むらでうごめく
 ↓
 突如飛びだし、砂をあたりにまきちらす
 ↓
 あたり見まわし、再び砂まきちらす
- 木の上で怪しげな動きする

- 砂を想る

—反省—

カメラが動きすぎた為、あとでみたとき、みずらかった。又、監督が
 いなかったため、撮影がダラダラした。

☆準備

砂かけババアの撮影の一方で、緑虫の衣装をつくっていた
 ビニールをはりあわせ、等身大のふくろにする。それにだ円形の緑色
 の紙をはる

長町先生に「葉緑素がいい」とほめられた

☆予定

来週は休みでその次の週は、丸谷さんのちようちゃんあんこうを撮る。
砂かけババアの野崎くんは、すっかり役がいたについてしまっている
ようなので、予定に関係なく、カメラにはいることだろう。

— 時間外の活動 —

11/17 (土) 放課後化学実験室にて

☆撮影内容

みどりむしが、人をおそう場面
(衣装) 前日に作った衣装

☆撮影

みどりむし、くねくねと動く
子供をみつける
とぐろろの中に、子供をまきこむ

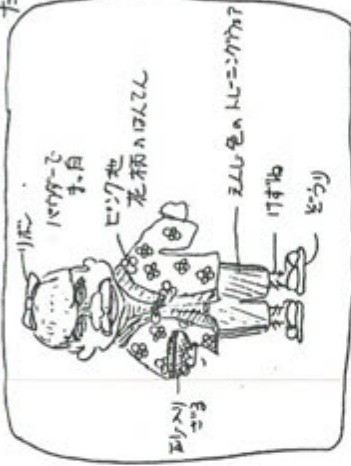
11月16日(金)

竹谷の撮影の1/10(2)に生奥を撮った。彼は林の中で口を
巻いて口から血を出すシーンがあった。口には
テープを貼って、とても気持ち悪かった。
松本は、録音機にテープを巻いてくれた。葉緑体
や根を撮った。テープを巻いてくれた。



松本を見た。大仲先生は、とどろいておられた。
とれを聞いた。長町先生、実に残念とくに「俺も
行って見たから」といったとか、いわひからったとか。
結局、ドタバタして、アリンコを一匹殺してその日の撮影は
終了した。

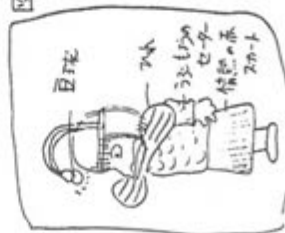
今日は、野崎の砂かけ婆のシーンであら。彼は、園の隅の隅
から、こもとして枝内とウロツイ作。地転をやった。木に登
たり、とれけもう大変だっ
た。僕自身はしんどく
て主に美術室で背
に作業していた。



11/30(金) 大阪城公園にて (数学民衆射の日)

この撮影は実に二本羊のフィルムを消費した。大変おもしろい一時であった。

内容は、盛りだくさんです。谷のちやうちんあんこう



四の五のちやうちんあんこうで竹谷の手にかぶりついた。



フアッいて、大爆笑。スーパーマンを撮った。



超人ガムの僕に少ししかわいにかいた。手あぐらアハの為と思つてやった。このころで、大阪城の天主殿にのぼつてから、悪いの写人の影。想像を絶する苦しみだった。まあもう涙です。

11/30

☆撮影内容

- 野崎君の砂かけババア
(衣装) 前と同じ
(場所) 砂場
- 丸谷さんのちやうちんあんこう
(衣装) 顔の面横に、ひれをつけ、頭上でライトてらす
(場所) グリーンベルト
- 村瀬君のスーパーマン
(衣装) えんじのジャージ、水色のTシャツ、水永帽、唐草模様
のふろしき
(場所) グリーンベルト

☆撮影

- 砂かけババア
砂山の中から、砂かけババア突如登場
↓
砂山をくずしながら、砂をあたりバラまく
↓
ひよろひよろと歩きまわり、再び砂をまく
• 丸谷さんのちやうちんあんこう
ちやうちんあんこうおもむろに、草むらでうごめく
↓
つきやまから、ビヨンととびおりる
あたりをとびまわり、とどめにカメラにかみつく
• 村瀬くんのスーパーマン
スーパーマンの地転——失敗
「地面がわるい」と見苦しいわいけをしつつ
↓

またやろうとする——砂かけババアの出現で失敗

いいかげん見きりをつけて帰ろうとするみんなをおしとどめて、やっと成功

☆反省

時間におくれてしまった、すみません

施設についての許可 etc. ルーズになっている面があると、反省しています。

でも、せっかくここまでやってきた8mmだし、続けたいので、これからは、時間を守り、施設などもきちんと許可をとろう!!

今日は、撮映らしいものはせず、美術室で、各自のnoteの整理や、錯視、錯覚についてのアイデアをねったり、今後の8mmの計画 etc. について考えた。

錯視、錯覚はテストあけの月よう日12/17に提出である。テストあけというのがづらい。まだ、錯視、錯覚に手をつけている人は、少ないようである。

☆タイトル撮り

- プロローグ
- 愛は地球をすくう
- 愛の砂かけババア
- スーパーマン地転への挑戦
- 3-C-27 FBT なめくじ女 岡本
- 3-C-35 FBT げんじぼたる女 松岡
- 3-C-36 FBT 緑虫 松本
- 3-C-37 FBT ちようちんあんこう 丸谷

個人的にいわせてもらおうと、FBTといれるのはやめてほしかった。

「後輩に知れたくない」というので私達の頼いは、やはりきまじいれてもらえなかったようだ。監督、村瀬くん他のニタニタ顔が目にかびます。

☆撮影

男子だけで、グリーンベルトで撮影していた。

どういう場面をとったのかは、わからない。たぶん来週あたりみせてもらえるだろう。

☆反省

今日は、あまり全体としてすすまななかったが、各自のノート整理などできたのでよかった。

書記の8mm記録レポート提出というのであせている私である。

「あんまり目だつな〜」という長町先生のお言葉どおり質素な班で全然目立たなかった、今日だけ。

来週の金요일は「野性の証明」をテレビで放映するが、8mmの参考のためにも、ぜひみようと思う。

12/14

☆先週の8mmを見る

• 男子はグリーンベルトで、また、地転をとっていた。

今度は、恒例の野崎くん、村瀬くんではなく、林くん竹谷くんという異色メンバーだった。

• タイトルは少し小さすぎたようだ。

• 今で、6本のフィルムを使っている。あと2本ほどとる予定である。しかし、長町先生は「8本か、20分ぐらいやな」とこともなげに言われた。

あれだけやったんやから、全部つなぎたいものです。

• 砂かけババアが、砂の中から出てくるシーン。

砂の中からでてきて、砂をまきちらす、そのままでも充分迫力はあるが、逆まわりにすると、砂をまきながら、砂の中にのめりこんでいくでおもしろい。

長町先生が「なかなかはくりよりあるやないか」といつておられた。

☆撮影内容

• スーパーマンのぼく転

• 砂かけババア決死のとび降り

• 尼さんのぼく転

〈衣裳〉

学芸会で使用した尼さんの衣裳（むろんただ）他は同じ。
（場所）

砂場、部室

☆撮影

• スーパーマンのぼく転

案の定、失敗つづきだったが、本人は「このマントがじゃまになる」などと言い訳をしていた。

• 砂かけババア

部室前からジャンプ、叫び声がとつてもよかった。

•尾さんばく転

ばく転らしきものをした途端、ドレスのすそをふんづけ倒れ、そのあとスカートが足にからまらなくなり、1人もがいていた。

☆ 今日の撮影中ずーっと長町先生は、カメラを肩に下げ、私達のあとをついてまわっておられた。

最初はおとなしいが、だんだん態度が大きくなり、監督面づらをして、キャストやカメラマンに文句をつけておられた。

監督として

監督は、比較的な役であった。しかし、「おまえ役をややるべきや」と班員に言われて悩み、結局スーパーマンをやることになった。冬やというのに半そで、あほといわれつつも草もよりのマント。もう耐え切れる限界や思ってたのに、トマトケチャップまでぬられて。フィルムを出しにくいのもとりにくいのも、演技指導すべでぼくの仕事。

ようにするに監督の仕事は回を重ねるごとに多くなってたまらなかったのであります。

しかしまあ、我々は怪奇もので迫ろうとしているのですが、題名からして“愛は地球を救う”とふざけており、完全に喜劇への道を歩みつつある。ぼくの性格からして恐いもんはきらいやのでそうならざるを得ないのであるが、しかし、班員の統そつもなかなかうまくいかず、まだとれてないシーンがある。とらんでも短べんをつなぎ合わせるだけだからどうってことはないけど、やはり、多い時間をかけた方がいいものである。普入れなんかしたら、ますますおもしろくなるのではないかと思う。

わはは、結局我々は、喜劇をつくっているのである。

失敗談と言えば、砂場の一件。あれはぼくの手おちで、もうどうしようもなく、笑ってごまかしましょう。それしかない。

役者の人たちは、みんな体をはって、ケチャップをかぶったり変なことばかりやってくれて、感謝の次第です。自分の班員に感謝するのもおおしいけど、班のために全員よくがんばっていると思う。

女子も初めは、先輩に会わせる顔がなくなるといっていやがっていたけれど、今ではあきらめたのか、やる気を出したのか、とにかく彼女らもよくやっている

今の調子でやっていけば映画もよくなるのではないかと思う。

〈8mm撮映の感想〉

3C-36 1班 松本かおり

いろんなことをやっていると、私もミドリ虫にふんしてがんばったつもとりである。そして、ほっとしている。自分の役はおわりかと……しかしあまいのかも知れないが……。

3Cの1班は、ユニークなメンバーのあつまりであるがゆえに8mmも見たのとおり、すばらしいものが着々と撮影されている。なかでもすごかったのは林君の脳みそ、胃の挿入の名シーンだ、あんどきはすごかった、ほんととどまらなかった、こわかった、はずしかった、おどろいた……と何ともいえぬ心境で冷静にみつめていた私……。周囲の人たちはもつとびつくりしたようだ。

みんな気色わるがって、立ちどまりしつかり見ている。この日国鉄環状線で事故があったため、1時間めの途中にくる高校の女子の人がすごいたくさんで、林くんはいちばんあせりはずかしくなったろう。なのに、笑顔を忘れない林君、いやなかおみせずに演ずる林君、これぞ役者の魂なのだろうか？…私は林くんをえらいなあと思ひ感動し、彼のことを尊敬している。

すごい大きい字で乱れきっているこのレポート！

もし、今よんでいる人がいたらおゆるし下さい。

また話はもどるけど、あの日のウィンナーの味が忘れられません。

野崎くんの砂かけババアもなかなかすごいノリとあとの足の開き方歩き方はできないと思います。衣装もなかなかパッチシできまってるし、よく似合うし、すごい演技力もあり、この8mmの貢献者の1、2をあらそうのではないでしょう？大阪城ではちよっと目立とうとしすぎてしらじらしいころもあつたのでは？でも私はこの日欠席したので大きいことはいえませんが……犬もかわいかったです。演技の中には凡人ではできない豪華なものもあり成功したと思います。

5枚かけとありますが、こんなにしんどいなんで思ってもみませんでした、

あと何をかこう？。

次は監督兼スパーマンの村瀬くんです。なかなかフアイトまんまんなのですが、なかなか成功しませぬ、前転も後転も……どうしてもあとちよつとところで……おしいなあ、カントクさんとして何でもよくやってくれるので頼もしいです。すごいがんばってくれるし用意も撮映もみんな合理的に計画通りにやってくれるし……。

丸谷さんのかわいごぶりのあんこうもなかなかやノうさぎとび5歩ぐらいやけど、疲れたんちやうでしようか？。

私は今もう5枚かく気はあります。何かいてよいかわからないので。でも、やっぱりできる限りのことはせんとみんなにわるいから、質より量をモットーにかきつづろうと思っています。もうすぐクリスマス、うれしいノでも、期末ガムチャクチャなので、1979年のさいごのテスト、70年代さいごのテストは暗く幕をじそうです。いじけてしまふ……。ほんとにこんなかいて、美術の点を1点でもあげてくれるのでしょうか？ねむいんですよ、12:00からかいてんのにもう40分もたつた、12:40分です、あすは寝不足です。まだこのわりっていくと、じかんかかる、そんなしんどい、でも責任感のつよい私はんがばる。1枚でも一行でも一字でもよ一かけけるように……私はまじめで減意のある子やから……字の汚さなんてムシです（かんけいない？）8mm撮影って思ってたよりかんたんだったよな気がします。それにやってて楽しいし、お金がかかかことをのぞけばすごい良いものです。ほるとにかくこことなくなってきた。どうしよう？長町先生、どうしたらよと思われませんか？。

この日曜日（12/16）長町先生の宿題のせいでつぶされました……といつても思いつきり外出し、家ではおさいほうしたりして錯視、錯覚の作品は手ぬきやけど……。

でも、しょーむないのかんがえるのに5じかん近くついやしました（その間勝手なこととしてたけど……）年賀状も、あのうるわしい松坂慶子さんが20日までつてゆうたはるし、やることいっぱい私、いそがしいんですよ、それなのに……それなのに……。

8冊見せるのがいやならつくるなっておっしゃるかも知れないけど、あれを後輩にみせるのだけはやめて下さい、長町先生おねがいします。

もうこれ以上かけません、しらせる私なのでみなさん3枚でおゆるし下さい。かいてこない子もいるやろうし、みんなのやさしさを信じます。

書記として

撮影は、ひととおりの終わった。と思っていた私があまかったようだ。やはり、明日、放課後撮映するそうである。あのゲンジボタル、どうしても撮るのだろうか？

村瀬くんの言うように、自分のちがう一面を見せるのもえーのかもしれないが、やはり……不安である。

メンバーがメンバーだけに、とてつもないことをやらされるのではないか。今まで撮ったのは

- 林くん …… 脳味噌潰出
- 野崎くん …… 砂かけババア
- 松本さん …… みろりむし
- 丸谷さん …… ちよーちんあんこう
- 村瀬くん …… スーパーマン

みんな、はじめをかきすて（もともとなかったのか）やった。

私でもできるかぎりやるけど、サーチライトをどうやってつけるのだろうか？、なんとなく監督と、それについてまわる男が、なんともいえない笑いをかべるので、たまらなく怖い。



長町先生は最初「こんなんできんのか、喜劇や、」と言いたい放題ゆーてはつた。その後は、うちの班をみると、「ここが一番めだつ」の「問題おこすな」のと、うさくさそうにいい、私達は、おとなしく活動していた。

ところが最近、カメラをもって、各班を見回りながら、うちの班によくいらっしやる。

よっぱどちらの班には、撮りがいいモデルがいるのだろう。(まあ、毎週欠かさず、衣装をきているのだから)。

このあいだは、うちの班が撮影を始める前から、カメラをぶらさげて「まだ撮影は、始まらんかー」と、いらいらしながら、そこいらを歩き回っておられた。

うちの役者たちは、カメラにとられるのを恐れて、(ただ1人期待しているものもいた)先生をひたすらさけて、撮影しようとしたのだが、運悪く見つかってしまった。

その後、監督そっちのけで、彼が全て牛耳り、カメラマンやキャストに、細かな指示を与えはじめられた。

うちの監督は、いじけきって、ひたすら地転に励んでいた。

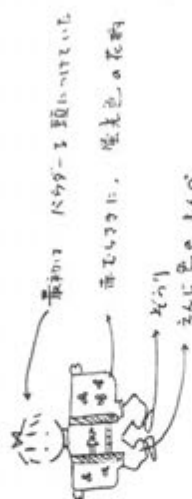


水泳帽



からくさもよのふろしき

地転を逆にまわすと、ぼく転よりずっと迫力がある。砂かけババアは、カメラに対して異常なほどの執着心をもっている。



すきあらばうつろうと、いつも、身構えている。

スーパーマン地転 (空中) の図

フィルムは、全ドカットせずに編集するつもりらしい。うちの班は、もとの台本など全く無視で撮っているので、ストーリーはない。キャストは、なぜか変わらない。

撮影しているときは、のろいなあと思っても、実際に現像してみると、速すぎてみにくいところもたくさんあった。

音入れなどがあるそうだが、あの8mmにどうやって(どんな)セリフをつけるつもりなのだろう。

音響効果だけの方がいいのではないかと思う。

私が好きなのは、地転や、砂かけババアが砂からでてくるところを逆にまわしてみることだ。

会計としての感想

実際に残っているお金と、会計報告の残金と、500円ほどちがっているのが恐しい。(会計報告のお金の方が、500円ほど多い)。

会計としてうれしかったのは、お金をいじくりまわせたこと、これをやって、お金をいじくりまわせてうれしかったので、来学期会計をやろうかなあ一という気持ちもちになった。

悲しかったことは、お金が、500円あわなないこと、たぶん何かで500円使ったのを、記録しなかつたのだと思う。
村瀬くんが「カメラのなにわ」などで、フィルムを安くかかってきてくれて、うまくやりくりしてくれたので、助かった。

それに、ここにのっていないお金を使っているが、個人的に出してくれているので、これも又、助かっている。いろんな面でみんなが助けてくれたので、スムーズに仕事ができたと思う。

by 会計



書記として

1日2ページという予定で、記録をとってきたのだが、いろいろ、内容の豊富な日は書きやすいが、事件のない日は、ひたすら、つらい、ああ、すでにこのページも、もういきまづまりをみせている。なにせ、書くべきことは書きつくした、あと3/4のスペースをどうやってうずめようか、悩んでしま

う。
書記として、自分の感想も入れながら、かいてきた。1番書記泣かせの日は、どういう日かというところ、撮影があまりすすまない日、キャストが、少しかでない日である。みんなは、こういう書記の苦境も察して、これからは、もっと内容を提供してほしい。

特に、撮影がおおると、書くことがなくなるため、私としては、非常に苦しい。

ああ、かくことが……限界だろうか、いや限界に挑むことが大事なのだ、がむぼうろ。横でまつもとさんもんがんぼっている。

私達は、何んにでも一生けんめいだ。ああ、自分達でも感激してしまふ。

監督も初期は、「1人でやらなければ」とか「だれをやつてくれない」と、思い悩み、1人陰にこもっていたよーだが、最近は、みんなだんだん、ままとってきたと思ふ。

長町先生も、よくご協力して下さり、いろんな意見もだして下さるので、私達が気づかない細かな点まで気をくばることができる。あとで8冊をみて、ああ、やっぱりこうしてよかったと思うことがある。長町先生どうも御協力ありがとうございました。

あとは、音入れを残すばかりである。ただ、みんなに、話題を提供してほしいと願ふ。

もう、書きつくしたので、これくらいでおわりませう。

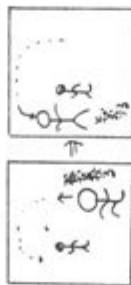
カメラマンの感想

- (1) 校舎で取ったシーンは少し暗かったよな気がする。
- (2) 林君がろうかを走る臨場噴出のシーン。血のかわりにトマトケチャップを使うのはよくある手だと内心では心配していたのだけれども、臨場味のハウスねりからしとともに、フィルムに撮ってみるととてもリアルな感じよかったと思う。最初にも言ったとおり、少し暗くて、周囲の高校生が冷たい目をした表情がうつらなかつたのがおしい。しかしまわりのケイベツのまなざしにもめげず最後まで頑張った僕達9人の勇気と情熱は評価されてもよいのではないだろうか。
- (3) カメラマンとして僕の一番気に入っている場面は、生物室でのミドリムシの部分だ。最初から最後までいわばドタバタ喜劇の僕達の映画の中で、最もしつかりとしたストーリーを持っているのがこれである。教科書の口絵のミドリムシの写真を抜写して、焦点をぼかしてから役者の演じるミドリムシへ変えていくところなど最高だった。
- (4) 11月の23日に大阪城公園に集まった。あいにく午前中は雨で午後からはときどき降ってくるし、風も強くとても寒かった。

地転ばかりやりやっていたよな気がするが、これらを裏返して編集すれば、ぼく転にもなるし、スローモーションで撮ったからかなりおもしろいと思う。スーパーマンの衣装を着けて天守閣に上ったり、パトカーの前で地転をしたり、ぼくらは本当に勇気ある少年たちだと思ふ。天守閣の下から全貌を映すと、てつべんにのぼっているスーパーマンが豆粒の

ようになってしまう。

ただおもしろかったのは、砂かけ婆に飛びあがるところだけやってもらい、カメラを止めて、今度は前に進んだところ



飛びおりのシーンだけをとってつなぎあわせると、前方を歩いている人を飛びこしたよな感じになって、とてもおもしろい。

これも成功したと思う。ただ、本当に雨の降ったのが惜やまれる。

映画は、舞台劇と違ってトリックがつかえるからおもしろい。頭を刀で殴るシーンでも、一度カメラをとめて顔にケチャップをつけてやれば本当に殴られた瞬間に血がとび出たように見える。

僕達の映画は、まあこれといって内容の軸になるものもない話だから編集の仕方によっては素晴らしいものになるし、仕方を誤れば全く馬鹿らしいものになってしまう。ただ自分達でも評価していいのは、学園もや、ホームドラマなどは映画でやったのも舞台でやったのも、迫力の差だけで、そう大した発掘はない。しかしこの“おかると”（というか何というか？）、僕達の斑のものは、トリックだらけ、スローモーションだらけで、映画でなければできない類のものであるということだ。とにかく、生かすも殺すも編集次第。あきらめというか、ひらけなおろというか、そろそろさとのりの境地に陥ってしまいそうな感じだけれど、もし、僕等の作品が皆に、そして長町先生に評価されなかつたら、“デルモンテでおなじみの三井物産”にフィルムを持っていけば、トマトケチャップの宣伝料ぐらいいもえらえるだろうし、西浜先生に見せたら、「地転の練習して、感心やなあ」とほめて下さるだろうから、この日本には理解してくれる人物が少なくとも2人はいるのです。ああ自信がわいてきた。

また、僕自身を考えてみても、あまり機械類に興味がなく、苦手な方だったんだけれども、たかがカメラまはいえ、機械をいじることによって、ある程度興味もわいてきたと思う。

ちようちんあんこうとして

まわりでみんなが、かわいい女の子の役などをやっているのに、一人さびしくちようちんあんこうをするのは、乙女心にはつらかった。

あたまたに、豆電球をつけ、くびにちやいろのひれをつけて、ひれをひらひらさせて、竹谷くんにかみつくときの心境は、何とも言えなかった。自分自身がなさげなくてしかたがなかった。

大阪城公園に行つたとき、中2のサッカー部の連中に指をさされながら小雨の中を撮っていたのは、言うに言えない気もちであった。やはり中3にもなると、高校生の役ぐらいたいと思う。それなのに、それなのに、花もはじらう15才の乙女に、ちようちんあんこうをしろだなんてこくや!と思った。

けど、今となっては、恥もがいふんもすてて、あういうあほらしいことができたのは、うれしいと思つている。

なぜなら、恥かしかつたが、自分の忍耐力をためせたような気がする。ただかわいい女の子の役ならば、ただ何も感じないで、さあーと終わってしまふぞうだが、ちようちんあんこうという役をやつて、はずかしいやら、なさけないという、自分の気もちを感じながら、役に徹することができた。とてもうれしく思つている。

けど、みんなに見せるのと、後輩にみせるのは、いややなあーと思う長町先生やめて下さい!

学校でとつたときは、長町先生が突然かんとくとして、私にああしろこうしろとおつちやつて、カメラマンに、アップの写真までとらせて、どういふことですか?
はつきり答えて下さい!

長町先生、極度のアップをとらせましたことをうらみまます!!

衣装係としての感想

作つた衣装は、緑虫の衣装、ゲンジボタル女のはねのところである。緑虫の衣装は、ビニールの緑色のゴミ袋を底と横をきつて2つひつつけて、それをたてに3枚ひつつけて作つた。

それから、緑虫なので、葉緑体をつけなくてはいけないので、画用紙を〇にきつて、そのビニールにベタバタと葉緑体にする(長町先生がこれをみて“なるほど! ええ考えや”とおっしゃつたので光栄に思つています)

これが、緑虫の衣装です。

ゲンジボタル女のはねは、画用紙を大きくきつて、まっくろにぬつただけである。

衣装係として、何もやつていなく、名ばかりだったという気もするが、みんなの協力があつて、衣装係の名誉が保てたと思う。

うれしかつたのは、長町先生に、葉緑体のことをほめられたこと、今まで、頭にかびりついたりしてはなれません!。ただ感動の一言です。

ああ いとしの長町先生〜!

by もう1人の衣装係

プロログから出演するわたしにとって、多少演技の下手さが気になる。しかしなんととっても監督と野崎くんのおもしろさによって、わたしたちの班の撮影が、うまくいった。

これには著者、感激しており、どうしてそのつぐなくお返しができるか、考えておるが、ちよっと無理の様だが、これを書くことによって少しはみんなの点が上がるのではないかと昼休みを費してまでもシコシコと書いている。こんなことでみんなの点が上がるなら、奉仕精神にすべてをかけることにします。しかし錯視錯覚は小学生なみ、な、な、なんぼガンパペットもAはもらえないのでしょうか？ 無理やわ、絶対無理やわ、このレポート書くのどんだけしんどかったか？！先生には何にもわからんのだろな、す、す、す……。

今、村瀬くんは遊んでいるのだ。監督の仕事兼、super manをやったという考えか、何もしていない。わたしがこんだけがんばって書いてるのに！村瀬くんはヤミ夜のカラスシリーズをもくもくと書き続け、合計10枚程の絵を書いたというところで、このReport（今、わたしが書いてるのは75枚目ぐらいにあたるだろう）が100枚近くいくとなると、Aは確実ではないか？！とあってわたしの目の前で公前と、うつ伏せている。この行為が許せるのだろうか！ 長町先生は、わたしのこうしたつぶやき（ぼやき）を全く無視して、いや、読みもしないで村瀬くんにAを与えるだろうか？！たぶん与えるだろう、もし、先生がこのReportを完全に読み、そして考慮してくれるならば、わたしは先生の前にひれ伏し、そして先生のいうことを何でも聞くだろう……！！ どうです、わたしの条件のみますか？。

もう一つ怖い、おそろしい事実を先生は知っているだろうか？ 野崎くんは夏休みの宿題でろうのこうのことを書いてる。しかしこれは全くのうそっぽっちゃどこも行っていないし、作り方は自分で考えたそう。そんなことでえのか？ 許せんこともなく、jokeとしてうけとれんこともないけど、わたしには… ウンたまらんぜえ、

先生はだいたいにおいてタイマンであるために、こんな惨事を招くのだ！！許せんぞ、先生は美術の教師ではないのか？！ちゃんとノートをよんで下

さいな！ パツとNoteを見て、何てんとわかるんですか？ しかしなんぼ書いても先生はみて下さらないんだ、いじけてやるんだ。けどわたしは先生が大好きです。

とゴマをする……

〈衣装係の感想〉

すばらしいものができた！ うれしい！ 感激！ しらじらしい！ 最初からこういきまづまっついていると、あといったい何をかけばいいのだ……。でもみんなだいたい各自でつくってくれたのでたすかった。私はミドリ虫の衣装を myself でたった1人でつくったのでみんなほめてほしい（まるは手伝ってくれたような気がするが……）

みんな個性的な人ばっかりなので、やってみてたのしい。衣装もはずかしがるところか、目立つように自分で考えてきてくれるのでうれしかった。我が1班はすばらしいメンバーのあつまりでありと断言できる。わりとスムーズに計画どおりにすすんでいるし、意味のない8mmなりに楽しいところも数多くあり、楽しい楽しい演技も多くて、何度もゆうようだが楽しい。

衣装係としての感想はさぼって楽しめたというのではなく、スムーズにきまり衣装があつまつり創意工夫がありほんとによかったと思う。ただ、衣装がワンパターンで変化のないのが悔やまれるようだ。

〈緑虫としての感想〉

緑虫の演技はむずかしかった。からだをはらななければいけないのだから……

自分なりに恥も外聞もなくそれになりきりたい心でいっぱいであったが、少し恥じらいをすてられないところがあった。それはかわいこぶりであるがゆえ。しようがない。でもこの役をやったたくさんの方だ!!

緑虫のつらさ、かわいさなど…… それからつよよく勇気をもって何んでもやることも……
勇気があれば……

がんばられたのに…… としらせる私……
つらいなあ、今度のTest 無茶苦茶やった、平均点が平均点が2けた近くさがったような……どうしよう、ままだどう話そう、つらいわあ。

3C 14 竹谷 哲

自分は変な役についている。雑用係でもあり、小役みたいな役をやっている。ぼくは自分の気持ちとして、こんな役はしたくない。人はいつも「林のことを考えると、この方が正しいの事を持っていると思う。自分がやったことを考えると、林君とは同じぐらいの事をうけていると思う。自分がやったことをはつきり書くとする。ノートに書いたのだが、Part 3で登場した自分は、この時、生物を学ぶ学生として出演した。けんび鏡を見ているシーンまでは、自分としては納得いくが、そのあとの所が非常にこまる。自分は、なにをしているのかわからなかった。つまり、自分の理性というものがどこかへ飛んでいってしまったような気がした。まず、白いは先生からのかりもので、よごさないようにといわれているのにもかわからず、村瀬君が、ケチャップをめたところ、それほどついていないなかったが、その時かんかんにおこってしまった。そのためか、あとの演技がめちゃくちゃになった。

口の中はケチャップですっぽりめちゃくちゃだった。
その後、それを期にして、自分に対する態度がみんな高くなって、非常に困る。大阪坂では、アベックらに生まれたり、外人に笑われたりして、国際的なばかになったのはうけあいである。また、警察の方にはめいわくをかけたりにして、大阪城の名をかけたのではないかと思ひ、めいわくをかけた人に今、あやまりたいと強く思う。

雑用手記

雑用という仕事は非常にふまじめで、自分でも反省している。自分の物をものも2回ぐらいいしかなかったの、それにかんしては一さいわからなかった。それをおしつけた女子に、今平あやまりするのでゆるしていただきたい。

なお乱筆にて読みにくいかもしれないが、あわてているのでこれぐらいのことはかたがたがないとあきらめてください。

初めのシナリオとはずいぶん変わったが、撮影中のハブニングが納められ、よいと思う。完成して、ふり返って見ると監督村瀬のシラケた性格があらわれている。フィルム30%はかってに監督が出て来て地帳ばかりして。大阪城へ行つたとき、丸谷は1時間程度で帰宅して(?)森島とデートしとる。おかげで野崎は柔道初段落ちる、そういう意味で、にくしみのこもつた8ミリだったが、8ミリに罪はない。これを通じて友だちの意外な面を知って恐ろしかった。野崎と林はこの恐ろしさからのがれた作品を作るため、高校美術部へ入る決意をした。みんな団結して、他の班には負けまいと必死だったのが美術の時間が楽しくなったのはこれが初めてと丸谷が言った。

プロローグ：撮影の主演のことは

ケチャップが最初に使用されたのは、ぼくの女子ロッカー室前廊下での撮影である。デルモンテのトマトケチャップ(一般販売価格180円～190円)が主に使用され。カラシはハウスの洋風カラシを使った。

11月9日(金)朝7時20分頃学校に到着。カゴメトマトジュースの缶2本本と、ウィンナーとケチャップ少量を混ぜ、ビニール袋に保存し、内臓ができ上がり。そのあと、カメラアングルなどでもめて、その頃からだんだんと廊下を行き交う人が多くなり始めた。ぼくはパンツードで廊下を走らなければいけなかったもので、人が増えると大変困った。

とにかくにも、3Cから走り出したのが、7時40分頃。2～3回リハ一サルをしてから撮影本番。しかし、その本番のときに、ぼくの後ろから村橋が何やってんの? という感じで、カメラの中に入ってしまったのだ。その時は別に支障もなかったが、現像されたフィルムを見てみる

ると、とても変な感じで編集が苦しみそうだ。

話を元に戻そう。3Cから走り出して、便所の所で立ち止まり、カメラをまた持ってきて、そこからまた走っているとところを撮影した。演技面で最も一番、難物だったのは女子ロッカー室の扉につかって倒れるシーンだった。できたら、ロッカー室の中まで入って覚えて記憶に撮影してほしかったのだが「中に人が居る」という未確認情報もたらされたため入れなかった。未確認、だから入らたらいいではないかという考え方もあったのだが、もし中に人がいたら……という場面を想定するに入るとは許されなかつた。

話を元に戻そう。倒れるシーンでは、絵コンテでは大の字になって扉にぶつかつて倒るのだが、これは監督の村瀬が好きなのように書いたもので実現不可能で、そうすると、サンプルがないので、主演として非常に困った。そこからがとて気持悪いことが始まるのだ。まず、倒れたばかりの頭にケチャップを100mlほどつけて、その上からカラシを脳味噌のように見せてグチャにつける、そして、さらに上から、ケチャップをふりかけ、血のように見せるのだ。そのにおいといたらとても1時間も堪えられないようなものではなかつた。そして、ケチャップがだんだんとたれてきてまぶたの上まできて、首の後ろの方にもたれてきたりしてとてもつらかつた。

それに、環状線の事故で、中学と高校の時間割が違ったので、中学の美術の撮影中に、高校の女子が体育から帰ってきて、ロッカー室へ入るので、その扉の前に寝そべっているぼくは、裸の上に、頭の上にケチャップとカラシを乗せてるんで、まるで気がい扱いで笑いのものにされてしまった。それから、あのままではまずいんで、グリーンベルトに場所を変更して撮影した。それから、腹の上と内臓をぶちまけられて、パンツはケチャップづけで、そのあと大学のシヤワー室に寒い中を、パレーコート(女子がやってた)の横をすりぬけて、行って冷たい水をかぶったときは、凍えそうだった。ケチャップづけのパンツは焼きやくが行きききと運がなかつたんだらう。でも、今から思えば、あの日の次の土曜

日から急に冷え込んだので、ぼくは運がよかったのだろう。

会計報告

| 摘 要 | 受入金額 | 払出金額 | 差引金額 |
|-----------------|-------|-------|-------|
| 1. 1人1000円ずつ集める | 8,000 | | 8,000 |
| 2. ポスターカラー (白) | | 180 | 7,820 |
| 3. フィルム (3本セット) | | 1,900 | 5,920 |
| 4. かたな (おもちゃ) | | 300 | 5,620 |
| 5. ウィンナー (200g) | | 280 | 5,340 |
| 6. ワイヤ | | 235 | 5,105 |
| 7. 現像代 | | 1,000 | 4,105 |
| 8. フィルム代 | | 1,750 | 2,355 |
| 9. ケチャップ代 | | 180 | 2,175 |
| 残 金 | | | 2,175 |
| 合 計 | 8,000 | 5,825 | |

〈説明〉

1. は 1人1000円ずつ、8人分あつめた
2. は タイトルをかくため、ポスターカラーを1つ買った
3. は フィルムを3本セットで1900円として売っていた
4. は かたなはおもちゃで、大きい刀と小さい刀と十手の3本セット
5. は 内蔵破毀の場面で使ったウィンナーである。
100g 140円のウィンナーを200g買った。
6. の ワイヤはみどりむしの場面を撮るときに使ったもの
7. は フィルム3本分の現像料である
8. は 前のフィルムと同じで、3本セットだが「カメラのなにお」で買った
9. は 大阪城での撮影に使ったもの

研究集録 第22集

昭和55年2月25日印刷

(非売品)

昭和55年3月1日発行

編集発行者 大阪市天王寺区南河堀町43
大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校
大阪教育大学教育学部附属高等学校天王寺校舎
代表者 上 林 久 雄
印刷所 株式会社 柴原出版

